

**令和3年度
シーズ・ニーズマッチング強化事業
事業報告**

令和4年3月

公益財団法人テクノエイド協会

はじめに

障害者の自立を支援する「**障害者自立支援機器**（以下「**支援機器**）」は、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の活動や参加を促す極めて重要な役割を果たすものであり、障害者のニーズを捉えた製品開発と普及の促進が求められている。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、機器開発の着想段階からユーザーや支援者の「**ニーズ**」と開発や研究者等の「**シーズ**」をマッチングすることが大切であり、決してシーズ志向型の開発とならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要である。

本事業では、ニーズとシーズのマッチングを目的とした支援機器に関する「**マッチング交流会**」を企画・開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて想定するユーザーと開発側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価を行う機会等を創出することを目的とした交流会を開催した。

今年度は、山口県及び東京都に於いて会場開催を予定していた。しかしながら、新型コロナウイルスの急速な感染拡大により、山口会場での開催は中止することとし、Web開催に切り替えた。一方、東京会場では新型コロナウイルス影響もあり、一般来場者は例年より落ち込んだものの約260名の来場あり、出展者と来場者が活発に意見交換されている姿が見られた。Web開催では「**Web交流プラットフォーム**」を4か月間設け実施した。試作中の出展機器を検索して紹介動画を視聴したり、問合せフォームや掲示板を使って出展者へ問い合わせできる仕組みを構築し、交流プラットフォームのアクセス数は、1月末までに9500件を超え、多くの方々に来場いただいた。

また、新しい試みとして「**個別の意見交換会、アドバイス支援事業**」を実施した。協会がシーズとニーズの間に入りコーディネートすることにより、これまでの受動的なスタンスから能動的なスタンスが生まれ、多くの企業と関係機関等の間で交流を図ることができた。今後も、こうした取り組みを継続的に実施し、支援機器開発の一助になれば幸いである。

本報告書は、事業結果を取り纏めたものであり、本事業の実施にあたり、ご協力いただいた障害当事者の団体、職能団体、出展企業等、多くの方々に心から御礼を申し上げます。

令和4年3月

公益財団法人テクノエイド協会

目次

第1部(本編)	1
1. 目的	1
2. 事業概要	1
(1) 企画委員会の設置.....	1
(2) シーズ・ニーズマッチング交流会の企画.....	2
(3) Web開催の内容.....	5
(4) 交流会開催後のフォローアップ	6
(5) ユーザー側のニーズやシーズの情報収集・発信.....	6
(6) 実施スケジュール.....	6
3. 事業結果	8
(1) 企画委員会の開催結果	8
(2) 出展者の募集から決定までのプロセス	8
(3) 交流会の周知.....	12
(4) 交流会の開催結果.....	15
(5) 意見交換会、アドバイス支援の実施結果について	30
(6) 参加人数及びアンケート結果.....	34
(7) 今後の交流会の在り方について	42
第2部(資料編)	45
1. 併催イベント講演資料	45
2. 交流会関係資料	144
(1) 交流会チラシ.....	144
(2) 公式パンフレット.....	145
(3) 出展企業等出展要項.....	162
(4) 体調管理チェックシート.....	178
3. 意見交換会、アドバイス支援の実施.....	182

第 1 部（本編）

1. 目的

障害者の自立を支援する「**障害者自立支援機器**（以下「**支援機器**）」は、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の活動や参加を促す極めて重要な役割を果たすものであり、障害者のニーズを捉えた製品開発と普及の促進が求められている。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要なとされる支援機器を開発するためには、機器開発の着想段階からユーザーや支援者の「**ニーズ**」と開発や研究者等の「**シーズ**」をマッチングすることが大切であり、決してシーズ志向型の開発とならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要である。

本事業では、ニーズとシーズのマッチングを目的とした支援機器に関する「**マッチング交流会**」を企画・開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて想定するユーザーと開発側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価を行う機会等を創出することを目的とした。

2. 事業概要

(1) 企画委員会の設置

支援機器に関する障害関係団体及び医療・福祉専門職等から構成する、「**シーズ・ニーズマッチング交流会 企画委員会**」を当協会に設置し、シーズ・ニーズマッチングのコーディネート機能及び体制を構築した。

本委員会ではシーズ・ニーズマッチング交流会の企画及び運営に係わる審議を行うとともに、より良い交流会等の実現に向けた検討を行った。本委員会を構成する障害関係団体の皆様には、①支援機器に関する課題やニーズをご提供いただくこと。②本交流会では、ニーズ側とシーズ側の交流が活性化するよう積極的にご参加いただくこと。また、③交流会の成果を着実に支援機器開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて相談やアドバイス支援を行うこととともに、関係する障害者等をご紹介いただくこととした。

企画委員会 委員名簿

(委員)

(五十音順・敬称略)

氏名	所属
逢坂 忠	社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
安藤 信哉	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
小川 光彦	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
岸川 忠彦	一般社団法人 日本ALS協会
小磯さおり	川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎
小山万里子	ポリオの会
佐藤 加奈	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
園田 尚美	NPO法人 日本失語症協議会
橋間 信市	社会福祉法人 全国盲ろう者協会
増澤 高志	ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会

(オブザーバー)

(敬称略)

氏名	所属
只野 肇	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 イノベーション推進部
齋田信二郎	国立研究開発法人 情報通信研究機構 デプロイメント推進部門 情報バリアフリー推進室
下田 修	国立研究開発法人科学技術振興機構 起業支援室
田上 未来	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
坂本 和香	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室
南谷 毅	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課自立支援振興室

(2) シーズ・ニーズマッチング交流会の企画

障害当事者のニーズを的確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、シーズとニーズのマッチング交流会を開催した。

本交流会では、開発企業が試作中の支援機器等を会場へ持ち込み、障害者及び介護者をはじめ、企業、研究者、開発を支援する機関等が膝を交えて意見交換等を行う場を設け。

本年度は、Web開催（4ヶ月間）、山口会場及び東京会場（各2日間）の開催を予定した。Web開催では、出展企業及び機器の紹介動画を掲載すると共に、「問合せフォーム」、「掲示板」を使用してオンライン上での意見交換や、各種セミナー、講演の常時配信や定期配信が視聴できるようWeb交流プラットフォームを構築した。

東京会場では、感染症予防等の徹底を図り、開発中の試作機等の展示及びデモンストレーション、意見交換等を行った。また、併催イベントとして、基調講演、福祉機器の利用事例とニーズの発信、福祉機器開発の現状、令和3年度障害者自立支援機器等開発促進事業採択企業による成果報告会等を行った。

※) 全国的な新型コロナウイルス感染症が急速に増加したことを受け、令和3年8月下旬に山口会場については、感染症予防等の徹底を図るため、会場開会を中止することとし、Web開催に変更することとした。

本交流会の対象者は以下とした。

※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等

※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

シーズ・ニーズマッチング強化学業は、次頁のとおり、「障害者自立支援機器等開発促進事業」の一環として実施されるものであり、ニーズに基づいた実用的な支援機器開発が促進されるよう、意見交換を行える場を提供するとともに、モニター評価を行う機会を得ることを狙いとするものでもある。

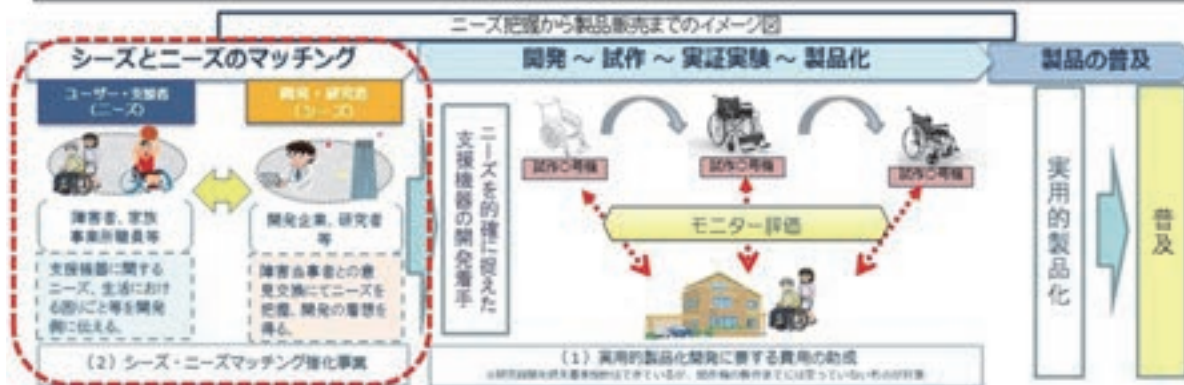
障害者自立支援機器等開発促進事業

事業目的

障害者の自立や社会参加を支援する機器の開発は、マーケットが小さく事業化や実用的製品化が進んでいない状況にある。障害者の機器開発においては、障害者のニーズと開発者のシーズのマッチングが重要であり、開発企業が障害当事者と連携して開発する取組に対して助成を行うことで、障害者にとって使いやすく適切な価格の機器の実用的製品化を促進する。

事業内容

- (1) 障害者の自立支援機器の開発(実用的製品化)に対する助成
 - ①テーマ設定型事業、②製品種目特定型事業
- (2) シーズ・ニーズマッチング強化事業



① 開催日程及び内容

- Web開催 令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月)
 - 【時間】 10:00～17:00
 - 【配信会場】 テクノエイド協会 Web交流プラットフォーム内
 - 【企画内容】

- ・ Webによる開発機器業等及び支援機器の紹介動画の発信
- ・ 問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
- ・ 講演動画の常時配信および定期配信の実施

- 山口会場 令和3年10月9日(土)～10日(日)2日間

※オンライン開催へ切り替えを決定

- 【時間】 10:30～17:00 / 9:00～17:00
- 【会場】 海峡メッセ下関(展示見本市会場)
- ※第10回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会 同時開催
- 【併催イベント】

- ・ Webによる開発機器業等及び支援機器の紹介動画の発信
- ・ 問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
- ・ Zoomウェビナーを使用した講演のリアルタイム配信

- 東京会場 令和3年12月7日(火)～8日(水)2日間

- 【時間】 9:00～17:00(両日ともに)
- 【会場】 東京都立産業貿易センター浜松町館(2階展示室)

- ・ Webによる開発機器業等及び支援機器の紹介動画の発信
- ・ 問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
- ・ 開発中の試作機等の展示及体験、意見交換等
- ・ 会場講演及びウェビナーを使用したリアルタイム配信の実施

山口会場

【海峡メッセ下関 外観】



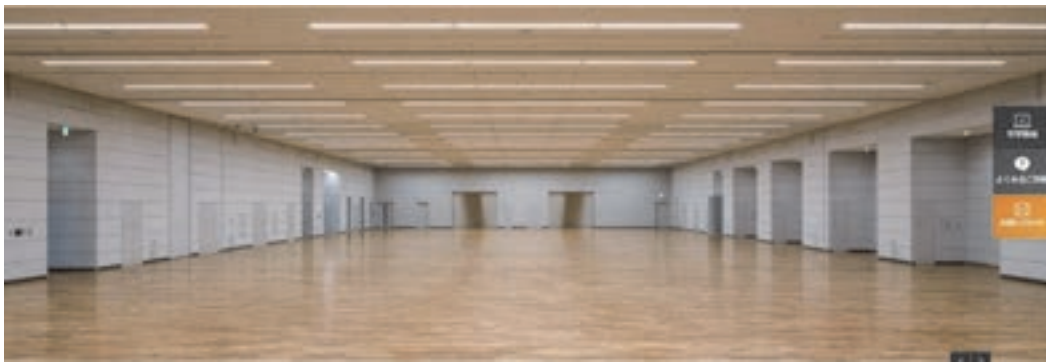
【1F 展示見本市会場】



※オンライン開催へ切り替えたことにより、実際には使用していない

東京会場

【東京都立産業貿易センター浜松町館 展示室】



② 出展企業等の募集

出展要項を作成のうえ、50か所程度、一般募集することとした。

Web開催の参加は必須とする。※Web開催のみの参加は認めないこととした。

- | | |
|--------|------------------|
| ・Web開催 | 50企業 |
| ・山口開催 | 50企業+10企業（地域推薦枠） |
| ・東京開催 | 50企業 |

③ 会場開催に伴う留意

会場での開催にあたっては、開催時の状況に応じて、基本的には国及び開催自治体の方針に従うこととし、以下の事項について原則遵守することとした。

- 三密を避ける。
 - ・会場内の換気を定期的に行う。
 - ・出展者の間隔を十分にあげる。
 - ・参加者の座席の間隔を十分にあげる。
 - ・入場は室内定員の50%以内とする。
- 手指の消毒やマスクの着用を要請することとした。
- 開催2週間前から体調管理表を作成し、事務局へ提出いただくこととした。

会場開催では、感染症予防等の徹底を図るとともに、Web開催については、出展機器等の動画を作成し、期間中の交流を推進することとした。



(3) Web開催の内容

本交流会専用サイト内に、「Web交流プラットフォーム」を設け、出展事業・機器を紹介する動画コンテンツの視聴、問い合わせフォーム及び掲示板を利用した出展者の意見交換、各種セミナー、講演の常時配信、定期配信の視聴ができる仕組みを構築した。

また、Web交流プラットフォームは、ログインの必要は不要であり、多くの方々がアクセスしやすい仕組みとした。

(交流会での動画配信)

- Web交流プラットフォーム（交流会の専用ページ）をWeb上に設け、作成した動画を出展企業等の個別ページで常時配信することとし、シーズとニーズの交流を推進することとした。
- 出展企業等一覧は、Web交流プラットフォーム上で各障害分野別やフリーワードでの検索を可能とした。なお、動画はサーバー容量の都合上、YouTubeのサイトへ移動して動画の閲覧ができるようにした。
- 期間中に企画する基調講演及び特別講演、開発の成果報告等については、リアルタイムで配信することとした。
- セミナー等の資料については、講演者より資料提供が可能となったものについてダウンロード可とした。

(基本的な考え方)

- 動画は、本交流会の目的を踏まえた内容と構成に仕上げることとし、出展企業及び招待団体・機関の動画コンテンツをWeb上に掲載した。
- 出展企業の動画は、原則、各自で作成すること。但し、事務局では様々な状態の障害者に配慮した動画コンテンツとなるよう、出展企業からの要請に応じ必要な支援を行った。（作成に必要な費用は各社負担。）
- 協会では、販売目的を中心とする単なる製品PRとならないよう、動画の内容や構成、長さ等、厳格に指定し確認することとした。
- 障害当事者団体・開発支援機関の動画については、昨年作成した動画を使用することを基本とし、必要に応じて各自で作成することも可とした。

(動画の目途)

- 出展企業 50～60本
- 障害当事者団体・開発支援機関 13本

(4) 交流会開催後のフォローアップ

担当職員による相談窓口を設置し、交流会開催後の成果を支援機器の開発に繋げるため、企画委員や関係団体等と協力しながら、開発企業等に対して継続的に必要な支援を行った。具体的には、以下の取り組みを実施した。

(相談窓口の設置)

開発側やユーザー側からの相談に応じる専用窓口を設け、常時対応した。

(モニター評価実施にあたっての支援・協力)

開発企業の要望に応じ、関係団体等と連携を図りモニター評価の実施施設や想定するユーザー等を紹介した。

具体的には、「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を活用して、開発中の機器や実用化して間近な機器に対して、モニターやアドバイザーにご協力いただける機関（施設や事業所など）を募り、開発企業へ繋いだ。

(意見交換会やアドバイス支援の実施)

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイス等の開発支援を行った。

具体的には、企業等から要望を個別にうかがい、関係する障害者等との意見交換会やアドバイス支援等の機会を設けた。

また、その成果については、協会HPから各方面へ発信し、シーズとニーズのマッチングを推進するとともに、来年度以降の開発促進事業の応募を喚起した。

訪問及び状況に応じてオンライン会議を行うこととし、意見交換会等への参加については、地域を限定しないこととした。

(その他)

必要な支援を関係団体等と連携して行った。

(5) ユーザー側のニーズやシーズの情報収集・発信

「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」を活用することにより、支援機器に係るニーズとシーズの収集・提供を行った。

(6) 実施スケジュール

次ページを参照のこと。

令和3年度 シーズ・ニーズマッチング強化事業 実施スケジュール(年間)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
委員会			企画委員会の設置		本第1回企画委員会 8/4	
交流会	会場の検討・選定・予約	要請書の公開・決定	出題事項の作成・配布 出題者募集 6/29 締切	出題者の選定 6/30-7/6 出題者説明会①7/15 正式の講演依頼	出題締め切り 8/20 Web掲載動画撮影、動画コンテンツの作成・編集	出題者説明会 ②9/24 オンラインテスト
ホームページ			交流会専用HPの設置、PR			ユーザー側のニーズやシーズの掲載収集・発信
交流会フォローアップ						意見交換・アドバイス支援の実施(オンライン又は対面)
委員会	10月	11月	12月	令和4年1月	2月	3月
交流会	Web開催 10/17-21 Web交流プラットフォームを活用したオンライン交流 Web開催 10/9-10 シーズ・ニーズマッチング交流者の開催 Web開催 12/7-8 交流会フォローアップ ※8月下旬に会場開催中止の連絡 公開イベント作成及び配布					
交流会フォローアップ	交流会の成果を効果的に支援継続の施策に繋げるため、関係企業等の関係支援を行う 意見交換・アドバイス支援の実施(オンライン又は対面)					
その他						事業報告の作成

3. 事業結果

(1) 企画委員会の開催結果

「シーズ・ニーズマッチング交流会」の企画及び運営に係わる審議を行い、より良い交流会等の実現に向けた検討を行った。ニーズ側とシーズ側の交流が活性化するよう積極的に交流に関与するとともに、多くの当事者の方々が本交流会に参加いただけるよう呼びかけをお願いした。

①第1回シーズ・ニーズマッチング交流会 企画委員会

【日時】：令和3年8月4日（水）14：00～15：30

【場所】：オンライン開催（テクノエイド協会・会議室）

【実施内容】：

- ・本事業の概要について
- ・出展者の募集及び選定状況について
- ・日程表及び併催イベント（案）
- ・山口会場を盛り上げる提案内容（案）
- ・参加登録票の提出について
- ・Web交流プラットフォームイメージ
- ・Web交流の実施方法
- ・動画等の作成依頼について
- ・意見交換会、アドバイス支援の実施について
- ・今後のスケジュール

②第2回シーズ・ニーズマッチング交流会 企画委員会

【日時】：令和4年3月10日（木）10：00～11：30

【場所】：オンライン開催（テクノエイド協会・会議室）

【実施内容】：

○報告事項

- ・本事業の実施について
- ・実施結果の報告について
 - ・出展者の選定及び開催の周知
 - ・交流会の企画及び併催イベント
 - ・交流会の企画及び併催イベントの開催結果
 - ・意見交換会、アドバイス支援の実施結果
 - ・開催結果及びアンケート結果

○検討事項

- ・今後の交流会等の在り方について（意見交換）

(2) 出展者の募集から決定までのプロセス

①企業等の募集について

募集は「シーズ・ニーズマッチング交流会「出展企業等」募集要項」を作成のうえ、郵送又はホームページへの掲載を行い、周知を行った。

また、山口会場については締め切り後も、出展予定数に達していなかったため、専用ホームページやメール等で継続募集を実施した。

②申込方法

出展の申込方法に関しては、従来の書面での申し込みから、Google Formを使用したWeb上での申し込み方法に変更した。

③募集の期間

- 1、通常募集 令和3年6月1日（火）～6月29日（火）17時必着
- 2、追加募集 通常募集終了後～8月20日（金）12時必着

④周知の方法、周知先

1、郵送

- ・発送数 : 1,695カ所
- ・主な送付先:

過去の開発促進事業応募企業
過去のシーズ・ニーズマッチング交流会出展及び来場企業
福祉用具情報システム（TAIS）登録企業（抽出）
介護ロボット関連企業 都道府県・政令市 報道機関、地方産業組織 等

2、専用ホームページの開設



出展の申込方法に関しては、従来の書面での申し込みから、Google Formを使用したWeb上での申し込み方法に変更した。

3、メール、その他

- A) 過去の交流会参加企業及び開発促進事業採択企業への周知
過去に交流会に出展した企業及び来場した開発企業に対し、参加の周知を行った。
(令和3年6月3日実施)
- B) 産業振興課から開発企業へのご紹介

山口県産業振興課にご協力をいただき、産業振興課で設置している「やまぐち医療関連成長戦略推進協議会」の会員宛てにご紹介いただいた。（令和3年6月5日実施）

- C) 福祉用具情報システム（T A I S）登録企業に対する周知
T A I Sに登録されている国内の福祉用具製造事業者・輸入事業者、約800社の担当社に対して、電子メールにて周知した。（令和3年6月18日、7月8日実施）
- D) 日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会からのご紹介
大会長及び世話人より、関連企業等へ周知のご協力をいただいた。（令和3年6月26日、7月8日実施）
- E) 厚生労働省による事務連絡の発出等
各都道府県、指定都市、中核市の障害保健福祉主管課に対し、周知を行っていた。
（令和3年7月15日実施）
厚生労働省のフェイスブックにも掲載いただいた。
- F) 障害関係団体等へ周知のご協力
企画委員が所属する障害関係団体を通じて、交流会の開催の周知及び開発企業のご紹介をいただいた。（令和3年7月13日実施）
- G) 福祉医療機構のワムネットへ掲載周知
福祉医療機構のワムネットにバナーを設けて掲載いただき、開催及び追加募集を周知いただいた。（令和3年8月5日実施）

⑤出展企業の選定及び選定結果について

事務局では、応募のあった企業の中から、以下の観点及び障害の種別等を勘案して、全70企業等の選定を行った。

(選考にあたっての観点)

- ・交流会の目的及び要件に合致しているか
- ・新規あるいは交流を踏まえて改良する意思があるか
- ・採択又は推薦があるか
- ・動画等を作成することができ、希望する交流の内容が明確となっているか

○各会場の出展募集及び決定

会場	定員	決定
山口会場	60	38
東京会場	50	50

○出展者の決定

会場別	選定結果
東京会場と山口会場、Web開催	18
山口会場とWeb開催	20
東京会場とWeb開催	32
不可	18
辞退	5
合計	93

参加の希望は、会場での出展を原則とし、「山口会場とWeb開催」、「東京会場とWeb開催」、「山口会場及び東京会場とWeb開催」の3つから選択することとした。東京会場の出展を希望する企業等が多かった。

山口会場について、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、出展希望していた企業等のうち、5件ほど辞退の申し出があった。

○出展機器の障害種別（山口会場、東京会場）

障害種別	応募	決定
身体障害（肢体不自由）	47	32
視覚障害	10	7
聴覚障害	8	8
高次脳機能障害（失語症等）	2	2
知的障害（身体介護が必要ないケースを含む）	3	3
精神障害（発達障害を含む）	5	3
障害児（身体・知的・精神）	8	7
その他	10	8
合計	93	70

(3) 交流会の周知

①交流会専用ホームページの開設

【期間】令和3年5月20日(木)～

【周知方法】協会ホームページより、順次最新情報になるよう更新を行った。

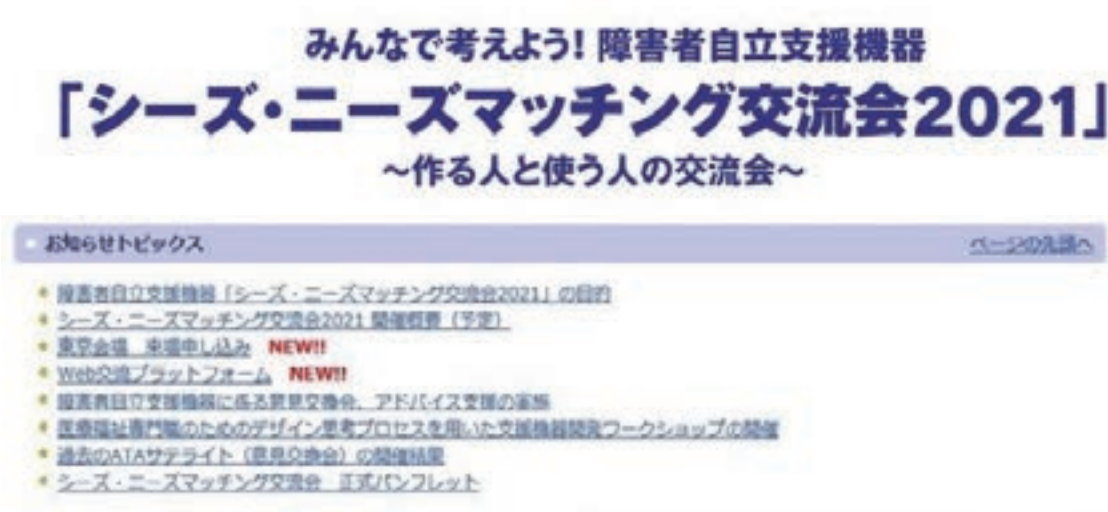
テクノエイド協会にアクセスすると、上部に交流会のバナーを表示させ、バナーをクリックすると交流会専用サイトに移る仕組みとした。



<専用サイトの画面>

<http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/index.shtml>

以下、2022年1月末時点の交流会専用ホームページ



本交流会は、障害者自立支援機器の開発を促進することを目的に、障害当事者をはじめ、ご家族、福祉・医療従事者などの「機器を使う側（ニーズ）」の方々と、開発企業、大学、研究機関、産学官交流部員組織などの「機器を作る側（シーズ）」の方々が、じっくり話を交えて交流することができる場を提供するものです。

- ※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等
- ※シーズ側：開発メーカー、地域の産業界団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

各都道府県等障害保健福祉主管課等 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援部調査（令和3年6月29日）

- 「障害者自立支援機器 シーズ・ニーズマッチング交流会2021」の開催について（PDF形式：2.33MB）
- シーズ・ニーズマッチング交流会 正式パンフレット（PDF形式：6.56MB） **NEW!!**



令和3年10月1日（金）～
令和4年1月31日（月）
10:00～17:00

令和3年10月9日（土）～10日（日）
10:30～17:00/9:00～17:00

令和3年12月7日（火）～8日（水）
9:00～17:00

会場：テクノエイド協会
Web交流プラットフォーム内

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場での開催を断念することとなりました。
（開催中止のお知らせはこちら）
併催セミナーはオンラインでの開催に切り替え、上記日程にて開催いたします。
お越しいたご場合は当日に本ページにアップしますので、ぜひご確認ください。

場所：東京都立産業総合センター-池袋駅前
上野駅直結
アクセス：有楽町線 池袋駅より徒歩9分
ゆりかもめ 池袋駅より徒歩9分
東京モノレール 池袋駅 池袋駅より徒歩9分
都営大江戸線 池袋駅より徒歩9分
都営大江戸線 池袋駅より徒歩9分



障害者自立支援機器

シーズ・ニーズマッチング 交流会 2021

作る人と使う人の交流会

Web開催 令和3年10月1日（金）～令和4年1月31日（月）
10:00～17:00
テクノエイド協会Web交流プラットフォーム

山口開催 令和3年10月9日（土）・10日（日）
10:30～17:00/9:00～17:00
山口県立産業総合センター

東京開催 令和3年12月7日（火）・8日（水）
9:00～17:00/9:00～17:00
東京都立産業総合センター-池袋駅前直結

主催：テクノエイド協会、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援部調査

障害者自立支援機器

シーズ・ニーズマッチング 交流会 2021

作る人と使う人の交流会

Web開催 令和3年10月1日（金）～令和4年1月31日（月）
10:00～17:00
テクノエイド協会 Web交流プラットフォーム

山口開催 令和3年10月9日（土）・10日（日）
10:30～17:00/9:00～17:00
山口県立産業総合センター

東京開催 令和3年12月7日（火）・8日（水）
9:00～17:00/9:00～17:00
東京都立産業総合センター-池袋駅前直結

主催：テクノエイド協会、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援部調査

シーズ・ニーズマッチング交流会 正式パンフレット（PDF形式：6.56MB） **NEW!!**

シーズ・ニーズマッチング交流会 チラシ（PDF形式：2.50MB）

②チラシ及び公式パンフレットの作成、配布

【期間】：令和3年10月上旬～

【周知方法】：郵送、メール等

【送付物】：公式パンフレット、交流会チラシ

【主な送付先】

- 障害団体（日本障害者協議会会員、全国の障害当事者団体 等）
- 開発企業（過去の採択企業、T A I S登録企業、過去の交流会出展企業 等）
- 行政（都道府県、市町村の障害主管課）
- 過去の交流会一般来場者
- 職能団体（都道府県の理学療法士協会、作業療法士協会事務局）
- 介護実習・普及センター
- 全国のリハビリテーションセンター
- 全国の更生相談所
- 介護ロボット関連企業または施設
- 義肢製作所
- 特別支援学校等
- 報道機関
- その他（賛助会員、個人あて）

計 6,531カ所・部

③関係団体への周知

厚生労働省及び関係機関・団体の協力のもと、多くの団体等へ交流会開催を周知した。

主な周知先は以下のとおりである。

- 日本作業療法士協会：会員向けHPに掲載
- 埼玉県作業療法士協会：HPへの掲載
- 神奈川県作業療法士協会：HPへの掲載
- 日本言語聴覚士協会：機関紙、HPへの掲載
- ロボット革命・産業IoTイニシアチブ協議会：HPに掲載
- 独立行政法人福祉医療機構（WAM）：イベントセミナーHPに掲載
- 日本障害者リハビリテーション協会：会員へ周知のお願いを実施
- J A S P A：会員へ周知のお願いを実施
- バリアフリー展：会員へメルマガの送信、HPに掲載
- 日刊工業新聞：関係者各位へメールマガジンにて周知のお願いを実施
- 福祉新聞：開催情報を掲載
- 厚生労働省：Facebook、Twitter、厚生労働（雑誌）より周知

④その他（出展企業等を対象にした説明会）

出展企業等を対象として、本事業の目的、内容や紹介動画の製作依頼、今後のスケジュール等についてオンラインによる説明会を2回実施した。なお、原則、出展企業等は参加を必須とした。

○第1回 出展企業等を対象にした説明会

【実施日】令和3年7月15日（木）13時30分～14時30分

【内容】・交流会の目的及び内容について

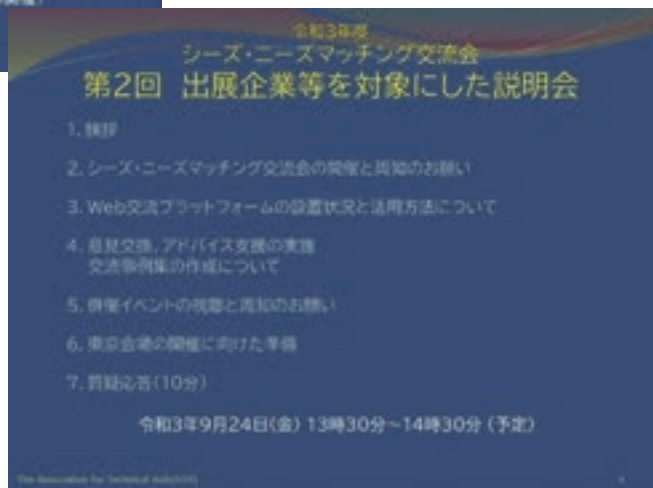
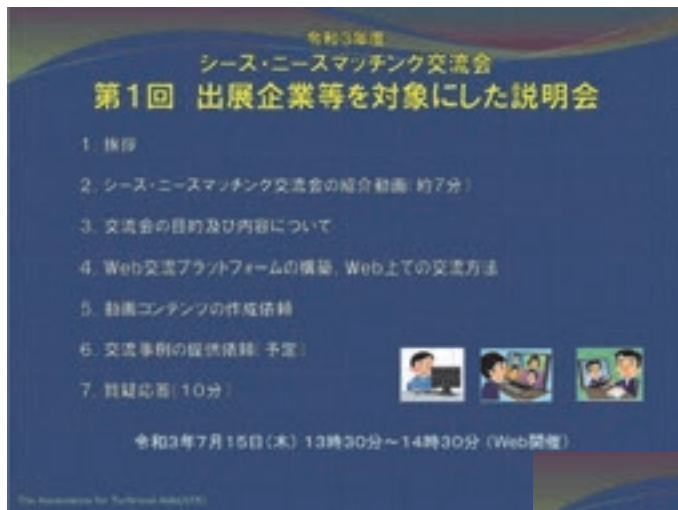
- ・ Web交流プラットフォームの構築、Webでの交流方法
- ・ 動画コンテンツの作成依頼
- ・ 交流事例の提供依頼
- ・ 質疑応答

○第2回 出展企業等を対象にした説明会

【実施日】令和3年9月24日（金）13時30分～14時30分

【内容】・ 交流会の開催と周知のお願い

- ・ Web交流プラットフォームの設置状況と活用方法について
- ・ 意見交換、アドバイス支援の実施について
- ・ 併催イベントの視聴と周知のお願い
- ・ 東京会場の開催に向けた準備
- ・ 質疑応答



(4) 交流会の開催結果

令和3年10月9日～10日の山口会場においては、新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、会場での開催は中止することとしたが、予定していたセミナーについては、ZOOMウェビナーを活用してオンライン配信することとした。また、シーズとニーズの交流については、交流プラットフォームを活用して交流することとした。

開催概要は以下のとおりである。

OWe b開催

【開催期間】：令和3年10月1日（金）～令和4年1月31日（月） 4ヵ月間

【時間】：9：00～17：00

【会場】：テクノエイド協会 Web交流プラットフォーム内

【開催イベント内容】：

Webによる開発企業及び支援機器等の紹介動画の発信
問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施
講演動画の常時配信および定期配信の実施

➤ 常時配信

- ・ シーズ・ニーズマッチング交流会2021開催にあたってのご挨拶
- ・ Webを活用した交流の進め方
- ・ 自立支援機器における現状と課題
- ・ 支援機器の効果に関する西太平洋地域会議への参加報告

➤ 定期配信 ※毎月イベントの内容を更新した

10月配信

- ・【特別講演】視覚・聴覚障害者用支援機器への期待
- ・ 厚生労働省 支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告①
- ・ 障害者自立支援機器等開発促進事業

11月配信

- ・【特別講演】3Dプリンターで造る自助具とリハビリ器具の可能性
- ・ 厚生労働省 支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告②
- ・ NEDO福祉事業のご紹介～福祉用具実用化開発の支援～

12月配信

- ・【特別講演】意思伝達装置の利用にあたり
- ・ 厚生労働省 支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告③
- ・ NICT 情報バリアフリー通信・放送役務提供・開発推進助成金制度の案内

1月配信

- ・【特別講演】活動行動範囲を広げよう
- ・ 厚生労働省 支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告④
- ・ JSTの産学連携支援事業と福祉機器開発事例

○山口会場（オンライン開催へ変更）

【開催期間】：令和3年10月9日（土）～10月10日（日） 2日間

【時間】：11：00～16：20／10：00～16：00

【会場】：テクノエイド協会 Web交流プラットフォーム内

【開催イベント内容】：

Webによる開発企業及び支援機器等の紹介動画の発信

問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施

Zoomウェビナーを使用したリアルタイム配信

【併催セミナータイトル】：

- ・【基調講演】『歩行ロボット技術を応用した福祉機器の開発』
- ・日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会の開催にあたり
- ・（セミナー）バイオデザイン手法の紹介
- ・つながる、たのしむ、相談できるスマホでつむぐ重症児支援の未来
- ・【特別シンポジウム】『好事例表彰の受賞とその後』
- ・福祉機器の利用と開発の報告
- ・障害分野におけるロボット技術の活用に関する研究報告
- ・（ワークショップ）バイオデザイン手法を応用した支援機器開発手法を学ぶ

山口会場の会場開催中止の連絡は、協会ホームページのお知らせ欄に情報を掲載したことや出展者、関係者へ一斉メールを実施して周知を図った。

○東京会場

【開催期間】：令和3年12月7日（火）～12月8日（水） 2日間

【時間】：9：00～17：00

【会場】：東京都立産業貿易センター浜松町館2階展示室

【開催イベント内容】：

Webによる開発企業及び支援機器等の紹介動画の発信

問合せフォーム、掲示板を使用しての意見交換の実施

会場及びZoomウェビナーを使用したリアルタイム配信

【併催セミナータイトル】：

- ・【基調講演】『障害者の自己決定』
- ・福祉機器の利用事例とニーズの発信
- ・厚生労働省「令和3年度 障害者自立支援機器等開発促進事業」成果報告①
- ・出展企業による福祉機器開発の現状報告
- ・失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器
- ・厚生労働省「令和3年度 障害者自立支援機器等開発促進事業」成果報告②
- ・（ワークショップ）バイオデザイン手法を応用した支援機器開発手法を学ぶ

①東京会場の開催結果

東京会場（令和3年12月7日～8日）の2日間の出展者の内訳は以下のとおりである。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、機器出展は行わずに資料のみ配布に変更となった3社も含める。

区分	出展数
身体障害（肢体不自由）	21
視覚障害	4
聴覚障害	8
高次脳機能障害（失語症等）	2
知的障害（身体介護が必要ないケースを含む）	2
精神障害（発達障害を含む）	3
障害児（身体・知的・精神）	5
その他	4
障害当事者団体・開発支援団体	13
合計	62企業・団体



②交流会の申込について

本年度は入室しやすいよう、上記の情報登録は不要とし、交流会ホームページ内に交流プラットフォームを設け、自由に出展者動画や出展者と意見交換ができるようにした。


コロナに関係もあり、東京会場においては、事前申し込みを基本的に必須とし、サイト内に事前申し込みのフォームを設置した。

申込は携帯からも容易に行えるようにした。

また、出展者や事務局も含め、来場者には健康状態の確認をすることを目的として体調管理表チェックシート（体温、咳、喉の痛み等）の提出を求めることとした。

東京会場 来場申し込み ※事前登録にご協力ください。 ページの先頭へ

東京会場
来場申し込みは、こちらから
(専用のフォーム画面に移ります)



QRコードはこちら

シース・ニーズマッチング交流会2021（東京会場）の来場事前申し込み画面です。
事前に来場申し込みをしていただくと、当日の受付がスムーズに行えます。
また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、来場時には「体調管理チェックシート」の提出にご協力ください。

[体調管理チェックシート](#) (EXCEL形式:13.4KB)

③Web交流プラットフォームについて

出展企業等や出展機器情報の掲載、掲示板・問い合わせフォームからの意見交換、併催セミナーの視聴、セミナー資料のダウンロードを可能にしたプラットフォームを構築した。出展企業等や出展機器情報は、「カテゴリー」、「フリーワード」より検索を可能とした。

また、出展企業ごとに出展者のページを作成し、「掲示板」もしくは「問合せフォーム」を使って意見交換ができるよう仕組みを構築した。なお、本プラットフォームは、Web開催開始日の令和3年10月1日から令和4年1月31日まで公開期間とした。

以下、Web交流プラットフォーム画面

Web交流プラットフォーム (出展機器を調べたり、交流したい企業等を探すことができます。) NEW ページの先頭へ


出展企業等と交流 閲覧数
9856

こちらでは、出展企業を検索することができます。「もっと見る」をクリックすると出展者一覧を見ることが可能です。「会場」、「カテゴリー」、「フリーワード」より検索が可能です。製品名をクリックすると出展者・出展機器の詳細を見ることができます。

会場：
 東京会場に出展する機器
※それぞれ会場で実機を見ることができます。

カテゴリー：
 A.身体障害（肢体不自由）
 B.視覚障害
 C.聴覚障害
 D.高次脳機能障害（失語症等）
 E.知的障害
 F.精神障害（発達障害を含む）
 G.障害児（身体・知的・精神）
 H.その他

フリーワード：

出展者	製品名	製品概要	製品画像	カテゴリー	会場	掲示板	問合せ
フジホーム株式会社	室内用立上り機能付き歩行車（仮称）	椅子やベッドからの立ち座りを補助して、そのまま歩行が可能な自立型歩行補助器にて、在宅中でも介護者無しに移動する事が可能になる。また、座った状態での食事や読書等が出来る、高さ調整機能付きテーブル付属。		身体障害（肢体不自由）	東京 A-19	見学会	問合せ

＋ もっと見る

当事者団体・開発支援機関等と交流

企業・団体名	交流したい内容	カテゴリー	会場	掲示板	問合せ
公益社団法人 全国難聴聴覚者連合会	-	障害当事者団体	東京	見学会	問合せ
一般社団法人 全日本難聴者・聴覚障害者協会	中途失聴・難聴者の当事者団体です。日本語や英語の音をより聞きやすい音源、より明確な視覚的言語、視覚・触覚的情報等で知りたいと望んでいます。身体障害者手帳を持つ聴覚障害者は国内に約30万人います。聞こえにくさを自覚している人は国内に1400万人以上いるとみられています。その多くは難聴の目撃者であり、コミュニケーション、生活環境改善がテーマです。	障害当事者団体	東京	見学会	問合せ

＋ もっと見る

〈出展企業ページ〉

● 身体障害（肢体不自由）

ページの先頭へ

フジホーム株式会社 フジホーム カブシキガイシャ

今までの閲覧数
298

室内用立上り機能付き歩行車（仮称）

出展者情報

東京会場に出展 会場では実機を見ることができます。



住所： 〒104-0033 東京都中央区新川2-12-15 ヒューリック八丁堀ビル7F
 担当部署： 代表取締役
 氏名： 岡野 健
 TEL： 03-3523-1631
 FAX： 03-3523-1632
 メールアドレス： okano-ta@fujihome.toso.co.jp
 企業HP： <http://www.fujihome.co.jp/>
 その他：

出展機器

出展機器	室内用立上り機能付き歩行車（仮称）
型番	
障害種別	身体障害（肢体不自由）
機器の概要	椅子やベッドからの立ち座りを補助して、そのまま歩行が可能な自立型歩行補助器にて、在宅中でも介護者無しに移動する事が可能になる。また、座った状態での食事や読書等が出来る、高さ調整機能付きテーブル付属。

交流したい内容

在宅介護及び施設内にて自立歩行時の課題や問題等について確認したい。



この機器について、問い合わせする
(交流を希望する)

交流を希望するの活用方法

当該機器について、メーカーにうかがったこと、意見交換や交流したことがあれば、連絡をして電話やオンラインで交流してください。クリックすることにより、問い合わせフォームが開きます。

シーズ・ニーズマッチング交流会 公式パンフレットPDF

シーズ・ニーズマッチング交流会 パンフレット (1枚もの)

交流会開催期間中の併催セミナーを視聴

掲示板

この機器について、新しく投稿する
(掲示板)

掲示板の活用方法

ニーズ側は、当該機器に対する要望やアイデア、課題を、シーズ側（出展者を含む）は、交流したい具体的な内容や掲載の長さ、会場出展に向けてのPRをそれぞれ記載してください。

出展者情報には、出展者の連絡先、紹介動画、機器の概要、交流したい内容を記載し、交流の目的を明確化することとした。交流方法として、「問合せフォーム」又は「掲示板」の機能を設け、出展者への連絡を24時間いつでも可能とした。

> 問い合わせフォーム

問い合わせフォームの活用方法
当該機器について、メーカーにうかがったこと、意見交換や交流したことがあれば、連絡をして電話やオンラインで交流してください。

ご入力 ご確認 完了

出展団体名 フジホーム株式会社

問い合わせ種別 **必須**

- 詳細な説明が聞きたい
- ニーズ（要望や課題など）を伝えたい
- オンラインで種を合わせて話したい
- 価格について質問したい
- 資料が欲しい
- その他

名前 **必須**

企業名

連絡先 **必須** TEL

メールアドレス

問い合わせ内容 **必須**

※この問い合わせフォームは、ニーズとシーズの交流を促す、実用的な製品の開発を促進するものです。支給制度や個別機器の納付申請は行わないでください。

[詳細ページに戻る](#) [確認](#)

問合せフォームは、来場者と出展者が1対1でやり取りすることが可能となっており、来場者が下記フォームに必要事項を入力すると、出展者のメールアドレスへ通知が届くシステムとした。また、掲示板は、来場者全体とやり取りすることが可能であり、投稿内容は掲示板に公開される。出展者は出展機器に関する情報発信、告知等にも使用できることとした。

> 掲示板投稿フォーム

掲示板投稿フォームの運用方法
 ニーズ側は、当該機器に対する要望やアイデア、課題を、シーズ側（出展者を含む）は、交流したい具体的な内容や機器の特長、会場出展に向けてのPRをそれぞれ記載してください。

ご入力
ご確認
完了

出展団体名 フジホーム株式会社

名前 必須

メールアドレス

投稿内容 必須

テキストエリア

※この問い合わせフォームは、ニーズとシーズの交流を促し、実用的な製品の開発を推進するものです。支給制度や個別機器の申請申請は行わないでください。

詳細ページに戻る
確定

例) 実際に掲示板に投稿された内容

掲示板

この機器について、新しく投稿する
(掲示板)

掲示板の運用方法
ニーズ側は、当該機器に対する要望やアイデア、課題を、シーズ側（出展者を含む）は、交流したい具体的な内容や機器の特長、会場出展に向けてのPRをそれぞれ記載してください。

10月9日（土）15:20:16:20
 特別シンポジウム「好事例買表彰の受賞とその後」で、指伝話コミュニケーションバックが出来上がった賛賞と、ユーザさんたちの様子についてお話しをする時間をいただきました。

オンラインでどなたでもご参加いただくことができます。是非ご覧ください。

「iPadやアプリだけ販売するのではだめです。その子がすぐ使える中身を一緒に提供してください。それが福祉機器として必要なことです。」という、ある中役所の障害福祉担当者からの連絡がきっかけで、指伝話コミュニケーションバックができました。

それまで、アプリを提供し、その中身を自由に自分で作れることを売りにしていましたが、使い方の提案も含めて実用的なコンテンツを一緒に提供する指伝話コミュニケーションバックが誕生しました。

自治体によっては、iPad+アプリ+コンテンツを全支給対象とするところもありますし、iPadは自費で、アプリとコンテンツは給付対象とする判断をしているところも増えてきました。

利用規約に違反している投稿は、このリンクから報告することができます。 [匿名報告はこちら](#)

④交流会の申込について

Web開催においては、Web交流プラットフォーム内にて、「常時配信」と「定期配信」に分け、視聴できる環境を構築した。常時配信はWeb開催開始から終了までの4ヵ月間はいつでも視聴可能とし、定期配信は1ヶ月毎に配信内容を変更して配信を行った。

山口会場はZOOMウェビナー、東京会場においては、会場配信及びZOOMウェビナーを活用してオンライン配信を実施した。参加者は各セミナーにおいて50～20名程度の視聴者数であった。

なお、各セミナーの講演資料は、講演前からプラットフォーム上に掲載しており、演終了後もダウンロードできるようにした。

● 東京会場例題セミナーの視聴（リアルタイムで配信します） ページの先頭へ

視聴はこちら（それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。）

日程は併催セミナープログラムをご覧ください。

[【Zoom】アプリのPC・スマートフォンへのインストール方法はこちら](#)

[音声認識アプリ（UQトーク）を使用した字幕配信の設定方法はこちら](#)

山口会場例題セミナー資料

【令和3年10月9日（土）～10日（日）】

講演情報	資料
「歩行ロボット技術を応用した福祉機器の開発」 国立大学法人 名古屋工業大学 大学院 つくり領域 教授 佐野明人 先生	📄
日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会の開催にあたり 代表世話人 昭和病院 田中 恵 氏	📄
つながる、たのしむ、相談できる スマホでつむぐ重症児支援の未来 一般社団法人オンライン臨床 代表理事 ひいどろ 代表 言語聴覚士 長岡菜都子 氏	📄
特別シンポジウム「好事例表彰の受賞とその後」 NPO法人iCareほっかいどう 佐藤美由紀 氏	📄
特別シンポジウム「好事例表彰の受賞とその後」 かえるキッズのお助け隊 大泉えり 氏	📄
福祉機器の利用と開発の状況報告 シーズへのヒント 日本ALS協会 常務理事・事務局長 岸川忠彦 氏	📄
福祉機器の利用と開発の状況報告 九州工業大学生命工学研究科 人間知能システム学専攻 山崎 整 氏	📄
障害分野におけるロボット技術の適用に関する研究報告 株式会社浜総総合研究所 地域戦略研究部 加藤善崇 氏	📄

常時配信

講演情報	動画	資料
<p>令和3年10月1日（金）～令和4年1月31日（月） シーズ・ニーズマッチング交流会2021開催にあたってのご挨拶</p> <p>公益財団法人テクノエイド協会 理事長 大橋 謙策</p>		-
<p>令和3年10月1日（金）～令和4年1月31日（月） 1. シーズ・ニーズマッチング交流会の実施（Webを活用した交流の進め方）</p> <p>公益財団法人テクノエイド協会 宇田川 竜吾</p>		
<p>令和3年10月1日（金）～令和4年1月31日（月） 2. 自立支援機器における現状と課題</p> <p>厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課 自立支援担当室 福祉工学専門官 田上未来 氏</p>		-
<p>令和3年10月1日（金）～令和4年1月31日（月） 3. 支援機器の効果に関する西太平洋地域会議への参加報告～支援機器の利活用に関する世界規模で取り組むべき課題について～</p> <p>一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会</p>		-

定期配信

令和4年1月配信 ※1月1日～1月31日 配信の予定です。

講演情報	動画	資料
<p>【特別講演】 1月1日～1月31日（20分） 10. 福祉機器を活用して、活動行動範囲を広げよう</p> <p>日本医療科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科 教授 小林 毅 氏</p>		-
<p>1月1日～1月31日（20分） 11. 厚生労働省 支援機器の開発・普及に関する調査研究事業報告④ 「真のニーズに基づいた支援機器の事業化・普及に関する出口を規定した開発プロセスに関する調査研究」 （障害者総合福祉事業）</p> <p>一般社団法人 臨床医工情報学コンソーシアム関西 上席研究員 八木雅和 氏</p>		-
<p>1月1日～1月31日（20分） 12. JSTの産学連携支援事業と福祉機器開発事例</p> <p>科学技術振興機構（JST） 企画支援室 下田 修 氏</p>		-

<併催セミナープログラム一覧>

Web 開催

令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月) (4ヶ月間)

9:00～17:00

**Web 交流プラットフォームを活用し、
期間中は常時交流が可能です。**

併催セミナーは毎月更新いたします。



<http://www.techno-aids.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20>

(常時配信)

1. シーズ・ニーズマッチング交流会の実施 (Web を活用した交流の進め方)
テクノエイド協会 宇田川竜吾
2. 自立支援機器における現状と課題
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課 自立支援振興室
福祉工学専門官 田上未来 氏
3. 支援機器の効果に関する西太平洋地域会議への参加報告
～支援機器の利活用に関する世界規模で取り組むべき課題について～
一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会

(定期配信) 月によって掲載内容は異なります

[10月1日～10月31日 配信予定 (各20分)]

1. 視覚・聴覚障害者用支援機器への期待 特別講演
筑波技術大学保健科学部情報システム学科 准教授 小林 真 先生
2. 厚生労働省 支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告①
「障害者の支援機器開発に携わる医療・福祉・工学分野の人材育成モデル構築に資する研究」
(厚生労働科学研究費 障害者政策総合研究事業)
東北大学大学院医工学研究科 教授 出江紳一 氏
3. 障害者自立支援機器開発促進事業
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課 自立支援振興室
福祉工学専門官 田上未来 氏

[11月1日～11月30日 配信予定 (各20分)]

4. 3Dプリンターで造る自動員とリハビリ器具の可能性 特別講演
工房 SERA 代表 船住義憲 氏
5. 厚生労働省 支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告②
「障害者の支援機器開発におけるモニター評価手法の開発及びモニター評価を実践する
人材の育成プログラム開発のための研究」(厚生労働科学研究費 障害者政策総合研究事業)
東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授 二瓶美里 氏
6. NEDO 福祉事業のご紹介 ～ 福祉用具実用化開発の支援 ～
NEDO イノベーション推進部 主幹 只野 肇 氏

[12月1日～12月28日 配信予定 (各20分)]

7. 意思伝達装置の利用にあたり 特別講演
中部学院大学看護リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 井村 保 先生
8. 厚生労働省 支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告③
「リハビリテーション関連職等が支援機器の適切な選定・導入運用時に用いる
ガイドラインの開発」
(厚生労働行政推進調査事業費)
国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長 井上剛伸 氏
9. 情報バリアフリー通信・放送機器提供・開発推進助成金制度のご案内
NICT 情報バリアフリー推進室 室長 岡田信二郎 氏

[1月4日～1月31日 配信予定 (各20分)]

特別講演

10. 活動行動範囲を広げよう

日本医歯科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科 教授 小林 絵 氏

11. 厚生労働省 支援機器の開発・普及に資する調査研究事業報告④

「真のニーズに基づいた支援機器の事業化・普及に資する出口を想定した
開発プロセスに関する調査研究」(障害者総合福祉事業)

一般社団法人 臨床医工情報学コンソーシアム関西 上席研究員 八木雅和 氏

12. JSTの産学連携事業と福祉機器開発事例

JST企業支援室 下田 修 氏

山口会場

令和3年10月9日(土)～10日(日)(2日間)

講演開始 11:00～16:20 / 10:00～16:00

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することとなりました。併催セミナーはオンラインでの開催に切り替え開催いたします。視聴サイトや視聴方法については後日、交流会サイトに掲載しますので是非ご視聴ください。



オンラインでも視聴

(<https://us06web.zoom.us/j/86133851012>)

AM

それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。

1. 11:00-12:00 (60分)

【歩行ロボット技術を応用した福祉機器の開発】

国立大学法人 名古屋工業大学

大学院 つくり領域 教授 佐野明人 先生

基調講演

PM

2. 12:10-12:30 (20分)

日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会の開催にあたり

代表世話人 昭和病院 田中 恵 氏

※ 3. 13:30-14:30 (60分)

(セミナー) バイオデザイン手法の紹介

株式会社ライフトゥデイ 代表取締役(医師) 原 陽介 先生

4. 14:40-15:10 (30分)

つながる、たのしむ、相談できる スマホでつむぐ重症児支援の未来

一般社団法人オンライン臨床 代表理事

びいどろ 代表

高胡聡覚士 長岡榮都子 氏

下関発!

5. 15:20-16:20 (60分)

特別シンポジウム「好事例表彰の受賞とその後」

NPO 法人 iCare ほっかいどう 佐藤美由紀 氏

かえるキッズのお助け隊 大泉えり 氏

有限会社オフィス結アジア 高橋宜盟 氏

特別シンポジウム

AM

6. 10:00-11:00 (30分×2者)

福祉機器の利用と開発の状況報告

日本ALS協会 岸川忠彦 氏

九州工業大学 学生団体 すく創る課 山崎 颯 氏

7. 11:10-11:40 (30分)

障害分野におけるロボット技術の活用に関する研究報告

株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部 加藤善崇 氏

PM

○ 13:00-16:00

事務局だより

○Web交流プラットフォームの活用方法の紹介など

○常時配信と今月の定時配信の内容をリアルタイム配信

公益財団法人テクノエイド協会

※ 8. 13:00-16:00 (180分)

(ワークショップ) バイオデザイン手法を応用した支援機器開発手法を学ぶ

株式会社ライフトゥデイ 代表取締役 (医師) 原 隆介 先生

東京大学医学部附属病院心臓外科特任研究員 (理学療法士) 柿花隆昭 先生

東京会場

令和3年12月7日(火)～8日(水)(2日間)

9:00～17:00 / 9:00～17:00

東京都立産業貿易センター浜松町館 2階展示室

〒105-7501 東京都港区海岸 1-7-1

ゆりかもめ「竹芝駅」西口より徒歩2分

JR「浜松町駅」北口より徒歩5分

東京モノレール「浜松町駅」北口より徒歩5分

都営地下鉄「大門駅」B2出口より徒歩7分

※車いすでお越しの方は、ゆりかもめ「竹芝駅」をご利用ください。



オンラインでも視聴

(https://us06web.zoom.us/j/89473466124)

AM

それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。

1. 11:00-12:00 (60分)

【障害者の自己決定】

土屋総研特別研究員 元厚生省障害福祉課長 元宮城県知事

浅野史郎 先生

基調講演

PM

2. 13:00-14:00 (30分×2者)

福祉機器の利用事例とニーズの発信

全日本聴覚者・中途失聴者団体連合会 小川光彦 氏

日本視覚障害者団体連合 逢坂 忠 氏

3. 15:00-16:00 (20分×3者)

厚生労働省「障害者開発促進事業・採択企業」による成果報告①

網膜投影型視覚支援機器の開発

株式会社 QD レーザ

AI 制御による表現豊かな歌謡型人工喉頭の開発

株式会社電制

障がい児用シャワーチェアの開発

タカノ株式会社

2 目 次	AM
	4. 10:00-11:00 (30分×2者) 出展企業による福祉機器開発の現状報告 国立大学法人 大阪大学 横田純己 氏 株式会社オレンジアーチ 宇田竹信 氏
	5. 11:10-11:40 (30分) 失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器 (仮称) 一般社団法人日本言語聴覚士協会 白波瀬元道 氏
	PM
	6. 12:30- (20分×3者) 厚生労働省「障害者開発促進事業・採択企業」による成果報告② 聴覚視覚覚醒刺激に対応した言語支援アプリケーションの開発 シスネット株式会社 座位バランスの定量的評価と効果的トレーニングを可能にする "The e (座位)-balance trainer" の開発 学校法人藤田医科大学 障害児の日常生活において両手協調動作を促す訓練用の筋電義手と自助具 社会福祉法人兵庫康社会福祉事業団
	※7. 14:00-17:00 (180分) (ワークショップ) バイオデザイン手法を応用した支援機器開発手法を学ぶ 株式会社ライフトゥデイ 代表取締役 (医師) 原 陽介 先生 東京大学医学部附属病院心臓外科特任研究員 (理学療法士) 柿花隆昭 先生

〈東京会場のセミナー及び意見交換の様子〉





(5) 意見交換会、アドバイス支援の実施結果について

①開催のねらい、目的

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイス等の開発支援を行うこととした。

具体的には、企業等から要望を個別にうかがい、関係する障害者等との意見交換会やアドバイス支援等の機会を設けた。

また、その成果については、協会のHP等を通じて広く周知し、シーズとニーズのマッチングを活性化するとともに、来年度以降の開発促進事業の応募を喚起することとした。

意見交換等の具体的な内容は、開発改良中の支援機器について、コンセプトや利活用の場面、想定利用者の適用範囲、機能・性能等の在り方について、シーズ・ニーズ対等の立場にたって自由な意見交換等を行い、もって障害者現場のニーズに即した開発改良を推進することとした。

②期間

令和3年10月1日～令和4年1月末

③実施方法

交流会の出展企業等に対して、開発改良中の機器について、意見交換会やアドバイスしてほしい内容等を個別にうかがい、想定するユーザーの団体等へ繋ぐこととした。

実施は、訪問又は状況に応じてオンライン会議にて行うこととし、意見交換会等への参加については、地域を限定しないこととした。なお、東京会場の場面についても積極的に活用することとした。

1、実施予定数

10件程度

令和3年9月24日に開催する「第2回・交流会出展企業等を対象にした説明会」において、希望者を募集した。

令和3年10月1日（金）以降、先着順とし、応募内容が本事業の趣旨に合致するものか、当協会にて確認のうえ実施の可否を決定した。

不明瞭な記載や内容に不備がある場合、また本事業の趣旨に反する案件等については、受付しないこととした。

2、シーズとニーズのマッチング

企業からの個別の要望に対し、ご協力いただく障害者等の団体については、企画委員会のメンバーが所属する団体又は当該団体が紹介する先を基本とすることとし、適切な団体等が見当たらない場合には、当協会において関係機関・有識者等と協議のうえ、マッチング先を探すこととした。但し、どうしてもマッチング先が見つからない場合もあり得ることとした。

3、応募の手続き及び流れについて

- A) シーズ側（応募開発企業）は「様式1 シーズ・ニーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼書」を作成する。
- B) テクノエイド協会では、応募開発企業より提出された依頼書を確認し、ニーズ側（意見交換・協力機関）へ依頼案件の紹介をする。

- C) ニーズ側は、依頼書を確認の上、「様式 A 障害者自立支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援 実施希望書」をシーズ側へ提出する。
- D) 実施希望書を確認したシーズ側は、ニーズ側へ「シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援 選定書」をテクノエイド協会へ提出する。
- E) テクノエイド協会は、シーズ側及びニーズ側へ「実施機関決定通知書」を送付した。
- F) シーズとニーズ側の双方が日程を調整の上、対面もしくはオンラインにて実施する。基本、テクノエイド協会は同席することとした。
- G) シーズ側は、意見交換会、アドバイス支援実施の成果を「様式 2 シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援 実施報告書」へまとめ、テクノエイド協会へ提出することとした。

④募集結果

全 9 社の依頼があり、そのうち 7 社・12 件が希望するニーズ側とマッチングをすることができた。

マッチング結果は以下のとおり。マスコミに大きく取り上げられる事例もあった。

案件番号	機器名称	応募開発企業等	意見交換・協力機関
03-01	指伝話コミュニケーションパック(各種オプション)	有限会社オフィス結アジア	NPO法人 日本失語症協議会
			ASD(自閉スペクトラム症)生活環境研究会
			ポリオの会
			社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れんぼう川崎
03-02	sööt(ソット)	株式会社岩多屋	ポリオの会 社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れんぼう川崎
03-03	自動排泄処理装置キュラコ	株式会社ウイズ	社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れんぼう川崎
03-04	FILLTUNE CLEAR	FILLTUNE株式会社	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
03-05	自分の声ソフトボイスター	株式会社ヒューマンテクノシステム	一般社団法人 日本言語聴覚士協会
03-06	パンダナビ	しんしゅうアソシエイツ	一般社団法人 山梨県視覚障害者福祉協会
03-07	室内用立上り機能付き歩行車	フジホーム株式会社	ポリオの会
			社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れんぼう川崎
03-08	ライジングエイド クリップ「ラ・クリップ」Sキャリアー	株式会社東海技研工業	
03-09	異動洗髪器・足洗浄器	有限会社ビューティフルライフ	

協会では、提出された実施報告書をもとに、マッチング成果の実施報告を作成することとした。報告のイメージは、以下のとおりである。

<事例集イメージ>



<意見交換会、アドバイス支援の様子>



○東京中日新聞 令和4年1月19日 朝刊一面

<https://www.chunichi.co.jp/article/402661>

点字ブロック 声で尋く 金沢出身 視覚障害ある芝田さん アプリ開発

金沢市在住の視覚障害者 芝田さん（47歳）が、点字ブロックを音声で読み取るアプリを開発した。ブロックの形状に合わせて音声で案内する仕組み、音声で音声データを入力すれば視覚障害者の道案内も可能。『障害の有無にかかわらず世界中の人に役立つ』という。…（五十巻掲載）

「ここは」見えない朝中快報ホーム。朝は行き止まり、後ろは改良力落ち下り階段。右は二重扉、左は一重扉。電車を降りると、ブロックを歩いたスリムから音声案内が流れた。体の向きを右八十度変えると「前は改良力落ち下り階段、後ろは行き止まり」と案内も変わる。芝田さんが開発したアプリは、こんなイメージで使うことができる。

仕組みはこうだ。分岐点や入り口など注意すべき場所を知らせる立方体の「点字ブロック」の丸い突起に、八面の黒いリング（直径五センチ）をはめ込む。場所ごとにリングの配置パターンを変え、現在地と目的地を直線方向の案内空をタブレット端末などでサーバーに送信。ホームドアの有無なども入力できる。

ユーザーは、アプリを入れたスマホのカメラが前方を向く角度に、リュックサックの黒ベルトなどに繋がる、スマホが配置パターンを認識するたび、入力された案内文が流れる。

より現場では、点字ブロックの突起は高さで二十五個。芝田さんによると、八面のリングで約五十五のパターンをつくり、それぞれ異なる場所を登録できるようにした。他に同じパターンのブロックが別の場所にあっても、カメラで認識して登録できる仕組みだ。

芝田さんは、長野県諏訪市の福祉施設メーカー「セイコーエプソン」で研究開発に携わった。道行性の視覚障害者支援で、視力を失った、今は道標の道標が辛うじて見える障害者だ。

五十六歳で早期退職し、会社を辞職。「視力を失っても自由に歩きたい」と、親に視覚障害者のインフラとなっていく

(6) 参加人数及びアンケート結果

①東京会場

1、東京会場 事前登録者数 ※登録重複者は除く

	合計
東京会場事前登録（出展者も含める）	419名

2、来場者数

会場	使う人	作る人	一般来場者・出展者
東京会場（12月7日～8日）	134名	125名	259名

②Web交流プラットフォーム

1、Web交流プラットフォーム アクセス数

	合計
Web交流プラットフォームトップ画面 総アクセス数 （令和3年10月1日～令和4年1月31日の期間）	9,781回

2、出展者ページ閲覧数 上位5者

出展者	回数
1、フジホーム株式会社	290回
2、パラマウントベッド株式会社	234回
3、しんしゅうアソシエイツ	232回
4、株式会社コーポレーションパールスター	212回
5、シスネット株式会社	154回

3、出展機器紹介動画再生回数 上位5者

出展者	回数
1、株式会社QDレーザ	850回
2、東洋電装株式会社	102回
3、社会福祉法人 全国盲ろう者協会	88回
4、フジホーム株式会社	83回
5、有限会社オフィス結アジア	77回

③一般来場者アンケート結果（東京会場）

本交流会来場者に行ったアンケート結果は以下のとおりである。

会場	回答数
東京会場	95件

1、基本情報

○来場者属性について N=95

I.あなた自身についてうかがいます	No.	件数	割合
当てはまる項目に○を付けてください	1 障害者	8	8.4%
	2 障害者家族	7	7.4%
	3 施設関係者	8	8.4%
	4 医療関係者	5	5.3%
	5 支援機器開発企業	8	8.4%
	6 行政	12	12.6%
	7 研究機関・団体	10	10.5%
	8 学校・教育関係者	3	3.2%
	9 一般企業（今後、支援機器の開発を目指す企業を含む）	27	28.4%
	10 その他	7	7.4%
	合計	95	100.0%

「一般企業」、「行政」、「研究機関・団体」の順にアンケート回答者が多かった。

○参加日数について N=93

I.あなた自身についてうかがいます	No.	選択肢	件数	割合
ご参加いただいた日数について教えてください	1	1日のみ（1日目・2日目いずれかのみ）	87	93.5%
	2	2日間	6	6.5%
		合計	93	100.0%

9割以上が1日だけの参加者であった。

○交流会開催の情報収集源について N=95

II.交流会についてうかがいます	No.	選択肢	件数	割合
この交流会をどのように知りましたか	1	テクノエイド協会からの案内	44	46.3%
	2	テクノエイド協会のホームページ	12	12.6%
	3	所属する障害団体からの案内	4	4.2%
	4	経済振興団体からの案内	0	0.0%
	5	所属する職能団体からの案内	3	3.2%
	6	自治体などからの案内・広報誌など	9	9.5%
	7	友人・知人からの紹介	11	11.6%
	8	新聞・テレビ・ラジオなど	0	0.0%
	9	その他	12	12.6%

「テクノエイド協会からの案内」の割合が多く、次いで「テクノエイド協会HP」、「友人・知人からの紹介」を見て来場されていた。「その他」には、出展者や所属する協会、友の会などであった。

○来場の目的について・複数回答 N=95

Ⅱ.交流会についてうかがいます	No.	選択肢	件数	割合
どのような目的で交流会へご来場いただきましたか	1	具体的に作って欲しい要望やアイデアがあり、企業に伝えたかった	10	10.5%
	2	機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった	65	68.4%
	3	特定の企業または団体に対して直接伝えたいことがあった	6	6.3%
	4	普段困っていることについて相談したかった	6	6.3%
	5	その他	14	14.7%

「機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった」が多く、「その他」と記入された方の中には、「どのようなイベントか興味があった」、「実際に最新機器を見て学ばれたかった」、「情報収集」、「参加企業全体のお話をうかがいたかった」等であった。

○会場の立地、利便性について N=95

Ⅱ.交流会についてうかがいます	No.	選択肢	件数	割合
会場の立地や利便性はいかがでしたか	1	大変満足している	48	50.5%
	2	ある程度満足している	35	36.8%
	3	どちらとも言えない	11	11.6%
	4	あまり満足していない	1	1.1%
	5	全く満足していない	0	0.0%
		合計	95	100.0%

今年度より、従来の有明の会場から浜松町の会場へ変更したが、半数が「大変満足している」であり、8割以上が満足している結果となった。

○会場内の配置や展示について N=95

Ⅱ.交流会についてうかがいます	No.	選択肢	件数	割合
会場内の配置や展示はいかがでしたか	1	大変満足している	34	35.8%
	2	ある程度満足している	50	52.6%
	3	どちらとも言えない	8	8.4%
	4	あまり満足していない	2	2.1%
	5	全く満足していない	0	0.0%
		無回答	1	1.1%
		合計	95	100.0%

8割以上が満足している結果となった。

○次回の開催について N=95

Ⅱ.交流会についてうかがいます	No.	選択肢	件数	割合
来年も参加したいと思いますか	1	ぜひ参加したい	39	41.1%
	2	参加したい	43	45.3%
	3	どちらともいえない	10	10.5%
	4	参加したくない	0	0.0%
	5	全く参加したくない	0	0.0%
		無回答	3	3.2%
		合計	95	100.0%

8割以上が来年も参加したい結果であった。

2、具体的な交流内容（自由記述） ※一部のみ抜粋

- 試作段階の製品に対して、意見が伝えられた。
- 利用者側の施設の意見をメーカーに伝えることができると共に、メーカー側からも有益な使い方を教えていただくことができた。
- 知っている機器について、メーカーの方と深い議論ができた。知らない機器も多く、障害者の自立支援に多くの方が努力されていることが分かった。
- 製作されている方の思いが伝わり、今後の福祉の世界がより広く周知され、皆が生活しやすい世の中になるのではないかと感じた。
- 細かく丁寧に説明をしていただけた。15年ほど色々な福祉機器をみてきたが、当事者家族としてここまで話しができたのは初めてだった。
- 開発中の機器を全てみて回り、話もできてうれしく思っている。
- 現物を見ながら相談ができてよかった。
- 色々な障害に対する福祉機器メーカーの意気込みが分かった。
- 企業同士で交流ができた。
- 興味のある技術を持つ企業と面識を持てた。外部団体とご挨拶の場を持つことができた。

3、本交流会全般に関するご意見・感想・今後來てほしい企業等（自由記述）

※一部のみ抜粋

- 今後も継続して欲しい。
- オンラインではなく、展示はリアルがよい。
- オンラインでは、展示物を体感することが難しいので、このような実開催を今後も続けて欲しい。
- ブースの分け方が分かりやすかった。講演会が大変ためになった。
- 新しい機器の開発段階がよく分かり、大変参考になりました。色々アドバイスすることができた。
- 会場を間違えてしまった。
- 傘立てはあってもよかった、荷物を置く場所や小休止する場所があると良い。
- 規模を大きくしてほしい。

④出展者アンケート結果（東京会場）

出展者へ行ったアンケート結果は以下のとおりである。

会場	回答数
東京会場	60件

1、基本情報について

○回答者の属性について N=60

No.	選択肢	件数	割合
1	開発企業	43	71.7%
2	障害団体	10	16.7%
3	開発支援団体	3	5.0%
4	職能団体	1	1.7%
5	その他	3	5.0%
	合計	60	100.0%

○過去の本交流会への参加状況について N=60

No.	選択肢	件数	割合
1	過去全て参加している	9	15.0%
2	過去6度参加している	3	5.0%
3	過去5度参加している	4	6.7%
4	過去4度参加している	3	5.0%
5	過去3度参加している	9	15.0%
6	過去2度参加している	6	10.0%
7	過去1度のみ参加している	8	13.3%
8	今回初めて参加した	18	30.0%
	合計	60	100.0%

○過去の交流会において、その後の機器開発や団体活動において有意義な交流ができたか
N=42

No.	選択肢	件数	割合
1	大変有意義であった	19	45.2%
2	ある程度有意義であった	18	42.9%
3	どちらともいえない	4	9.5%
4	あまり有意義でなかった	0	0.0%
5	有意義でなかった	0	0.0%
	無回答	1	2.4%
	合計	42	100.0%

○交流会を通して「障害者自立支援機器等開発促進事業」などの国の開発補助事業に応募したいと思ったか。 N = 60

No.	選択肢	件数	割合
1	是非、応募したい（応募を検討したい）	12	20.0%
2	応募してみたい（応募を検討してみたい）	22	36.7%
3	どちらともいえない	26	43.3%
4	補助事業に関心はない	0	0.0%
	合計	60	100.0%

約半数が開発補助事業の応募に興味を持っている結果であった。

2、来場者との交流について

○交流を行った概ねの人数 N = 60

No.	選択肢	件数	割合
1	20人未満	23	38.3%
2	20人～50人未満	30	50.0%
3	50人～100人未満	7	11.7%
4	100人以上	0	0.0%
	合計	60	100.0%

出展者の多くが20人から50人の交流数であった。

○交流の具体的な内容について ※複数回答 N = 60

No.	選択肢	件数	割合
1	機器に対する要望や改善点が聞けた	30	50.0%
2	日常の困りごとやニーズに関する話が聞けた	31	51.7%
3	今後の具体的な開発協力や連携に関して話ができた	22	36.7%
4	自社や自団体の活動や取り組みについて理解が深められた	33	55.0%
5	その他	7	11.7%

交流内容は多岐にわたる内容にある傾向であった。

3、運営・交流会全般について

○交流会の満足度 N = 60

No.	選択肢	件数	割合
1	大変満足している	23	38.3%
2	ある程度満足している	29	48.3%
3	どちらとも言えない	5	8.3%
4	あまり満足していない	3	5.0%
5	全く満足していない	0	0.0%
	合計	60	100.0%

8割以上が満足している結果であった。

○会場の立地や利便性について N = 60

No.	選択肢	件数	割合
1	大変満足している	23	38.3%
2	ある程度満足している	29	48.3%
3	どちらとも言えない	5	8.3%
4	あまり満足していない	3	5.0%
5	全く満足していない	0	0.0%
	合計	60	100.0%

8割以上が満足している結果であった。

○展示ブースの配置について N = 60

No.	選択肢	件数	割合
1	大変満足している	20	33.3%
2	ある程度満足している	29	48.3%
3	どちらとも言えない	9	15.0%
4	あまり満足していない	2	3.3%
5	全く満足していない	0	0.0%
	合計	60	100.0%

8割以上が満足している結果であった。

○展示ブースの配置について N = 60

No.	選択肢	件数	割合
1	ぜひ出展したい	28	46.7%
2	出展したい	19	31.7%
3	どちらとも言えない	12	20.0%
4	出展したくない	1	1.7%
5	全く出展したくない	0	0.0%
	合計	60	100.0%

7割以上が満足している結果であった。

○来年も出展を希望する場合、どのような参加方法を希望するか N = 60

No.	選択肢	件数	割合
1	会場開催に参加	32	53.3%
2	Webのみ参加	2	3.3%
3	会場開催とWebの両方に参加	25	41.7%
4	その他別の参加方法	1	1.7%
	合計	60	100.0%

多くが「会場開催に参加」、「会場開催とWebの両方に参加」のいずれかを希望する結果となった。

4、具体的な交流内容（自由記述） ※一部のみ抜粋

- 患者の困りごとと、同業者の意見の双方を広く聞くことできたことで、立場の違いをあらためて認識できた。
- 既に弊社製品を所有している方や、ご存知の方からの質問対応が多かった。
- デモに関して、かなりの方に評価いただけた。
- 当社出展試作機の効用について概ね高い評価を受けた。製品化について経験のある方々から、最後まで実施してくれるメーカーを慎重に見極めるようアドバイスを受けた。
- コロナ渦という事もありこの2年間お会いする機会がなかった方々との交流会でお話する事で、よりコミュニケーションが図れたと感じた。
- 弊社開発商品についての要望や提案（新案）などを使用者や医療従事者から直接聞くことが出来て試作段階での改良や商品化した後のモデルチェンジなど未来的構想が広がった。
- 実際に販売をスタートし利用者が購入いただいた製品もあり、利用してみた生の感想をヒアリング出来て良かった。
- 福祉用具販売企業からコンタクトがあり弊社製品に興味を持って頂き、開発協力を得ることや、障害者団体様主催の展示会へ出展のお誘いを受ける事ができた。
- 直接、会場にて各団体の取組みに関する情報収集や商品へのニーズ・改良点を聞くことができました。この機会により、今後、当事者の方など実際に使用検証を行っていることに繋がった。

5、併催イベントの内容に対するご意見、ご要望（自由記述） ※一部のみ抜粋

- 今回は中止になってしまったが、山口開催のように他の学会と並行しての開催などだと集客が見込めるのではないか。
- セミナーの内容が、展示ブースでも聞くことができてよい。
- 時間的に難しいのかもしれないが、基調講演がもっと数多くあると良いと感じた。
- Web開催により、当事者団体様の情報が事前に把握できて良かった。Web講演も面白い内容のものがあった。
- 東京会場については浜松町と言う立地面でも交通機関面でも今までよりは便利になった。もう少し来場者数を増やすような試みをお願いしたい。
- ブースでの実況中継、開発製品の解説などを、全国にネット配信ができればありがたい。

6、その他、運営や交流会全般に関するご意見、ご感想（自由記述） ※一部のみ抜粋

- 同時開催の講演会がとても良い。ぜひ、継続お願いしたい。半面、ワークショップにはなかなか参加しづらく、ワークショップ自体の目的を明確にして、関連症状ごとに（身体障害、コミュニケーション障害、知的認知障害など）分けて行われると参加しやすいのではないか。
- 多くの方に体験していただくことができ、感謝いたします。ただ、ブースが狭く車いすでの体験者がスムーズにできなかったのが残念であった。
- コロナ禍の影響が大きかったが、展示会場で人が集まって展示会や講演会があったこ

とは、とても良かった。次回は、コロナ禍の影響が改善して、障害者や、障害者向けサービス事業者の参加が増えるとより良い。

- 出展企業様との交流も充実しており、コラボレーションなどの意見や共同開発などの要望も多々あった。
- オンラインより、リアル会場での開催のほうがニーズを把握しやすく交流しやすい。
- Web開催について、どのような方が観ていただいたのか？また興味があるのかわかるのかの情報が分かるとよい。
- 過去の大会に比べて、多くの方がブースを訪問していただけた。
- 自立支援機器が障害者の生活になくてはならないものである事が良く分かった。今後この取組が大きく発展して障害者の自立支援につながればと思った。

(7) 今後の交流会の在り方について

①今年度の振り返り

今年度は、当初、山口と東京で会場開催を計画していた。しかしながら、10月の山口については、新型コロナウイルスの急速な拡大に伴い、会場開催を急遽Web開催に変更する事態となった。今回、山口では、日本リハビリテーション・ケア研究大会に合わせる形で、土・日の開催を予定したが、併催イベントの視聴者数は、平日開催と同等もしくは若干少ない結果であった。

Web開催は、10月から4カ月間、当協会のホームページ上に「交流会Web交流プラットフォーム」を設けて実施した。本年度は、プラットフォームにアクセスすれば、出展機器を検索して動画の閲覧、希望する企業等に問い合わせできる仕組みを構築した。交流プラットフォームのアクセス数は9500件を超えたが、個々の出展者のページの閲覧数は、想定よりも伸びない結果であった。また、交流手段として設けた「掲示板」や「問い合わせ」のフォームについても、積極的に利用されるまでには至らなかった。

一方、今回、オンラインシステムの活用に関しては、全国どこからでも、好きな時間に交流でき、大変便利であるとする声も聞かれた。今後もWebによる交流手段の確保は必須なものとし、当協会には活性化するよう、より積極的な周知・広報が望まれる。

東京会場では、新型コロナウイルスの影響もあり、例年の半数程度まで落ち込んだものの約260名の来場者があり、出展者と来場者が活発に意見交換されている姿が見られた。来場者アンケートの結果では、「時間をかけて出展者と意見交換することができた」、「試作機を前に相談することができた」等、会場開催ならではの意見が多く寄せられ、出展者、来場者ともに、来年も会場での開催を強く望まれる結果となった。

また、本年度から実施した「個別の意見交換会、アドバイス支援事業」については、協会がシーズとニーズの間に入りコーディネートすることにより、これまでの受動的なスタンスから能動的なスタンスが生まれ、多くの企業と関係機関等の中で交流を図ることができた。一例として、甲府市内で行った個別の意見交換会、アドバイス支援には、多くの地元の視覚障害者が集まり、試作機の体験を通じて、有意義な意見交換を行うことができた。今回の支援事業については、継続した実施を希望する声が多方面から出され、年間通じて行える仕組みの必要性を感じた。

また、動画を通じて配信した利用者ニーズの配信については、少数ながら視聴者から感動する声寄せられ、この企画については、一時的ではなく、年間通じて見られる環境の確保が必要であると感じた。

②今後の方策について

- 多くの関係者に対して早い段階から「シーズ・ニーズマッチング交流会」の周知を行うとともに、会場及びwebの両面から交流できる機会を設けることが必要である。
- とりわけ利用者ニーズの発信については、オンデマンド配信を行うなど、年間を通じて情報発信するとともに、企業等からの希望に応じて、いつでも気軽に意見交換できる環境の整備が必要である。
- 本年度から実施した「個別の意見交換会、アドバイス支援事業」について、本年度は企画委員が所属する障害当事者団体等に限定して行ったところであるが、全国各地の障害者や支援者が参加できるよう、規模を拡大して計画することが望まれる。
- シーズとニーズのマッチングを活性化させる方策として、交流の成果を目に見える形で社会へ発信することが重要である。本年度作成した交流事例集を多くの関係機関へ周知するとともに、来年以降も継続して実施することが望まれる。
- 交流会の開催方法については、新型コロナウイルスの対策が長期化するなか、少しでも多くの障害当事者と支援者、家族が参加しやすいよう、ニーズ側の視点に立った企画の立案が求められる。

第 2 部（資料編）

障害者の自己決定

浅野史郎

浅野史郎と障害福祉

(株)土屋 土屋総研の特別研究員

重度訪問介護事業を全国展開

利用者：

528名(男性298名/女性230名)

うちALS118名、筋ジストロフィー50名

浅野史郎と障害福祉

北海道庁民生部福祉課長

1985年4月から2年

知的障害者入所施設のあり方に大きな疑問

厚生省児童家庭局障害福祉課長

1987年9月から1年9ヶ月

グループホーム制度化、重症児通園モデル

浅野史郎と障害福祉

宮城県知事

1993年から3期12年

「みやぎ知的障害者施設解体宣言」発出

2004年2月

重度障害児を普通学級に

障害福祉は 可能性の哲学の 実践

浅野史郎

障害者はあわれで、
不幸で、かわいそう

(今までの)一般市民

障害は不幸ではない、不便なだけ

ヘレン・ケラー、乙武洋匡

身体障害者とは、
身体的に問題があるために介助を要する人

介助者なんていら
ない
ロボットが介助をすればいい

H氏の言葉

当事者主権

障害福祉の歴史は
いい方向に進みつつ

ある

特に、世紀またぎで

Nothing about us

without us

我々(障害者)のことは

我々(障害者)なしで決めるな

当事者主権

2010年

「障がい者制度改革推進会議」(内閣府)

構成メンバーの過半数が障がい当事者

行政vs当事者

「これができない、助けて欲しい」(ニーズ)と
障害者(当事者)に頼まれてサービス提供

「何もできない、かわいそうだ」という障害者に
行政がサービスを提供する——(措置という)

障害者自立支援法(2006年)

障害者総合支援法(2013年)

サービスの量と内容を決めるのは

供給者が決める—福祉の措置
財源の範囲内で量が決まる
サービス提供する人員不足で供給なしになる
施しとしてのサービス

当事者の決意

当事者主権とは、私が私の主権者である。
。私以外の誰も—国家も、家族も、専門家も—
私が誰であるか、私のニーズがなんであるかを
代わって決めることを許さない、という立場の表
明である。

中西正司「当事者主権」(岩波新書)

サービスの量と内容を決めるのは

需要者が決める
障害者のニーズに対応
原則、必要なだけ全部
施し、哀れみによるサービスでなくなる

当事者と家族

「母よ！殺すな」
脳性まひの子殺し 1970年横浜市金沢区
母親への減刑嘆願運動に対して。
横塚晃一 青い芝の会代表

当事者と家族

やまゆり園事件の被害者の家族

葬儀・裁判において被害者の実名なし

「親なきあと」にこの子はどうなる

施設に子どもを入れたい親はいても、

施設で暮らしつつけきたい障害者はいない

全ての障害者は、他の者との平等を基礎として、その心身がそのままの状態で尊重される権利を有する。

障害者権利条約第17条

2006年12月 第61回国連総会で採択

当事者と家族

介護はプロに家族は愛を

重度障害者の母親だって
妻だって普通に生活した
い！！

ノーマライゼーション

Normalization

ノーマライゼーション

デンマークのバンク・ミケルセン

隔離的保護的で劣悪な環境の巨大施設に收容されている知的障害児者の処遇の実態に怒り

1959年法

「知的障害者ができるだけノーマルな生活を送れるようにする」(法律前文)

障害は乗り越えるもの
ではない
共にあるものだ

SMA(脊髄性筋萎縮症)の海老原宏美

介助者と障害当事者との関係

- 介助者は単なる日常生活の支援者ではない
- 介助者は障害当事者が社会参加し、夢を追いながら生きていくための支援者である
- 当事者と同じ目標を持った同志である
- 当事者の人生と一緒にデザインしていく
- 当事者と互いに尊重し合い切磋琢磨していく

Independent Living

自立生活

家族、施設、病院の支援なしで

当事者の決意

私のような障害者が地域で生きていこうとすると、社会の側からは「社会的コスト」だとみなされまます。しかし、障害者が暮らしやすい社会になると、生きづらさを抱えた他の人も暮らしやすくなります。だから私は「生ききる」ことが社会を変えることになると信じているのです。それが私の第二の人生です。

ALS(筋萎縮性側索硬化症)の岡部宏生(ひろき)

旧優生保護法 1948年—1996年

第一条 この法律は、優生上の見地から不良な子孫の出生を防止するとともに、

母性の生命健康を保護することを目的とする。

第二条 この法律で優生手術とは、生殖腺を除去することなしに、生殖を不能にする手術をいう。

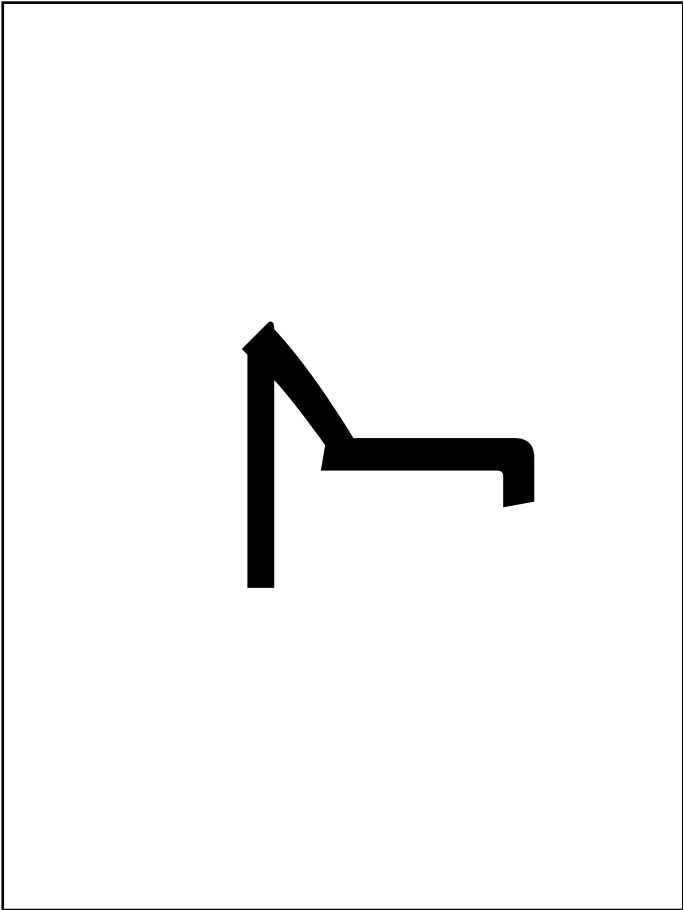
優生思想

身体的、精神的に秀でた能力を有する者の遺伝子を保護し、逆にこれらの能力が劣っている者の遺伝子を排除して、優秀な人類を後世に遺そうという思想

当事者の自負

障害は自分の属性の一つであるが自分の人格まで規定するものではない

自立生活運動のリーダーたち



シーズ・ニーズマッチング交流会 2021 聴障者の利用事例とニーズ



耳マーク

(一社) 全日本難聴者
・中途失聴者団体連合会
理事 小川 光彦

市川駅南口図書館カウンターの好事例

1

2 聞こえにくい人の多様性

聞こえにくい方は、聞こえなくなかった時期、コミュニケーションの状況等により大きく分けると、次の3パターンに分かれる(推計)。

- ① 主に手話言語を活用(ろう者) 約10万人
- ② 補聴器・人工内耳等を活用 約200万人
- ③ 補聴器なしの加齢難聴者等 約1200万人

→それぞれに適した対応が必要。

(参考) 日本補聴器工業会推計 (JapanTrak2018) の全国調査では聞こえにくいと自覚している人は11.3%、そのうち補聴器所有率14.4%
※国際的には4億3000万人がリハビリを要す (WHO、2021年)

3

1 いろんなところで困っています!



警笛が聞こえない



放送が聞こえない



話しているのに気がつかない



講演会で人の話が聞こえない



呼ばれてもわからない



家の中の音が聞こえない

3-1 困っていること...2種類の音声情報



2つの聞こえなさ...聴力の低下と聴能の低下

- ① 「小さな音が聞こえない」 聴力の低下
- ② 「音の弁別ができない」 聴能の低下

語音弁別能と補聴器装着時のコミュニケーション能力

弁別能 (%)	コミュニケーション能力
100 ~ 80%	聴覚のみで会話を容易に理解できる。
80 ~ 60%	家庭の日常会話、普通の会話ではほとんど理解が可能であるが、不慣れな話題は注意の集中が必要。
60 ~ 40%	日常会話で内容を正確に理解できないことがしばしばある。重要な内容は確認やメモ併用が必要。
40 ~ 20%	日常会話においても読話や筆談が必要。
20%未満	聴覚のみの会話理解は不可能。 聴覚はコミュニケーションの補助として活用される。

4



3-2 困っていること…2種類の音声情報

音声情報（言語情報・非言語情報）

- 洗濯終了のブザー } 音が弱く気づかないことがある
- 家電製品の案内音 }
- 玄関のチャイム } 音が強くなるほど気づくことも増える
- 非常ベル } 補聴器等が効果的
- クラクション }

言語情報

- テレビ・ラジオ等の音声
- 電話の聞き取り、職場の会議
- 飛行機の搭乗口変更案内
- 電車の事故などのアナウンス
- スーパーのタイムセール案内、
- 学校教育の場、映画や舞台の音声

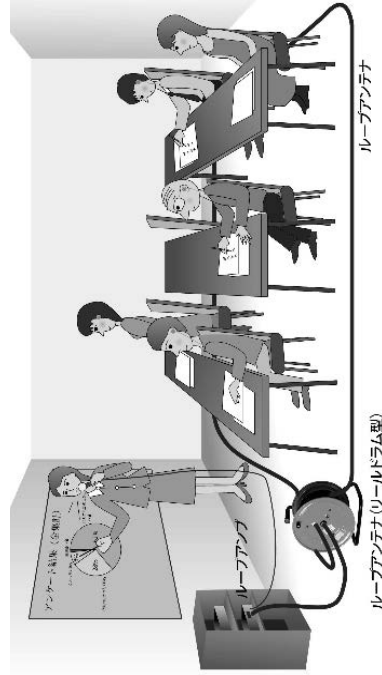
補聴器で音を大きくしても、重度難聴になるほど何を言っているか正確に聞き取れないことが多い



4-1 好事例① ヒアリンググループ

音声情報（言語情報）が聞こえにくいとき…よりよく聴く

集団補聴システム・ヒアリンググループ（磁気ループ）



画像は
(株)ソナー
ル様提供

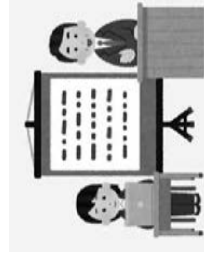


3-3 困っていること…2種類の音声情報

言語情報が聞こえにくいとき

- 明るく静かな環境で
- 相手が見ているのを確認しながら、
- 1メートル程度の距離で
- ゆっくりはっきり話しかけると
- 聞きとりやすくなります。

※聞き取りにくいときは
サインや字幕表示などの
視覚的な方法 で補いましょう。



4-2 好事例① ヒアリンググループ

集団補聴システム・ヒアリンググループ（磁気ループ）

<特長>

マイクで話した音声や外部音源等を、磁気コイル内蔵の補聴器に明瞭に伝えるシステム。磁気の到達する範囲内で使える。音源との距離による減衰や騒音の影響を受けにくい。学校教育の場や、人の集まるホール等に効果。比較的長期間使える。

<課題>

固定型・可搬型のシステムがあるが、移動の制約がある。音量調整が必要。

4-3 好事例① ヒアリンググループ

集団補聴システム・ヒアリンググループ (磁気ループ)

<課題>

どこにあるかわかりにくい。聞こえにくい人に設置情報が届かない。ヒアリンググループマークなどで、視覚的に案内する必要がある。補聴器ユーザーにまだまだ知られていない。



ヒアリングループマーク
Hearing loop symbol

4-4 好事例① ヒアリンググループ

集団補聴システム・ヒアリンググループ (磁気ループ)
(参考)

厚労省では令和元年度より地域生活支援促進事業に新設した「障害者 ICT サポート総合推進事業」において、貸出用のヒアリングループを整備する取組等を補助対象とする等、聴覚に障害のある方への情報保障を促進することとしている。

5-1 好事例② テレビスピーカー

テレビ・ラジオが聞こえにくいとき…よりよく聴く

テレビ用ワイヤレススピーカーシステム
SP-A-900-W (JVC) 実売価格約 18,000 円

テレビから 30m 離れても使用可能。
テレビ本体のボリュームと関係なく、自分の聞きやすい音量に調整可能。比較的シンプルな機能。
イヤホンを使うこともできます。



5-2 好事例③ 固定電話用アンプ

電話が聞こえにくいとき…よりよく聴く

テレアンプ III UA-45 (自立コム) 8,000 円 (税別)

ご家庭の電話器と受話器の間に接続して使用。
受話音量を約 30dB、ブースト時には最大約 45dB まで音量増幅。
ビジネスホンや FAX 兼用機で使用可能。試聴可能。





6 好事例④ 無線補聴システム

会話等が聞こえにくいとき…よりよく聴く

近年無線システムを使用している補聴器等が増えている。音声信号を極力減衰させずに聴かせるために有効な方法である。ex. ロジヤーステム



右のマイクの音声を約8m離れた受信機付き補聴器に、ダイレクトに伝えることができる。その他、テレビやスマホの音を補聴器に伝えるものもある。



13



7-2 好事例⑤ 簡易筆談器

簡易筆談器（磁気ボード）各種

<特長>

待機時間なしにすぐ筆談ができる。ホワイトボード、紙とペンでも効果があるが、磁気ボードは消耗品がなく比較的長期間の使用に耐え、コストが良い。文字が比較的太く読みやすい。安定度が高い。

<課題>

ペン（磁石付き）を無くさないよう注意が必要。文字とバックのコントラストがやや低い。

小さな字は書けない。後に残したいときには不適。

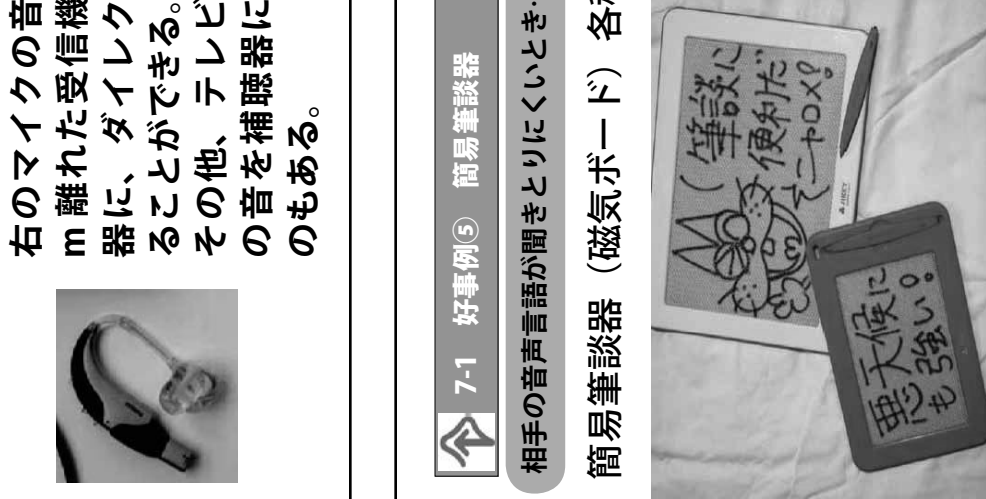
15



7-1 好事例⑤ 簡易筆談器

相手の音声言語が聞きとりにくいとき…書いて伝える

簡易筆談器（磁気ボード）各種



7-1 好事例⑤ 簡易筆談器

相手の音声言語が聞きとりにくいとき…書いて伝える

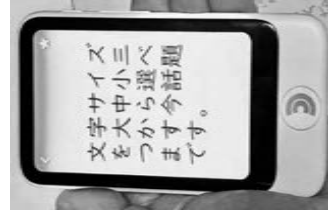
簡易筆談器（磁気ボード）各種



8-1 好事例⑥ 音声認識

相手の音声言語が聞きとりにくいとき…文字表示する

音声認識各種



スマホで音声認識アプリを使用（UDトーク）

音声認識専用端末を使用（ポケトーク mimi）

16



8-2 好事例⑥ 音声認識

音声認識各種

<特長>

話した内容を自動的に文字表示する。筆談の手間がない。移動中も使いやすい。比較的伝える側の負担が少ない。近年活用の広がりが著しい。

<課題>

音声認識の精度は話者の声、騒音、通信状況などの環境に左右されやすい。難聴者の発音は比較的認識しにくい傾向がある。誤認識に節操がない。

ex. 福井駅→吹く胃液 推薦者→彗星シャア

17



9 どなたにもアクセシブルな製品を

身体障害者手帳を持つ聴覚障害者（聴力 70dB 以上が中心）には、国の制度で福祉給付されることがある。約 30 万人が対象。

軽度～中等度も含めると 1400 万人以上いるが、聞こえに困難があっても、制度の手当はほとんどない。

近年技術開発が進展し、これまでになかった製品で、聴覚障害者に役立つものがたくさん出てきている。JIS 規格（日本産業規格）等で、聴覚障害者をはじめとする全ての障害者に使いやすい製品を作る取り組みも次第に広がってきている。

2001 年発行の国際規格「ISO/IEC ガイド 71」など。

19



8-3 好事例⑥ 音声認識

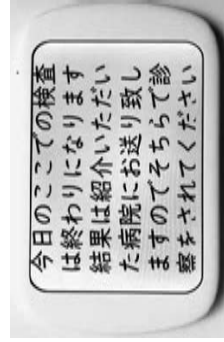
タブレット mimi（ソースネクスト）

本体 19,800 円（税込）＋月額利用料 1,430 円

音声認識専用端末。

ボタンを押して話して話しの近くに置くだけで、音声文字に変換、表示してくれます。iPad のような多機能機器ではなく、音声認識の機能に絞られています。

写真は病院の窓口で使用したときのものです。



18



10 こんな機器・システムがほしい！

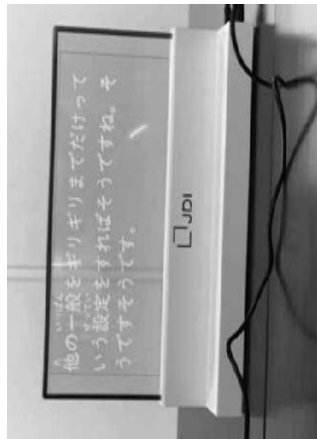
- ・電話等の音声を認識し、スマホで表示できるアプリ（常時）
 - ・駅のホームの放送など、音声認識システムを用いて電光掲示板などに表示できる環境（施設）
 - ・寝ていても危険を察知して、聞こえなくてもわかるように振動で教えてくれる端末
 - ・家電製品の状況（来客、家の電話、室温・温度、お風呂、ペット等）をスマホで管理し、必要なタイミングで補聴器や人工内耳に音声・合図音を伝えるシステム
- …など！

20



ありがとうございました

一緒に開発してくれませんか!?



21

「福祉機器の利用事例とニーズの発信」

社会福祉法人日本視覚障害者団体連合
事業部 部長 逢坂 忠

1. 利用者からの声

日常生活用具の自立生活支援用具である歩行時間延長信号機用小型送信機（シグナルエイド）は、視覚障害者の外出時、特に道路を横断する際の安全な歩行に重要な役割を果たしている。シグナルエイドは、信号機の稼働時間を延長することに加え、信号機に近づくことなく安全に音響式信号機を稼働させることができる。

しかしながら、全ての信号機が音響式ではなく、また、音響式信号機の稼働時間には制限がある。

音響式信号機が稼働していない時間帯に、視覚障害者が道路を横断し事故にあう不幸な事例がいまだに起きている。

このような事故を無くすための対策が急がれる。

シグナルエイドの利用者からは、本機の機能を拡大し、信号機の状態を音や音声で確認できる機能を求める声が寄せられている。

2. 生産停止になったことによるニーズ

「テレビが聞ける」ラジオは、視覚障害者が情報を入手するツールの一つとして高い評価を得ている。本機の主な特徴は次のとおりである。

- ・ テレビはワンセグ方式で地上波デジタル放送（地デジ）が受信できる。
- ・ AM・FM ラジオ対応、ワイド FM 対応。
- ・ 主音声・副音声切り替え機能。
- ・ 点字表記がある。
- ・ ボタン操作の音声案内がある。
- ・ 緊急地震速報受信機能がある。

本機は2019年に生産を停止した。大手家電メーカーからテレビの音声で聞けるラジオが取り扱われているが、点字表記がない、操作時の音声案内がない、緊急地震速報の受信機能がないなど、一長一短である。

視覚障害者が使いやすくテレビの音声で聞けるラジオの開発に期待する。

3. 視覚障害当事者から問い合わせが多い事例

日視連の用具購買所には、毎日様々な要望や問い合わせがある。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、「音声対応のパルスオキシメーターの取扱いはないか」という問い合わせが寄せられる。

独自に調べたところ、「チェスト」というメーカーで生産していたが、すでに生産停止となっており在庫も無いとのことであった。

1日も早い、音声対応のパルスオキシメーターの開発を要望する。

人工肛門患者に対する高機能 排便制御デバイスの開発 ー福祉機器開発を医師主導で行う意義ー

国立大学法人 大阪大学
横田 純己



本日の内容

- 人工肛門患者に対するニーズの発掘
- 新規デバイス開発の現状
- 福祉機器開発の課題と医師が携わる意義



自己紹介



氏名: 横田 純己 (よこた じゅんき)
所属: 大阪大学大学院医学系研究科 心臓血管外科
専門分野: 心臓血管外科 (特に大血管領域)
資格: 外科専門医、腹部ステントグラフト実施医
経歴: ジャパンバイオデザインフェローシップ
プログラム 第6期大阪フェロー



本日の内容

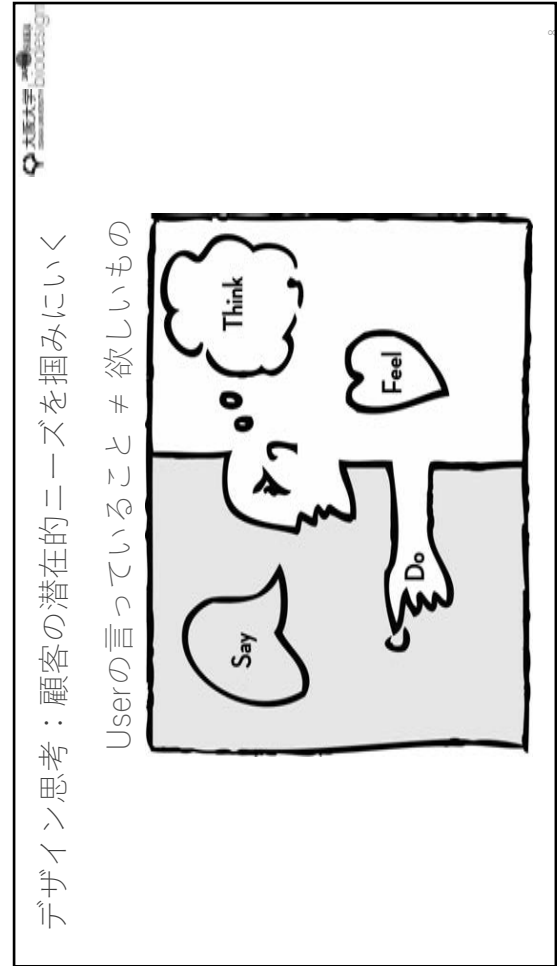
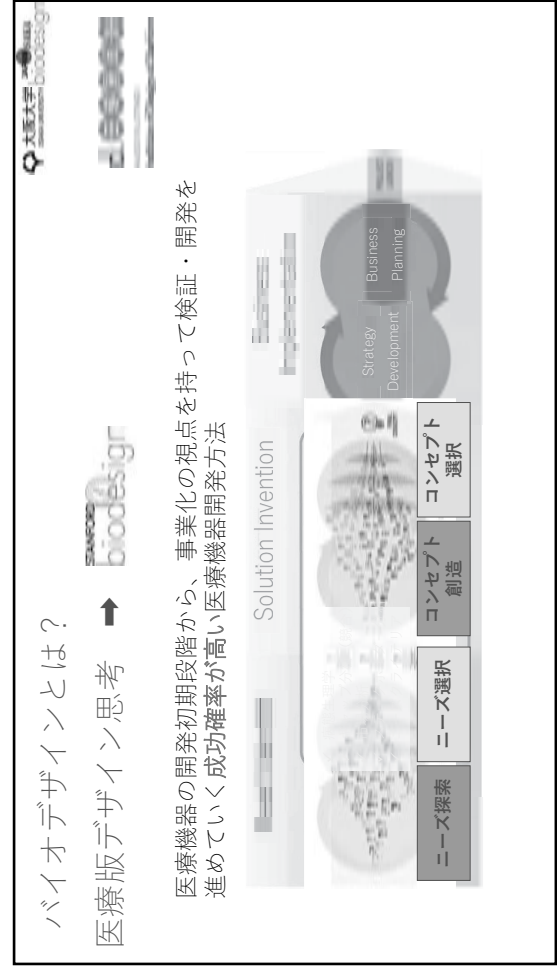
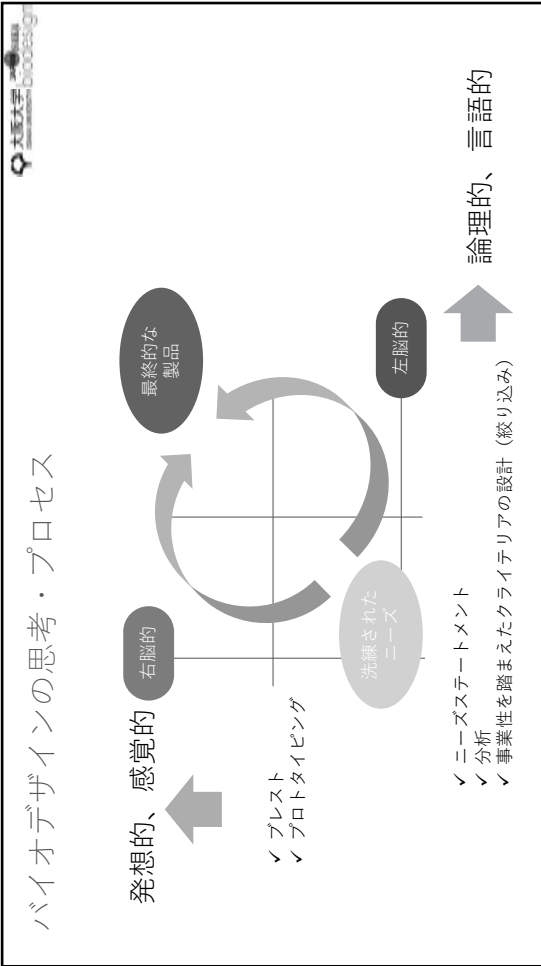
- 人工肛門患者に対するニーズの発掘
- 新規デバイス開発の現状
- 福祉機器開発の課題と医師が携わる意義

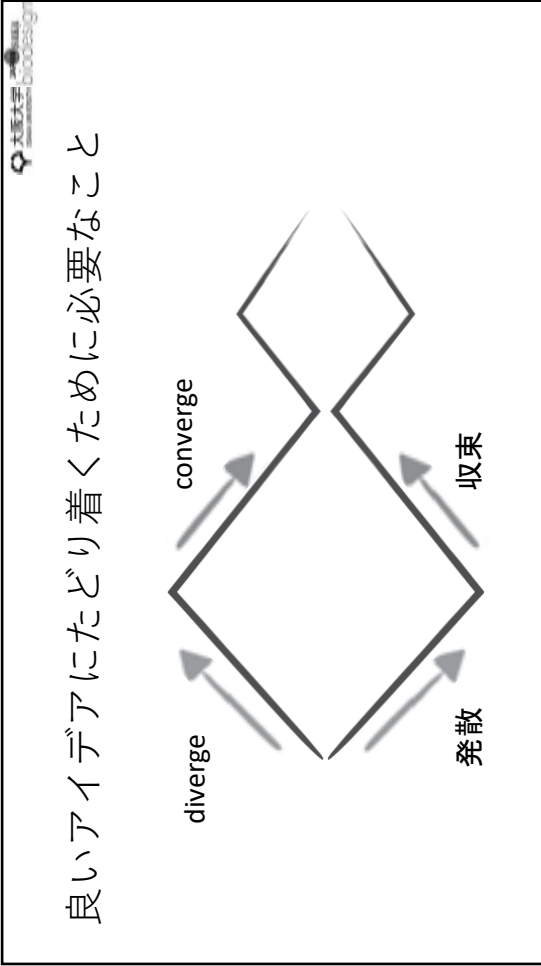


なぜ、心臓血管外科医が人工肛門患者に
対する機器開発に取り組むことになったのか？

↓

ジャパンバイオデザインへの参加





ジャパンバイオデザイン
第6期 大阪フェロー チームメンバー

- 谷亮太郎 京都大学 消化器外科医 バイオデザイン学会
- 横田純己 大阪大学 心臓血管外科医 バイオデザイン学会
- 川本明代 シスメックス(株) 止血絡溶領域、研究者 MBA
- 杉原達哉 大阪大学 大学院工学研究科 機械工学専攻講師

バイオデザインプロセス

現場に入って200以上の
 ニーズステートメント作成
 事業性を含めた、関連
 ニーズの選択
 アイデア出し
 コンセプトの選出
 IP、
 法現制、
 保険償還
 ビジネスモデル
 プロトタイプ製作
 マーケティング戦略
 最終コンセプト選択
 販売戦略
 知的財産戦略
 研究開発戦略
 職任戦略
 普認可規則脚踏
 品質マネジメント
 保険償還戦略
 マーケティング戦略
 販売戦略

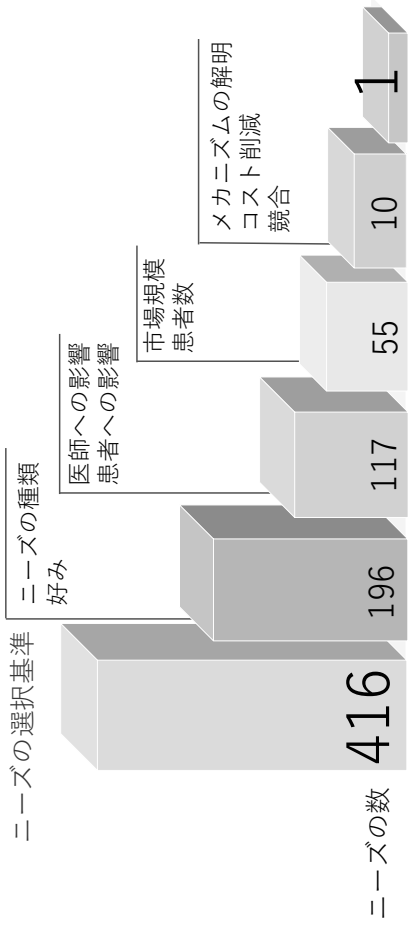
ニーズ探索

手術領域にフォーカス

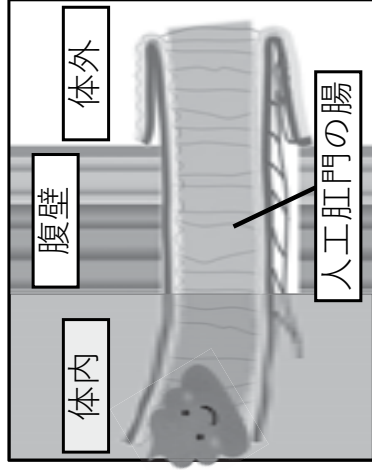
診療領域

- 心臓血管外科
- 消化器外科
- 乳腺外科
- 呼吸器外科
- 麻酔科
- 病理診断科 など

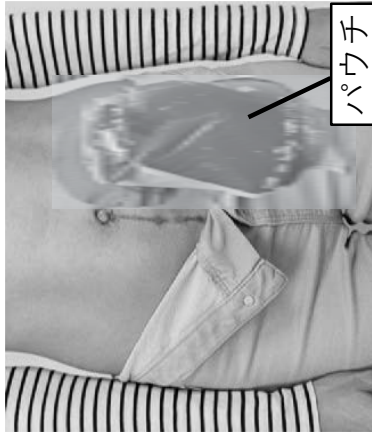
ニーズ選択



人工肛門とは肛門の代替となる便の出口



常時便が流出



パウチ

24時間袋 (パウチ)
をつけて生活

人工肛門患者のニーズ

ニーズー人工肛門の弊害ー

実際の患者インタビューより

便を持ち歩く…
匂いが…
音が…

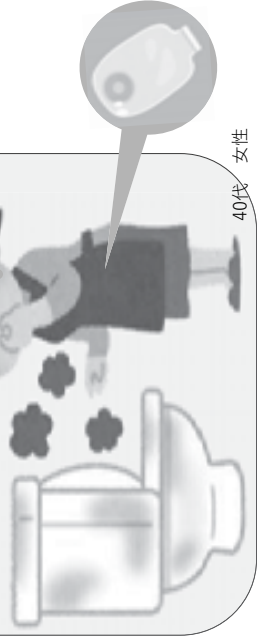


60代 男性

ニーズー人工肛門の弊害ー

実際の患者インタビューより

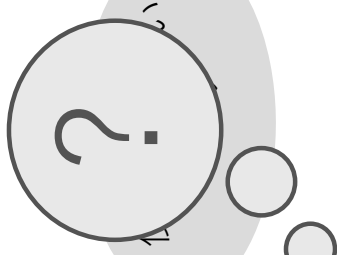
便の破棄が大変…
時間がかかる…
匂いが充満する…
1日3-5回も…



40代 女性

外れにくい
パウチ

臭いがしない
パウチ

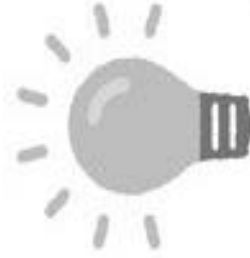


しかし、真のニーズは何か・・・

外れにくい
パウチ

臭いがしない
パウチ

便の漏れない
パウチ



便を出したい時だけ
出したい

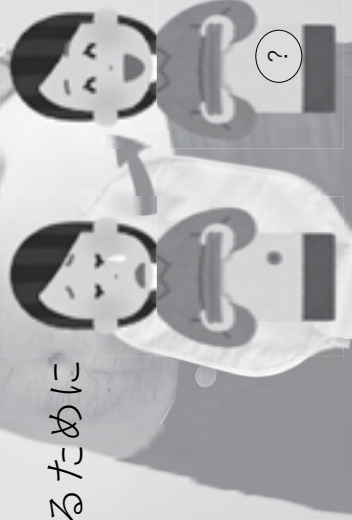


<ニーズステートメント>

仕事をしている人工肛門患者にとって

生活の質を向上させるために

排便を制御する方法

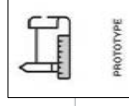


フェローシップログラム修了から
スピード感を持った開発を継続

2021年3月

プログラム修了
プロジェクト継続

試作品作成



2021年8月

JST-SCORE
GAPファンド獲得
(1000万円)



2021年12月

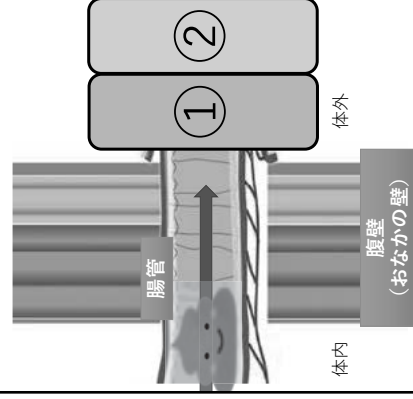
動物実験を予定



本日の内容

- 人工肛門患者に対するニーズの発掘
- 新規デバイス開発の現状
- 福祉機器開発の課題と医師が携わる意義

開発デバイスの構造



- 腸管を閉塞させるパーツ①
 - ▶ 医療機器として開発
- 排泄を簡略化するパーツ②
 - ▶ 福祉機器として開発

プロトタイプ作成



イメージ画像

1000万円の助成金獲得 (2021年度)


- 医療機器製造業者に委託
- 3Dプリンターで各パーツを作成
- コアとなる部分は既存の医療機器 + オートメーカー

今後のスケジュール

2021/2022年度

非臨床試験


- ふくしま医療機器開発支援センター



2023年度

臨床試験


- 京都大学消化管外科との連携



2024年度

医療機器承認

- バイオデザイン大阪発イノベーションを目指す



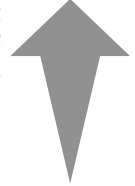
プロトタイプによる実験 —基礎的なPoC(Proof of concept)検証—



コンセプトVer1のPoC検証
安全性 (腸管壁にかかる圧力値など)
有効性検証 (便の漏出の有無)
→新たな課題が発見されVer2を作成



GAP-S
1000万円獲得



コンセプトVer2作成
有効性検証中

本日の内容

- 人工肛門患者に対するニーズの発掘
- 新規デバイス開発の現状
- 福祉機器開発の課題と医師が携わる意義

市場規模



(矢野経済研究所より)

人工肛門パOUCHの現状

交付 → **福祉課** → **福祉機器** / **医療機器**

ストマ用具：
日常生活用具として、
身体障害者給付金の対象

身体障害者：
永久ストマを持つ患者で、
ストマの種類に応じて
1-4級が該当

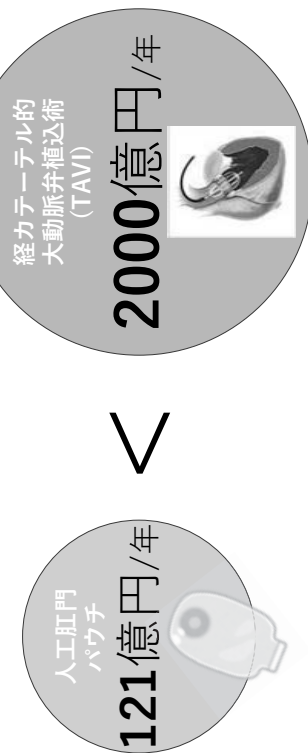
自治体ごとに給付額
や給付対象が異なる

一時的ストマ患者は
対象外

品名	品目	品番
人工肛門パOUCH	人工肛門パOUCH	001-001
ストマ用具	ストマ用具	001-002
ストマ用具	ストマ用具	001-003
ストマ用具	ストマ用具	001-004
ストマ用具	ストマ用具	001-005
ストマ用具	ストマ用具	001-006
ストマ用具	ストマ用具	001-007
ストマ用具	ストマ用具	001-008
ストマ用具	ストマ用具	001-009
ストマ用具	ストマ用具	001-010
ストマ用具	ストマ用具	001-011
ストマ用具	ストマ用具	001-012
ストマ用具	ストマ用具	001-013
ストマ用具	ストマ用具	001-014
ストマ用具	ストマ用具	001-015
ストマ用具	ストマ用具	001-016
ストマ用具	ストマ用具	001-017
ストマ用具	ストマ用具	001-018
ストマ用具	ストマ用具	001-019
ストマ用具	ストマ用具	001-020
ストマ用具	ストマ用具	001-021
ストマ用具	ストマ用具	001-022
ストマ用具	ストマ用具	001-023
ストマ用具	ストマ用具	001-024
ストマ用具	ストマ用具	001-025
ストマ用具	ストマ用具	001-026
ストマ用具	ストマ用具	001-027
ストマ用具	ストマ用具	001-028
ストマ用具	ストマ用具	001-029
ストマ用具	ストマ用具	001-030
ストマ用具	ストマ用具	001-031
ストマ用具	ストマ用具	001-032
ストマ用具	ストマ用具	001-033
ストマ用具	ストマ用具	001-034
ストマ用具	ストマ用具	001-035
ストマ用具	ストマ用具	001-036
ストマ用具	ストマ用具	001-037
ストマ用具	ストマ用具	001-038
ストマ用具	ストマ用具	001-039
ストマ用具	ストマ用具	001-040
ストマ用具	ストマ用具	001-041
ストマ用具	ストマ用具	001-042
ストマ用具	ストマ用具	001-043
ストマ用具	ストマ用具	001-044
ストマ用具	ストマ用具	001-045
ストマ用具	ストマ用具	001-046
ストマ用具	ストマ用具	001-047
ストマ用具	ストマ用具	001-048
ストマ用具	ストマ用具	001-049
ストマ用具	ストマ用具	001-050
ストマ用具	ストマ用具	001-051
ストマ用具	ストマ用具	001-052
ストマ用具	ストマ用具	001-053
ストマ用具	ストマ用具	001-054
ストマ用具	ストマ用具	001-055
ストマ用具	ストマ用具	001-056
ストマ用具	ストマ用具	001-057
ストマ用具	ストマ用具	001-058
ストマ用具	ストマ用具	001-059
ストマ用具	ストマ用具	001-060
ストマ用具	ストマ用具	001-061
ストマ用具	ストマ用具	001-062
ストマ用具	ストマ用具	001-063
ストマ用具	ストマ用具	001-064
ストマ用具	ストマ用具	001-065
ストマ用具	ストマ用具	001-066
ストマ用具	ストマ用具	001-067
ストマ用具	ストマ用具	001-068
ストマ用具	ストマ用具	001-069
ストマ用具	ストマ用具	001-070
ストマ用具	ストマ用具	001-071
ストマ用具	ストマ用具	001-072
ストマ用具	ストマ用具	001-073
ストマ用具	ストマ用具	001-074
ストマ用具	ストマ用具	001-075
ストマ用具	ストマ用具	001-076
ストマ用具	ストマ用具	001-077
ストマ用具	ストマ用具	001-078
ストマ用具	ストマ用具	001-079
ストマ用具	ストマ用具	001-080
ストマ用具	ストマ用具	001-081
ストマ用具	ストマ用具	001-082
ストマ用具	ストマ用具	001-083
ストマ用具	ストマ用具	001-084
ストマ用具	ストマ用具	001-085
ストマ用具	ストマ用具	001-086
ストマ用具	ストマ用具	001-087
ストマ用具	ストマ用具	001-088
ストマ用具	ストマ用具	001-089
ストマ用具	ストマ用具	001-090
ストマ用具	ストマ用具	001-091
ストマ用具	ストマ用具	001-092
ストマ用具	ストマ用具	001-093
ストマ用具	ストマ用具	001-094
ストマ用具	ストマ用具	001-095
ストマ用具	ストマ用具	001-096
ストマ用具	ストマ用具	001-097
ストマ用具	ストマ用具	001-098
ストマ用具	ストマ用具	001-099
ストマ用具	ストマ用具	001-100

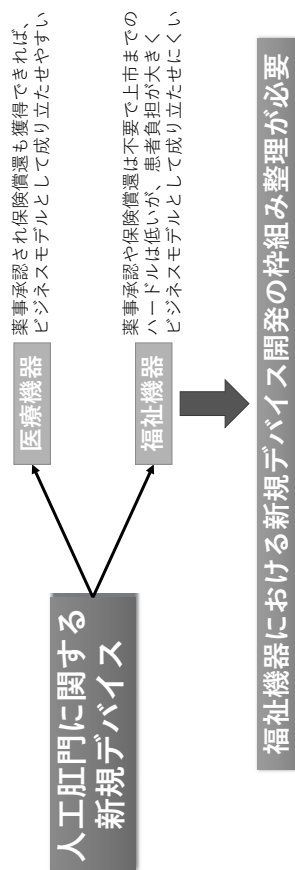
市場規模における課題

- 国内市場は年間約120億円と、他の医療機器分野に比べて大きいとは言えない



他分野に比べ、VCなどの投資を受けにくい
⇒ビジネスモデルとして成り立たせるのが困難な可能性

新規デバイス開発における課題



医師が携わる意義

<①ニーズの明確な理解>

人工肛門患者の、造設前と造設後両方の状態を知っている



患者のニーズをより深く知ることができる



医師が携わる意義

<③医師が普段関わらないが患者のペインが強い分野への知識の活用>

人工肛門のケアはWOCナースなどのコメディカルが主体



医師の持つ医学的な専門知識を活用した支援



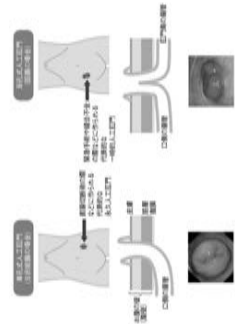
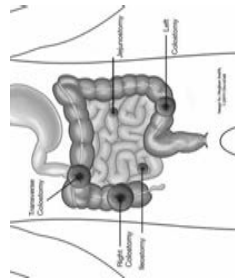
医師が携わる意義

<②医学的な背景知識>

人工肛門の構造、特性を理解



現行のソリューション以上の価値を産み出せる



医師が携わる意義

<④KOLの存在>

人工肛門の世界が一変する
早急に上市できるよう支援したい



京都大学
消化管外科
教授 小濱 和貴

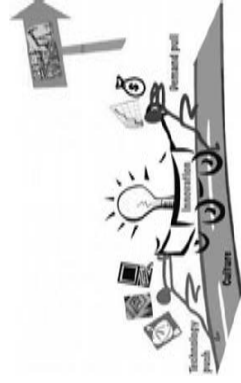
Keyとなる学会(消化器外科学会、
ストーマ・排泄リハビリテーション
学会など)への働きかけを検討

福祉機器開発における医師の役割

- ①ニーズの明確な理解
- ②医学的な背景知識
- ③患者のペインが強い分野への知識の活用
- ④KOLの存在

福祉機器においても、**ニーズ視点を重視した開発**を行うことで、デバイスの価値を上げることができる

他との差別化を図る時に、本デバイスのように、**医療機器と組み合わせること**が一つの大きな差別化となり得る



医療機器



福祉機器

NO 'MORE' Leakage
もう漏れさせない

肛門の「当たり前」を
人工肛門にも

daimon.for.ostomy@gmail.com



まとめ

- 人工肛門患者に関するニーズを発掘し、デバイス開発につなげ、上市までのプロジェクトを進行中である
- 福祉機器開発に医師が携わることは、今後の新たなデバイス開発の流れを加速するためにも非常に重要である
- 福祉機器においても、課題解決の視点を重視した開発手法を用いることが肝要である

シーズ・ニーズマッチング交流会2021
福祉機器開発の現状報告

株式会社オレンジアーチ

株式会社オレンジアーチのご紹介

私たちオレンジアーチは、東京の足立区生まれのIT企業です。快適で楽しく、安全安心な社会のために、様々な分野へ向け、情報システムやソフトウェアを提供しています。



自己紹介

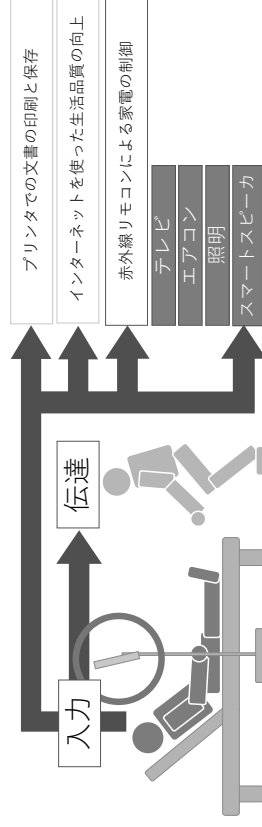


宇田 竹信 (うだたけのぶ)
株式会社オレンジアーチ
イノベーショングループプロデューサー

- ・1970年の夏に千葉県柏市で生まれる
- ・仕事はずっとIT系
- ・しかし、最近IT系なのか？と思う仕事も多々
- ・趣味はドライブと温泉観光
- ・ゴールドジムに通う…が、効果は出ない

今回報告させていただく福祉機器

意思伝達装置「eeyes」(エイアイズ)は、目の動きなど限りなく小さい身体動作で、自分の意思を伝達するための福祉機器です。伝えたい言葉の生成や発声等が出来ます。



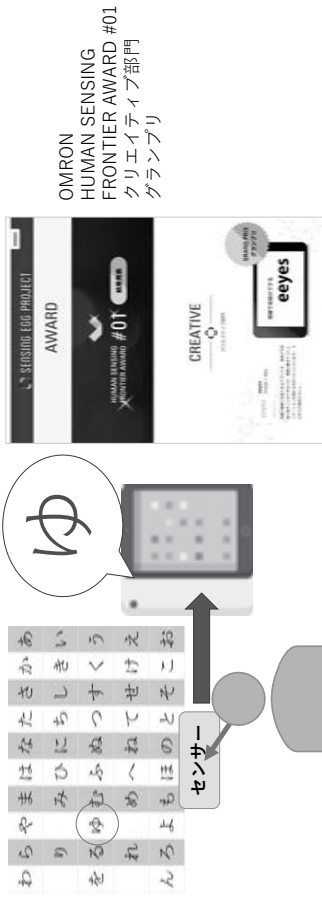
イヤイズの これまで

5

「eeyes」シリーズ1の提供

2015

A3の紙で作った文字盤とタブレットを利用したコミュニケーションツールが「eeyes」の出発点となります。



7

意思伝達装置「eeyes」の始まり

2014

「東京足立区のICT企業が、なぜ福祉機器を作るの？」とよく聞かれますが、普段より私たち社員や家族が病気や重い障害で、医療や介護の力で助けられているため、何か私たちでお役に立てる事はないかとの考えから、開発を開始しました。



6

コミュニケーションツールへの理解

2017

シリーズ1の経験をもとに、ご病気の方や介護にかかわる方とお話させていただいたり、患者団体の勉強会にでてみてりして、必要な要素の理解を深めていきました。



8

「eeyes」シリーズ2の開発

2017

約半年ほどの期間、皆様から多くのご意見を伺った結果、シリーズ2のコンセプトは以下の通りとなりました。

利用者様に対し「直感的に扱え、疲れにくい」

- ・パネルとアイコンによる統一性のあるインタラクション
- ・疲れにくく手間が少ない濁点入力
- ・大きく見やすい文字とニュアンスが伝わる絵文字

介護者様に対し「覚える事が少なく、手間がかからない」

- ・多少ずれても入力できる視線入力の補正機能
- ・運用の手間を軽減するショートカット
- ・操作しやすい設定画面

「eeyes」シリーズ2の提供

2018



視線での操作を前提とした新技術の開発や社員を使っての負荷テスト、介護施設でのプロトタイプに対する評価のフィードバックを経て、2018年の10月に無事発売を迎えました。

「eeyes」が目指す性能

販売店

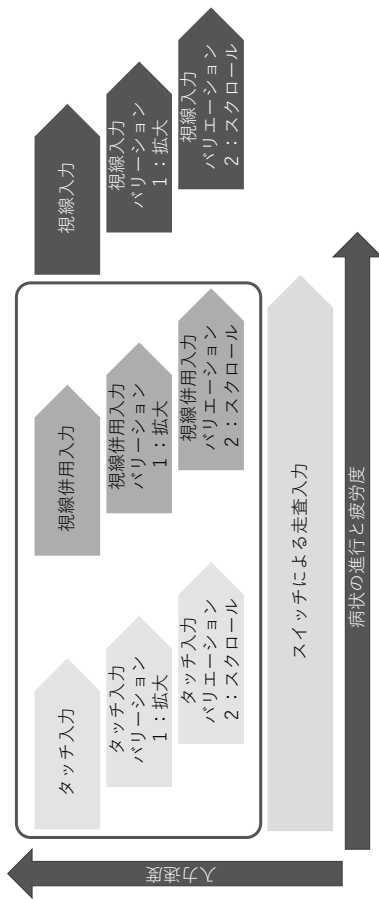
ユーザ

介護者

- ・簡単でわかりやすい
- ・意思疎通がしやすい
- ・出来る事が増やせる
- ・長く使える
- ・トラブルが少ない
- ・サポートが容易
- ・説明し易い

イヤアイズの 現在

入力方法のバリエーション



アイトラッカーによる「う」の視線入力



見続けて決定



眠だけで操作が可能。見ている時間がカウントされ、一定時間経過後、文字が入力されます。

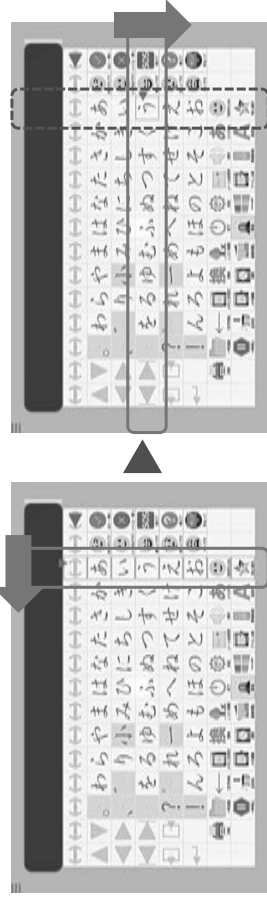
スイッチで決定



見ている時間のカウントが省略できるので入力速度が向上します。

- ①オレンジ色のカーソルが見た文字に動くので、「う」にカーソルが来たら決定

スイッチによる「う」の走査入力



- ①あ行にオレンジ色のカーソルが来たらスイッチで決定
- ②続いて「う」にカーソルが来たらスイッチで決定

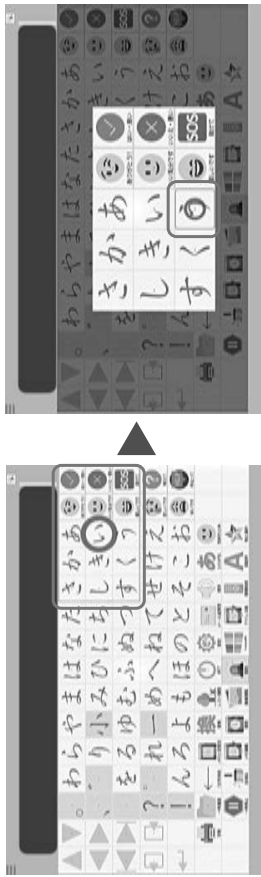
視線入力の問題

視線での入力を行う場合、視線の揺れや視線の検出精度が悪い画面周辺部をどのようにカバーするかが重要となります。「Eeyes」では、特許取得の補正機能や、特許出願中の処理方式によるサポートで視線の精度を向上させつつ、より、入力が簡単になるよう、次の入力方法を提供しております。

2段階で画面を拡大する事により、視線の検出精度が悪い状況でも利用できる入力方法

画面をスクロールさせる事により、視線の検出精度が悪い状況でも利用できる入力方法

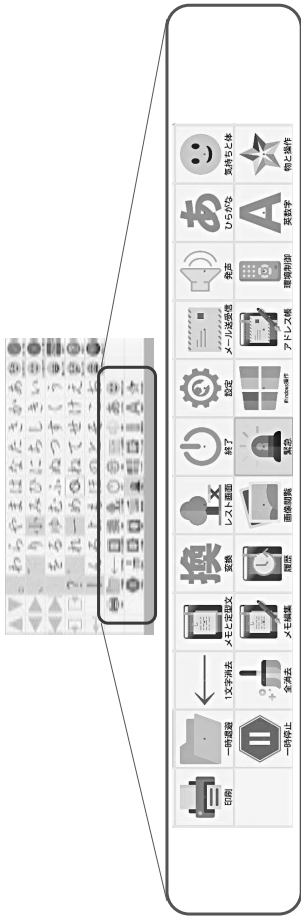
視線入力カバリエーション1：拡大



- ①カーソルが「う」を含む領域に来たら決定
- ②続いてカーソルが「う」に来たら決定

使い心地を向上させる工夫

eeyesの機能は画面下部に集中して配置してあります。様々な機能を選ぶ際に、面倒な画面の移動を少なくすることで、操作時の疲労軽減を目指しています。



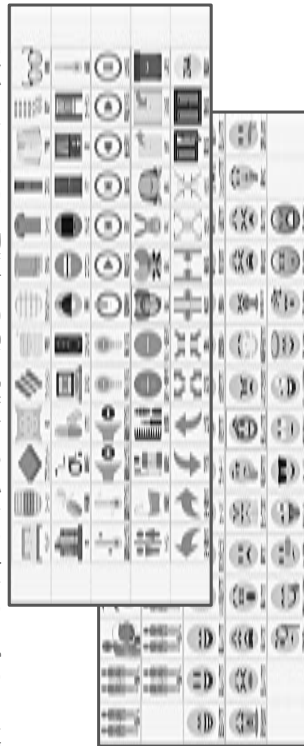
視線入力カバリエーション2：スクロール



- ①画面が見た方向に一定速度えスクロールするので、黒いカーソルと「う」が重なったら決定

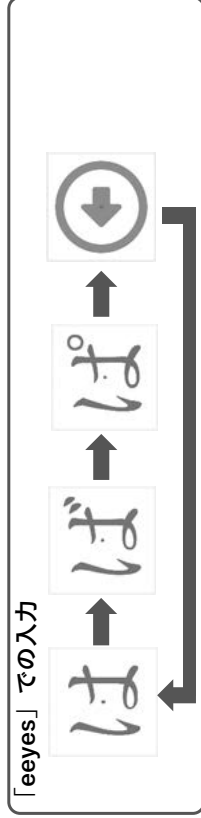
使い心地を向上させる工夫

eeyesのは様々な絵文字を搭載することで、ちいさな言葉の間違いが重大な問題と捉え、言葉のニュアンスまで伝わるよう設計しております。また絵文字を組み合わせる事により、より少ない入力で意志が伝達できるよう工夫しています。



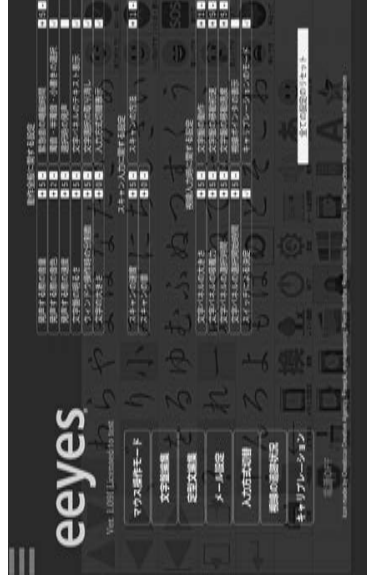
使い心地を向上させる工夫

濁音・半濁音・小書き文字の入力は、入力したい文字に加え記号を入力する方法が一般的ですが、eeyesでは視線入力時の疲労を抑えるため、見続ける事による入力が可能です。



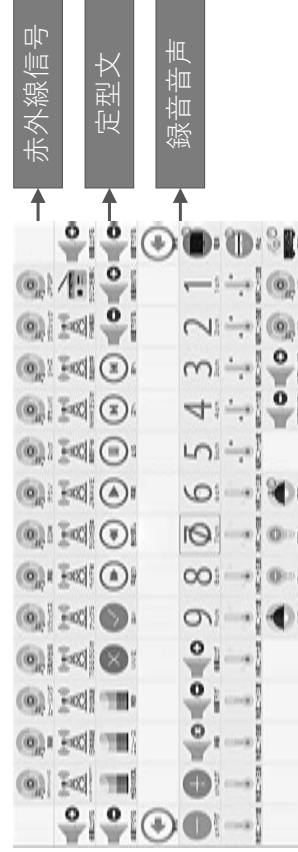
介護の方をサポートする工夫

介護の方がベッド横からでも簡単に利用者様の支援ができれば、介護者様用の設定画面を用意しています。各設定はマウスカーソルを充てただけで、設定値の意味などのコメントが表示されるため、介護の方が設定を細かく覚える必要はありません。



使い心地を向上させる工夫

緑色の環境制御パネルは赤外線信号を学習させたり、定型文の登録、音声の録音が可能です。これらパネルはどの画面にも自由に配置できるため、文章の作成中でも容易に家電やスマートスピーカーへの指示が可能です。



介護の方をサポートする工夫

キーボードの「H」(Help)を押すと介護者用のショートカットキーの一覧が表示されます。日々忙しい介護の方の負担を軽減すべく、なるべく覚える事を少なく、利用者様の状態に簡単に合わせられるよう工夫をしています。

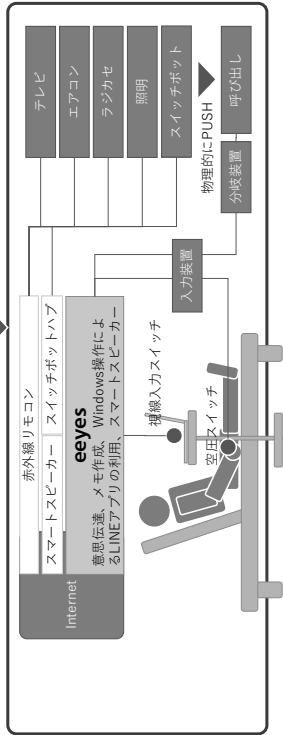


導入事例

状況：筋萎縮性側索硬化症（ALS）

要求1：病状が進行し、これまで利用していた意思伝達装置が利用できなくなっため、代替が必要。

要求2：高速な入力、LINEアプリの利用、環境制御、ナースコール呼び出し経路の多重化を求める。

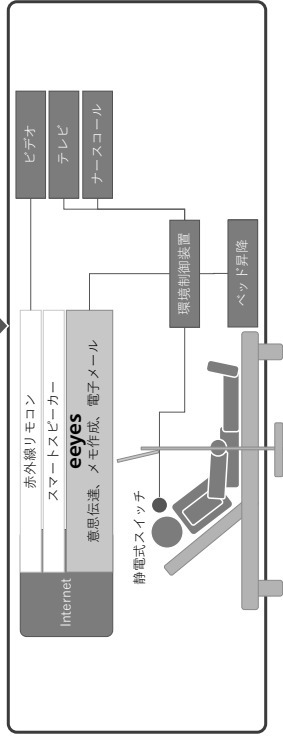


導入事例

状況：脳幹出血

要求1：これまで利用していた環境制御装置が修理不能になったため、意思伝達機能を加えて新調したい。

要求2：新しい環境制御装置から操作可能な意思伝達装置であること、電子メールとビデオ操作が行えること。

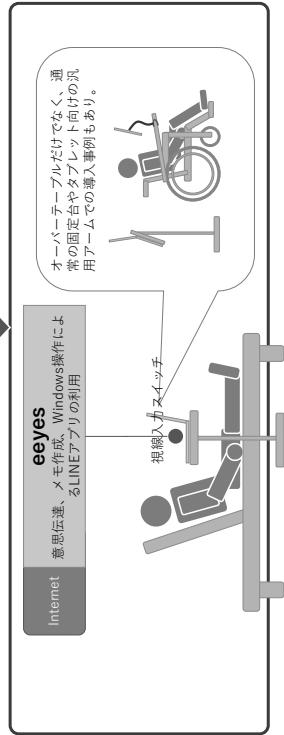


導入事例

状況：筋萎縮性側索硬化症（ALS）、多系統萎縮症（MSA）、脳性麻痺

要求1：病状が進行して口頭によるコミュニケーションが困難となった為、補装を要する。

要求2：これまで利用していたLINEアプリでのコミュニケーションを継続したい。



受賞



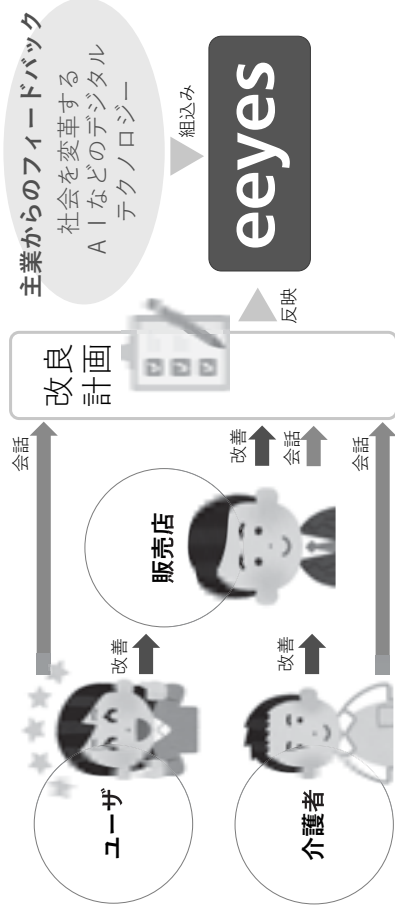
第32回「中小企業優秀新技術・新製品賞」を受賞しました。

「中小企業優秀新技術・新製品賞」は、公益財団法人リソナ中小企業振興財団と日刊工業新聞社が、中小企業の技術振興と、国内産業の発展に寄与することを目的に、昭和63年から毎年、中小企業が開発した優れた「新技術・新製品」と「新ソフトウェア」を対象として表彰している賞となります。

イヤイズの これから

29

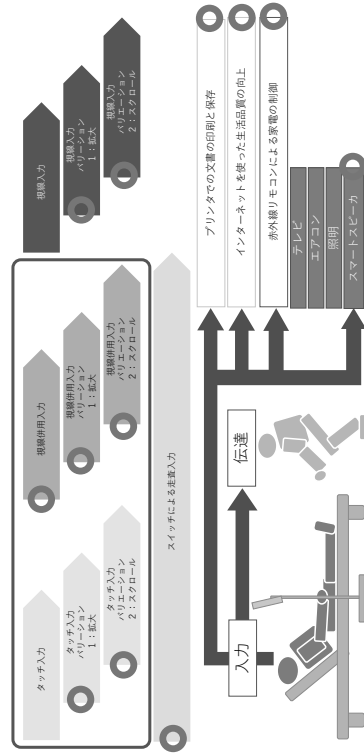
改善とイノベーション



31

改善と成長

赤丸はユーザー様の声を反映して追加した機能です。Eeyesは日々成長しています。



30

お問い合わせやご意見

詳細は WEB から

<http://orangearch-labo.com/eeyes/>



03-5284-8687

受付時間 9：00～17：00
(土・日・祝日・GW・お盆・年末年始を除く)



eeyes@orangearch.co.jp

32



<http://www.orangearch.co.jp/>

シリーズ・ニーズマッチング交流会2021 東京
令和3年12月8日(水) 11:10~11:40

「失語症のリハビリテーション に役立つ支援機器」

日本語聴覚士協会
常任理事 白波瀬元道

失語症とは

失語症になると程度の差はあるが、

「話す」・「聴く」・「読む」・「書く」

といった言語のすべての側面が困難となる。

「計算」をすることにも障害が現れる。

損傷を受けた脳の場所や損傷の大きさによって、障害の現れ方が一人一人異なる。

失語症とは

失語症とは、脳血管疾患等により言語野が損傷されることにより、**一度獲得した言語（日本語・英語など）を使用することが困難になった状態**のこと。

失語症になると、考えていることを言葉にしたり、言葉を理解したりすることが困難となる。

失語症の症状（代表的な症状）

話す

- ・ 喚語困難：身近な物の名前が出てこない
- ・ 錯語：違った言葉を使ってしまう

聴く

- ・ 語音認知障害：耳は聞こえるが言葉が聞き取れない
- ・ 語義理解障害：言葉を取り取れても意味が理解できない

読む

- ・ 読解障害：文字や文章を見ても意味が理解できない

書く

- ・ 文字想起困難：書きたい文字を思い出せない
- ・ 錯書：間違った文字を書いてしまう

失語症とは（疫学）

《失語症者の脳卒中患者に占める割合》

- ・ 3. 4% 日本失語症研究会失語症全国実態調査委員会、「失語症全国実態調査報告」, 音声言語医学 (20)1979, 160-172
 - ・ 4. 2% 日本失語症研究会失語症全国実態調査委員会、「失語症全国実態調査報告」, 失語症研究 (15)1995, 83-96
- ⇒概ね 4% とすると

脳血管疾患総患者数：約111万人 * 4% = 45,000人

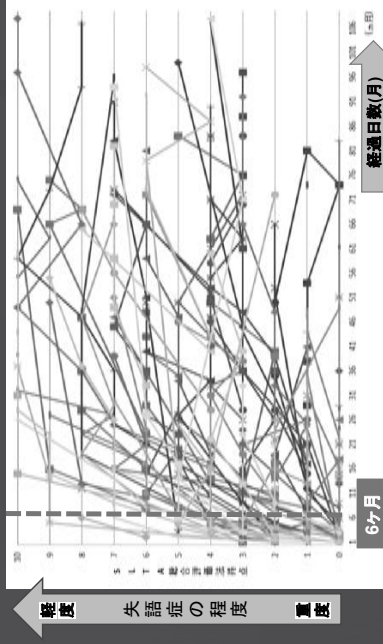
* 平成29年 (2017) 患者調査の概況 <https://www.mhlw.go.jp/tokai/saiban/hw/hanjy17/index.html>

脳血管疾患以外の要因（頭部外傷や変性疾患等）で失語症を呈する場合も多い。

* 正確な実態は分かっていないが、**20～50万人**とも言われている。

H26.3.31時点「失語症協議会調査」

失語症のリハビリテーション



中川ら、慢性期の失語症と脳卒中失語症の発症別回復経路—自覚的270例における長期経過の検討—, 言語聴覚学会誌32(2) : 258-268, 2012

失語症のリハビリテーション

急性期

発症～1ヶ月程度の時期。
症状が変動するため、大まかな言語症状を把握する。

回復期

発症～6ヶ月程度までの時期。
集中的なリハビリが可能。言語機能を精査、言語機能回復訓練や代償手段の検討を行う。

維持期

発症後6ヶ月以降の時期。
身体機能と比較して、年単位で言語機能は回復。
ただし、完全に回復することが困難であることも多く、代償手段の獲得や環境調整を行うことも重要。

失語症のリハビリテーション

役立つ道具

紙・鉛筆

地図・路線図

写真・アルバム

カレンダー・時計

新聞・チラシ

失語症のリハビリテーションに
役立つ支援機器（一例）



高野 雅人ら：失語症のコミュニケーションを支援するアプリケーションの開発，2019
<https://edak.jp/>

失語症のリハビリテーションに
役立つ支援機器（活用事例）

- ・外来リハビリ通院時のタクシー利用場面において



「めじろ台南まで
お願いします。」
「八王子駅北口まで
お願いします。」

失語症のリハビリテーションに
役立つ支援機器（活用事例）

- ・言語訓練に活用（iPad）



呼称訓練（宿題にも活用）



仮名文字の訓練（宿題にも活用）

失語症のリハビリテーションに
役立つ支援機器（活用事例）

- ・生活場面で
読み上げ機能を活用



失語症のリハビリテーションに 役立つ支援機器（活用事例）

- ・生活場面で
趣味の話題にも



まとめ

- ・失語症は程度の差はあるが、「話す」「聴く」「読む」「書く」といった言語のすべての側面が困難となる。また、一人一人症状の現れ方が異なる。
- ・失語症は長期間にわたって回復する。
- ・様々なICT機器が失語症の訓練やコミュニケーションの代償手段の選択肢を増やしている。その効果と限界を知る必要がある。
- ・一人でも多くの失語症者の社会参加を実現するために、支援機器や人の支援を活用できる環境を整えていくことが肝要である。

失語症者向け意思疎通支援事業

平成25年4月の「障害者総合支援法」の施行に伴い、意思疎通支援事業は地域生活支援事業の必須事業として位置づけられた。

手話通訳者や要約筆記者などに加え、失語症者のコミュニケーションの援助も。支援者の役割は失語症者のコミュニケーションを支援し、日常生活をサポートする。



障害者自立支援機器
シーズ・ニーズマッチング交流会2021(山口会場)
基調講演
2021年10月9日(土)

歩行ロボット技術を応用した 福祉機器の開発

国立大学法人 名古屋工業大学
教授 佐野 明人

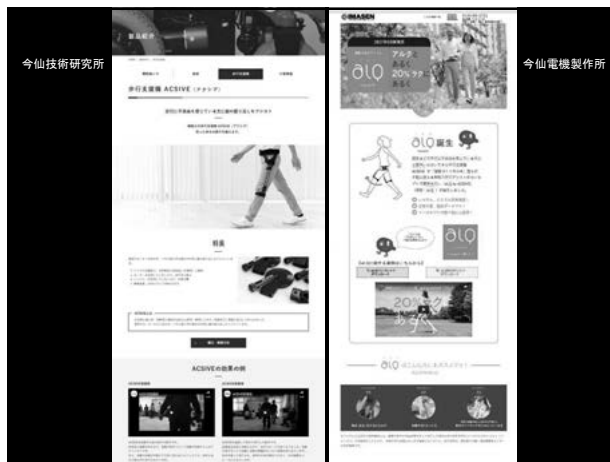
シーズ・ニーズマッチング

共創

ステークホルダーの求める価値

歩く文化

赤ん坊がはじめて歩けた時、皆が喜ぶ。渡り初めなど歩くことに意味がある。美しい歩きに魅了される。再び歩けたときの喜びは感動を呼ぶ。歩くことは文化なり。



国連の持続可能な開発目標(SDGs)に貢献し得る

3 すべての人に健康と福祉を



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



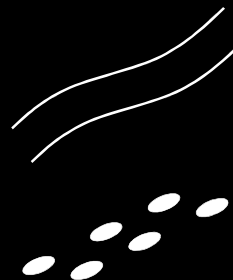
本質的な違い

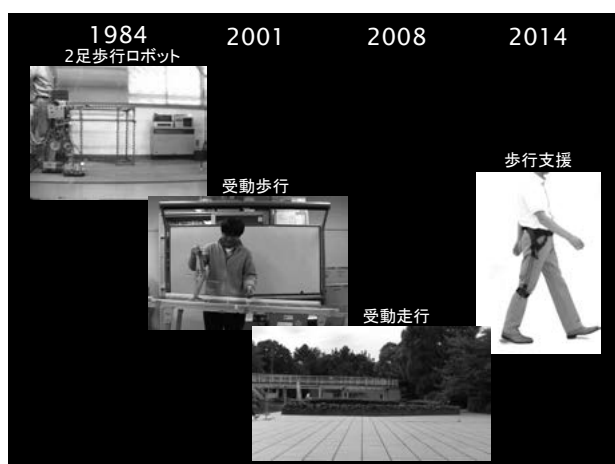
車輪式

連続

脚式

離散





ロボットを思い通りに動かしたいですか？

でも、ロボットは好きに動きたいのかもしれない。

ロボットは好きに動きたいはずであり、ならば動き易く設計すべきである。

ロボットを無理にでも思い通りに動かしたいと、思い通りに動かせる設計をする(制御し難いものは排除されやすい)。

その先には、倒れなければ歩けないはずなのに、どんなことがあっても倒れないようにしたいとの強いこだわりが、ロボットの不自然さを生み出す結果となる。

重力で歩き、重力で倒れる。

1990 McGeer



「不安定さを活かした運動性」

「不安定さを消し去る安定性」

重力は無力化できない

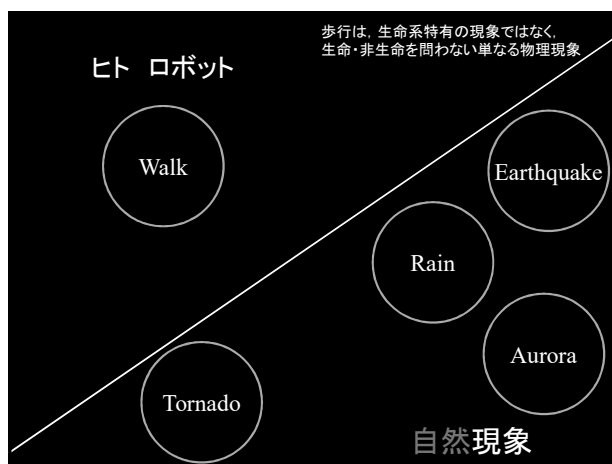
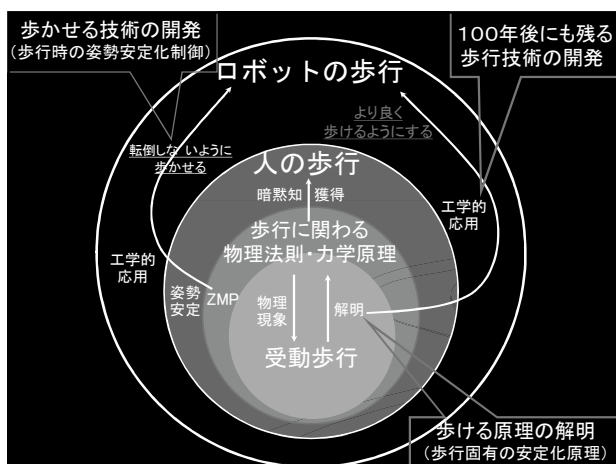
環境との相互作用が身体を持ち動くものすべてに共通する宿命ならば、それを強みにすべきである。

受動歩行とは

モータ、センサおよび制御を一切用いずに、歩行機と環境(スロープ)との相互作用のみによって、緩やかな下りスロープを自然な歩容で歩く。

重力効果のみを用いており、エネルギー効率が高いことで知られ、ヒトの歩行に近いとも言われる。

歩行現象の力学的原理(歩行力学)を探究する上で重要である。





左膝の不調が見られ、後半は左膝が過伸展した状態での歩容に変化した。腰が引ける感じで、右脚は上体を使った大振りになっている。この歩行は一種の「異常歩行」と捉えることができ、またレバー操作の調整で代償運動を行ったと見ることができる。

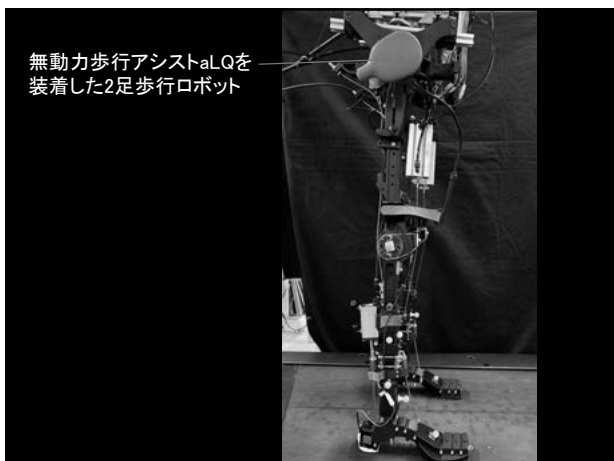
工学的には直ちに修理する事案であるが、異常歩行もまたヒトの歩行だとすると、極めて貴重な実験結果であると考えている。

一般的な歩行ロボットの場合、異常歩行のデータから脚軌道を生成し、目標軌道どおりに制御することになり、事の本質を見誤る可能性がある。

歩行障害を引き起こす原因は、形態異常、筋力弱化、感覚鈍麻、疼痛、運動調節の障害の五つの機能的カテゴリーに分類できると言われている。

ヒトの場合は、これらが複合していることが容易に想像され、その相互関係が複雑化する。一方、本ロボットの場合、力学的な観点で議論することが可能であり、問題の顕在化が期待できる。

同等の異常歩行がヒトでも見られるかは今後検証する必要があるが、改良のヒントが得られれば、それ自身がヒトの歩行支援につながるかと考えている。



我々は、生れながらにして持っている内臓や皮膚などの柔軟組織による体幹部の動特性が、身体運動にどのように作用しているか自覚できない。

ヒトの床反力は、剛体・非剛体からなる身体の床面との相互作用から複合的に生成されたものだと考えられる。




支える支援

揺れる支援
(揺れるままに歩く)




ACSIVE



受動歩行は *Passive Walking* と呼ばれており、この受動歩行由来の技術が人々の生活を下支え、人々を明るく元気に、前向きに活発にする *Active* との意味が込められている。

ACSIVE

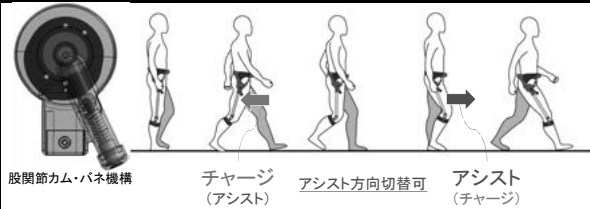


無動力歩行支援機

- ・無動力・無電装
- ・超軽量 [500gクラス]
- ・安全
- ・低コスト
- ・簡単装着・低装着感
- ・体のひねりがし易い
- ・座位、正座、胡坐など
- ・静粛
- ・デザイン性・簡単構造
- ・オールシーズン
- ・持ち運びも簡単



股関節伸展角度の増大



股関節カム・ばね機構 チャージ (アシスト) アシスト方向切替可 アシスト (チャージ)

歩行開始: 弱めのアシスト
歩幅が狭いと小さなアシスト, 広いと大きなアシスト

エネルギー再配分



支持脚期後半:
弾性エネルギーがチャージ
(負担を感じない, 過度に減速しない)
※股関節伸展角度の増大

遊脚期前半:
アシストに利用
(足が軽くなる感じ)

股関節カム・ばね機構

適応的アシスト(自動的)

歩行開始: 弱めのアシスト
歩幅が狭いと小さなアシスト, 広いと大きなアシスト



軽やかな歩行支援

- 普段通りに歩くだけで、振り子の動きとバネの力で脚の動きを整える。
- 足が軽くなる感じで歩き易く、歩行スピードも上がる。
- エネルギーを外から投入せずともエネルギーを上手く再配分することで、自らの力で自らを支援できる(無動力)。

人の歩行におけるレバレッジポイントを最小限の介入で支援するシステム構築の思想は、人のシステムへの過度な依存を回避し、人の尊厳を維持する。

※ レバレッジポイント:小さな力でも大きな変化を起こす。

- ユーザーからの声
こんな機器を待っていた。
私のために開発されたと思えるほど。

- 医療現場からの声
リハビリ学習・補助具の用途、症例が広がって稀に見るヒット。

片麻痺の方の歩行練習補助機器の理想形、積極的に活用していきたい。

14種類の症例の方々が利用され、医療現場からも適用症例の広さを高く評価されている。

上位5件:

1. 脳血管障害
2. 股・膝関節症
3. 脊柱管狭窄症
4. 脊椎・頸椎損傷
5. 小脳変性症

また、左右バランスが改善し、歩幅の拡大、歩行速度の増大、筋電位低減などの即時効果が認められ、脱着後のアフターエフェクト(数時間から翌日)も確認されている。

ACSIVE関連の学会発表実績

- [1] 青木隆明, 鈴木光久, 佐野明人, 林典雄, 服部良, 白石智紀, 尾藤真直, 平尾純子, 渡辺翼, 四井康泰, 清水紀仁, 加藤忠幸: 片脚式歩行支援機構の評価研究, 第29回日本義肢装具学会学術大会講演集, 2-4-24, 2013.10.
- [2] 渡辺聖之, 渡辺浩司, 川村優貴, 中澤信, 塩野弘季: 受動歩行をモデルとした歩行支援機の臨床応用に関する試み, 第2回慢性期リハビリテーション学会抄録集, E-7-2, 2016.3.
- [3] 本原寿紀, 園田康博, 末吉祐一郎, 平和憲, 永田清人: 片麻痺患者の無動力歩行支援機による歩行アシスト効果持続に関する研究, リハビリテーション・ケア合同研究大会抄録集, 茨城2016, 038-1, 2016.10.29.
- [4] 本多雄一, 河井広大, 溝口なお, 高木祐希奈, 松山次士: 呼吸器疾患患者における無動力歩行支援機ACSIVEの有効性に関する研究, 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会抄録集, 2016.
- [5] 樋口貴之, 渡邊聖紀, 川井康平: 回復期リハビリ病棟における下肢整形疾患患者に対するACSIVEを使用した歩行練習の効果, 第34回大分県病院学会抄録集, 2016.11.13.
- [6] 近藤玲子, 兼岩淳平, 井上花奈, 福田大輔, 工藤慎太郎: 脊柱管狭窄症術後患者に対して無動力歩行支援機ACSIVEを用いた治療効果の検討, 第3回日本運動管理理学療法学会学術集抄録集, 0-44, 2016.12.4.
- [7] 齋藤恒一: 歩行支援機ACSIVEを活用した歩行練習における運動学習効果の運動力学解析, 第33回日本義肢装具学会学術大会講演集, 2-2-2, 2017.10.9.
- [8] 川口大輔, 伊藤忠, 則竹耕治, 神谷庸成, 鈴木光久, 佐野明人: 歩行アシスト装置を使用した自宅での歩行訓練を実施し、歩行機能の改善が認められた年長児の一例, 第62回全国肢体不自由児療育研究大会抄録集, 2017.10.19~20.
- [9] 柳本有二, 五島満, 伊藤智昭, 鈴木光久: 歩行支援機およびボール活用時の歩行形態変化と快適性について—ウェアラブル脳波計による脳機能変化から—, 第7回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会抄録集, 25, 2017.11.18-19, 博多. ※/ルディックホール (一部抜粋)

2013年:1件, 2015年:9件, 2016年:10件, 2017年:7件



歩行をアシストしてくれる機器から、
人生そのものをアシストしてくれた機器へ

動かなかった右足が上がる。ゴルフで9ホール回っても足が疲れない。

歩行をアシストしてくれただけでなく、人生そのものをアシストしてくれた。

座っている時に、気にしなくても膝が外に開くのが抑えられ、良い姿勢になります。ACACTIVEを付けると疲労度が違う。3日間連続でゴルフが出来ました。

ユウスケさん (36才)

60才の時に脳梗塞を発生され右半身に麻痺があります。サーフィン界ではレジェンドと言われている/バイオニアサーファー。2年半前よりゴルフを始め、障害者ゴルフの大会にも参加されている。

右足のぐらぐらが止まる。打つ時の安心感が大きい。

杖が重ならないので驚くほどお子様の指さす方へお散歩。

27才の時に交通事故に遭い脊椎に損傷を受ける。一生辛い生活を宣告されたが、懸命なリハビリに励み、歩ける様になりました。日本障害者ゴルフ協会(DGA)会員。

TBS「夢の扉+」(平成26年8月17日)

テレビ東京「ワールド・ビジネス・サテライト」(平成26年9月10日・12月16日)

NHK名古屋「東海モノ語り」(平成26年10月8日)

BS日テレ「木曜スペシャル(医療の今昔物語)」(平成27年2月12日)

Channel JAPAN (平成27年2月・3月複数回、海外向け)

BSフジ「革新のイズム」(平成28年4月1日)

テレビ朝日「スーパーJチャンネル」(平成29年6月17日)

朝日放送「キャスト」(平成29年6月28日)

BSジャパン「未来EYES」(平成29年9月24日)

NHK総合「チョコちゃんに叱られる！」(令和元年6月7・8日、8月23日)

苦心と挑戦 革新生む

百年先のミライへ

第29回中日産業技術賞 特別奨励賞 (2015年)

歩行も心も支える

歩行支援機器の開発は、高齢化社会の課題の一つです。歩行支援機器は、歩行の負担を軽減し、歩行の楽しさを増やすことができます。歩行支援機器は、歩行の負担を軽減し、歩行の楽しさを増やすことができます。歩行支援機器は、歩行の負担を軽減し、歩行の楽しさを増やすことができます。

公益社団法人 発明協会

Japan Institute of Invention and Innovation

発明協会について 情報公開 入会のご案内

発明協会主催の表彰制度 > 全国発明表彰 > 発明者の交流 > 受賞者、発明者

発明者表彰 > 全国発明表彰 > 地方発明表彰 > 全日本学生発明者大会

平成30年度全国発明表彰 受賞者発表 (敬称略)

(第一表彰区分一賞へ/第二表彰区分一賞へ)

21世紀発明者賞

受賞歩行由來の無動力歩行支援機器の開発 (特許第6021124号)

佐野 明人 国立大学法人名古屋工業大学 工学部工学研究科 教授

21世紀発明者賞

藤野 和之 国立大学法人名古屋工業大学 学長

本発明は、歩行支援機器の無動力歩行支援機能に関するものである。歩行の本質は、「重力で歩行、重力で歩行」である。従って、歩行支援機能を実現する必要がある。歩行支援機能は、歩行の負担を軽減し、歩行の楽しさを増やすことができる。歩行支援機能は、歩行の負担を軽減し、歩行の楽しさを増やすことができる。歩行支援機能は、歩行の負担を軽減し、歩行の楽しさを増やすことができる。

2019年4月

上海高精医療機器有限公司

中国国立リハビリテーション病院

上海高精医療機器有限公司の製品が、中国国立リハビリテーション病院で採用されている。歩行支援機器は、歩行の負担を軽減し、歩行の楽しさを増やすことができます。歩行支援機器は、歩行の負担を軽減し、歩行の楽しさを増やすことができます。歩行支援機器は、歩行の負担を軽減し、歩行の楽しさを増やすことができます。

2020年2月12日

ACACTIVE 中国で医療器械登録(第20200068号)

国家药品监督管理局

国家药品监督管理局のウェブサイトには、ACACTIVEの中国での医療器械登録情報が掲載されています。歩行支援機器は、歩行の負担を軽減し、歩行の楽しさを増やすことができます。歩行支援機器は、歩行の負担を軽減し、歩行の楽しさを増やすことができます。歩行支援機器は、歩行の負担を軽減し、歩行の楽しさを増やすことができます。

CMEF(China international Medical Equipment Far)2020 出展






中国国際医療機器見本市
(China International Medical Equipment Fair)

業界の学術専門家、企業の代表者、調達機関関係者、病院のバイヤー、流通エージェントなど、150人の専門家と交流し調達と試着体験の対応をした。

現在、中国3級病院にアプローチ



製品の概要と狙い

分野	福祉分野	健康分野	産業分野
商標	ACSIVE	aLQ	(Super ACSIVE)
概要			
アシスト力	小～中	中	大(2倍)
ターゲットユーザー	障害者 ・片麻痺患者他 ・歩行困難者	健常者 ・フレイル(活力低下) ・アクティブシニア	作業者 ・重荷物運搬者 ・極限作業者
販売方法	取扱コーディネーターが対面販売(試着)	店頭・ネット(Amazon)販売	販売未定



September 2020
Conference: ESMAC: European Society for Movement Analysis in Adults and Children 2020

Unilateral non-electric assistive walking device helps neurological patients to improve gait patterns

Dr.Boris Feodoroff & Vera Blümer
 German Sport University Cologne, Germany
 Institute of Movement Therapy and Movement-oriented Prevention and Rehabilitation

aLQロボット研究所

隊員になってロボットを完成させよう！

- ロボットやaLQの調整はこちらが行っていたが、それらを体験してもらうことで、より一層身近に感じてもらう。
- 孫が受動歩行ロボットについて学び、その学びを通じて祖父母のaLQをより良く調整する。
- 子供たちが描き形づかったロボットは、感性があふれアート作品になる。



歩けることが実感できる歩行支援の極意

現象 (解明) → 本質的な原理 (発見) → 必然的な開発 (発明)

※ あるものはいかにも単純で美しく、あるものはその原理を聞けば聞くほどその絶妙さに驚かされる。

※ 最低限機能する製品、一つ余計なものを加えるごとに、コストとリスクが上がる。

※ 引き算の技術

- 歩行・走行と力学の高い親和性
- 普遍的な原理の存在と工学的応用価値

歩行の支援から人生の支援

シンプルな歩行支援機に出会うことで、リハビリ室から病棟へ、病棟から自宅へとシームレスにつながる。

歩行支援が身近になり、歩行が弱った方の日常生活・旅行や、アクティブシニアの方の歩くレジャーなどのシーンでも利用できる。

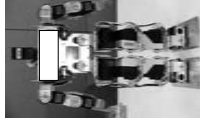
生活の中で使えるからこそ、歩行を支援してくれる機器から、人生そのものを支援してくれる機器へと変わり得る。

日本ロボットリハビリテーション・ケア 研究大会の開催にあたり

日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会
代表世話人 田中 恩

ロボットリハビリテーションとの関わり

- 2007年 昭和病院へ来たときすでにロボットをリハビリテーションに活用する取り組みが始まっていました。
メンタルコミットロボット「パロ」初期型
その他ロボットのおもちゃ(オウム、バック転ロボ)



- 2009年より、ARETS (Advanced Rehabilitation Engineering Team of Showa Hospital: 昭和病院先進的リハビリテーション工学チーム、通称アレツ) というチームを作り、理学療法課、作業療法課、言語聴覚療法課とならんで、第4の部門として活動を開始した。

内 容

日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会

10年を振り返り

これからどういう方向で活動していくのか

ロボットリハビリテーションのはじまり

2008年10月

ロボットスーツHAL®
福祉用 リリース



パンフレットより引用

2009年1月
医療法人西会昭和病院
ロボットスーツHAL®
福祉用導入

昭和病院で使用したロボット等先進機器

- ・ 2005(H17)年～ パロ
- ・ 2009(H21)年1月～ ロボットスーツHAL福祉用(～2015.11)
- ・ 2013(H25)年7月～ Honda 歩行アシスト(モニター1年間)
- ・ 2015(H27)年2月～ ACSIVE
- ・ 2017(H29)年 ウォークエイド
- ・ 2018(H30)年2月～ BASYS
- ・ 2019(H31)年 Reogo-j その他 IVES、Ness、tDCS など使用



ACSIVE



BASYS

デモで体験:バイオニックレック

HAL自立支援用単関節タイプ

HAL介護支援用タイプ



歩行アシスト

第10回 日本ロボットリハビリテーション・ケア 研究大会in下関・山口

テーマ

加速するロボット・AI・VRの社会実装

～これまでの10年と未来への羅針盤～

日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会について

- 2011年 第1回ロボットリハビリテーション研究会 (下関)
- 2012年 **ロボットリハビリテーション研究会発足**
- 2013年 第2回ロボットリハビリテーション研究大会in 京都
- 2013年 第3回ロボットリハビリテーション研究大会in 湯布院
- 2014年 第4回ロボットリハビリテーション・ケア研究大会in 北海道
- 2015年 第5回**日本**ロボットリハビリテーション・ケア研究大会in 沼津
- 2016年 第6回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会in HYOGO
- 2017年 第7回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会in 博多
- 2018年 第8回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会in 大分
- 2019年 第9回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会in 北海道
- 2020年 **NP0法人日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会設立**
- ※第10回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会延期
- 2021年 第10回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会in下関・山口

シーズ・ニューズ
スマッチング
交流会2014

シーズ・ニューズスマッチング交流会2021 共同開催

第1回ロボットリハビリテーション研究会 2011年5月21日 (下関)



特別講演 蜂須賀先生

「ロボットスーツHAL®の可能性」



質疑の様子



パネルディスカッション

第1回ロボットリハビリテーション研究会

ワークショップ



HAL®経験のない方にHAL®による歩行練習を実施するびつつけ本番企画

企画

10月9日

特別講演

「バーチャルリアリティ技術とリハビリテーションの融合」
講師 安田和弘氏(早稲田大学 理工学術院総合研究所 客員准教授)

事例検討・事例報告(15演題)

10月10日

ハナルデイスカッション「介護ロボットを活用しよう！」

「介護ロボットをよりよいケア実現のパートナーに！」

社会福祉法人三條会 介護老人保健施設ひょうな荘 森山 由香 氏

「北九州市における先進的介護システムについて」

北九州市保健福祉局 先進的介護システム推進室 堀江 吏将 氏

ロボット・AI・VRの社会実装

先進機器紹介

ミニレクチャー 「障害分野におけるロボット技術の活用」

市民公開講演

「再生医療とロボットリハビリテーション」

宇宙再生医療プロジェクト研究センター、広島大学大学院 弓削 類 氏

研究報告(5演題)

第10回研究大会のコンセプト

- @参加者の交流活性化・・・垣根を低く
- @メーカーとユーザーの交流を活性化
(開発者・販売者と使用するスタッフ・患者)
- @ユーザーの声をメーカーへ届けること
- @機器体験を充実させること



複数の会場でプログラムを同時進行しない
参加者は同じ空間を共有する



安田 和弘

(やすだ かずひろ / Kazuhiro Yasuda)

早稲田大学
理工学術院総合研究所
研究院客員准教授

特別講演 「バーチャルリアリティ技術とリハビリテーションの融合」
略歴

人間の感覚運動制御の科学的知見に基づいたインタフェース開発に従事。早稲田大学にて最先端次世代研究開発支援プログラム(内閣府・学術振興会)研究員・同大学研究助手・研究院講師として、脳卒中後の感覚麻痺を補完するインタフェースの開発(日本学術振興会科学研究費補助金、若手研究B:2015-2016年度・基盤研究C:2017-2019年度)。高齢者歩行トレーニング用感覚増幅システムの開発(東京都次世代イノベーション創出事業2020)、没入型VRによる半側空間無視に対する評価・介入システムの開発(立石科学技術振興財団助成事業・厚生労働省障害者自立支援機器等開発促進事業)。
早大ベンチャーCEO、厚生労働省「障害者自立支援機器等開発評価委員会」評価委員、日本支援工学療法学会評議員 等。

堀江 吏将

(ほりえ さとし / Satoshi Hon)

北九州市保健福祉局
先進的介護システム推進室
次長



パネルディスカッション
「介護ロボットを活用しよう！」

「北九州市における先進的介護システムについて」

略歴

1992年に北九州市役所入職。
情報部門では、税関係のシステム構築やデータベース管理に従事、また地方公営企業の人事、給与、労務、安全衛生等を担当。
2007年から係長として、内部事務管理システムの刷新、総務事務センターの立ち上げ、マイナンバー制度の広報、オープンデータ推進や市官民データ活用推進計画の策定を担当。
2019年から現職。介護施設に時間をうみだす仕組みの構築を担当。
2020年には、市保健所にて新型コロナウイルスの検査・陽性者情報の部門間共有業務をかわせて行う。



弓削 類

(ゆげ るい / Louis Yuge)

広島大学大学院 医系科学研究科
教授
宇宙再生医療プロジェクト 研究センター
センター長

市民公開講演「再生医療とロボットリハビリテーション」

略歴

1985年 金沢大学医学部付属病院に勤務
1989年 シアトル大学、アルバータ大学へ留学。留学中、NASAの宇宙医学開発プロジェクトに参加
1993年 広島大学医学部・助手
2000年 博士(医学)の学位取得
2001年 広島大学医学部・講師
2003年 広島大学大学院保健学研究科・助教授を経て現在に至る
2014年 再生医療とリハビリテーション研究会 設立
2015年 NASAケネディー宇宙センターのAdvisory Committee (諮問委員会委員)に就任(7月)
2015年 宇宙再生医療センター センター長に就任(9月)

森山 由香

(もりやま ゆか / Yuka Moriyama)

介護老人保健施設 ひょうな荘
リハビリ部長

パネルディスカッション
「介護ロボットを活用しよう！」

「介護ロボットをよりよいケア実現のパートナーに！」

略歴

愛媛十全医療学院理学療法学科卒業後、5年間一般脳神経外科病院に勤務。そのうち1年間は特別養護老人ホームに週1回、非常勤として勤務。その後、特別養護老人ホームや在宅、保健・医療サービス等の地域リハビリテーションに従事。
平成5年より社会福祉法人三篠会老人保健施設ひょうな荘リハビリ部長、介護支援専門員、認定リスクマネジャーとして勤務。“出来ることは奪わず、出来ないことは要求せず、理もれた力を引き出す”ことをリハビリケアの目標として掲げ、多職種協働で取り組む。特に開設当時より福祉機器を活用した環境整備に力を入れ、平成26年より、介護ロボット技術を用いた見守り・コミュニケーション支援機器、移乗介助機器、移動支援機器を導入し、現在50台の介護ロボットを活用している。



オンライン 機器展示 23社

リーフ株式会社	TANO TECH株式会社	株式会社ソーエス
有人宇宙システム株式会社	株式会社エスケーエレクトロニクス	株式会社シーエフロボタス
西会 北九州市立門司病院	株式会社D&I	CYBERDYNE株式会社
エイアイコミュニケーション株式会社	ツスネット株式会社	ヒノ株式会社
社会福祉法人峨会	合同会社アグリハート	KEEOGO JAPAN株式会社
株式会社AKソフテーム	株式会社リハリク	伊藤認知症株式会社 行 知覚本部
ソノホソ株式会社	株式会社GLAB	ASSISTIMOTION株式会社
熊本大学の加藤センターリハ株式会社	パワファクトリア株式会社	AI・ICT・VR

見守り機器・介護支援機器・遠隔指導機器
医療機器・リハビリテーション機器 など

マッチングについて

シーズ・ニーズマッチング交流会

真に必要な支援機器を開発する

着想段階から

シーズ

ニーズ

マッチング

実用的な支援機器開発されるよう
ユーザーと開発側が意見交換

すべてオーダーメイドは難しい
レディメイド+カスタマイズ
調整・工夫・・・支援

人の手

今後の活動内容(予定)

リハビリテーションロボット・介護ロボット
マッチングを推進する

メーカー
機器・ロボット等
販売店

ユーザー
医療スタッフ
患者・利用者

製品化されている機器のマッチング

製品化前のシーズ・ニーズマッチング

販売前の製品のモニター・治験など
世話人・関連施設でデータ収集
データフィードバック

より実用的なリハビリテーションロボット
介護ロボットの普及・開発

マッチングについて

日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会

製品化
されたもの

マッチング

ユーザー
患者・利用者

介入者

人の手

先進機器(ロボット等)を有効に活用
製品とユーザーのつなぎ役が重要

製品の特性を理解+ユーザーの状態を理解
これらの情報を統合して機器を調整する能力

レベルアップ

今後の活動内容(予定)

リハビリテーションロボット・介護ロボット
普及啓発活動のネットワーク構築
(世話人ネットワーク構築)

定期的にオンラインイベントを開催する
ロボット等実践セミナー
企業プレゼンテーション

*新規ロボット等導入施設への世話人派遣

最終目標

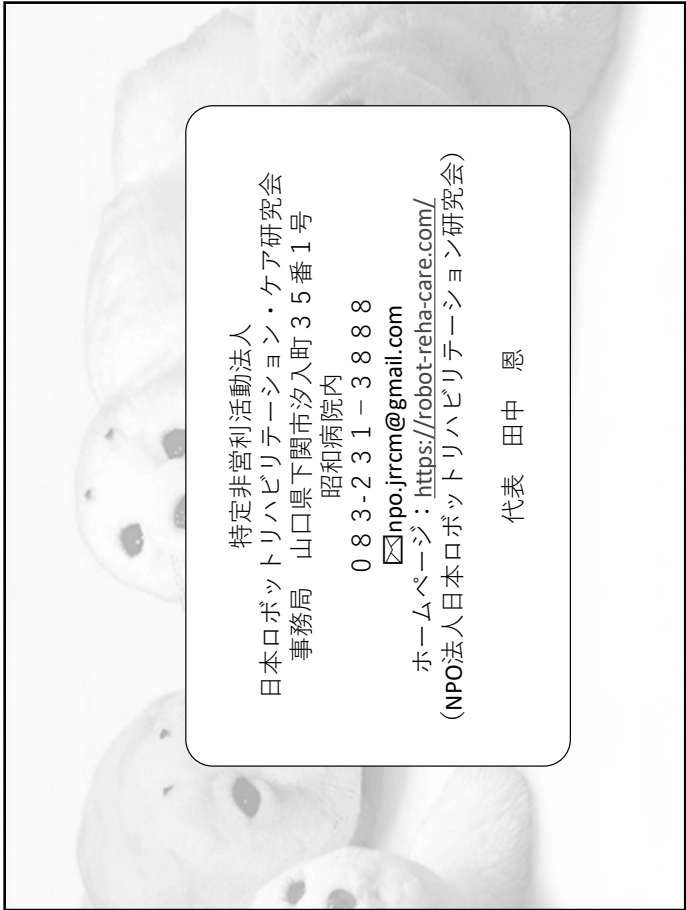
先進技術と従来型リハビリテーション技術の融合
より効果的なリハビリテーション技術・ケア技術の追求

日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会の活動

- 1)リハビリテーションロボットおよび介護ロボットの普及とこれに関する知識・技術の向上を目指すこと。
- 2)リハビリテーションロボットを利用したリハビリテーションの質的向上、高度で先進的なリハビリテーション医療の発展を実現すること。
- 3)介護ロボットを利用した自立支援の推進および介護負担の軽減を実現すること。

そのために以下の行事を行う。

- 1)日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会の開催(講演・研究報告・機器展示など)。
- 2)ホームページ、ソーシャル・ネットワークキング・サービス(SNS)による情報発信。



特定非営利活動法人
日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会
事務局 山口県下関市汐入町35番1号
昭和病院内
083-231-3888
✉npo.jrcm@gmail.com
ホームページ：<https://robot-reha-care.com/>
(NPO法人日本ロボットリハビリテーション研究会)

代表 田中 恩



つながる、たのしむ、相談できる
～スマホでつむぐ重症児支援の未来～

シーズ・ニーズマッチング交流会2021
10月9日(土) 14:40～(30分)

オンラインで、
リハビリを革命する。

自己紹介

長岡菜都子(びいどろ)

重症児の『食べる』を育む専門家

(言語聴覚士)

オンラインリハビリのパイオニアとして、
オンラインを活用したこれまでにないサー
ビスを、全国に広げる活動を行っている。

事業

全国各地の重症児デイや、子ども専門訪問
看護ステーション、医療機関、介護施設な
どへ、オンラインでの相談事業を複数運営
している。

肩書

- ・ 一般社団法人オンラインケア 理事長
- ・ 一般社団法人オンライン臨床 理事長
- ・ びいどろ 代表
- ・ はなうた図工室 副代表

経歴

2005年 言語聴覚士免許取得
2005年 山口県内総合病院勤務
2008年 市内訪問看護ステーション勤務
2019年 びいどろ設立
2020年 一社)オンラインケア設立
代表理事就任
2021年 一社)オンライン臨床設立
代表理事就任



びいどろ

オンラインリハのはじまり

離れて暮らす友人のもとに生まれた、ダウン症の女の子。
彼女は複数の医療的ケアを抱えていました。友人を助けた
い、その想いで始めたオンラインでの遠隔リハビリ。哺乳の
指導から始まり、離乳食の練習へと着実に進んだことで、彼
女の医療的ケアは1つずつ外れ、1歳の誕生日には市内の保育
園へ通えるようになりました。

「オンラインでのリハビリには未来がある」そう確信した私
は独立し、オンラインでの事業拡大を始めます。

オンライン事業が軌道に乗りはじめた頃、世界的に新型コ
ロナウイルスが猛威を奮い始め、オンラインサービス拡大が
一気に加速していきました。

それと同時に、重症児向けのオンラインサービスを複数展
開したことで、私のもとには、全国各地からたくさんのSOS
が送られてくるようになりました。

「食べさせるのが怖い」

言語聴覚士の私のもとへ届くSOSの多くは、「食べる」に
関する悩みでした。当事者の声、重症児を育てる家族の声。
そして、その数と同じくらい届くのが、彼らに関わる専門職
からの声でした。

「職場にSTがおらず、わからないことばかりです。」
「まだ臨床経験が少なく、リハに自信がありません。」
「誤嚥させたらどうしようと、怖いんです。」

誤嚥性肺炎から守るための10のこと

誤嚥性肺炎から子どもたちを守りたい。
子どもにも、家族にも、そして彼らを支える専門職にも、
だれにでも境界線なく、正しい「10の知識」を届けよう。

そうして完成した10の動画(右のリンク参照)。
すでに300名を超す方々のもとに届いています。



コロナ禍だからこそできる、スマホを使ったオンラインでの
新しい取り組み。
あなたのスマホにもきっと届くはずですよ。

特別シンポジウム 『好事例表彰の受賞とその後』



[平成30年 導入利活用部門]

“声を失ったパーソンナリティ”が
ラジオ番組を継続



NPO法人iCareほっかいどう

理事相談員 佐藤美由紀

iCareほっかいどうの活動原点

活動の原点は、コミュニケーションが取れなくなった方の機器によるコミュニケーション支援です。上肢下肢の自由が奪われ、声を出せず、意思疎通が出来なくなった、なりつつある方の意思疎通を支えることが大きな目的です。

出会う方で、声を残したいと考えている人は少なくありません。それぞれの方の思いに寄り添うために、声を残す取り組みを2014年から始めました。

自分の声で話したい人の思いは、人それぞれに深い理由があります。

ALSになったお母さんが、いつまでも自分の声で子供に話しかけられるように、とか、喉頭がんで喉頭摘出をした医師が職場に立ち続けるために、とか。

自分たちは音声技術者ではありませんが、その方の思いに寄り添える、近い位置にいます。

2016年にボイスターに出会ったことをきっかけにヒューマンテクノシステムさんのトリアル収録を始めました。

NPO法人 iCareほっかいどうとは

2012年に設立

ALSなどの神経難病や重度障害により
コミュニケーションに困難を抱える方の
意思伝達支援を目的に活動しています

2016年には医療的ケアの必要な
重度心身障害児のための

放課後デイばおばぶを開設



活動範囲は北海道全域

自分の声ソフトウェア 『ボイスター』とは

◆自由な文字列を自分の声で読み上げてくれる

キーボードから自由な文章入力ができる

◆その人らしさを声を介して伝える

自分の声を想起させる合成音声生成にこだわりがある

◆日本語を話せる方であれば 誰の声でも作成できる

静かな環境で半日程度の時間で録音する

その人らしさの再現とは…

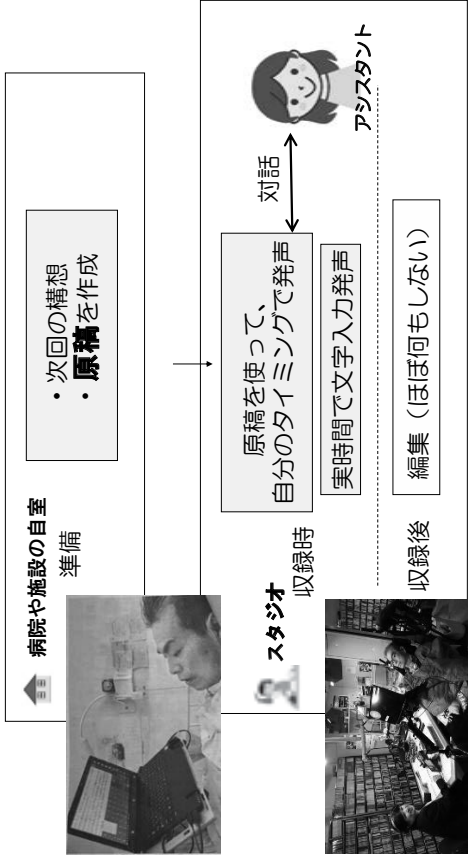
声質だけでなく口調や雰囲気まで再現 …… 「アイデンティティ」の維持
声を失われる喉頭摘出やALSの方へ提供 …… 「第二の自分の声」として



気管切開したALS患者によるラジオ番組
ALSのたわごとのご紹介

- ◆札幌市西区 三角山放送局
・理念「いっしょに、ね」。 広く市民が参加。
- ◆ラジオパーソナリティ 米沢和也氏
・ALS患者『ALSのたわごと』担当
<http://www.sankakuyama.co.jp/contents/2017/03/22/005342.php>
- ・病気の進行に伴う人工呼吸器装着 ⇒ 気管切開により声を失う
- ・手前前に音声収録 ⇒ ボイスターを作成
- ・手術後、視線入力ソフトと組合せて日常生活での会話に利用
- ・**自らのラジオ番組を継続 (2015.6~2020.10)**
- ◆アシスタント 佐藤美由紀
・番組内、あ・うんの呼吸で、米沢氏をサポート

番組制作の流れ



自分の声を再現するソフトウェア 「ボイスター」との出会いが人生を180度変えた



ヒューマンテック/システム
渡辺聡 氏

動画抜き

その後、番組は順調に進んでいったが、



ラジオへの思いを残しつつ
2020年7月27日急逝

2021年1月から
ラジオ「ALSのたわごと」はカタチを変えて、第2幕へ

- ◆ 三角山放送局「ALSのたわごと」FM76.2MHz
＜インターネット・スマートフォンでも聴取可能＞
- ◆ 土曜日レーエッセイ 毎月第4土曜日13時～14時
- ◆ 第1回目の放送は、米沢さんの奥様の米沢晴美さんと、生前から親交のあった岐阜の恩田さんがゲスト出演。
- ◆ 毎回、患者さんや支援者などをゲストに招いている。
- ◆ 米沢さんが遺してくれた番組を、みんなでタスキを繋いでいる。

米沢さんが遺した足跡は世界のALS患者に大きな影響を与えた

意思伝達装置を使用したALS患者さんの事例⑥
～声を失ってもラジオを続けたい！ALS患者のパーソナリティの挑戦～



自分の声を再生するソフトを使用した米沢さんの番組は、下記で一部を試聴可能です。
三角山放送局 声を失ってもラジオを続けたい～ALS患者のパーソナリティ米沢和也さんの挑戦～

米沢和也さん(北海道札幌市)
■ 年齢(写真撮影当時): 59歳
■ 「当初、人工呼吸器をつけずにそのまま息を引き取るつもりだった」という米沢さんは、ラジオ番組を担当してALSの研究の話や治療の話を紹介しているうちに、「自分は生きて近い将来できるであろうALSの治療を受けみたい」と思い、人工呼吸器をつける選択をして声を失いました。が、視覚入力での意思伝達装置と自分の声を再生するソフトで、ラジオ番組の担当を続けました。

http://www.sakakayama.co.jp/contents/2017/03/22/005342.php

https://www.youtu.be.com/watch?v=14408a-c3WNU&feature=emb_logo

大平まゆみさんの事例

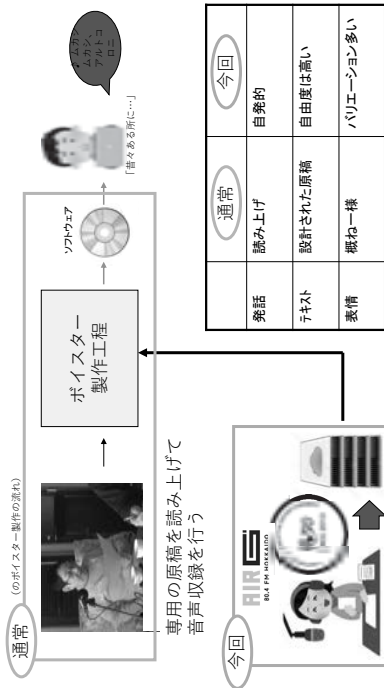
◆プロフィール

- ・バイオリニスト。21年以上に渡り札幌交響楽団コンサートマスタを務める
- ・2019年にALSであることを公表。過去のラジオ出演時の音声からボイスターを作成し、各種メッセージの発信に利用している

◆ラジオ番組「From My Heart」…………… ※Podcastによる番組

- ・AIR-G「朝クラ」のスピノフ番組
- ・毎回テーマの異なる数分間の音声メッセージを「自分の声」で放送
- ・2021年2月から放送開始。これまで13回放送されている。

既存音声を利用したボイスター製作



ラジオ番組出演時の高品質な収録音声を、局が保存してくれていた

大平さん「肉声」公開へ



ALSの音源合成 ■道新文化賞の喜び語る

ALS（筋性萎縮性側索硬化症）とは、脳や脊髄の神経細胞が徐々に壊れていく病気です。呼吸筋も動かなくなるため、最終的には人工呼吸器が必要になります。大平さんは、ALSを発症してからは、話すことが難しくなりましたが、ラジオ番組出演時の高品質な収録音声を、局が保存してくれていたことが、今回の音源合成プロジェクトに大きく貢献しています。

今回の音源合成プロジェクトは、大平さんの過去のラジオ番組出演時の音声データを活用し、AI技術を用いて、自然な発音で話し続けることができるようにしています。これにより、大平さんの「肉声」が、多くの人に届けられることを目指しています。

大平さんは、今回の音源合成プロジェクトを通じて、多くのファンから励みを受けています。また、道新文化賞を受賞したことで、自身の活動が社会に認められたことにも感謝しています。

ALS闘病中

元札幌交響楽団コンサートマスター

大平まゆみさん 道新文化賞受賞

2020年〇月〇日



・受賞のメッセージ

大平さんの『第二幕』

AirG 朝クラ

『FromMyHeart（フロムマイハート）』

放送原稿は、大平さんが意思伝達装置TCスキヤンを使い視線で操作して執筆しています

大平まゆみのワラント・エッセイ

元・札幌のコンサートマスター大平まゆみさんがボイスターで書きました



朝クラ!



大平さん、元・札幌のコンサートマスター大平まゆみさん。ALSを発症してからは、話すことが難しくなりましたが、ラジオ番組出演時の高品質な収録音声を、局が保存してくれていたことが、今回の音源合成プロジェクトに大きく貢献しています。

今回の音源合成プロジェクトは、大平さんの過去のラジオ番組出演時の音声データを活用し、AI技術を用いて、自然な発音で話し続けることができるようにしています。これにより、大平さんの「肉声」が、多くの人に届けられることを目指しています。

大平さんは、今回の音源合成プロジェクトを通じて、多くのファンから励みを受けています。また、道新文化賞を受賞したことで、自身の活動が社会に認められたことにも感謝しています。

朝クラ! 大平まゆみさんのワラント・エッセイ

大平まゆみさんのワラント・エッセイ

大平まゆみさんのワラント・エッセイ

大平まゆみさんのワラント・エッセイ

大平まゆみさんのワラント・エッセイ

大平まゆみさんのワラント・エッセイ

大平まゆみさんのワラント・エッセイ

大平まゆみさんのワラント・エッセイ

大平まゆみさんのワラント・エッセイ

ALSのラジオパーソナリティー「よねざわかかず」氏とは



Special Thanks

米沢和也さん(ALS患者・故人)
米沢晴美さん(米沢さんの奥様)
大平まゆみさん(ALS患者・バイオリニスト)
資料提供 高山秀毅さん(FM AirG)
音声編集 渡辺聡さん(ヒューマンテクノシステム)
写真提供 渡辺道子さん(ボンボズ)
日本ALS協会 青木さん
動画編集 鴨崎有里(iCareほっかいどうボランティア)
助言 蛸島八重子(iCareほっかいどうボランティア)

人工呼吸器を使う子どもと 家族のための 「かえるのオフロ」ができるまで

～好事例受賞受賞とその後～



大泉 えり

かえるキッズのお助け隊

Facebook: [大泉江里](#)

Eri.Ohizumi@gmail.com

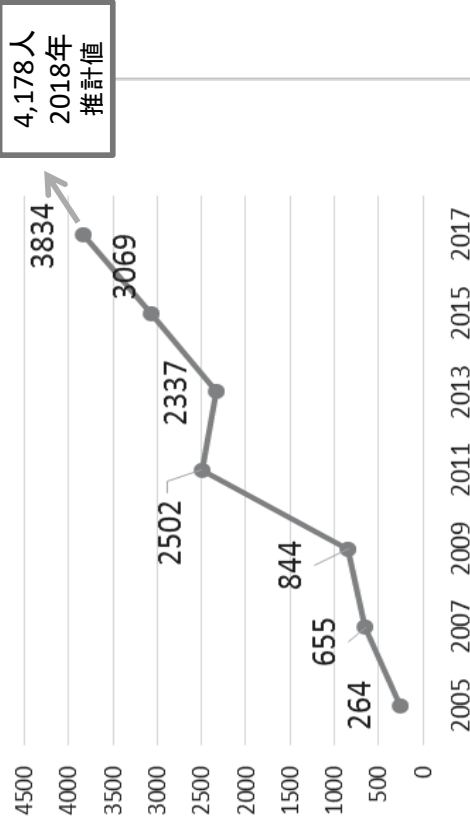
My daughter



- ・脊髄性筋萎縮症(SMA) I 型
- ・超重症児スコア34点
気管切開
- 人工呼吸器24時間管理
- 経管栄養(胃瘻)
- 吸引回数 6回以上/日
- 体位交換 6回以上/日
- ・ADL全介助
- ・側弯あり
- ・意思疎通は良好
- ・発話可能だが不明瞭
- ・手のスイッチでパソコン操作

背景

在宅人工呼吸器患者数0～19歳合計



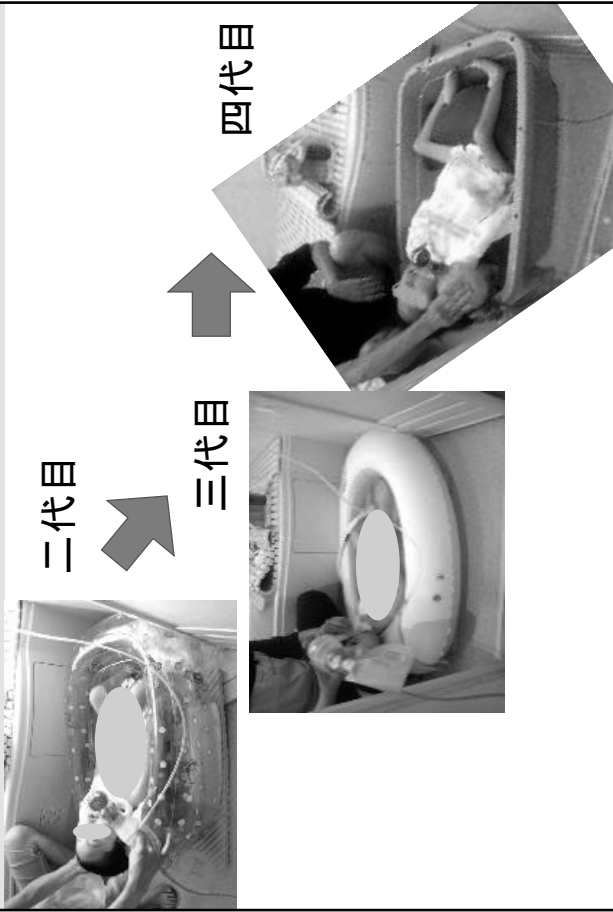
※倉道明：小児在宅医療の実態 医療的ケア児の全国の動向、在宅医療0-100 4(4)、315-320、2019

SMA(脊髄性筋萎縮症) I 型 とは

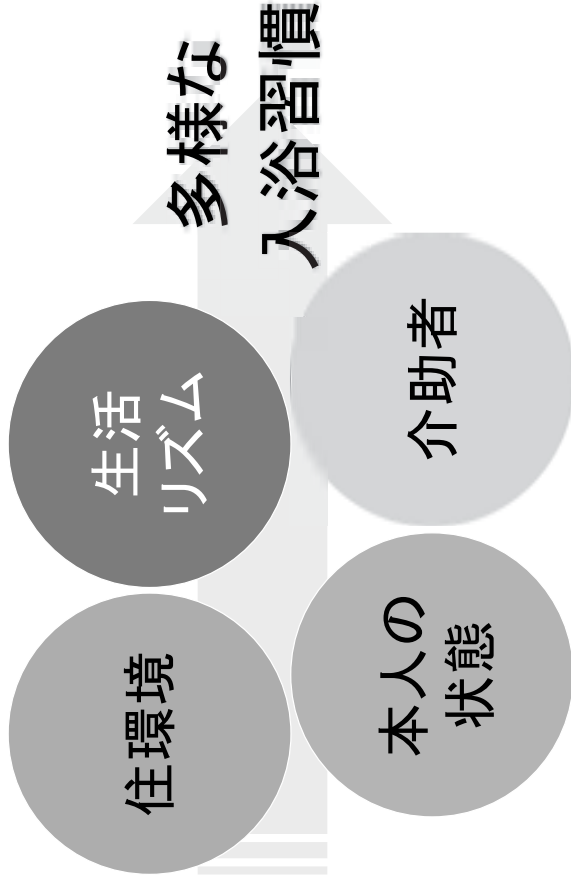
脊髄性筋萎縮症 (spinal muscular atrophy, SMA)

- ・進行性の神経難病
- ・生後6か月までの発症は重症型(I 型)
- ・脊髄から先(体幹・手足)の筋力低下と筋萎縮
- ・座位保持(定頸)が生涯不可能
- ・1歳未満で人工呼吸器によるサポートが必要

入浴方法の変遷



第一フェーズ考察 入浴習慣の成り立ち



SMA I 型児の在宅入浴習慣の調査

【第一フェーズ】

実態把握
面接調査

- ・ SMA I 型児 (2-17歳, 33歳) を育てる11家族を訪問
- ・ 入浴習慣の多様性要因の抽出
- ・ 2015年 4月～2016年2月

【第二フェーズ】

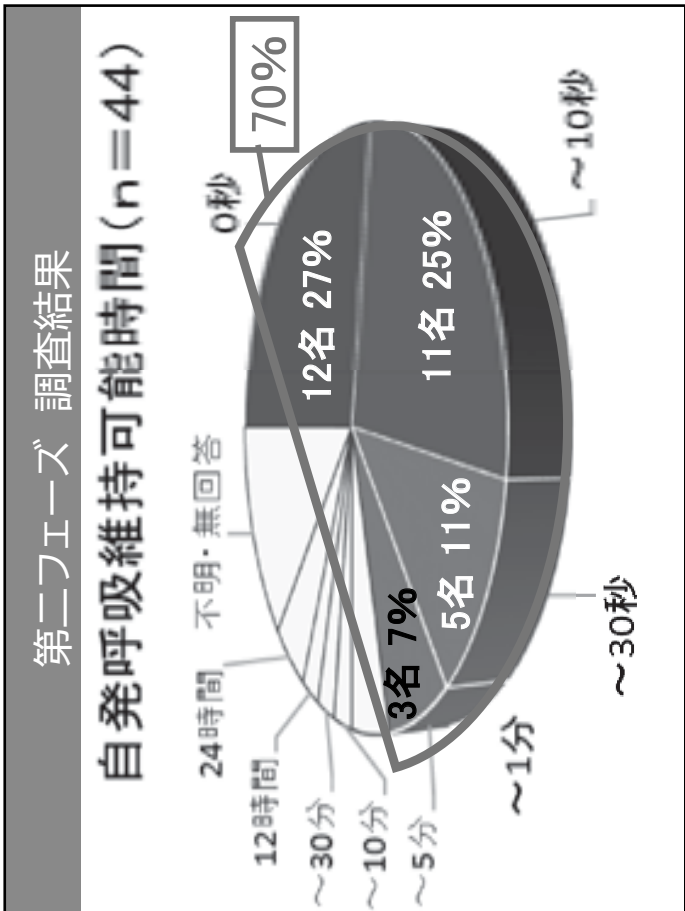
量的な実状調査
アンケート調査

- ・ SMA I 型児を介護する保護者に
- ・ 全国22都道府県から44人
- ・ 回答率80%→関心の高さ
- ・ 母親39・父親5 (26-49歳, 38.4±5.9歳)
- ・ 男子21・女子22・不明1 (1-20歳, 7.1±4.8歳)
- ・ 2016年 8月～11月

第一フェーズ調査の結果報告



助成いただきました
公益財団法人 在宅医療助成
勇美記念財団HP
「報告書一覧」から
閲覧・ダウンロード
も可能！
(No.1082)



第二フェーズ 調査結果

入浴中の呼吸の安定方法 (n=44 複数回答)	n	(%)
蘇生バッグ(アンビューバッグ等)	26	59%
人工呼吸器	19	43%
酸素吸入	7	16%
その他(人工鼻のみ、持続吸引)	3	7%
吸引	35	80%

↓

入浴中も呼吸確保の緊迫

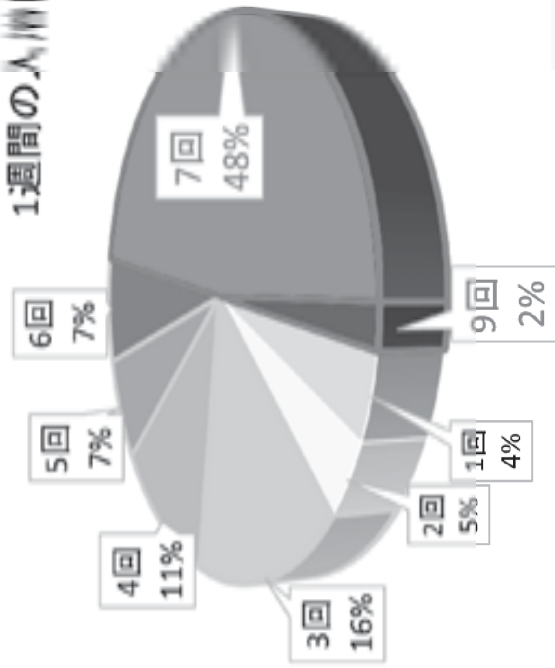
何が困難か？

- 頭・首の安定固定
- 呼吸の確保
- 気管切開孔に水を入れない！
- 身長がすぐく伸びる！
- 入浴方法の変更必要
- 脱臼や骨折
- 体温調節
- 救急対応

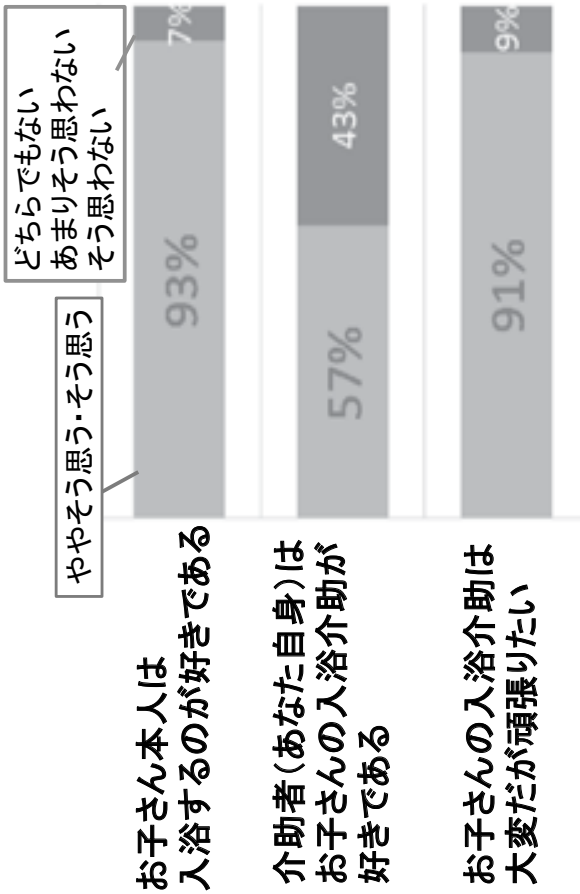
困難
入浴ケアリスク
とても高い…

第二フェーズ 調査結果

1週間の入浴回数



第二フェーズ 調査結果



在宅お風呂研究



- ・ 超重症児の在宅お風呂研究
- ・ 介護当事者による看護学会発表

本邦初？！

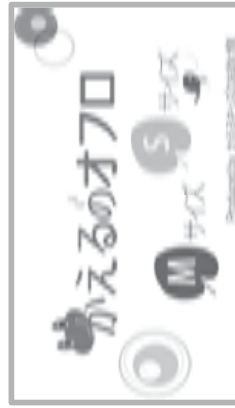
毎日新聞 2017年8月23日朝刊
動画ニュース(2017年8月22日)

反響のメール
切実…！！

15

簡易浴槽「かえるのオフロ」開発・販売

人工呼吸器を使う
子どもと家族のための



Facebookや
ネットショップ



かえるキッズのお助け隊

開発のポイント



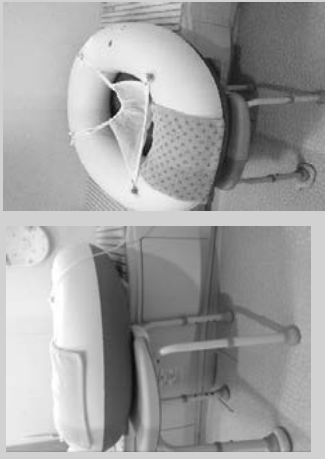
- ◎頭をへりに、介助者が手を離せる
- ◎1回の移乗
洗髪、体洗い、湯に浸かり、
排水まで可能
- ◎お湯に浸かって
ゆったり♪ゆらゆら♪
★気管切開部：高い位キープ！
- ◎ビニール素材で
準備、片づけ、持ち運びも楽チン

使い方の例（1坪タイプ浴室）

*Sサイズ



*Mサイズ



バスチェアで高さを出していません。
※付属品には入っていません。

**安心して使っていただきたいので
医療者とのデモ使用は必須！**

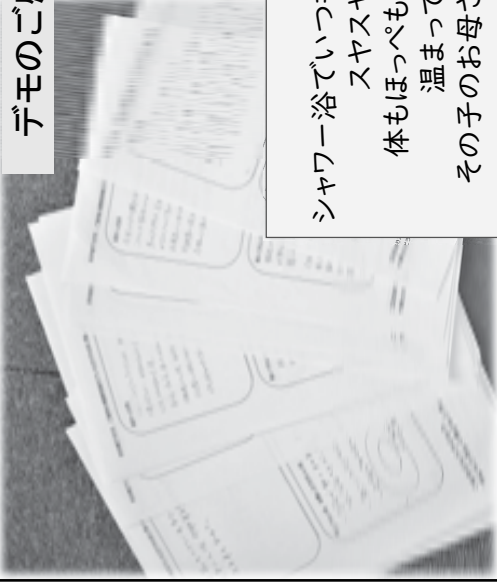
開発の難題



- ▲肩にお湯がたまる
⇒シャワーヘッドの向きに注意
- ▲お尻の位置が下がる
⇒スリングの工夫
- ▲早く、スツキリ、排水
⇒下敷きマット、排水口の工夫

**個別性と多様性への余地を残し
最終調整は現場へ託す！**

お客様の声



デモのご感想

シャワー浴でいつも泣いていたお子さんが
スヤスヤ寝てしまって
体もほっぺもほんのり赤くなって
温まってよかったです
その子のお母さんも嬉しそうでした。

「お湯に浸かることの大切さ」
改めて…

ニーズへの対応

身長120cm以上のニーズが多い！ ➡ 対応できていない

社会資源の活用

- ・医療的ケア児対応の放課後デイ
- ・日中一時預かり
- ・訪問入浴サービス



不足
地域格差

共同創造

当事者と専門家
対等なパートナーシップを
組んで生産するモデル

当事者がもつリアルな力を活用するには？

これからも

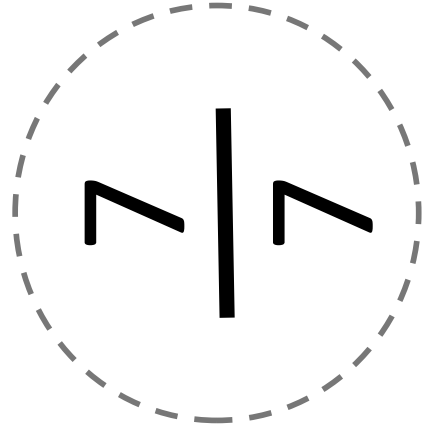
ファミリーアドボケイト

(家族の代弁者・社会的アクションの担い手) として

気管切開をした人工呼吸器を使う子どもの入浴ケアは、高度な看護技術と知識が必要。介助者も複数必要。

成長発達の段階に応じて、安全性を確保した入浴を実施できるように、製品開発と情報共有、社会サービスの促進を切望する。

何の数字？



➤ 好事例賞特別シンポジウムによせて

製品の先に、人の暮らしが見える

人って、体が清潔になると、不思議とね前向きな気持ちになったり、お湯に浸かると幸せな気持ちになったりね、笑顔が出るんだよ。健康な人には分らないと思うな～

アースサポート株式会社 森山典明代表取締役社長インタビューより

自己有用性
必要とされる
機会

人とのつながり
意思伝達

心と体の安心・安全なベース

食事 睡眠 排泄 入浴
清潔 着脱

かけがえのない日常

好事例賞特別シンポジウムによせて

人間の究極の幸せは
愛されること
ほめられること
人の役に立つこと
人に必要とされること
の4つです

引用：日本理化学工業株式会社HP

人は
幸せになりたいと
思い続けてよい

そのための道具、使い方事例
たくさん知りたい。知っていただきたい。

現場コンシエルジュ・伴走型支援へ

障害者自立支援機器

**シーズ・ニーズマッチング
交流会2021**

福祉機器の利用と開発の状況報告

シーズへのヒント

2021年10月10日
日本ALS協会
岸川忠彦

1

患者は案外と身近にいます：神奈川県の場合

神奈川県支部
患者・家族の会員数
：約100名

加入率が約20%
なので点の数は
5倍になる

直径5キロの範囲
■ 1個→5名

直径5キロの範囲
■ 7個→35名

★

筋萎縮性側索硬化症 (ALS) について
Amyotrophic筋萎縮性 Lateral側面 Sclerosis硬化(症)

- ◆ 特徴
：運動神経が変性して命令が伝わらなくなると筋肉が動かせず廃用になり委縮する進行性・原因不明の疾患
- ◆ 大まかに二つのタイプ
約75% ：はじめに、手足が動きにくくなるタイプ
約25% ：はじめに、しゃべったり飲み込んだり出来なくなるタイプ
最終的には手足と口の両方、全身に障害が進みます
- ◆ 発症年齢 ：50～74歳が多い→中途障害者
- ◆ 約95%が孤発性、約5%が遺伝性
- ◆ 治療法・薬
リルテックとラジカット
：共に発症初期の進行抑制効果が確認されている。
- ◆ 患者数 ：全国で約10,000人の患者
- ◆ 発症数 ：毎年約2,300人が発症
- ◆ 男/女比 ：1.3～1.4対1.0 男性が多い

★

筋萎縮性側索硬化症 (ALS) について
Amyotrophic筋萎縮性 Lateral側面 Sclerosis硬化(症)

障害が進行するが、、進行の様相は一人一人違う（進行の個性性が大きい）

障害が進行 →呼吸筋が動かせない →死に至る病気 →人工呼吸器等医療機器の発展
→死には至らない病気 →死ななければ良い →自立支援機器の発展 →生活の質の向上
→患者・家族は個性性に合わせた自立支援機器の発展に期待を寄せている

★

普段の生活、それを支えているもの

電気/電子機器(ハード)

人工呼吸器・(喀痰)吸引器
 電動歯ブラシ・入浴機材
 電動ベッド・リフト・トイレ
 コミュニケーション機器・スイッチ
 ミキサー・テレビ・照明
 ガス・水道・空調・レンジ・ポット

操作・運用は人間
 だけど…自動で
 出来たらいいな

操作・運用(ソフト)

普段の生活	
朝	起床(薬) 朝食(薬) 歯磨き 洗顔 着替え トイレ
昼	昼食(薬) 歯磨き トイレ 訪問入浴
晩	夕食(薬) 歯磨き 薬 トイレ 就寝(寝返り)
日中活動(仕事)	

普段の生活： 文字盤でのコミュニケーション

日常会話は文字盤で 込入った内容は伝は伝の心(パソコン)で

初めは指差し方式で、慣れたらアイコンタクトで言葉を紡ぐ



読み取った文字を忘れてしまふので自動記録して後で音声に変換できないかなあ

普段の生活： アラームスイッチでのコミュニケーション


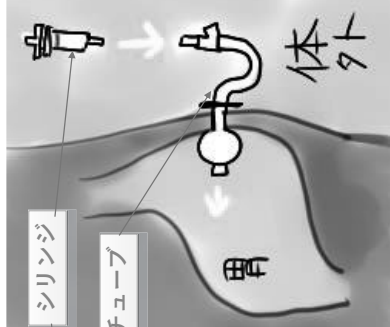
体が動かず、声も出ない：アラームで呼び出す



耳で触る
スイッチ
首を少し回せま
手は全く動かさせません
ベッド
車椅子

普段の生活： 胃ろうからの食事(経管栄養)

・口からの飲込みが出来ないので胃ろうから注入して食事
 ・好物は口からでも大丈夫など、不思議な例外はありますケド、..)

普段の生活:ミキサー食

家族と同じメニューをミキサー食にする



ミキサーは空気を噛みこんで食材が酸化しやすいので味が変わるけど栄養成分はどうかかな



9

普段の生活: 歯磨き(口腔ケア)



- ・歯磨き(口腔ケア)は、誤嚥性肺炎のリスク回避でもあります
- ・胃ろうからの食事の場合でも、口腔ケアは大事です

- ・口が動かなくなったら顎の関節が拘縮しないようなケアも必要

移乗 (最近のリフトが主)

支えていれば立っていられる時期がありました。最近足が弱くて立って立つことが難しいです



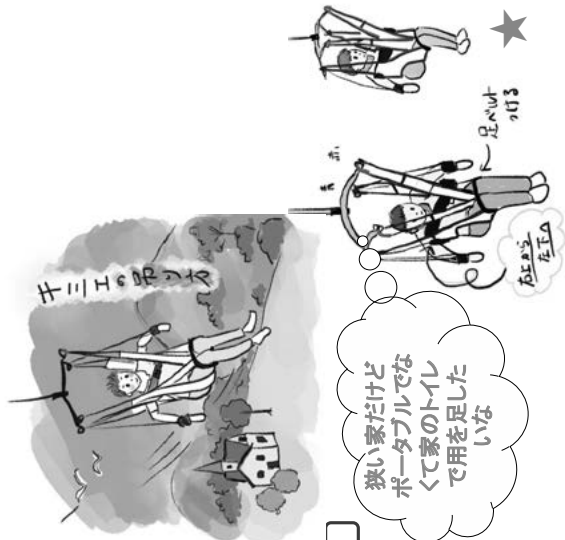
今は、ほとんどリフトと吊り具で移乗しています



トイレ



狭い家だけどポータブルでなくて家のトイレで用を足したいな



パソコン（伝の心） メール・執筆・ネット・SNS

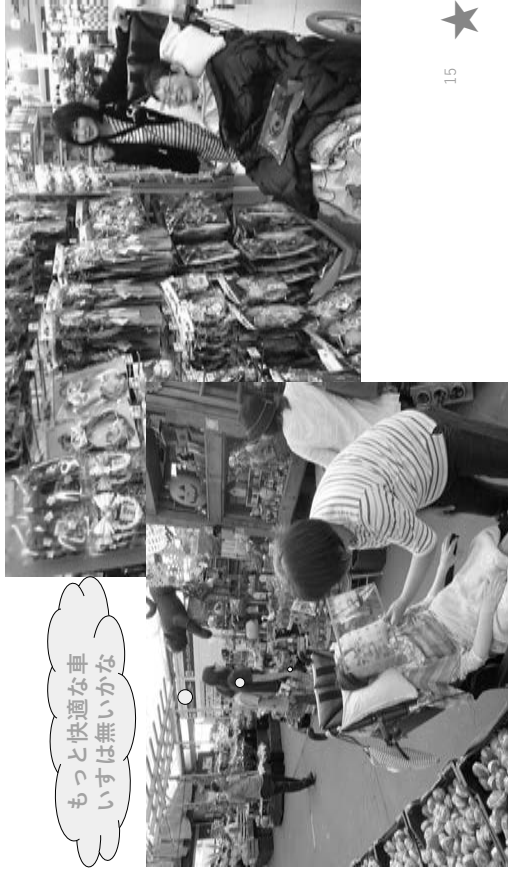


視線入力も魅力だとスゴッ
手で入力も控えてたい
この先、視線入力やスイッチ操
作が出来なくなったらどうし
ようかな？



★

普段の生活： ヘルパーさんと買い物



15



普段の生活：訪問入浴

体が全く動かないので家のお風呂は入れない。2-3人体制で入浴



14

訪問入浴

普段の生活：電車で外出

事前に連絡すれば駅員さんが目的の地までサポートしてくれます



16

電車での外出

その他

- 鼻をかむ
- テレビのチャンネル・音量
- 手を揉んで欲しい
- お茶を飲みたい
- かゆい所をかいて欲しい
- 本を読みたい
- 吸引

何とか機械で簡単に
出来ないかな、、、



17



普段の生活：気管切開部からの吸引

いつ、痰がたまるとはわからない



常時吸引できる
機器があるけど、
もっとライン
ナップがあると
助かる

常時、見守りが必要

19



就寝

- 寝返り→就寝中は2時間に1回、ときどき吸引。
11時30分～7時の間に3、4回

体幹の機能が落ちたときの寝返り
りは人手でやるのが一番だけ
ども、自動できると助かる



18



普段の生活：吸引機

吸引器は必需品



メインの吸引器 (AC電源)



非常用吸引器 (足踏み式)

災害が起ったら



質問:

体が動かない、発声ができない、
 気管切開をしている。
 人によっては
 人工呼吸器を装着してる…
 災害が起ったら？

21

日本ALS協会 福祉機器・看護/介護分野の研究・開発への助成

1996～2021年度 (H8～令和3年度) の26年間

奨励金交付総額：2,737万円
 交付総件数：60件

- | | | |
|---|--|--|
| 2000年度
山本 真
大分県勤労者医療生協大病院診療部長 (当時)
在宅人工呼吸管理下のALS患者に対する、自己制御機能を有する自
動吸引装置の開発 | 2015年度
伊藤 史人
鳥根大学総合理工学研究科 助教 (当時)
ローコスト視線入力装置による意思伝達環境の構築お
よびマニュアル作成 | 2019年度
小澤 邦昭
東洋大学 工業技術研究所・客員研究員 (当時)
試験データ利用によるYes/No意思伝達装置の正答率向上 |
|---|--|--|

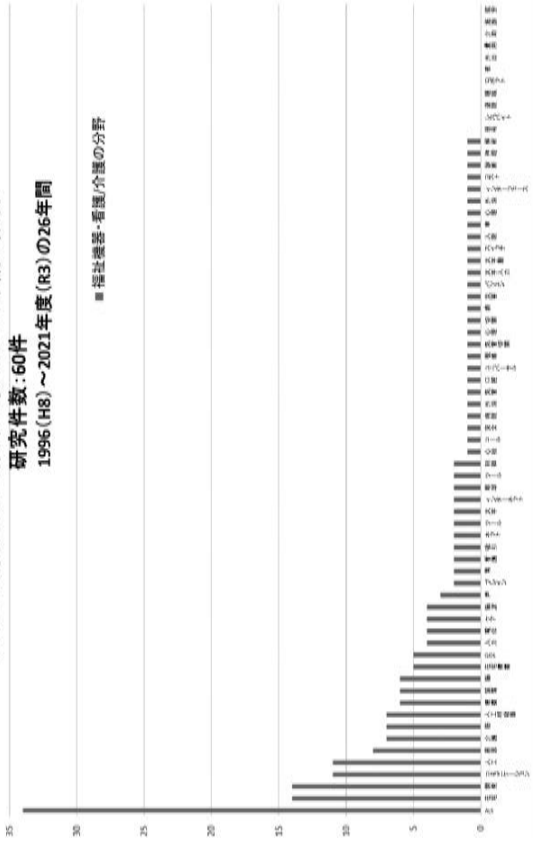
日本ALS協会 福祉機器・看護/介護分野の研究・開発への助成

ALS基金研究助成の研究名に使用された単語の頻度

研究件数: 60件

1996 (H8) ~ 2021 年度 (R3) の26年間

■ 福祉機器・看護/介護分野



普段の生活 それを支えているもの

朝	起床 朝食(粥) 歯磨き 洗顔 着替え トイレ
昼	昼食(粥) 歯磨き トイレ
夜	夕食(粥) 歯磨き 薬 トイレ(寝前)

自立支援機器は
非常時に誰もが、簡単に
操作できるようなものが
良いね

…etc
 ガン・水通
 音声レシーブ機
 シンク用排水機
 トイレ洗浄機
 音声アシスト
 シンク用排水機
 トイレ洗浄機
 音声アシスト
 シンク用排水機
 トイレ洗浄機
 音声アシスト

事前の避難

動けるヘルパー・支援者さん
 災害時ボランティア
 地域の人々・消防団 ★

手動の機器 非常電源 (非常発電機・バッテリー)

障害者自立支援機器

シーズ・ニーズマッチング 交流会2021

福祉機器の利用と開発の状況報告

シーズへのヒント

ご静聴ありがとうございました

2021年10月10日

日本ALS協会

岸川忠彦

25

福祉機器の利用と開発の状況報告

九州工業大学生命工学研究科
人間知能システム工学専攻 博士前期課程2年
九工大大学生プロジェクト すぐ創る課 課長
山崎 駆



2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

3

質問及びお問い合わせ



yamasakikakeru
@KakeruResearch

質問及びお問い合わせ



すぐ創る課

- 2021年度, 九州工業大学の学生プロジェクトに認定された九工大公認学生サークル
- 九工大からの支援を受けながら活動
- 地域の個性が高く研究として非常に取り扱いにくいニーズに、ハードやソフトのプロトタイプング技術で応えることを目的とする
- 得た知見を一般化し, 福祉機器の開発を行う

2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

2

福祉機器の利用と開発の状況報告

4

すぐ創る課

- メンバーは15名程度
- 大学院生が9割
- 北九州学術研究都市にて活動



2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

5



2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

7

スマートライフケア創工房

- すぐ創る課はスマートライフケア共創工房と連携して活動を行なっています。
- 厚生労働省介護ロボットプラットフォーム事業のリビングラボ拠点



2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

6



スマートライフケア創工房

可能な支援内容

- 複数の大学院教員や、北九州市と連携した幅広い支援
 - ロボティクス、脳科学、福祉工学、AIなどを専門とする大学院教員への相談
 - 九州工業大学や北九州市介護ロボットコンソーシアムの倫理委員会に対する倫理申請に関する助言
 - 共創工房の機器を用いた計測解析やプロトタイプングに関する助言
 - 実証時に取得が必要なデータとその科学的分析方法に関する助言
- 具体的な社会実装の支援
 - スマートフォンを用いた行動認識アプリの紹介
 - 実証や販促に向けた介護ITインストラクタ制度の紹介



2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

8

製作事例



複合現実心拍可視化



車椅子遠隔操作



バランス訓練評価装置



車椅子用ロボットアーム



糸駆動グローブ

2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

9

相談内容とニーズの紹介

- 先天性ミオパチー患者様
- 手動呼吸器ポンプの自作アダプタ
- 屈伸動作リハビリシステム
- 車椅子につけるスマートミラー
 - 音声認識機能をつけて車椅子の操作やカメラ操作
- 他福祉機器メーカー様
- 車椅子の立ち上がり検知シート

2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

11

相談内容とニーズの紹介

- 今年度(2021年4月から)すぐ創る課が受けた相談内容及びニーズ
- パーキンソン病患者様
 - 立ち上がり補助具
 - 胃瘦ポンプを入れるバックの危険動作検知

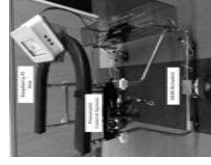
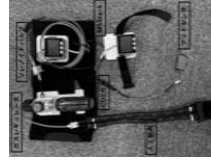
2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

10

開発機器の紹介

- UPS-PD(広島大学栗田雄一教授との共同開発)
- スマートウォーカー
- Cloud YouBalance



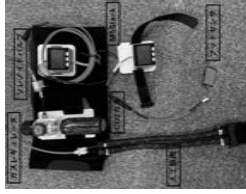
2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

12

UPS-PD

- Unplugged Powered Suits for PD patients
- 広島大学栗田教授との共同開発
- パーキンソン病患者様
- すくみ足(FOG)の抑制



2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

13

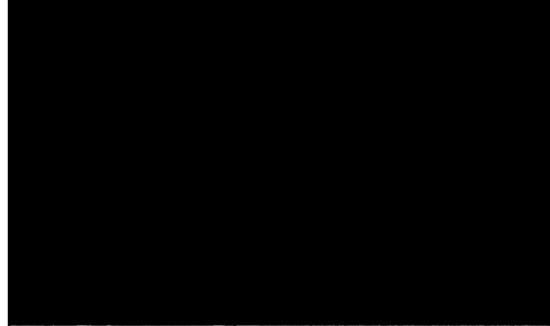
FOGの解除

- 一定の周期的な外部刺激
 - 音声刺激
 - 視覚刺激
- 被験者によって外部刺激による効果が異なる場合

2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

15



FOGの閾値理論

- 歩行の非対称性の進行, 歩幅の減少やケイデンスの増加などに代表される歩容の漸進的な悪化が閾値を超えること
- 歩幅の大きい側の歩行速度を低下させるトレーニングをPD患者に行うことで歩行の対称性や歩幅の減少の改善がなされた

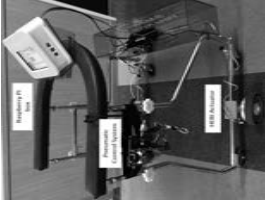
2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

16

研究結果

- ケイデンスの改善効果
- UPS-PD の装着がある程度歩行能力の維持された PD 患者において悪影響を及ぼし歩行を妨げる可能性が低い
- 最大アシスト力も6[N]程度



2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

19

今後の課題

- ガスボンベの容量問題
- 大規模な被験者実験
- 長期使用時の効果についての検討

2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

20

UPS-PDとWalker

- 歩行時と立位時の区別ができない
- 装置のトリガーである力センサーを靴の中に挿入しにくいといけない
- UPS-PD の駆動時間が空気圧駆動型人工筋に供給可能な CO2 ガスの容量に依存する

期待される効果

- 健常高齢者とPD患者とともに、歩行速度が低下するとケイデンスが低下した
- FOGの発生リスクを抑制する
- 個人に合わせた電動歩行器による運動負荷の実現

2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

21



搭載する予定の機能

- 腕置き圧力検知
- 心拍数の取得機能
- カメラによる症状認識アルゴリズムの開発
- UPS-PDとの統合

2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

22

Cloud YouBalance

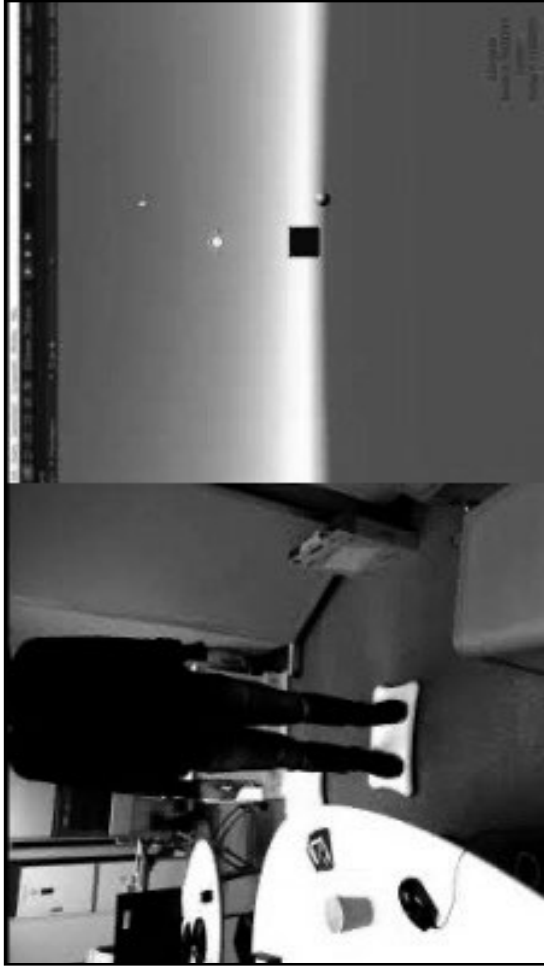
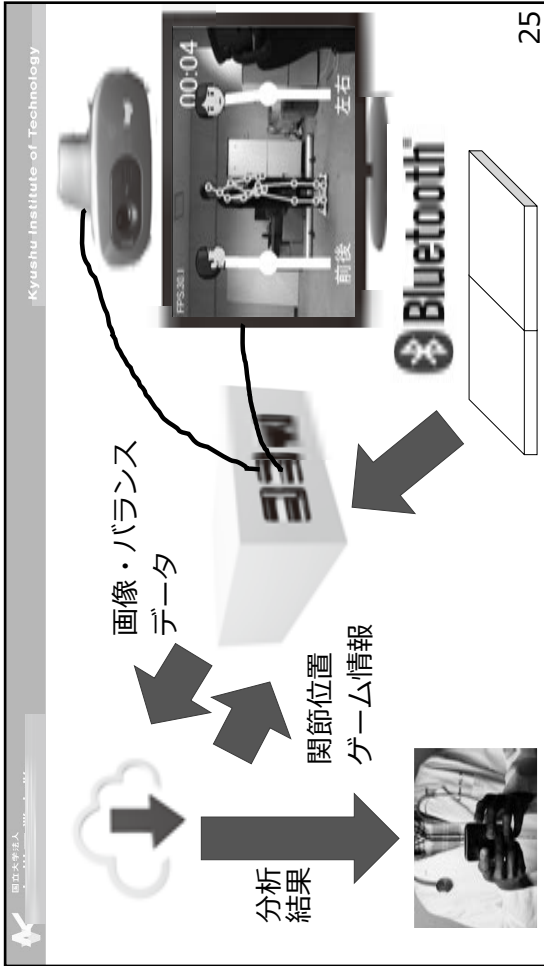
- パーキンソン病患者の前屈症の緩和
- バランスボード情報と骨格情報取得により、後方動揺を誘発する
- 北九州IoT Maker'sのファイナリストに選出
- 現在開発中



2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

24



Kyushu Institute of Technology

カメラを用いた
骨格情報取得

Balance Board

クラウドサービス化

AIデータ分析

- OpenPoseなどによるAIで取得
- 持ち運び可能で足圧分布
- 何処でもデータにログイン
- 科学的知見に基づく

26

<https://item.rakuten.co.jp/robotshopjapan/rb-ada-318/> より

Kyushu Institute of Technology

私の研究「スマートワークセル」

- 高齢者や障がい者の生産活動をロボットによって支援する生産システム
- セル生産システム
- 多品種少量生産

2021/10/10

福祉機器の利用と開発の状況報告

28



九州工業大学
Kyushu Institute of Technology

質問及びお問い合わせ



すぐ創る課

ホーム **すぐ創る課** シーズニーズ掲示板 メンバー限定

2021/10/10

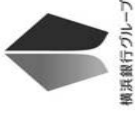
九州工業大学
Kyushu Institute of Technology

すぐ創る課の今後

- 福祉機器開発
- シーズ・ニーズの投稿プラットフォームの作成
- 福祉機器作成のためのスタートアップ創出



2021/10/10



横浜銀行のループ

令和2年度障害者総合福祉推進事業
「ロボット等を活用した障害者支援手法の開発に向けた調査研究事業」
実施報告

障害分野におけるロボット技術の活用に関する研究報告

令和3年10月10日

株式会社 浜銀総合研究所

地域戦略研究部
副主任研究員 加藤 善崇

1. 本事業の背景と目的

- 国においては、福祉サービスの生産性向上や職員の負担軽減に向けたサービス提供現場へのロボットの導入促進を政策の柱の1つとして定めている。
- 厚生労働省においても、「ロボット技術の介護利用における重点分野(6分野13項目)」を定め、ロボットの開発・導入に向けた様々な施策が先行して展開されており、その結果として、特別養護老人ホームや有料老人ホーム等を中心に、少しずつではあるがロボット介護機器の導入が進んでいる。



出所: 厚生労働省資料

2


はじめに

【会社概要】

名称	株式会社 浜銀総合研究所 https://www.yokohama-ri.co.jp
本社所在地	T-220-8616 横浜市西区みなとみらい3-1-1 横浜銀行本店ビル4F 電話 045(225)2371(代表)
設立年月日	1988年7月21日
資本金	1億円
取引銀行	横浜銀行
社員数	125名(従業員数)(2021年4月1日現在)
経営理念	先見性と創造性と専門性を発揮し、幅広い情報の提供を通じて地域の将来の発展に貢献する

1

1. 本事業の背景と目的

- 障害福祉分野においても、職員の負担軽減や業務の効率化、支援の質の向上などの観点から大きな期待が寄せられており、実際に一部の施設等においては積極的にロボット介護機器を活用する事例がみられる。
 - しかしながら、多くの障害福祉サービス事業所は、ロボット介護機器に関する情報を有していないとみられる。
 - また、どのような支援行為にロボット介護機器を活用することが負担軽減や生産性向上を通じた職場環境の改善に効果的かといった点や、ロボット介護機器の活用を前提とした支援手法のポイントなどが整理されていない現状がある。
- 
- こうした状況を踏まえて、弊社では厚生労働省の障害者総合福祉推進事業を活用して、障害分野におけるロボット技術の活用に関する研究(以下、本事業)を実施

3

1. 本事業の背景と目的

- 本事業の目的は以下の通り。
 - 【調査目的】
- 障害児者向けのサービス事業所を対象にアンケート調査を実施し、COVID-19 状況下における事業所の業務量や業務負担等に関する実態を把握するとともに、ロボット介護機器の導入状況や導入にあたっての課題、期待されるロボット介護機器の機能等について把握。
- 調査結果の分析を通じ、ロボット介護機器の活用により効率化や支援の質の向上が期待されるものを抽出し、支援行為ごとの具体的な機器活用のポイントを検討。
- 既にロボット介護機器等を導入している障害福祉サービス事業所に対して、ヒアリング調査を実施し、ロボット介護機器等を導入する際のポイントやプロセスの実態等について、把握。
- 調査結果および機器活用のポイントを整理し、報告書・概要版を作成。
 - 関係機関へ配布。ロボット介護機器導入を検討する契機。

1. 本事業の背景と目的

○本事業の目的
中長期的に継続的な事業展開を目指すアンケート調査により、事業所の業務量の増減や業務負担の状況、ロボット介護機器の導入実態について把握する。調査結果の分析を通じて、業務負担の軽減やロボット介護機器の活用による業務効率化の促進や業務負担の軽減が期待される事業所への支援策を構築する。
○ロボット介護機器を活用する事業所、施設の種類からロボット介護機器を活用する際のポイント、導入実態などについて調査結果を整理する。
○上記の調査結果、および機器の導入、活用ポイントを整理し、「障害者支援施設におけるロボット介護機器活用実態調査」を行う。

○事業内容
【COVID-19の発生状況下における事業所向けサービス事業所の業務実態調査】
「障害者支援施設向けサービス事業所を対象としたアンケート調査の実施」
・調査対象：サービス事業所（障害者支援施設）
・調査対象：サービス事業所（障害者支援施設）
・調査対象：サービス事業所（障害者支援施設）
・アンケート調査の対象事業所は、障害者支援施設からサービス事業所を抽出して、入所サービス（身体・精神・発達障害）の導入実態、（精神）施設の入居実態、実態調査を実施している事業所を対象として、100件程度を抽出し、調査結果を整理する。
・事業所の業務量の増減、業務負担、介護ロボット導入状況、導入実態についてロボット介護機器を活用している事業所を抽出し、下記の調査事項調査の調査対象とする。
【ロボット介護機器活用に関する実態調査】
・ロボット介護機器の導入状況について、施設の種類、導入時期、導入理由、導入後の実態、導入後の課題、導入後の効果について調査する。
・ロボット介護機器の導入状況について、施設の種類、導入時期、導入理由、導入後の実態、導入後の課題、導入後の効果について調査する。
・ロボット介護機器の導入状況について、施設の種類、導入時期、導入理由、導入後の実態、導入後の課題、導入後の効果について調査する。
・ロボット介護機器の導入状況について、施設の種類、導入時期、導入理由、導入後の実態、導入後の課題、導入後の効果について調査する。

○アンケート調査の概要
調査対象：サービス事業所（障害者支援施設）
調査項目：サービス事業所の業務実態、業務負担、ロボット介護機器の活用状況、導入実態、導入後の課題、導入後の効果について調査する。
調査方法：アンケート調査
調査期間：令和2年10月～令和3年3月

○アンケート調査の実施
調査対象：サービス事業所（障害者支援施設）
調査項目：サービス事業所の業務実態、業務負担、ロボット介護機器の活用状況、導入実態、導入後の課題、導入後の効果について調査する。
調査方法：アンケート調査
調査期間：令和2年10月～令和3年3月

→ 概要を活用した支援手法の開発などの促進、支援の質の向上に向けてロボット介護機器導入を検討する契機とする

1. 本事業の背景と目的

【本事業におけるロボット介護機器の範囲】

- 「情報を感知し（センサー系）、判断し（知能・制御系）、動作する（駆動系）」という3つの要素技術の全てを有する知能化した機械システムのうち、主としてケアの質の向上や介護者の負担軽減に資する機器。
- 「障害者本人が使用することにより、（結果として）職員の負担軽減にもなる」機器。
- 利用者の体調管理（ウェアラブル端末）や就労のための面接訓練等が可能なVR機器、書類作成補助のためのソフトウェアなどについては、必ずしも「センサ系・知能・制御系・駆動系」という3要素の全てを満たしたものではないが、障害福祉領域におけるロボット介護機器の活用促進の観点から、本調査においては範囲の対象。

2. アンケート調査結果

- (1) アンケート調査の実施概要
- (2) アンケート調査結果（施設票）
- (3) アンケート調査結果（職員票）

2. アンケート調査結果

(1) アンケート調査の実施概要

- 「施設票」と「職員票」の2種類の調査票を用いて、郵送配布、郵送回収。
- 配布件数は独立行政法人福祉医療機構WAMNETの全国の事業所データから2,000事業所を抽出。
- 実施時期は2020年11月12日～2020年12月11日。(約1か月間)

調査票	回答対象者	調査項目	回収数
施設票	施設入所支援、共同生活援助、障害児入所支援のいずれかのサービスを提供する施設、事業所の施設長	<ul style="list-style-type: none"> 施設の状況について 施設の職員の数や業務の負担感について ロボット介護機器等の導入の可能性について ロボット介護機器等の導入のプロセスについて ロボット介護機器等の導入促進に向けたご意見について 施設の人員体制等について 	665件 (回収率43.3%)
職員票	施設票を配布した施設の中で、下記の条件を満たす常勤職員1名 ① 入所者・利用者に対する直接ケア業務に従事している方。(生活支援員等) ② 2020年10月において日勤および夜勤・夜間のいずれかの時間帯でも勤務をしている方。(夜勤や夜間は除外) ③ 真施設での勤務年数が3年以上であり、施設内の通りの業務に対応可能な方	<ul style="list-style-type: none"> 回答者自身について 現在の業務について ロボット介護機器等について 	828件 (回収率41.3%)

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・①施設の状況について

- 施設の全入所者・利用者に占める強度行動障害のある方の割合について、全体では、「3割未満」が34.0%、「3割以上5割未満」が11.8%、「5割以上8割未満」が11.3%と、多くの施設において強度行動障害のある入所者・利用者が一定程度存在。
- 障害種別では、知的障害では「いない」が9.8%と、多くの知的障害の施設では入所者・利用者の中に強度行動障害の方が所在。

【施設の全入所者・利用者に占める強度行動障害のある方の割合(SA)】

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=865
3割以上	0.0%	5.4%	1.2%	1.5%
5割以上8割未満	1.5%	21.0%	0.0%	2.9%
3割以上5割未満	3.0%	21.7%	0.0%	5.9%
3割未満	34.6%	39.8%	3.1%	53.7%
いない	57.9%	9.8%	87.7%	30.1%
無回答	3.0%	2.4%	8.0%	5.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・①施設の状況について

- 施設が提供している主な入所サービスについて、全体では、「施設入所支援」が60.8%、「障害児入所支援(福祉型)」が10.8%、「障害児入所支援(医療型)」が5.0%、「共同生活援助」が20.0%。
- 障害種別にみると、身体障害や知的障害では「施設入所支援」、精神障害では「共同生活援助」がそれぞれ最多。

【施設が提供している主な入所サービス】(単一回答「以下、SA)】

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=865
施設入所支援	97.0%	92.4%	1.2%	60.8%
障害児入所支援(福祉型)	0.0%	0.0%	0.0%	10.8%
障害児入所支援(医療型)	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%
共同生活援助	3.0%	2.2%	98.8%	20.0%
無回答	0.0%	5.4%	0.0%	3.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【障害種別については以下のとおりに分類しています】(以下同様)

- 身体障害：施設が提供する入所サービスの対象者のうち、最も多い入居者が「身体障害」である施設。
- 知的障害：施設が提供する入所サービスの対象者のうち、最も多い入居者が「知的障害」である施設。
- 精神障害：施設が提供する入所サービスの対象者のうち、最も多い入居者が「精神障害」である施設。
- 障害児：入所サービスの対象者の障害の多少にかかわらず、施設が提供している主な入所サービスで「障害児入所支援(福祉型)」あるいは「障害児入所支援(医療型)」と回答した施設。

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・②施設の職員の業務

- 職員が日勤時に従事している業務は「間接業務(利用者に関係すること)」、「健康管理」等で9割以上。他の業務についても、5割以上が従事しているとの回答。
- 「食事」や「入浴」、「排泄」等において、精神障害は5割未満であり、他の障害と傾向が異なる。

【職員が日勤時に従事している業務(複数回答、以下「MA)】

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=865
間接業務(利用者に関係すること)	98.5%	99.0%	98.2%	97.5%
健康管理	99.2%	98.8%	88.9%	96.5%
日常生活支援	97.0%	98.3%	87.7%	91.9%
安心・安全対策	99.2%	96.8%	85.2%	94.1%
面談、苦情対応	97.0%	94.1%	90.1%	94.0%
間接業務(職員や法人に關係すること)	94.7%	94.9%	90.7%	93.9%
食事	97.7%	88.8%	44.4%	87.7%
社会福祉支援	93.2%	95.1%	49.4%	85.0%
情報入手・意思表明・コミュニケーション支援	95.5%	90.5%	56.2%	86.0%
入浴	97.7%	98.0%	24.1%	94.9%
排泄	97.0%	97.1%	15.4%	95.0%
行動障害への対応	75.2%	96.6%	41.4%	84.0%
福祉・身体障害等	94.7%	95.9%	13.6%	91.9%
移乗・移動	97.0%	85.9%	5.6%	55.9%
機能訓練	88.0%	79.3%	16.0%	66.9%
姿勢保持	94.0%	78.3%	3.1%	47.8%
地位転換	92.5%	69.5%	4.3%	57.7%
無回答	0.8%	0.2%	1.9%	4.2%

(注) 上位3項目については網掛け。

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・②施設の職員の業務

- 職員が夜勤時に従事している業務は「安心・安全対策」が最も多く、以下、「排泄」「健康管理」「間接業務(利用者に関係すること)」「行動障害への対応」が上位。
- 障害種別では、全ての障害で「安心・安全対策」が最多。

【職員が夜勤時に従事している業務(MA)】

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
安心・安全対策	99.2%	98.7%	87.3%	98.5%	98.0%
排泄	95.4%	97.0%	21.8%	90.9%	90.1%
健康管理	90.8%	92.2%	54.5%	89.4%	88.7%
間接業務(利用者に関係すること)	86.2%	90.7%	52.7%	90.2%	87.2%
行動障害への対応	69.2%	91.5%	41.8%	80.3%	81.9%
体位変換	95.1%	76.4%	9.1%	40.5%	68.2%
移乗・移動	86.2%	74.2%	7.3%	30.3%	63.5%
間接業務(職員や法人に依頼すること)	55.4%	64.7%	38.2%	64.4%	61.1%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	57.7%	64.2%	36.4%	48.5%	58.1%
清拭・身体整容等	62.3%	65.7%	9.1%	43.2%	57.1%
姿勢保持	70.8%	59.0%	1.8%	22.0%	51.0%
食事	38.1%	43.1%	23.6%	33.3%	39.5%
日常生活支援	32.3%	44.0%	23.6%	33.3%	38.9%
入浴	30.5%	30.1%	32.7%	25.0%	29.5%
面談・苦情対応	15.4%	28.0%	9.1%	22.0%	23.8%
社会生活支援	10.8%	17.5%	7.3%	15.2%	15.2%
機能訓練	5.4%	11.8%	1.8%	7.6%	9.3%
無回答	0.8%	0.3%	10.9%	0.8%	1.2%

(注) 各項目上位3項目については網掛け。

12

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・②施設の職員の業務

- 日勤時に職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務は「入浴」や「排泄」「移乗移動」「行動障害への対応」が上位。
- 精神障害については、「日常生活支援」や「安心・安全対策」が上位。

【日勤時に職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務(MA)】

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=845
入浴	91.0%	88.3%	9.9%	70.6%	71.0%
排泄	86.5%	75.4%	6.2%	55.9%	60.7%
移乗・移動	83.5%	58.0%	1.9%	38.0%	41.7%
行動障害への対応	16.3%	51.7%	6.8%	55.1%	37.7%
体位変換	45.1%	23.4%	1.2%	22.8%	22.5%
清拭・身体整容等	18.0%	27.3%	2.5%	16.2%	20.0%
間接業務(利用者に関係すること)	9.8%	18.0%	10.5%	16.2%	15.3%
姿勢保持	21.1%	18.0%	0.0%	14.0%	14.6%
食事	15.0%	18.3%	5.6%	11.8%	14.6%
安心・安全対策	9.8%	12.7%	13.0%	16.9%	13.2%
日常生活支援	6.8%	11.5%	21.0%	7.4%	11.9%
健康管理	9.0%	11.5%	8.0%	5.9%	9.6%
間接業務(職員や法人に依頼すること)	6.0%	10.7%	4.3%	9.0%	8.0%
社会生活支援	9.0%	7.3%	6.8%	7.1%	7.7%
機能訓練	8.3%	9.0%	0.0%	6.9%	6.7%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	4.3%	6.3%	3.7%	8.8%	5.9%
面談・苦情対応	3.0%	3.9%	5.6%	6.6%	4.3%
無回答	1.2%	2.9%	84.2%	4.4%	13.1%

(注) 上位3項目については網掛け。

13

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・②施設の職員の業務

- 夜勤時に職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務は「排泄」が最多。以下、「移乗・移動」「行動障害への対応」が上位。
- 障害種別では、身体障害や知的障害、障害児では「排泄」が5割以上。また、身体障害では「移乗・移動」や「体位変換」も5割以上と、他の障害に比べて高い。

【夜勤時に職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務(MA)】

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
排泄	83.1%	78.4%	10.9%	58.3%	70.7%
移乗・移動	63.1%	48.0%	0.0%	20.5%	42.7%
行動障害への対応	16.2%	48.9%	12.7%	47.7%	40.1%
体位変換	58.5%	33.0%	0.0%	25.0%	34.0%
安心・安全対策	34.2%	31.3%	21.8%	31.8%	32.1%
清拭・身体整容等	16.2%	22.3%	3.6%	12.9%	18.1%
間接業務(利用者に関係すること)	9.2%	15.3%	3.6%	15.9%	13.2%
健康管理	10.8%	14.0%	5.5%	13.2%	12.9%
入浴	12.3%	14.5%	0.0%	7.6%	11.7%
食事	6.2%	15.0%	1.8%	9.8%	11.7%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	9.2%	11.3%	1.8%	5.3%	9.4%
間接業務(職員や法人に依頼すること)	2.3%	6.3%	3.6%	5.3%	5.2%
日常生活支援	3.8%	5.0%	0.0%	8.3%	4.9%
面談・苦情対応	0.8%	5.3%	1.8%	4.5%	3.9%
社会生活支援	2.3%	2.3%	5.5%	5.3%	3.9%
機能訓練	0.8%	1.5%	1.8%	2.3%	1.9%
無回答	0.8%	1.8%	0.0%	0.8%	1.4%
	3.8%	6.0%	60.0%	7.6%	9.8%

(注) 上位3項目については網掛け。

14

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・②施設の職員の業務

- 日勤時に職員が精神的に強いストレスを感じながら実施している業務は、「行動障害への対応」が最多。以下、「面談・苦情対応」「間接業務(利用者に関係すること)」等が上位。
- 障害種別にみると、身体障害では6割以上、知的障害では8割以上、障害児では7割以上が「行動障害への対応」と回答。他方、精神障害は「面談・苦情対応」が最多。

【日勤時に職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務(MA)】

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=845
行動障害への対応	61.7%	83.7%	25.0%	70.6%	66.8%
面談・苦情対応	65.4%	47.0%	45.1%	65.4%	52.6%
間接業務(利用者に関係すること)	45.1%	47.1%	28.4%	38.2%	41.3%
安心・安全対策	45.9%	44.4%	25.0%	40.4%	40.6%
健康管理	32.3%	40.5%	15.4%	33.1%	33.1%
入浴	48.1%	42.0%	1.2%	23.5%	32.1%
排泄	48.1%	42.2%	3.7%	22.1%	32.1%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	30.1%	30.0%	20.4%	29.4%	28.2%
間接業務(職員や法人に依頼すること)	37.6%	31.0%	15.4%	25.7%	27.1%
食事	37.6%	31.0%	4.9%	23.5%	26.1%
日常生活支援	27.1%	17.3%	0.0%	8.8%	14.0%
移乗・移動	13.5%	16.0%	0.0%	7.4%	11.7%
清拭・身体整容等	8.3%	9.5%	4.3%	2.9%	7.2%
社会生活支援	9.8%	5.4%	0.0%	2.2%	4.7%
体位変換	3.0%	6.3%	0.0%	5.1%	4.6%
機能訓練	3.8%	5.9%	0.0%	3.7%	4.0%
姿勢保持	2.3%	2.2%	23.5%	3.7%	6.9%
無回答					

(注) 上位3項目については網掛け。

15

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・②施設の職員の業務

- 夜勤時に職員が精神的に強いストレスを感じながら実施している業務は「行動障害への対応」が最多。以下、「安心・安全対策」「排泄」「健康管理」の順番。

【夜勤時に職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務(MA)】

	身体障害者 n=130	知的障害者 n=59	精神障害者 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
行動障害への対応	47.7%	76.2%	63.6%	63.6%	65.2%
安心・安全対策	65.4%	63.7%	29.1%	58.3%	60.3%
排泄	53.1%	48.9%	7.3%	22.7%	41.5%
健康管理	36.2%	37.0%	16.4%	39.4%	35.9%
間接業務(利用者に関すること)	28.5%	34.0%	9.1%	27.3%	31.7%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	15.4%	16.3%	3.6%	15.7%	15.5%
面談、苦情対応	16.9%	12.0%	20.0%	19.7%	15.0%
移乗・移動	18.5%	15.3%	0.0%	3.8%	13.1%
体位変換	18.5%	7.3%	0.0%	3.8%	8.0%
食事	6.2%	9.8%	0.0%	6.8%	7.9%
清拭・身体整容等	7.7%	9.5%	0.0%	1.5%	7.2%
日常生活支援	1.5%	5.5%	7.3%	3.0%	4.6%
入浴	2.3%	6.3%	0.0%	1.5%	4.5%
姿勢保持	3.1%	4.8%	0.0%	0.8%	3.1%
社会生活支援	0.8%	2.0%	1.8%	0.8%	1.9%
機能訓練	0.0%	0.5%	0.0%	1.5%	0.8%
無回答	4.6%	4.5%	45.5%	9.8%	8.4%

(注) 上位3項目については網掛け。

16

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・②施設の職員の業務

- 日勤時の業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務は、「間接業務(利用者に関すること)」が最多。以下、「間接業務(職員や法人に関すること)」、「入浴」「移乗・移動」が上位。

【日勤時の業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務(MA)】

	身体障害者 n=133	知的障害者 n=110	精神障害者 n=102	障害児 n=136	全体 n=865
間接業務(利用者に関すること)	66.2%	66.3%	38.9%	63.2%	61.6%
間接業務(職員や法人に関すること)	47.4%	53.9%	34.0%	52.2%	48.7%
入浴	65.9%	54.6%	3.7%	28.7%	42.0%
移乗・移動	69.2%	36.1%	0.0%	28.7%	33.3%
排泄	51.9%	30.5%	0.0%	18.4%	26.4%
安心・安全対策	29.3%	26.6%	13.6%	22.1%	23.9%
健康管理	26.3%	27.3%	13.0%	22.8%	23.8%
日常生活支援	20.3%	22.4%	13.5%	19.1%	20.5%
行動障害への対応	17.3%	21.2%	4.9%	19.1%	17.2%
体位変換	33.8%	16.6%	0.0%	15.4%	16.2%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	12.8%	11.7%	4.9%	14.7%	11.1%
食事	15.8%	11.5%	7.4%	9.0%	11.1%
清拭・身体整容等	18.8%	12.4%	0.0%	9.6%	10.5%
姿勢保持	12.0%	9.5%	0.0%	3.7%	7.5%
社会生活支援	9.0%	8.8%	1.9%	8.1%	7.3%
機能訓練	11.3%	9.5%	0.0%	3.7%	6.8%
面談、苦情対応	8.3%	5.6%	5.6%	4.4%	5.7%
無回答	2.3%	4.1%	45.1%	12.5%	13.5%

(注) 上位3項目については網掛け。

17

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・②施設の職員の業務

- 夜勤時の業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務は、「間接業務(利用者に関すること)」や「安心・安全対策」「排泄」が上位。

【夜勤時の業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務(MA)】

	身体障害者 n=130	知的障害者 n=59	精神障害者 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
間接業務(利用者に関すること)	49.2%	57.9%	20.0%	33.3%	52.5%
安心・安全対策	36.9%	37.8%	16.4%	66.7%	34.1%
排泄	46.9%	34.8%	3.6%	66.7%	30.2%
間接業務(職員や法人に関すること)	22.3%	32.8%	9.1%	0.0%	30.2%
移乗・移動	40.2%	27.8%	1.8%	0.0%	26.6%
体位変換	25.4%	25.1%	9.1%	0.0%	24.1%
行動障害への対応	40.0%	17.8%	1.8%	33.3%	19.9%
面談、苦情対応	8.5%	19.0%	10.9%	0.0%	16.5%
姿勢保持	11.5%	8.3%	1.8%	0.0%	7.8%
入浴	4.0%	11.0%	1.8%	0.0%	7.3%
清拭・身体整容等	6.2%	9.8%	1.8%	0.0%	7.3%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	6.2%	7.8%	9.1%	0.0%	7.3%
日常生活支援	0.8%	8.5%	5.5%	0.0%	6.0%
食事	5.4%	6.3%	5.5%	0.0%	5.7%
面談、苦情対応	5.4%	2.3%	5.5%	0.0%	3.7%
社会生活支援	0.8%	2.0%	0.0%	0.0%	2.0%
機能訓練	1.5%	0.8%	0.0%	0.0%	1.0%
無回答	10.8%	11.5%	67.3%	33.3%	17.6%

(注) 上位3項目については網掛け。

18

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・③ロボット介護機器導入の可能性の有無

- 障害者支援現場において活用可能性のある支援機器について、尋ねたところ、全26種類のうち7種類については、「活用の可能性が高い」「活用の可能性が大きい」と「活用可能性が多少ある」の合計)との回答が5割以上。

業務に対応すると考えられるロボット介護機器等	「活用の可能性が高い」と回答した割合
議事録自動作成ツール、音声入力支援ソフト	62.8%
バイタルや睡眠状態、行動などを把握し、イレギュラーな動きが生じた場合にはアラームを鳴らす見守りセンサー	60.9%
職員のスケジュール管理や情報共有のための専用ソフト	57.6%
パソコンやスマートフォン、タブレット端末などのビデオ・WEB会議アプリ	56.4%
施設内でのインカム	54.7%
障害者のために職員が行う出納記録の作成や現金の入出金を自動で実施してくれる機器・アプリ	53.1%
疲労度や心拍、睡眠状態などを測定するウェアラブル端末	52.0%

(注) 「活用の可能性がある」の回答割合が5割以上の項目のみ掲載。

19

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・④ロボット介護機器等の導入の現状

- ロボット介護機器等では「既に導入している」が割増。(※ただし、パソコン等のビデオ・WEB会議アプリやグループウェア・ビジネスチャットアプリ等のICT関連の機器も含まれている点に留意)
- 今後のロボット介護機器等の導入意向については「導入予定なし」が約半数。障害種別では知的障害では4割以上、精神障害では7割以上が「導入予定なし」と回答。

【ロボット介護機器等の導入状況(SA)】

中分類	身体障害		知的障害		精神障害		障害児		全体	
	n=133	n=110	n=83	n=102	n=136	n=85	n=136	n=85	n=865	
既に導入している	43.6%	17.0%	3.0%	1.2%	11.0%	17.0%	11.0%	17.0%	17.0%	
導入していない	56.4%	83.0%	18.3%	94.4%	86.8%	83.0%	86.8%	83.0%	83.0%	
無回答	0.0%	0.0%	1.2%	4.3%	2.2%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

中分類	身体障害		知的障害		精神障害		障害児		全体	
	n=75	n=118	n=153	n=118	n=118	n=697	n=118	n=697	n=697	
導入予定あり	6.7%	0.0%	0.8%	2.6%	0.8%	2.6%	0.8%	2.6%	2.6%	
導入するかどうか検討中	30.7%	18.3%	2.0%	6.8%	6.8%	14.2%	6.8%	14.2%	14.2%	
導入予定なし	28.0%	42.0%	78.4%	56.8%	51.2%	51.2%	56.8%	51.2%	51.2%	
導入するかどうか未定	32.0%	35.3%	17.0%	33.9%	30.3%	30.3%	33.9%	30.3%	30.3%	
無回答	2.7%	1.5%	1.3%	1.7%	1.7%	1.7%	1.7%	1.7%	1.7%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

【今後のロボット介護機器等の導入意向(SA)】

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・④ロボット介護機器等の導入の現状

- ロボット介護機器等の導入の有無別では、「ロボット介護機器等が何ができるのかよくわからない」や「ロボット介護機器等の安全性に対する懸念が払しょくできない」等は、両者で20ポイント以上の差。

【(ロボット介護機器等の導入・活用に)具体的な懸念点や課題点等(MA)】

中分類	項目	①導入している		②導入していない		③-⑤
		n=74	n=51	n=74	n=51	
ロボット介護機器等の情報	ロボット介護機器等での何が出来るのよくわからない どのくらいロボット介護機器等があるの知らない 入居者の状態・性格を鑑みたロボット介護機器等が存在しない	29.0%	61.5%	29.0%	61.5%	▲23.4
導入者へのケア	入居者へのケアは人の手で行うべきと考える ロボット介護機器等によるケアを入居者やその家族が理解できない	23.1%	51.6%	23.1%	51.6%	▲13.6
現場職員への研修	現場職員への研修が不足している 現場職員はロボット介護機器等への理解が浅く、利用性を判断した機器は活用しない	10.5%	20.0%	10.5%	20.0%	▲6.6
入居者の負担	入居者の負担の増加が心配 入居者の負担や業務プロセスへの導入方法がイメージできない	25.0%	23.7%	25.0%	23.7%	▲19.9
機器の安全性	機器の安全性が不安 ロボット介護機器等と同居しては安全な気がしない	61.3%	66.3%	61.3%	66.3%	▲5.1
機器の操作性	機器の操作性が不安 ロボット介護機器等と同居しては安全な気がしない	25.0%	42.0%	25.0%	42.0%	▲17.6
機器のメンテナンス	機器のメンテナンスが不安 機器内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない	18.5%	40.3%	18.5%	40.3%	▲2.5
導入費用	導入費用が不安 ロボット介護機器等の導入費に必要となるコストが払しょくできない	53.2%	63.9%	53.2%	63.9%	▲8.5
導入後の運用	導入後の運用が不安 ロボット介護機器等の導入後の運用に関するノウハウがない	31.5%	54.9%	31.5%	54.9%	▲23.4
導入後のメンテナンス	導入後のメンテナンスが不安 ロボット介護機器等のメンテナンスに関するノウハウがない	69.4%	75.5%	69.4%	75.5%	▲6.1
その他	その他	54.8%	68.9%	54.8%	68.9%	▲11.4
合計	合計	38.7%	50.8%	38.7%	50.8%	▲21.9
その他	その他	33.5%	56.8%	33.5%	56.8%	▲20.1
その他	その他	34.7%	56.8%	34.7%	56.8%	▲15.1
その他	その他	40.7%	45.3%	40.7%	45.3%	▲10.7
その他	その他	40.0%	45.3%	40.0%	45.3%	▲10.7
その他	その他	40.0%	45.3%	40.0%	45.3%	▲10.7
その他	その他	40.0%	45.3%	40.0%	45.3%	▲10.7

22

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・⑤ロボット介護機器等の導入のプロセス

- ロボット介護機器等を既に導入している施設に対して、ロボット介護機器等の導入を主導した方を「施設長・管理者」が最多。

【ロボット介護機器等の導入を主導した方(SA)】

中分類	項目	身体障害		知的障害		精神障害		障害児		全体	
		n=58	n=72	n=58	n=72	n=58	n=72	n=58	n=72	n=58	n=72
法人の経営者	法人の経営者	6.9%	19.4%	6.9%	19.4%	6.9%	19.4%	6.9%	19.4%	6.9%	19.4%
施設長・管理者	施設長・管理者	44.8%	50.0%	44.8%	50.0%	44.8%	50.0%	44.8%	50.0%	44.8%	50.0%
現場のリーダー・クラス	現場のリーダー・クラス	24.1%	15.3%	24.1%	15.3%	24.1%	15.3%	24.1%	15.3%	24.1%	15.3%
現場職員	現場職員	12.1%	5.6%	12.1%	5.6%	12.1%	5.6%	12.1%	5.6%	12.1%	5.6%
外部からの働きかけ	外部からの働きかけ	3.4%	5.6%	3.4%	5.6%	3.4%	5.6%	3.4%	5.6%	3.4%	5.6%
その他	その他	1.7%	2.8%	1.7%	2.8%	1.7%	2.8%	1.7%	2.8%	1.7%	2.8%
無回答	無回答	6.9%	6.9%	6.9%	6.9%	6.9%	6.9%	6.9%	6.9%	6.9%	6.9%
合計	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

23

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・④ロボット介護機器等の導入の現状

- ロボット介護機器等の導入の有無別では、「ロボット介護機器等が何ができるのかよくわからない」や「ロボット介護機器等の安全性に対する懸念が払しょくできない」等は、両者で20ポイント以上の差。

【(ロボット介護機器等の導入・活用に)具体的な懸念点や課題点等(MA)】

中分類	項目	身体障害		知的障害		精神障害		障害児		全体	
		n=58	n=72	n=58	n=72	n=58	n=72	n=58	n=72	n=58	n=72
ロボット介護機器等の情報	ロボット介護機器等での何が出来るのよくわからない どのくらいロボット介護機器等があるの知らない 入居者の状態・性格を鑑みたロボット介護機器等が存在しない	29.0%	61.5%	29.0%	61.5%	29.0%	61.5%	29.0%	61.5%	29.0%	61.5%
導入者へのケア	入居者へのケアは人の手で行うべきと考える ロボット介護機器等によるケアを入居者やその家族が理解できない	23.1%	51.6%	23.1%	51.6%	23.1%	51.6%	23.1%	51.6%	23.1%	51.6%
現場職員への研修	現場職員への研修が不足している 現場職員はロボット介護機器等への理解が浅く、利用性を判断した機器は活用しない	10.5%	20.0%	10.5%	20.0%	10.5%	20.0%	10.5%	20.0%	10.5%	20.0%
入居者の負担	入居者の負担の増加が心配 入居者の負担や業務プロセスへの導入方法がイメージできない	25.0%	23.7%	25.0%	23.7%	25.0%	23.7%	25.0%	23.7%	25.0%	23.7%
機器の安全性	機器の安全性が不安 ロボット介護機器等と同居しては安全な気がしない	61.3%	66.3%	61.3%	66.3%	61.3%	66.3%	61.3%	66.3%	61.3%	66.3%
機器の操作性	機器の操作性が不安 ロボット介護機器等と同居しては安全な気がしない	25.0%	42.0%	25.0%	42.0%	25.0%	42.0%	25.0%	42.0%	25.0%	42.0%
機器のメンテナンス	機器のメンテナンスが不安 機器内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない	18.5%	40.3%	18.5%	40.3%	18.5%	40.3%	18.5%	40.3%	18.5%	40.3%
導入費用	導入費用が不安 ロボット介護機器等の導入費に必要となるコストが払しょくできない	53.2%	63.9%	53.2%	63.9%	53.2%	63.9%	53.2%	63.9%	53.2%	63.9%
導入後の運用	導入後の運用が不安 ロボット介護機器等の導入後の運用に関するノウハウがない	31.5%	54.9%	31.5%	54.9%	31.5%	54.9%	31.5%	54.9%	31.5%	54.9%
導入後のメンテナンス	導入後のメンテナンスが不安 ロボット介護機器等のメンテナンスに関するノウハウがない	69.4%	75.5%	69.4%	75.5%	69.4%	75.5%	69.4%	75.5%	69.4%	75.5%
その他	その他	54.8%	68.9%	54.8%	68.9%	54.8%	68.9%	54.8%	68.9%	54.8%	68.9%
合計	合計	38.7%	50.8%	38.7%	50.8%	38.7%	50.8%	38.7%	50.8%	38.7%	50.8%
その他	その他	33.5%	56.8%	33.5%	56.8%	33.5%	56.8%	33.5%	56.8%	33.5%	56.8%
その他	その他	34.7%	56.8%	34.7%	56.8%	34.7%	56.8%	34.7%	56.8%	34.7%	56.8%
その他	その他	40.7%	45.3%	40.7%	45.3%	40.7%	45.3%	40.7%	45.3%	40.7%	45.3%
その他	その他	40.0%	45.3%	40.0%	45.3%	40.0%	45.3%	40.0%	45.3%	40.0%	45.3%
その他	その他	40.0%	45.3%	40.0%	45.3%	40.0%	45.3%	40.0%	45.3%	40.0%	45.3%

22

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・⑤ロボット介護機器等の導入のプロセス

- ロボット介護機器等を既に導入している施設に対して、ロボット介護機器等を導入した理由を尋ねたところ、「職員の身体的な負担の軽減のため」が最多。その他については、「サービスの質の向上のため」や「職員の精神的な負担の軽減のため」が上位。

【ロボット介護機器等を導入した理由(MA)】

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
職員の身体的な負担の軽減のため	86.2%	76.4%	60.0%	60.0%	78.3%
サービスの質の向上のため	50.0%	43.1%	50.0%	46.7%	46.7%
職員の精神的な負担の軽減のため	39.7%	37.5%	50.0%	26.7%	36.8%
入居者・利用者の直接ケアの業務の効率化のため	31.0%	41.7%	0.0%	26.7%	34.9%
間接業務の効率化のため	22.4%	20.8%	100.0%	26.7%	23.0%
ロボット介護機器等に関心があつたため	20.7%	12.5%	0.0%	6.7%	14.5%
入居者・利用者の自立支援のため	19.0%	9.7%	0.0%	6.7%	14.5%
自法人の経営陣から導入の指示があつたため	3.4%	9.7%	0.0%	6.7%	6.0%
自法人の他事業所・本部等から勧められたため	3.4%	4.2%	0.0%	6.7%	3.9%
(購入した製品の)メーカーから勧められたため	3.4%	1.4%	50.0%	0.0%	2.0%
自法人の他施設でロボット介護機器等の導入を進めていたため	5.2%	0.0%	0.0%	6.7%	2.0%
その他	3.4%	15.3%	0.0%	6.7%	9.2%
無回答	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	1.3%

(注) 上位3項目については網掛け。

2. アンケート調査結果

(3) アンケート調査結果(職員票)・・・①職員(回答者)自身について

- 2020年10月の1か月あたりの平均勤務日数は20.8日、うち平均夜勤日数は3.1日(夜勤が発生していないケースを除くと4.2日)。
- 夜勤日数について、障害種別みると、精神障害では「0日」が7割以上と最多。

【2020年10月の1か月に勤務した日数(数値を記入)】

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
0日	0%	0%	77.6%	8.5%	24.9%
1～2日	15.4%	13.9%	77.6%	8.5%	24.9%
3～4日	11.4%	10.4%	2.0%	11.0%	9.1%
5日以上	33.3%	44.8%	8.8%	44.9%	36.0%
無回答	35.0%	25.1%	6.1%	31.4%	24.7%
合計	4.9%	5.9%	5.4%	4.2%	5.3%
平均	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
中央値	20.7日	21.0日	21.0日	20.1日	20.8日
標準偏差	21.0日	22.0日	22.0日	21.0日	21.0日

【2020年10月の1か月に勤務した日数のうち夜勤日数(数値を記入)】

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
0日	15.4%	13.9%	77.6%	8.5%	24.9%
1～2日	11.4%	10.4%	2.0%	11.0%	9.1%
3～4日	33.3%	44.8%	8.8%	44.9%	36.0%
5日以上	35.0%	25.1%	6.1%	31.4%	24.7%
無回答	4.9%	5.9%	5.4%	4.2%	5.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平均	3.5日	3.5日	0.9日	4.1日	3.1日
中央値	4.2日	4.1日	4.8日	4.5日	4.2日
標準偏差	4.0日	4.0日	4.0日	4.0日	4.0日
中央値(夜勤の日数)	4.0日	4.0日	4.0日	4.0日	4.0日

2. アンケート調査結果

(2) アンケート調査結果(施設票)・・・⑤ロボット介護機器等の導入のプロセス

- 今後、ロボット介護機器等の導入促進に向けて、国や自治体において実施すべきと考えられる取組みについて、全体では「導入するための資金助成制度の充実」「ロボット介護機器等自体に関する情報の提供」「他施設における介護機器等の好事例の情報提供」が上位。

【今後、ロボット介護機器等の導入促進に向けて、国や自治体において実施すべきと考えられる取組み(MA)】

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=885
導入するための資金助成制度の充実	73.7%	72.0%	54.9%	69.9%	67.9%
ロボット介護機器等自体に関する情報の提供	66.2%	67.0%	46.9%	67.6%	63.0%
他施設における介護機器等の好事例の情報提供	60.2%	67.0%	40.7%	67.6%	60.9%
導入判断における費用等の機会の充実	60.2%	61.2%	36.4%	55.1%	54.8%
ロボット介護機器等の導入を検討しようとするよう加算の新設	55.0%	51.2%	31.5%	57.4%	48.8%
(他施設に訪問する)身近な場所での展示会等の開催	48.1%	44.1%	31.5%	40.4%	41.4%
ロボット介護機器等の導入を検討しようとするよう人員配置基盤の見直し	35.3%	32.7%	24.1%	30.9%	31.0%
導入に関する身近な相談機関の設置	32.3%	29.2%	25.9%	28.7%	28.7%
開発メーカーとの情報交換ができる場の提供	28.6%	22.2%	14.8%	29.4%	22.8%
ロボット介護機器等の導入をリードするよう人材の育成	21.8%	22.4%	17.9%	31.6%	22.5%
その他	0.8%	0.2%	3.7%	2.9%	1.4%
無回答	5.3%	4.9%	19.8%	4.4%	8.1%

(注) 上位3項目については網掛け。

2. アンケート調査結果

(3) アンケート調査結果(職員票)・・・②施設の職員の業務

- 日勤時に身体に過度な負担がかかっている業務については、「入浴」が最多。以下、「排泄」、「乗・移動」が上位。
- 障害種別では、身体障害や知的障害、障害児で「入浴」が5割以上。

【日勤時に身体に過度な負担がかかっている業務(MA)】

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
入浴	67.5%	60.3%	3.4%	52.3%	50.1%
排泄	60.2%	49.6%	1.4%	39.0%	41.3%
乗・移動	65.0%	40.8%	0.7%	35.6%	37.2%
行動範囲への対応	13.8%	38.9%	5.4%	36.4%	28.5%
体位変換	34.1%	20.6%	1.4%	22.0%	20.0%
排泄・身体ケア等	13.0%	15.7%	0.7%	16.9%	13.0%
間接業務(利用者に関すること)	15.4%	14.4%	7.5%	11.9%	13.0%
社会生活支援	7.5%	13.3%	6.1%	8.5%	10.4%
姿勢保持	14.6%	10.1%	0.7%	11.9%	9.9%
安心・安全支援	9.8%	10.4%	4.8%	5.1%	8.7%
日常生活支援	4.9%	11.2%	4.1%	5.6%	7.9%
食事	6.5%	5.9%	0.6%	6.8%	5.4%
健康管理	4.9%	6.7%	2.7%	5.9%	5.4%
介護入浴・排泄支援(3:1介護対応)	5.7%	4.6%	2.0%	2.5%	3.9%
間接業務(職員や法人に依頼すること)	4.1%	4.8%	2.0%	3.4%	3.6%
機能訓練	1.6%	4.8%	0.7%	2.5%	3.1%
面談・苦情対応	4.1%	2.1%	1.0%	1.7%	2.2%
無回答	14.6%	20.6%	84.4%	25.4%	31.4%

(注) 上位3項目については網掛け。

2. アンケート調査結果

(3) アンケート調査結果(職員票)・・・②施設の職員の業務

- 夜勤時に身体に過度な負担がかかっている業務は「排泄」が最多。以下、「間接業務(利用者に関係すること)」「安心・安全対策」が上位。

【夜勤時に身体に過度な負担がかかっている業務(MA)】

	身体障害者 n=104	知的障害者 n=223	精神障害者 n=233	障害児 n=108	全体 n=620
排泄	43.6%	44.3%	61.1%	30.6%	41.0%
間接業務(利用者に関係すること)	32.7%	35.6%	9.1%	27.8%	32.9%
安心・安全対策	33.7%	31.0%	12.1%	16.7%	28.2%
清拭・身体整容等	23.1%	26.6%	6.1%	16.7%	24.0%
行動障害への対応	21.2%	28.2%	9.1%	17.6%	24.0%
健康管理	20.2%	22.0%	3.0%	13.0%	19.4%
食事	18.3%	20.1%	0.0%	15.7%	18.2%
情報入手・意思表明・コミュニケーション支援	21.2%	16.4%	9.1%	19.4%	17.6%
排泄・移動	25.0%	16.4%	3.0%	9.3%	16.0%
間接業務(職員や法人に關係すること)	11.5%	16.4%	9.1%	8.3%	13.7%
体位変換	22.1%	11.1%	3.0%	9.3%	12.4%
日常生活支援	4.8%	14.6%	6.1%	9.3%	11.9%
姿勢保持	6.7%	5.0%	3.0%	4.0%	4.8%
入浴	1.0%	7.1%	0.0%	2.8%	4.3%
面談・苦情対応	1.0%	3.1%	3.0%	4.6%	2.9%
社会生活支援	2.9%	2.2%	0.0%	4.6%	2.4%
機能訓練	1.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%
無回答	32.7%	28.8%	75.8%	33.3%	32.4%

(注) 上位3項目については網掛け。

2. アンケート調査結果

(3) アンケート調査結果(職員票)・・・②施設の職員の業務

- 夜勤時に精神的に強いストレスを感じながら実施している業務は、「行動障害への対応」が最多。以下、「安心・安全対策」「健康管理」等が上位。
- 障害種別では、身体障害者では「行動障害への対応」「安心・安全対策」、知的障害や障害児では「行動障害への対応」、精神障害では「安心・安全対策」がそれぞれ最多。

【夜勤時に精神的に強いストレスを感じながら実施している業務(MA)】

	身体障害者 n=104	知的障害者 n=223	精神障害者 n=233	障害児 n=108	全体 n=620
行動障害への対応	49.0%	63.5%	18.2%	46.3%	55.8%
安心・安全対策	49.0%	44.3%	30.3%	35.2%	42.9%
健康管理	26.9%	31.3%	9.1%	19.4%	27.3%
排せ	20.8%	29.1%	6.1%	11.1%	24.2%
間接業務(利用者に關係すること)	16.3%	18.6%	9.1%	13.9%	17.1%
情報入手・意思表明・コミュニケーション支援	14.4%	17.0%	6.1%	16.7%	16.3%
間接業務(職員や法人に關係すること)	10.6%	10.5%	3.0%	6.5%	10.0%
面談・苦情対応	13.5%	9.3%	9.1%	8.3%	9.8%
食事	3.8%	9.6%	0.0%	9.3%	7.7%
体位変換	12.5%	5.0%	0.0%	3.7%	6.0%
排泄・移動	5.8%	8.7%	3.0%	3.7%	6.0%
日常生活支援	8.7%	7.4%	3.0%	1.9%	6.3%
姿勢保持	4.8%	5.3%	6.1%	0.0%	4.2%
入浴	2.9%	3.1%	3.0%	0.0%	2.6%
社会生活支援	2.9%	1.5%	0.0%	0.0%	1.5%
機能訓練	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
無回答	1.9%	0.6%	0.0%	0.9%	1.0%
	25.0%	22.3%	60.0%	33.3%	26.0%

(注) 上位3項目については網掛け。

2. アンケート調査結果

(3) アンケート調査結果(職員票)・・・②施設の職員の業務

- 日勤時に精神的に強いストレスを感じながら実施している業務は、「行動障害への対応」が最多。以下、「面談・苦情対応」「安心・安全対策」等が上位。

【日勤時に精神的に強いストレスを感じながら実施している業務(MA)】

	身体障害者 n=123	知的障害者 n=275	精神障害者 n=147	障害児 n=118	全体 n=563
行動障害への対応	59.3%	70.1%	20.4%	61.9%	58.1%
面談・苦情対応	35.8%	36.0%	22.4%	41.5%	34.7%
安心・安全対策	39.0%	38.9%	17.0%	28.0%	33.3%
健康管理	29.3%	32.8%	7.5%	28.0%	27.1%
情報入手・意思表明・コミュニケーション支援	35.0%	29.6%	13.6%	20.3%	26.3%
排泄	30.9%	30.7%	2.7%	16.9%	23.8%
間接業務(利用者に關係すること)	26.8%	25.1%	11.6%	17.8%	21.7%
入浴	22.8%	21.9%	2.0%	16.1%	17.7%
間接業務(職員や法人に關係すること)	22.0%	19.2%	8.8%	15.2%	17.6%
食事	22.8%	20.8%	1.4%	16.1%	16.9%
日常生活支援	18.7%	17.1%	8.2%	5.1%	13.9%
社会生活支援	13.0%	16.0%	0.7%	6.8%	11.0%
排泄・移動	12.2%	11.2%	0.0%	8.3%	9.1%
清拭・身体整容等	8.9%	8.5%	0.0%	7.0%	7.3%
姿勢保持	8.9%	4.3%	0.0%	6.5%	4.0%
入浴	3.3%	2.4%	0.7%	1.7%	2.3%
社会生活支援	2.4%	2.1%	0.7%	1.7%	1.8%
機能訓練	10.6%	15.5%	55.8%	16.1%	22.4%
無回答					

(注) 上位3項目については網掛け。

2. アンケート調査結果

(3) アンケート調査結果(職員票)・・・③ロボット介護機器等の導入の現状

- ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題等は全体の約7割が「ある」と回答。「ある」と回答した職員に対して、具体的な懸念点や課題等をたずねると、「入所者の状態の個別性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい」が最多。以下、「ロボット介護機器等の導入等に係るインシヤルコストが高額」や「どのようなロボット介護機器等があるのか知らない」等が上位。

【(ロボット介護機器等の導入・活用にに関する)具体的な懸念点や課題等(MA)】

中分類	身体障害者 n=88	知的障害者 n=279	精神障害者 n=59	障害児 n=86	全体 n=572
業務プロセスの変更	64.3%	66.5%	62.7%	73.3%	67.3%
導入・管理費用	67.3%	62.7%	64.4%	65.1%	64.3%
ロボット介護機器等の導入	61.2%	67.4%	56.8%	58.1%	62.9%
施設内で業務がメンテナンス等を行わない	57.1%	63.8%	67.8%	62.9%	62.9%
導入・管理費用	60.2%	59.1%	57.6%	58.1%	59.3%
その他	54.1%	54.5%	42.4%	46.5%	52.1%
入所者ごとのロボット介護機器等の導入・運用が各専門家に限られていない	41.8%	53.8%	57.6%	47.7%	51.2%
施設内にロボット介護機器等の導入に関する懸念点や課題を話し合えない	44.9%	48.0%	56.8%	52.3%	48.8%
ロボット介護機器等の導入・運用が各専門家に限られていない	45.9%	50.9%	45.8%	52.3%	48.0%
ロボット介護機器等の導入・運用が各専門家に限られていない	42.9%	48.0%	49.2%	45.3%	47.2%
ケア計画に連携して活用した、導入の効果がでない	41.8%	51.3%	40.7%	44.2%	47.0%
ケア計画に連携して活用した、導入の効果がでない	27.6%	41.2%	37.3%	47.7%	40.0%
導入後のメンテナンス費用が不明	38.8%	36.6%	33.9%	44.2%	37.8%
導入後のメンテナンス費用が不明	35.7%	34.1%	33.9%	24.4%	33.9%
導入後のメンテナンス費用が不明	21.4%	28.0%	33.9%	31.4%	28.3%
導入後のメンテナンス費用が不明	18.4%	26.9%	49.2%	30.2%	28.1%
導入後のメンテナンス費用が不明	25.5%	22.2%	13.0%	18.0%	21.2%
導入後のメンテナンス費用が不明	30.6%	17.9%	11.9%	11.9%	19.9%
導入後のメンテナンス費用が不明	23.5%	16.5%	11.9%	11.9%	17.1%
導入後のメンテナンス費用が不明	18.4%	14.3%	16.9%	12.8%	15.0%
その他	3.1%	3.2%	5.1%	3.2%	3.8%
無回答	0.0%	0.7%	1.7%	0.0%	0.5%

(注) 上位5項目については網掛け。

3. ヒアリング調査結果

(1) ヒアリング調査の実施概要

(2) ヒアリング調査から得られたポイント

32

3. ヒアリング調査結果

(2) ヒアリング調査から得られたポイント

項目	ポイント
導入の背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数の施設において、入浴や移乗、コミュニケーションにあたっての職員の身体的負担が重く、その負担を軽減することが目的。 ● 一般では事業所としての支援の理念(「普通の生活を提供する(湯船につかる)」)を達成することを目的。 ● 施設内の委員会組織による導入推進や職員間で試行しながら使用マニュアルを策定する事例。 ● 他方、施設長等のリーダーシップのみによって導入を進めた事例も複数。 ● 「最初はロボット介護機器について懐疑的だったが、活用していくうちに徐々に慣れてきた」という意見もあり。 ● 職員の身体的負担が軽減され、また利用者も機器の使用によって安心して支援を受けることができているとのこと。 ● 施設内システムについては、十分にシステムの機能を職員や利用者が使いこなさきれてないという課題もあり。
ロボット介護機器導入の効果・成果・機器に対する評価等	

34

3. ヒアリング調査結果

(1) ヒアリング調査の実施概要

- 前述のアンケート調査(施設票)等において、ロボット介護機器等の導入実績があると回答した施設(7施設)に対して、オンラインによるインタビューを実施。
- 実施時期は2021年1月～2021年2月。

ヒアリング先	支援対象としている主な障害種別	ロボット介護機器の分野
社会福祉法人ありのまま舎	身体障害、知的障害	移乗支援
社会福祉法人西福祉会	身体障害	入浴支援
社会福祉法人横浜共生会	知的障害	入浴支援
社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会	身体障害(聴覚)	入浴支援 サイネージシステム
社会福祉法人秋田県民生協会	知的障害	見守り支援
社会福祉法人クローバー会	知的障害	移乗支援
社会福祉法人京都総合福祉協会	知的障害	排泄支援

33

3. ヒアリング調査結果

(2) ヒアリング調査から得られたポイント

項目	ポイント
ロボット介護機器の導入に向けて重要と考える点	<ul style="list-style-type: none"> ● 展示会見学や業者との定期的なコンタクトによって、ロボット介護機器の実物に触れておくことや、機会をみながら試行的に導入してみることの重要性を指摘。 ● 多職種の職員で合意を取りながら、自施設の課題を踏まえて導入していくことの重要性。 ● 手間がより簡便で、使いやすい機器開発を望む意見。 ● 活用しやすい補助金制度等や、ロボット介護機器の利用を促す加算の整備を要望する意見。 ● 現行のロボット介護機器が身体的な「支援」に偏っており、災害時を含めた情報伝達やコミュニケーションを支援する機器の開発についても重点的に推進する必要性。
今後求める政策や開発ニーズ	

35

4. 調査結果からわかったポイント

(1) 障害者支援施設における業務実態と業務負担感

- 入浴、排泄、移動、移乗等の支援業務に多くの時間を費やし身体的な負担が大きい。また、間接業務にも多くの時間が費やされている。
- 職員への暴行・暴言等といった「行動障害への対応」が、職員にとって精神的な負担感の大きい業務であることも明らかになった。
- ただし、「行動障害への対応」については効率化や負担軽減を図る余地が大きい業務と考える施設は少ない。
- 日勤時の業務負担と夜勤の業務負担を比較すると、負担となっている業務がやや異なっており、特に夜勤では、安心・安全対策や排泄といった業務が職員にとって負担が大きくなっていく点特徴的。

36

4. 調査結果からわかったポイント

(3) 障害者支援施設におけるロボット介護機器等の導入阻害要因について

- 身体障害の施設ではロボット介護機器等を導入している施設が比較的多かったのに対し、精神障害の施設ではほとんど導入していないことが明らかとなった。
- 導入していない施設の5割が今後も「導入予定なし」と回答していると回答する一方で、6割の施設がロボット介護機器等の「関心があり」と回答しており、関心はあるものの、導入するまでには至らないと考える施設が多いと推察される。
- ロボット介護機器等の導入に懸念点や課題点等については、多くの懸念点・課題について機器を導入している施設における回答割合が小さい。
- ただし、一部の課題（業務やケアの方法の変更にかかる負担や、操作や取り回しの煩雑さに関する課題）については、両者で大きな違いがなく、ロボット介護機器等を導入した場合であってもこうした課題は残るものと考えられる。



38

4. 調査結果からわかったポイント

(2) 障害者支援施設におけるロボット介護機器等の導入可能性について

- 主として間接業務に役立つ機器については、障害種別を問わず、活用可能性があるとの回答割合が大きい。
- その他、ウェアラブル端末等の健康管理や、見守りセンサー等の安心・安全対策に関連する介護ロボット機器等も一定の割合で活用可能性があると回答がみられる。
- とりわけ、身体的負担が大きい身体障害や知的障害の施設では、幅広い種類のロボット介護機器等で「活用の可能性がある」との回答が多い。
- 現在、高齢者分野で活用されている一部の介護ロボット機器については、障害者支援分野についても、活用の可能性が十分にありと見られ、開発側にとっても市場拡大の余地が残されていると推察される。
- 他方、精神障害へのロボット介護機器の導入については、コミュニケーションロボットのデバイス等への活用は一定程度みられるのではないかと推察される。



37

5. まとめ(今後の開発・普及に向けた提言)

(1) 今後の開発に向けたポイントについて

1. 障害種別のニーズや課題を踏まえた開発の推進
 - 障害種別のニーズや課題に対応した形で、新たなロボット介護機器を開発していくことが必要。
2. 精神障害の施設における業務負担等に対応した開発の推進
 - コミュニケーションや安心・安全といった業務にかかる精神的な負担は大きいものと考えられ、当該業務への負担に対応した機器等の開発を進めることが必要。
3. コロナ禍のニーズに対応したロボット介護機器等の開発の推進
 - 「with コロナ」時代の障害者施設の業務負担を踏まえた、ロボット介護機器等の開発の推進。
 - 「Afterコロナ」時代も見据えたコミュニケーション機器や非接触型技術を活用した機器の開発などを進めることが必要。

39

5. まとめ(今後の開発・普及に向けた提言)

(2) 今後の普及に向けたポイントについて

1. 高齢者分野で活用されるロボット介護機器等の活用可能性の検討
 - 身体介護にかかると業務負担の大きい施設においては、高齢者分野で既に実用化されているロボット介護機器の活用について検討を進めていくことが重要。
 - 行政等においては導入に向けた経済的な補助・助成に加え、高齢者分野で活用されている機器に関する情報提供なども同時に進めていくことも必要。
2. ロボット介護機器等導入の成功事例を活かした取組みの推進
 - 一部の業務(排泄・移動・移乗等)は、既に高齢者福祉分野において、ロボット介護機器等の導入が積極的に進められている領域。高齢者福祉分野における成功事例を活かすことで、導入を促進することが可能。
 - ロボット介護機器等と入所者・利用者との適合、利用者・家族への同意取得、施設内での合意形成や施設内委員会の設置による活用方法の習熟など、高齢者福祉分野におけるノウハウを障害者支援施設へ移転していくような普及啓発の取組みが有効。

40

本調査に関する報告書及び概要版につきましては、弊社ホームページに掲載しています。ご関心のある方は、是非クリックして頂けたらと存じます。

弊社ホームページ (<https://www.yokohama-ri.co.jp/>)

「トップページ」→「受託調査・研究」→「受託・国庫補助事業」
厚生労働省「令和2年度障害者総合福祉推進事業」(ロボット等を活用した障害者支援手法の開発に向けた調査研究事業)
概要版: https://www.yokohama-ri.co.jp/shogai_bunya2020/pdf/hokoku_gaiyo.pdf
報告書: https://www.yokohama-ri.co.jp/shogai_bunya2020/pdf/hokoku.pdf

※なお、本調査の前身となっている「障害者支援施設に対して、ヒアリング調査を通じて現状における負担の大きい業務を洗い出し、当該業務と具体的なロボット介護機器との紐付けを試行した」調査研究も掲載しています。(下記参照)

厚生労働省「令和元年度障害者総合福祉推進事業」(障害分野におけるロボット等の導入促進に向けた調査研究事業)

概要版: https://www.yokohama-ri.co.jp/shogai_bunya2019/pdf/hokoku_gaiyo.pdf

報告書: https://www.yokohama-ri.co.jp/shogai_bunya2019/pdf/hokoku.pdf

本日の講演に関するご意見・ご質問等がありましたら、下記にご連絡ください。

【連絡先】

株式会社兵衛総合研究所 地域戦略研究部 副主任研究員 加藤 善崇

電話番号:045-225-2372

メールアドレス: yt-kato@yokohama-ri.co.jp

42

5. まとめ(今後の開発・普及に向けた提言)

(2) 今後の普及に向けたポイントについて

3. 導入時の意思決定における現場職員の意見やニーズ把握の必要性
- ロボット介護機器の導入後に実際に機器を活用するのは現場職員であることから、導入を決定する際には現場職員の意見を聴取することが重要。
4. 利用者本人に対する倫理面での配慮の必要性
 - 機器の活用においては本人の同意や意向の把握も必要。本人の同意取得や意思決定支援のあり方、倫理面の配慮をどのように行うかといった点について検討することが必要。
5. ロボット介護機器等を踏まえた業務モデルやケアモデルの確立の必要性
 - ロボット介護機器を導入している施設等を対象とした調査研究を行い、ロボット介護機器を活用した業務やケアの方法論についてモデルケースを確立し、その知見の横展開を図ることが必要。
6. その他
 - コスト面に関する課題対応や機器メンテナンスのあり方についても検討することが重要。

41

ご清聴ありがとうございました。

43

Afresh あなたに、あたらしく。



横浜銀行グループ

浜銀総合研究所

みんなであらう！

障害者自立支援機器 シーズ・ニーズマッチング交流会2021

作る人と使う人の交流

Webを活用した交流の進め方

公益財団法人テクノエイト協会
企画部 宇田川 竜吾

目的

シーズ・ニーズマッチング交流会は、障害当事者の方々をはじめとするユーザー側が持つ『ニーズ』と開発側が持つ『シーズ』のマッチングを目的とし、ユーザーのニーズに沿った実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて想定するユーザーと開発側が意見交換できる場を設けるものです。

対象者

ニーズ側 障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉従事者等

シーズ側 開発メーカー、産業界団体、行政、新規参入を検討する企業・研究者、大学関係者、研究機関等

内容

- ・交流会の目的、出展者情報
- ・交流の流れ
- ・交流方法
- ・Web交流プラットフォームの紹介
- ・併催セミナーの視聴について
- ・東京会場のご案内

出展者情報

出展企業等(70社)

- ◆ 身体障害(肢体不自由)
- ◆ 視覚障害
- ◆ 聴覚障害
- ◆ 高次脳機能障害(失語症等)
- ◆ 知的障害
- ◆ 精神障害(発達障害を含む)
- ◆ 障害児(身体・知的・精神)
- ◆ その他

開発支援に係る団体(5団体)

- ◆ 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
- ◆ 国立研究開発法人 情報通信研究機構(NICT)
- ◆ 国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)
- ◆ 厚生労働省
- ◆ テクノエイト協会(ATA)

障害当事者団体(9社)

- ◆ 日本視覚障害者団体連合
- ◆ 全国脊髄損傷者連合会
- ◆ 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
- ◆ 日本ALS協会
- ◆ ポリオの会
- ◆ 日本身体障害者団体連合会
- ◆ 日本失語症協議会
- ◆ 全国盲ろう者協会
- ◆ ASD(自閉スペクトラム症)生活環境研究会

交流の流れ

1. シーズ・ニーズマッチング交流会2021 Web交流プラットフォームにアクセスします。(事前登録不要)
2. 交流したい出展企業や当事者団体・開発支援団体を画面上から確認します。
3. 出展機器又は企業・団体名をクリックすると各詳細ページに切り替わります。
4. 詳細ページ内の「出展者情報」より出展者情報・出展機器の紹介動画を視聴することができます。合わせて、交流したい内容もご確認ください。
5. 『問合せする』もしくは『投稿する』より出展者と意見交換を行えます。

交流方法

② 掲示板

この団体・機関等について、新しく投稿する (掲示板)		
どういった方が利用対象となりますか？	利用規約に違反している投稿は、右のリンクから報告することができます。	不要切利用を通知
販売される予定はあるのでしょうか？	利用規約に違反している投稿は、右のリンクから報告することができます。	不要切利用を通知

来場者がオープン(来場者に公開)で出展者と交流を行いたい場合に使用します。匿名でも投稿は可能で、投稿内容は蓄積されてきます。出展者は出展機器に関する「情報発信」、「告知」にも使用します。

交流方法

2つの交流方法
「問合せする」又は「掲示板」を使って交流を行う。

① 問合せフォーム



来場者が1対1で個別に出展者と交流を行いたい場合に使用します。問合せフォームの問い合わせ種別から電話やオンラインで交流等、交流内容を選択することができます。

- ・Web交流プラットフォームの紹介
- ・併催セミナーの視聴について

東京会場のご案内

【日時】 令和3年12月 7日(火) 9:00~17:00
令和3年12月 8日(水) 9:00~17:00

【会場】 東京都立産業貿易センター浜松町館 2階展示室
〒105-7501 東京都港区海岸1-7-1
最寄り駅 JR「浜松町駅」、ゆりかもめ「竹芝駅」、都営地下鉄「大門駅」

併催セミナー情報(会場及びオンラインにて配信予定)

◆ 基調講演 『障害者の自己決定』

◆ 特別イベント

福祉機器の利用事例とニーズの発信

開発促進事業の成果報告

失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器

出展企業による福祉機器開発の現状報告

ワークショップ

開発改良中の機器展示、体験しながら
ニーズとニーズの交流を行います。



東京都立産業貿易センター浜松町館

The Association for Technical Aids(ATA)

ご清聴ありがとうございました

公益財団法人テクノエイド協会
企画部 宇田川 竜吾

The Association for Technical Aids(ATA)

10



障害者自立支援機器

シーズ・ニーズマッチング 交流会2021

みんなで
考えよう!

入場無料
入退場自由

作る人と使う人の交流会

Web開催

令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月)
10:00～17:00
テクノエイド協会 Web交流プラットフォーム

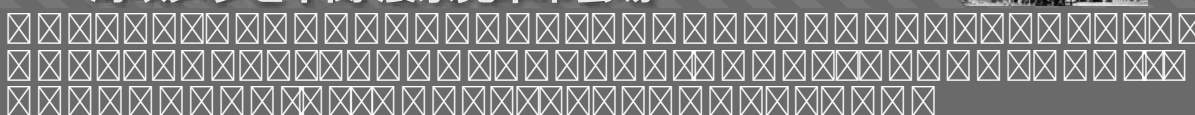


山口開催

令和3年10月9日(土)・10日(日)
10:30～17:00 / 9:00～17:00
—海峽メッセ下関 展示見本市会場—



開催方法変更
しました



東京開催

令和3年12月7日(火)・8日(水)
9:00～17:00 / 9:00～17:00
東京都立産業貿易センター浜松町館 2階展示室



Web開催
イベント内容

Web上による開発企業及び支援機器の紹介動画の発信、掲示板やオンラインによる意見交換の実施

山口・東京開催
イベント内容

支援機器の展示・相談、デモンストレーション、意見交換の実施

【併催イベント内容】※会場およびオンラインにて配信予定です。

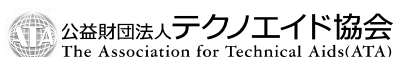
- ・基調講演
- ・福祉機器の利用事例とニーズの発信
- ・福祉機器の開発状況について
- ・令和3年度 障害者自立支援機器等開発促進事業 成果報告
- ・障害分野におけるロボット技術の活用に関する研究報告
- ・ワークショップ 他



対象者

ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉従事者等

シーズ側：開発メーカー、産業振興団体、行政、新規参入を検討する企業・研究者、大学関係者、研究機関等



本事業は「令和3年度 シーズ・ニーズマッチング強化事業」の一環で行うものです。

シーズ・ニーズマッチング 交流会2021

みんなであ
考えよう!

入場無料
入退場自由

作る人と使う人の交流会

Web開催

令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月) 9:00～17:00

テクノエイド協会Web交流プラットフォーム

<http://www.techno-aids.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20>



山口会場

令和3年10月9日(土)・10日(日) 講演開始 11:00～16:20 / 10:00～16:00

海峡メッセ下関展示見本市会場

開催方法
変更
しました

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。
併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。
出展企業等の交流は、Web交流プラットフォームを活用してください。

東京会場

令和3年12月7日(火)・8日(水) 9:00～17:00 / 9:00～17:00

東京都立産業貿易センター浜松町館 2 階展示室

Webコンテンツの紹介と交流方法

本誌P.5をご参照ください。

※オンラインによる交流は令和4年1月31日(月)までとさせていただきます。

併催セミナープログラム

出展機器

本誌P.3,4をご参照ください。

本誌P.11～30をご参照ください。

Web交流やセミナー視聴に関する問い合わせ

シーズ・ニーズマッチング交流会2021事務局

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 宇田川・根石・五島

受付時間：平日8時～12時、13時～16時

TEL:03(3266)6883 メールアドレス:shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

新型コロナウイルスの影響により勤務時間を8時～16時とし、在宅・在勤の交代制とさせて頂いております。

※最新版は、
協会ホームページを
ご確認ください。

202109-ver03

シーズ・ニーズマッチング 交流会2021

みんなであ
考えよう!

入場無料
入退場自由

作る人と使う人の交流会

Web 開催 令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月)

9:00～17:00

テクノエイド協会Web交流プラットフォーム

山口 会場 令和3年10月9日(土)・10日(日)

海峡メッセ下関展示見本市会場 講演開始 11:00～16:20 / 10:00～16:00

開催方法
変更
しました

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することと致しました。
併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。
出展企業等の交流は、Web交流プラットフォームを活用してください。

東京 会場 令和3年12月7日(火)・8日(水)

9:00～17:00 / 9:00～17:00

東京都立産業貿易センター浜松町館 2 階展示室

来場される方は、事前登録にご協力ください。近日、当協会のホームページ上に事前登録の窓口を設置します。
新型コロナウイルス感染症を予防するため、体温測定及びマスクの着用、密を避けるための配慮等にご協力ください。

Web開催イベント内容

Web上で、開発企業や障害当事者の全国組織、
開発支援機関等と交流が行えます
常時及び定期的にセミナーを配信します
(事前登録不要・無料・入退場自由)

山口・東京会場イベント内容

会場では、開発改良中の展示、体験しながらシー
ズとニーズの交流を深めます
会場から基調講演や特別シンポジウム、事例発表
などセミナーを配信します (無料・入退場自由)

対象者

ニーズ側 障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉従事者等

シーズ側 開発メーカー、産業振興団体、行政、新規参入を検討する企業・研究者、大学関係者、研究機関等

Web交流
プラットフォーム



ATA 公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

本事業は「令和3年度 シーズ・ニーズマッチング強化事業」の一環で行うものです。

詳しくはテクノエイド協会 Web交流プラットフォームまで

<http://www.techno-aids.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20>

例年、東京、大阪、福岡の3会場にて開催しておりますシーズ・ニーズ・マツチング交流会ですが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、今年もWebによる開発企業及び支援機器の紹介動画の発信や

Web開催

令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月) 9:00～17:00

テクノエイド協会 Web 交流プラットフォーム

<http://www.techno-aids.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20>



Web開催イベント内容 プログラムはP.3をご確認ください。

Web上で、問い合わせフォームや掲示板を利用して、開発企業や障害当事者の全国組織、開発支援機関等と交流が行えます。毎月新しいセミナーを配信します。(無料・入退室自由)

- 常時配信
 - ・ Webを活用した交流の進め方
 - ・ 自立支援機器開発における現状と課題
- 定時配信 (毎月更新)
 - ・ 視覚・聴覚障害者支援機器への期待
 - ・ 3Dプリンターで造る自助具とリハビリ器具の可能性

※) 視聴(参加)には、別途事前申し込みが必要となります。詳しくは協会ホームページをご確認ください。

山口会場

令和3年10月9日(土)～10日(日) 講演開始 11:00～16:20/10:00～16:00

海峡メッセ下関 展示見本市会場

JR下関駅「徒歩7分」下関駅よりバス停「豊前田」下車徒歩2分

山口会場イベント内容 プログラムはP.3～P.4をご確認ください。

開発改良中の展示、体験しながらシーズとニーズの交流を深めます。会場から基調講演や特別イベント、事例発表などのセミナーを配信します。(無料・入退室自由)

- 基調講演
 - ・ ロボット技術を活用した福祉機器の開発について
- 特別イベント
 - ・ 日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会の開催にあたり
 - ・ 支援機器開発ワークショップ*

■ 併催セミナーをオンライン視聴

それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。



<https://us06web.zoom.us/j/86133851012>

東京会場

※事前登録にご協力ください

令和3年12月7日(火)～8日(水) 9:00～17:00/9:00～17:00

東京都立産業貿易センター浜松町館 2階展示室

ゆりかもめ「竹芝駅」西口より徒歩2分/JR「浜松町駅」北口より徒歩5分
東京モノレール「浜松町駅」北口より徒歩5分/都営地下鉄「大門駅」B2 出口より徒歩7分

東京会場イベント内容 プログラムはP.4をご確認ください。

開発改良中の展示、体験しながらシーズとニーズの交流を深めます。会場から基調講演や特別イベント、事例発表などのセミナーを配信します。(無料・入退室自由)

- 基調講演
 - ・ 開発促進事業の成果報告
 - ・ 失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器
 - ・ 出展企業による福祉機器開発の現状報告
 - ・ ワークショップ*
- 併催セミナーをオンライン視聴 (無料・入退室自由)



<https://us06web.zoom.us/j/89473466124>

企画展示コーナーの設置

〇テーマ 機械ではなく機会の創出、日常生活を快適に!
〇内容 障害者のコミュニケーションに役立つ機器や技術、サービスを提供している企業が参

集し、コミュニケーションが困難な利用者の新型コロナウイルスの感染拡大により、株式会社アリアフアックス・フワードシステム(業務支援)

〇展示方法 併催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトから変更を行いました。(60分)会場及びウェビナーにてオンライン配信

・株式会社エンファシス 出展企業等の交流は、Web 交流プラットフォームを活用してください。

・システムデザインラボ

・HOYA株式会社

他

特別シンポジウム

〇テーマ 「好事例表彰の受賞とその後」
〇内容 平成30年度、好事例表彰を受賞した3社を会場にお呼びし、表彰の内容と表彰後の

活動などについて、ご報告

〇実施 10月9日(土)、10日(日)

・株式会社アリアフアックス・フワードシステム(業務支援)

・有限会社あい工房(移動支援)

・株式会社アリアフアックス・フワードシステム(業務支援)

・ライフスペース研究所(移動支援)

・九工大学生すく創る会(歩行支援)

・秋田未来(座位バランス測定)

・VIXION株式会社(視覚支援)

・ユニコーン株式会社(コミュニケーション支援)

・高橋留置 氏

・有限会社オフィス結アシア

・大興スリ 氏

・かえるキッズのお助け隊

・佐藤美田紀 氏

・NPO法人Carieほっかいどう

併催セミナープログラム

シリーズ・ニーズマツチング交流会2021
作る人と使う人の交流会

Web 開催

令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月)(4ヶ月間)
9:00～17:00

Web 交流プラットフォームを活用し、
期間中は常時交流が可能です。

併催セミナーは毎月更新いたします。

<http://www.techno-aids.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20>



1. シーズ・ニーズマツチング交流会の裏側 (Web を活用した交流の進め方)
テクノAIDS協会 宇田川電吾

2. 自立支援機器における現状と課題
厚生労働省社会・援護局障害福祉部企画課 自立支援振興室
福祉工学専門官 田上未来 氏

3. 支援機器の効果に関する西太平洋地域会議の参加報告
～支援機器の利活用に関する世界規模で取り組むべき課題について～
一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会

特別講演
10月1日～10月31日 配信予定 (各20分)
1. 視覚・聴覚障害者用支援機器への期待
筑波大学保健医療科学部情報システム学科学科 准教授 小林 真 先生

2. 厚生労働省 支援機器の開発・普及に関する調査研究事業報告①
[障害者の支援機器開発における医療・福祉・工学分野の人材育成モデル構築に関する研究]
(厚生労働科学研究費 障害者政策総合研究事業)
東北大学大学院工学研究科 教授 出江紳一 氏

3. 障害者自立支援機器開発促進事業
厚生労働省社会・援護局障害福祉部企画課 自立支援振興室
福祉工学専門官 田上未来 氏

特別講演
11月1日～11月30日 配信予定 (各20分)
4. 3Dプリンターで造る自立具とリハビリ器具の可能性
工務 SERA 代表 福住義章 氏

5. 厚生労働省 支援機器の開発・普及に関する調査研究事業報告②
[障害者の支援機器開発におけるモニター評価手法の開発及びモニター評価を実施する人材の育成プログラムの開発のための研究] (厚生労働科学研究費 障害者政策総合研究事業)
東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授 二瓶美里 氏

6. NEDO 福祉事業のご紹介 ～福祉用具実用化開発の支援～
NEDO イノベーション推進部 主幹 只野 肇 氏

特別講演
12月1日～12月28日 配信予定 (各20分)
7. 意思伝達装置の利用にあたり
中部学院大学 看護リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 井村 保 先生

8. 厚生労働省 支援機器の開発・普及に関する調査研究事業報告③
[リハビリテーション機器開発等が支援機器の適切な選定・導入運用時に用いるガイドラインの開発]
(厚生労働行政推進調査事業費)

9. 情報バリアフリー推進・放送送受信機・開発推進補助金制度のご案内
NICT 情報バリアフリー推進室 室長 齋田二郎 氏

特別講演
1月4日～1月31日 配信予定 (各20分)
10. 活動行動圏を広げよう
日本医療科学大学 保健医療科学部リハビリテーション学科 教授 小林 敏 氏

11. 厚生労働省 支援機器の開発・普及に関する調査研究事業報告④
[「真のニーズに基づいた支援機器の事業化・普及に関する出口を想定した開発プロセスに関する調査研究」(障害者総合福祉事業)]
一般社団法人 臨床工学情報学コンソーシアム関西 上席研究員 八木雅和 氏

12. JST の産学連携事業と福祉機器開発事例
JST 企業支援室 下田 修 氏

山口 会場

令和3年10月9日(土)～10日(日)(2日間)
講演開始 11:00～16:20 / 10:00～16:00

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することとなりました。併催セミナーはオンラインでの開催に切り替え開催いたします。視聴サイトや視聴方法については後日、交流会サイトに掲載しますので是非ご視聴ください。



オンラインでも視聴
(<https://us06web.zoom.us/j/86133851012>)

AM それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。

特別講演
1. 11:00-12:00 (60分)
「歩行ロボット技術を活用した福祉機器の開発」
国立大学法人 名古屋工業大学 教授 佐野明人 先生

PM
2. 12:10-12:30 (20分)
日本ロボットリハビリテーション ショーン・ケア研究大会の開催にあたり
代表世話人 昭和病院 田中 恩 氏
※ 3. 13:30-14:30 (60分)
(セミナー) バイオデザイン手法の紹介 原 陽介 先生
株式会社ライフトゥワイ代表 取締役(医師) 加藤善義 氏

4. 14:40-15:10 (30分)
つながら、たのしみ、相線で さる スマホでつむぐ重症児支援の未来
一般社団法人オンライン臨床 ひいどろ 代表 代表理事
言語聴覚士 長岡菜都子 氏

特別講演
5. 15:20-16:20 (30分)
特別セッション「好事例表 影の受賞とその後」
NPO 法人「Careはっかいどう 佐藤美由紀 氏
かえるキッズのおおつけ隊 大泉 あり 氏
高橋宣盟 氏
有限会社オオフィス結アジア

AM
6. 10:00-11:00 (30分×2着)
福祉機器の利用と開発の状況 報告
日本ALS協会 岸川由美 氏
九州工業大学 学生団体 すぐ 創る課 山崎 駆 氏

7. 11:10-11:40 (30分)
障害分野におけるロボット技術の活用に関する研究報告
株式会社浜越総合研究所 地域 戦略研究部 加藤善義 氏

PM
◎ 13:00-16:00
事務局長より
OWebプラットフォームの活用方法の紹介など
の配信と今月の定時配信の内容をリアルタイム配信
公財財団法人テクノAIDS 協会

※ 8. 13:00-16:00 (180分)
(ワークショップ) バイオデザイン手法を活用した支援機器開発手法を学ぶ
株式会社ライフトゥワイ代表 取締役(医師) 原 陽介 先生
東京大学医学部附属病院内臓外科特任研究員(理学療法士) 柳花隆昭 先生

東京会場

令和3年12月7日(火)～8日(水)(2日間)
9:00～17:00 / 9:00～17:00

東京都立産業貿易センター浜松町館 2階展示室
〒105-7501 東京都港区海岸 1-7-1

ゆりかもめ「竹芝駅」西口より徒歩2分
JR「浜松町駅」北口より徒歩5分
東京モノレール「浜松町駅」北口より徒歩5分
都営地下鉄「大門駅」B2出口より徒歩7分

※重い車でお越しの方は、ゆりかもめ「竹芝駅」をご利用ください。

オンラインでも視聴
(<https://us06web.zoom.us/j/89473466124>)

AM それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。

特別講演
1. 11:00-12:00 (60分)
「障害者の自己決定」
土屋薬研特別研究員 元厚生労働省障害福祉課長 元宮城川知事 浅野史郎 先生

PM
2. 13:00-14:00 (30分×2着)
福祉機器の利用事例とニーズの発掘
全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 小川光彦 氏
日本視覚障害者団体連合 遠坂 忠 氏

3. 15:00-16:00 (20分×3着)
厚生労働省「障害者開発促進事業・探検企業」による成果報告①
細野俊彰型視覚支援機器の開発
AI制御による表現豊かに歌える歌唱型人工喉頭の開発
株式会社電制 株式会社 藤田純己 氏
障がい児用チャーターチェア の開発
タカノ株式会社

AM
4. 10:00-11:00 (30分×2着)
出版企業による福祉機器開発の現状報告
国立大学法人 大阪大学 横田純己 氏
株式会社オオフィス結アジア 宇田川電吾 氏

5. 11:10-11:40 (30分)
失語症のリハビリテーションに役立つ変換機器(仮称)
一般社団法人日本語聴覚士協会 白波瀬元通 氏

PM
6. 12:30- (20分×3着)
厚生労働省「障害者開発促進事業・探検企業」による成果報告②
聴覚視覚発語刺激に対応した言語支援アプリケーションの開発
システム株式会社
座位バランスの定量的評価と効果的トレーニングを可能にする
「The (座位)・balance trainer」の開発
学校法人藤田医科大学
社会福祉法人兵庫興産社福祉事業団

※ 7. 14:00-17:00 (180分)
(ワークショップ) バイオデザイン手法を活用した支援機器開発手法を学ぶ
株式会社ライフトゥワイ代表取締役(医師) 原 陽介 先生
東京大学医学部附属病院内臓外科特任研究員(理学療法士) 柳花隆昭 先生

※) 視聴(参加)には、別途事前申し込みが必要となります。詳しくは協会ホームページをご確認ください。

Webコンテンツの紹介と交流方法

Web 交流プラットフォーム

令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月) 9:00～17:00

■ 出展機器を調べたり、交流したい企業等を探ることができます。
<http://www.techno-aid.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20>

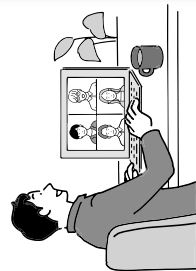
出展企業等と交流

ここでは、出展企業を検索し交流することができます。

「会場」、「カテゴリ」、「フリーワード」より検索が可能です

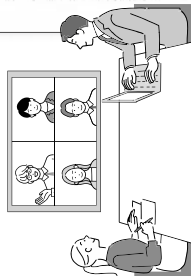
製品名をクリックすると出展者・出展機器の詳細を見ることができます

「もっと見る」をクリックすると出展者一覧を見ることができます



当事者団体・開発支援機関等と交流

「もっと見る」をクリックすると出展者一覧を見ることが可能です

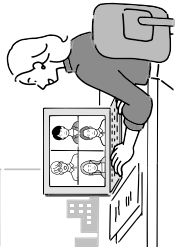


企業・団体名	交流したい内容	カテゴリ	名称	業種	所在地	開会日
独立行政法人経済産業研究所 先端ICT (NICT) の開発者に関する紹介	交流を通じて、AIS (先端情報基盤産業) に関する活動の紹介、連携の機軸・推進・活用について話し合い、新しい場・場外場についての情報を探りたい	ICT系	経済産業研究所	業種	東京都	10/1
一般社団法人日本IT推進協会	知識が共有される機会、ICT系、ICT系企業との連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携	ICT系	日本IT推進協会	業種	東京都	10/1
一般社団法人日本IT推進協会	知識が共有される機会、ICT系、ICT系企業との連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携	ICT系	日本IT推進協会	業種	東京都	10/1
一般社団法人日本IT推進協会	知識が共有される機会、ICT系、ICT系企業との連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携	ICT系	日本IT推進協会	業種	東京都	10/1
一般社団法人日本IT推進協会	知識が共有される機会、ICT系、ICT系企業との連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携	ICT系	日本IT推進協会	業種	東京都	10/1
一般社団法人日本IT推進協会	知識が共有される機会、ICT系、ICT系企業との連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携	ICT系	日本IT推進協会	業種	東京都	10/1
一般社団法人日本IT推進協会	知識が共有される機会、ICT系、ICT系企業との連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携	ICT系	日本IT推進協会	業種	東京都	10/1
一般社団法人日本IT推進協会	知識が共有される機会、ICT系、ICT系企業との連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携	ICT系	日本IT推進協会	業種	東京都	10/1
一般社団法人日本IT推進協会	知識が共有される機会、ICT系、ICT系企業との連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携	ICT系	日本IT推進協会	業種	東京都	10/1
一般社団法人日本IT推進協会	知識が共有される機会、ICT系、ICT系企業との連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携、ICT系企業間の連携	ICT系	日本IT推進協会	業種	東京都	10/1

併催セミナーの視聴

併催セミナーのプログラムに沿って配信します。配信は、それぞれ定刻となり、視聴可能となります。

■ 併催セミナープログラムはP.3をご覧ください。



■ 視聴に関する問い合わせ 事務局 03-3266-6883

【揭示版】 ニーズ別とシーズ展(出展者を含む)ともに、交流したい内容等の揭示版としてご活用ください。

【問合せ】 出展企業等との意見交換や交流したいことがあれば、連絡をして電話やオンラインで交流してください。クリックすることにより、お問い合わせフォームが開きます。

令和3年10月9日(土)～10日(日)

講演開始 11:00～16:20 / 10:00～16:00

海峽メッセ下関 展示見本市会場

開権方法変更しました

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止すること致しました。
H.その他
出展企業等の交流は、Web交流プラットフォームを活用してください。

供催セミナーはオンラインで予定通り行いますので、交流会サイトからご視聴ください。

分野別カテゴリ

- A. 身体障害(肢体不自由)
- B. 視覚障害
- C. 聴覚障害
- D. 高次脳機能障害(失語症等)
- E. 知的障害
- F. 精神障害(発達障害を含む)
- G. 障害児(身体・知的・精神)
- H. その他
- X. 障害当事者団体

閉会促進

令和3年度 閉会促進事業の採択案件となり
ます。山口会場及びオンラインにおいて、成果
報告を行います。

※企画展示コーナー
「機械ではなく職人の創造
日常生活を快適に!」
*デモンストレーションエリア

X-01(G) A3D 印刷機(株)	G-03 レタックス株	H-04 国立印刷製版法人 印刷製版部(株)研究所	X-08(C) 物産開発制法人 日本交通製版株式会社	X-06(B) 印刷製版部(株)	X-04(A) 印刷製版部(株)	X-03(A) 印刷製版部(株)	X-02(A) 印刷製版部(株)	A-12 大塚工業株	A-04 印刷製版部(株)	A-01 印刷製版部(株)
G-04 システムズ株 デザイン株	H-02 K&K International Inc	H-05 印刷製版部(株)	X-07(C) 印刷製版部(株)	X-05(B) 印刷製版部(株)	B-04 印刷製版部(株)	B-03 印刷製版部(株)	A-18 印刷製版部(株)	A-11 印刷製版部(株)	A-03 印刷製版部(株)	A-02 印刷製版部(株)
E-01 印刷製版部(株)	F-02 印刷製版部(株)	H-06 印刷製版部(株)	X-07(C) 印刷製版部(株)	X-04(A) 印刷製版部(株)	B-05 印刷製版部(株)	A-17 印刷製版部(株)	A-16 印刷製版部(株)	A-10 印刷製版部(株)	A-06 印刷製版部(株)	A-08 印刷製版部(株)
D-01 印刷製版部(株)	F-01 印刷製版部(株)	H-07 印刷製版部(株)	H-07 印刷製版部(株)	B-06 印刷製版部(株)	B-02 印刷製版部(株)	A-14 印刷製版部(株)	A-15 印刷製版部(株)	A-09 印刷製版部(株)	A-05 印刷製版部(株)	A-07 印刷製版部(株)

厚生労働省
公団印製版
テクノエイド協会

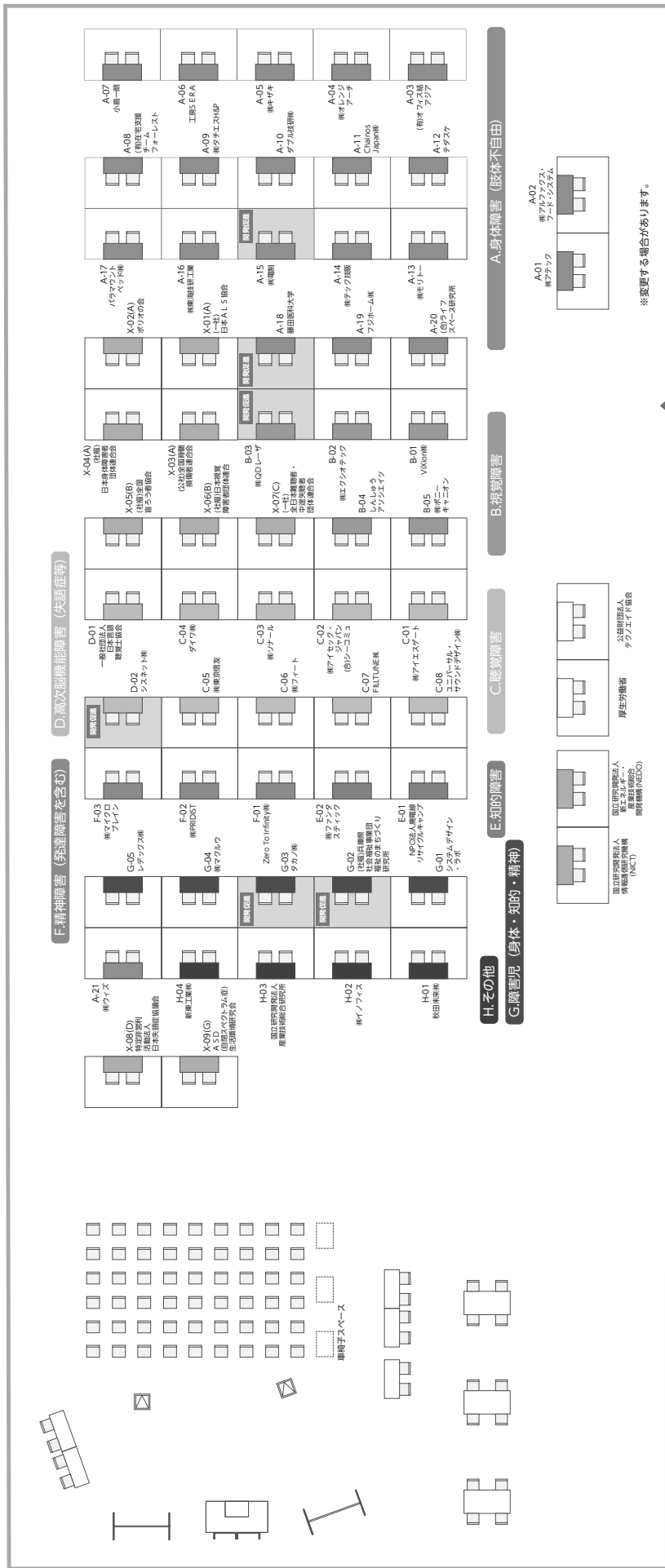
山口会場
展示見本市会場

出口

↑ 入口

令和3年12月7日(火)～8日(水) 9:00～17:00 / 9:00～17:00

東京都立産業貿易センター 浜松町館 2階展示室



分界別カテゴリ

- A. 身体障害 (肢体不自由)
- B. 視覚障害
- C. 聴覚障害
- D. 高次脳機能障害 (失語症等)
- E. 知的障害

- F. 精神障害 (発達障害を含む)
- G. 障害児 (身体・知的・精神)
- H. その他
- X. 障害当事者団体

開発促進 令和3年度 開発促進事業の採択案件となります。
東京会場にて成果報告を行います。(P.4参照)

アクセス

東京都立産業貿易センター浜松町館 2階展示室
〒105-7501 東京都港区海岸 1-7-1

- ゆりかもめ「竹芝駅」西口より徒歩2分
- JR「浜松町駅」北口より徒歩5分
- 東京モノレール「浜松町駅」北口より徒歩5分
- 都営地下鉄「大門駅」B2出口より徒歩7分

※車いすでお越しの方は、ゆりかもめ「竹芝駅」をご利用ください。



出口 ↓

入口 ↑

来場される方は、事前登録にご協力ください。近日、当協会のホームページ上に事前登録の窓口を設置します。着用、密を避けるための配慮等にご協力ください。

A. 身体障害(肢体不自由)

アテックミスト

50μmのミストで身体洗浄するアテックミスト、ベッドが濡れません。

株式会社 アテック
東京都港区芝罘4-16-10



希望する交流の内容
在宅介護者 クアマネージャー

Web交流の連絡先
 担当部署: 会報
 担当姓名: 戸田 拓史
 TEL: 03-3577-5466 FAX: 03-5241-1580
 E-Mail: t.ashida@atecj.com

東京A-01

キュラコ

排泄物を感知、吸引、洗浄、乾燥までの全ての過程を自動で処理する驚かすまで排泄できる洗浄機能付きトイレ

株式会社ウイズ
大阪府枚田郡藤原19-25



希望する交流の内容
 キュラコのセンサーバーと装着カバーを身体に当てた時の皮膚感覚や痛みなどを情報収集し改善のための感想を頂戴したいです。また、神経難病など慢性難病の方にとって、夜間帯などの排泄ケアに有効的かどうかの意見をお聞かせしたいです。


Web交流の連絡先
 担当部署: AS事業部
 担当姓名: 村上 敬史
 TEL: 06-6310-9090 FAX: 06-6310-9600
 E-Mail: support@hello-with.com

東京A-09

サービショット

自働運行するAI除菌ロボットは、人が集まる場所、仕事場などを除菌する事で安心・安全な空間を作りのお手伝いをします。

株式会社アルファックス・フーズ(システム)
山口県阿武野市千崎128番地(江汐公園内)



希望する交流の内容
 当社のAI除菌ロボットが、障がい者施設で勤務される方々の除菌にかかる作業時間を少しでも軽減、軽減していただく事が目的です。各々の施設で働く方々が何が一番でされる業務か、施設内において、一番多く接触する場所の除菌作業からだとお聞きしました。玄関周りや廊下の手すり、待合室のテーブルの椅子、訓練前の理学療法室、作業療法室内の備品等...大卒を施設では名刺においてもこの作業が及びます。コロナ禍におけるこのような作業を少しでも軽減する為、医療従事者の方々と協力ではありますが、お役にたきたいという強い思いから、弊社のAI除菌ロボットを皆様方に届けて頂きたいと思ひ、今回申し込みさせて頂きました。

Web交流の連絡先
 担当部署: マーケティング本部
 担当姓名: 井手 修一
 TEL: 0836-39-5151 FAX: 0836-39-6448
 E-Mail: idea@afs.co.jp

山口A-01

空気圧人工筋を用いた小児用動力義手

本製品は、小型軽量で動作スピードが速い小児用の動力義手です。

大阪工業大学
大阪府大阪市北区蒸気通り番45号



希望する交流の内容
 交流会では、小児用義手の試作機を持参し、デモ展示を予定しています。特に、当事者であれば義手ユーザー、ユーザーの保護者様との交流を期待します。試作機を試していただき、素直なご意見を頂戴したいです。また、義肢メーカー様、医療従事者様との交流も期待します。専門家からのご意見を頂戴し、さらに発展させていきたいと思ひます。

Web交流の連絡先
 担当部署: ロボティクス&デザイン工学部ロボット工学科
 担当姓名: 岩口 浩敏
 TEL: 06-6147-7631
 E-Mail: hironari.taniguchi@oit.ac.jp

山口A-12

A. 身体障害(肢体不自由)

指話話コミュニケーションパッド

iPadで使用するコミュニケーションアプリは、簡単な操作で会話や機器操作を行う仕組みが用意されています。

有限会社オフィス結アジア
神奈川県横浜市中区磯辺3-12-10



希望する交流の内容
 個々の福祉機器ごとに機能を細かく分けるのではなく、実際の日常生活の中で様々な機器やサービスを使用する場面を想定し、その中で各々が提供する装置があるという場をユーザーにする必要があると考えます。私たちのコミュニケーション機器は、単に用途を伝える機能を提供するのではなく、会話のきっかけを提供すること、目立たず生活のための機器操作を支援します。ヘッドや車椅子装着に弊社製品だけを認めるのではなく、利用方法に則していません。シーズ制との交流を深め、協力してユーザーへのソリューションを提供するため、交流会での出会いを求めています。

Web交流の連絡先
 担当部署: 本社
 担当姓名: 齋藤 賢嗣
 TEL: 0466-21-7448 FAX: 0466-21-7996
 E-Mail: info@yubidenwa.jp

山口A-03

スマートポール

上肢や肩の回旋運動によって足歩行がスムーズに行なわれるようにサポートする補助ポールです。

株式会社キザキ
長野県小諸市柳井上甲561-2



希望する交流の内容
 加齢や障害により歩行が困難で杖の代わりに「脚や腰」が痛くて歩けない「座席」による揺れが怖い等の歩行における不安を抱えている方。足踏りかかると、すぐ倒れたり歩行を減らし、人の手を借りずには自分の足で安定した歩行をサポートします。

Web交流の連絡先
 担当部署: 事業部
 担当姓名: 小林 泉
 TEL: 0267-22-1354
 E-Mail: kzak@kizaki-net.co.jp

東京A-05

重度障害者用意思伝達装置「eeyes」

神経性の難病により会話が困難な方をサポートする。目の動きなどの優しい身体動作でも操作できる福祉機器

株式会社オレンジアーツ
東京都立区千住一丁目11番2号



希望する交流の内容
 意思伝達装置「eeyes」のご紹介やデモンストラーションを通じ、製品の概要や使い心地、および製品開発のロードマップについて、ユーザー様ご自身やご家族をされる方からご意見を頂戴。製品へのフィードバックを行うと共に、別業による入力支援や、新製品の開発に生かしていきたいと考えております。

Web交流の連絡先
 担当部署: ITバージョンアップグループ
 担当姓名: 宇田 竹哉
 TEL: 03-5817-4476 FAX: 03-581-74477
 E-Mail: uda.takenobu@orangearts.co.jp

山口A-16

人工筋付きスマートウォーカー

フィードバック制御を行う歩行器にカメラなどのセンサーを付与し、患者にあったリハビリを提供します。

九州大学生体工学部
福岡県北九州市若森区区ひのき2-4



希望する交流の内容
 九州の学生プロジェクトの一つである、創る側では、地域の個性性が強く肌として非難に取られにくいニーズに、ハードウェアのプロトタイプ制作、検証、改良することを目的として開発を行ってあります。作り手側は、自分たちが「スマートウォーカー」を扱った方々のために、「ある」だけでなく「生かす」「使う」「育てる」ことを目的としています。交流によって、一人ひとりに生かす「質」が上がるのを目指し、活動を広げていきたいと思います。加えて、すぐ倒れたり歩行を減らすという活動の方々からのご意見を頂戴し、実際に活用していただく機会にできればと思ひます。

Web交流の連絡先
 担当部署: 九工大学生
 担当姓名: 山崎 暁
 TEL: 080-2785-0219
 E-Mail: yamasaki.kakeru990@mail.kyutech.jp

山口A-08

開発促進 令和3年度 開発促進事業の採択案件となります。東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います。

山口ウォーカー 山口会場に出展する機器。新コロウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催中止することになりました。開催中止にはオンラインで事後フォローを行います。ご意見を伺い、出版位置の交換は、Web交流のワークショップも活用していただき、


山口ウォーカー 山口会場に出展する機器。

東京出展 東京会場に出展する機器。

A. 身体障害(肢体不自由)

無垢木標準タイプ
一本の国産杉をくり抜いて制作。生産者の想いと無垢木の温もりを感じられ、とても気持ちが良いです。

健幸ライブ株式会社
福岡県福岡市博多区社比恵11-2-3



希望する交流の内容
身体に障害をお持ちの方から、自分たちができている運動器具がないと、ご相談を受けたことがあります。負荷が掛かりすぎずできるものは、出来る人と、そうでない人に分けられるため、負荷が掛からず、どのような方法でもできる運動器具は少ない、というご意見から開発いたしました。座りっぱなしの生活では、血流も悪くなり、筋肉や関節が固くなり、体調悪化の原因となるのです。当該製品は木製で電気やモーターを使用しない簡単な構造です。ご高齢の方でも簡単に自分で足を動かす運動なので、多くの方に体験して頂戴。ご自身の役に立てられるか?ご意見を伺いたしたいと思います。

Web交流の連絡先
担当部署:あひま事業部
担当者氏名:園田 俊彦
TEL:092-260-8941 FAX:092-433-3810
E-Mail:zashitumi@kenkolife.co.jp

山口A-06

片手で靴ひも結び(自助具)
手に代わって靴紐を固定する自助具を3Dプリンターで作りました。

工房SERA
相模原市南区相模大野2-14-3



希望する交流の内容
「どんな福祉用具があったらいいの?」生の声を聴かせてほしい。


Web交流の連絡先
担当部署:代表 藤野 義典
担当者氏名:堀住 真一
TEL:090-4136-9423 FAX:042-743-1184
E-Mail:yk-hazumi@com.honone.jp

東京A-06

A. 身体障害(肢体不自由)

音声制御ベッドユニット
音声制御により介護用ベッドを操作することが可能となるユニットを開発しました。

有限会社在宅支援チームフォレスト
宮城県仙台市宮城野区岩切台地15-1



希望する交流の内容
身体障害者向けのスマートフォンによる職務制について

Web交流の連絡先
担当部署:代表取締役
担当者氏名:1野月 謙一
TEL:022-396-0030 FAX:022-255-1161
E-Mail:kanriforest@yahoo.co.jp

東京A-08

Mobile Motion Visualizer 鑑AKIRA
鑑AKIRAは非接触センサーによる関節可動域測定・3次元動作計測ができるウェアラブル医療機器です。

株式会社システムフレンド
広島県広島市佐田区五日市町駅前




希望する交流の内容
鑑AKIRAのメーカー不要の3次元計測について、まずは現状の製品をご覧いただきたいと思っております。一連の計測を計測機が1人でしかも短時間で1行えること、また計測した動画や結果レポートを使用した「フレンドシップの手帳」をご覧いただくことで、現場での使用をイメージいただけます。ここで歩行計測などの動作計測コースへのニーズについてヒアリングや、動作計測の結果レポートなどといったデザインが有効であるか等について改善や応用の可能性をご意見いただき、あるいはご相談させていただきたいと考えています。ご興味をお持ちでしたらご連絡には、オンラインでも行うことも可能です。

Web交流の連絡先
担当部署:未来福祉グループ
担当者氏名:澤本 一般
TEL:082-943-9530 FAX:082-943-9531
E-Mail:kishimoto@systemfriend.co.jp

山口A-05

小島式回転補助装置「アクセルアシスト装置」
現行車の様なペダル操作が左右の踏み替えではなく、足を前後に動かして、てこの原理で操作する装置。

小島一朗
神奈川県相模原市緑区 上丸94



希望する交流の内容
ニーズがどれだけあるのか?この装置で、この車種に車入れるのか?車リフトの車種等、交流したいです。企業様が興味をもってくださるか?製作可能な企業様と交流したいです。

Web交流の連絡先
担当部署:小島 一朗
担当者氏名:小島 一朗
TEL:070-44411-1562
E-Mail:wcool35@gmail.com

東京A-07

ズレない・ムレない楽らくクッション
帯入タイプフロントと備長炭・ポリエチレンチップを使用した通気性の良い座位安定クッションです。

株式会社コーポレーションパースター
広島県広島市安芸津町三津4424



希望する交流の内容
座位保持に求められる理想的なクッションの情報及び現在製造しているクッションの評価、改良点等の指摘並びに使用している素材の応用可能な製品開発に関する情報、現在必要とされている製品や、その製品に対する要望など。

Web交流の連絡先
担当部署:製造部 設計課
担当者氏名:大草 寛
TEL:0846-45-0116 FAX:0846-45-0150
E-Mail:partstar@pastel.ocn.ne.jp

山口A-07

車椅子用クッションマット
車いす用クッションマットにコイルバネを用いたマットの快適性向上を提案。

(株)タチエスH&P
東京都青梅市太田町1-7-8




希望する交流の内容
市販の車いすに本品を組み合わせて座席、車いす、車いすの悩みを聞き、本品の有効性や使い勝手(座り心地、車いす)について、ユーザー様との意見交換したい。

Web交流の連絡先
担当部署:技術部 設計課
担当者氏名:植本 聡
TEL:0428-30-1924 FAX:0428-30-1925
E-Mail:s-hashimoto@tachi-s.co.jp

東京A-09

新心語り 単語発信プラス
閉じ込め状態でも脳血流を検出し、はいいいえの選択が出来、その二択を選んで単語発信も可能になりました。

ダブル技研 株式会社
神奈川県厚木市諏訪920-7



希望する交流の内容
ALS等の難病により、意思の伝達が困難な方々、及びご家族ご支援者様の支援にコミュニケーションツールとして少しでも役に立てればという思いで開発作り及び参画に回らしております。現在、ユーザー様が準備する事が複雑な状態を自動化し、調整方法を一般化して、多くの患者様に使えるように改善や研究しております。更に、正答率向上の正答率検出とともに、新しい検出法も取り組んでおり、285項目までの文字を選択することがあり、もう一つは聴覚障害者の聴覚の有無を判定することであり、非常に多くの方に役立つと考えています。ご興味があればご連絡させていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。

Web交流の連絡先
担当部署:福祉事業部
担当者氏名:堀込 真剛
TEL:046-206-5611 FAX:046-253-7711
E-Mail:horigome@d.co.jp

山口A-10
東京A-10

*変更する場合があります。

開発促進 令和3年度 開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

山口A-09

山口A-08

山口会場に出展する機器
新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催中止が濃厚となり、開催中止はオンラインですべて開催いたしますので、ご変更ください。出展位置等の変更は、Web会場プラットフォームを参照してください。

山口A-10

東京会場に出展する機器

出展機器

シーズ・ニーズマツチング交流会2021
作る人と使う人の交流会

B. 視覚障害

暗所視支援眼鏡

暗所視支援眼鏡は夜盲症の方に明るい視界を提供。

VIXION株式会社

東京都新宿区高田馬場二丁目14番2号



希望する交流の内容

夜盲症など暗いところの見え方でお困りの方に暗所視支援眼鏡をお試しいただきご意見を伺いたい。

Web交流の連絡先

担当部署:技術管理部 特許室
担当者氏名:滝沢 茂
TEL:03-6205-9548 FAX:03-6205-9568
E-Mail:shigetaru.takizawa@vixon.jp

山口B-01
東京B-01

RETISSA Super Capture

網膜投影技術の焦点フリーとデジタルカメラの特性を融合して、網膜症の方も支援できる視覚機器。

株式会社QDLレーザ

神奈川県川崎市川崎区藤田町1-1



希望する交流の内容

共同開発(研究)法の探索、国内外のユーザーに届ける際のパートナーの探求、出展機器を試用し評価のフィードバック出来る企業、団体、病院との交流。

Web交流の連絡先

担当部署:レーザデバイス事業部
担当者氏名:神野 誠吉
TEL:044-333-3338 FAX:044-044-333-3308
E-Mail:retissa@qdlaser.com

東京B-03

B. 視覚障害

EyeNavi

周囲の情報提供と目的地までの道案内を行い、視覚障害者の行動に自由を助らすスマートフォンアプリです。

株式会社コンピュータサイエンス研究所

福岡県北九州市八幡区塚田2-5-7



希望する交流の内容

開発中の版の試用による利用者からの感想の取得や、開発パートナーとの交流。

Web交流の連絡先

担当部署:本部
担当者氏名:高田 舜平
TEL:093-4824750
E-Mail:takata@computer-science.co.jp

山口B-03

読書支援サービス YourEyes

ユアアイズは、スマートフォンで本のページや印刷物を撮影する事でスムーズに内容を読み上げるサービスです。

株式会社ポニーキャニオン

東京都港区大塚1-15-17



希望する交流の内容

本サービスの使用感、改善案を含む様々な感想や、視覚に障害をお持ちの方、またそのサポートをする方から直接伺いたい。

Web交流の連絡先

担当部署:経営本部 格
担当者氏名:滝澤 裕
TEL:070-6987-1878
E-Mail:itaru-k@ponycanyon.co.jp

山口B-06
東京B-05

① 音声情報ガイドシステムとシステム・エディット(実行時間延長番号権限/申込資格)
② 多目的・多機能トール用音声案内システム(M.F.T. DUOユニキャストユニットB)
③ 緊急情報システムはDIS(Disaster) Emergency Information system for Deaf people)

①②の視覚障がい者向け音声誘導システム(人口、エレベーター、トイレ等)③聴覚障がい者向け緊急情報システム。

株式会社エシオテック

東京都北区十条台1-6-38



希望する交流の内容

視覚障がい者向けおよび聴覚障がい者向けの様々な支援システムを取り取り取り、自治体関連、交通機関、金融機関など全国約3,800の施設へ導入ししてありますが、視覚および聴覚に障がいをお持ちの方、また幅広い障がい障がい障がいの理由にまだまだお伝えできていない方もおられます。御行製品の高性能化や新製品の開発に繋がるきっかけなど、皆さまの意の無いご意見、ご要望をお待ちしております。

Web交流の連絡先

担当部署:情報通信事業本部 営業本部 ソリューション営業部 福祉グループ
担当者氏名:鈴木 智志
TEL:03-5948-4205 FAX:03-3909-7574
E-Mail:tomoyuki.suzuki@exo-tech.co.jp

山口B-02
東京B-02

弱視見書見台タブレット台付

書見台にタブレットを固定できると、利便性が高くなります。

特定非営利活動法人・京 自助具館

京都府京都市下京区船場町83-1



希望する交流の内容

早くから視覚者はタブレットを利用しておられますが、デジタル教科書の導入に伴い同時に2台使うようになるとの話を、実際に使ったという方の方の意見を聞きたくて伺っています。先生も生徒さんも体験したいと思いますが、お一人でも多くのご意見感想、アイデアを集めたいです。

Web交流の連絡先

担当部署:製作部 平津子
担当者氏名:近藤 裕
TEL:070-2662-3115
E-Mail:k.kyoto.jijyogae@gmail.com

山口B-05

パンダナビ

点字タイトルに複雑の黒いリリグを始め、その配置をスマホで読み取ることにより、視覚障害者を音でガイドするしくみです。

しんしゅうアシジエイツ

山梨県北州市小淵沢町11535-5



希望する交流の内容

すでに発行着用のアプリはできています。タイトルを登録するためのアプリ(プロトタイプ)も8月にできる予定です。パンダナビが便利になるためには、パンダナビ(仮称)がインフラとして広く普及することが前提になります。そのためには、関連業界、障害者団体、官公庁が力をあわせて推進しなければなりません。私は、目の悪い個人にすぎませんが、でも、全国の点字ブロックがパンダナビになる日なる日を夢見ております。共感していただける皆さんのお力をぜひおねがいします。

Web交流の連絡先

担当部署:代表
担当者氏名:栗田 真
TEL:0551-457339
E-Mail:inform@shinshu-a.com

東京B-04

*変更する場合があります。

開発促進 令和3年度 開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

山口B-06
東京B-05

山口B-06
東京B-05

山口B-06
東京B-05

山口B-06
東京B-05

山口B-06
東京B-05

山口B-06
東京B-05

山口B-06
東京B-05

C. 聴覚障害

**(仮称)がん・がん検診に関する
聴覚障害者向け情報提供システム**
聴覚障害者の方々に、がんやがん検診に関する有益な情報を届けるためのシステムです。

株式会社アイエズゲート
東京都葛飾区仲上二丁目20番2-401号



希望する交流の内容

聴覚障害者の方々に、がんやがん検診に関する有益な情報を届けるためのシステムでの事を多くの方々に知っていただければ幸いです。

Web交流の連絡先

担当部署: 開発営業部
担当者氏名: シーズ・ニーズ・マスマッチング交流会担当者宛
TEL: 03-5879-4527 FAX: 03-5879-4528
E-Mail: seeds-needs_info@igate.co.jp

山口C-01
東京C-01

車載型ヒアリングループシステム

(バス・自動車等)に設置することで、難聴者の社会参加を促進し、生活の利便性が高まります。

(株)ソナール

東京都京都市下京区中京寺堂野田93



希望する交流の内容

全国の公共施設をはじめ、あらゆる場所に聞こえの支援は必要です。ヒアリングループは難聴者・聴覚障害者の聞こえを社会インフラとして支える設備です。難聴者支援の関係者、施設の運営管理者、施設設計者など担当者にはヒアリングループの有用性を認識していただきたい。

Web交流の連絡先

担当部署: 営業技術
担当者氏名: 緒方 正平
TEL: 075-315-5561 FAX: 075-315-5625
E-Mail: ogata@sonar-loop.jp

山口C-02
東京C-03

C. 聴覚障害

シルウォッチシステム
インターホンの音を送信器で感知して無線電源を送信し、腕時計型受信器で振動と文字で採着情報を伝えます。

株式会社東京信友
東京都葛飾区富田町1-6-15



希望する交流の内容

シルウォッチシステムを知らないお客様へ知っていただきたいというのと、現状のシステムでお客からの改善要望や他の商品開発に向けてのニーズなどを把握したいと考えています。

Web交流の連絡先

担当部署: 営業部
担当者氏名: 田原 博平
TEL: 03-3358-8000 FAX: 03-3358-6330
E-Mail: tai@shinyu.co.jp

山口C-05
東京C-05

FILLTUNE CLEAR

平成25年障害者自立支援機器等開発促進事業で採択・実証された障害者難聴補聴具のフルワイヤレス・モデル。

FILLTUNE株式会社

東京都港区南青山4丁目15-5



希望する交流の内容

弊社製品で音楽を聴いたり日本語100語音認知検査を行ったりして、各利用者の弁別能力がどこまで回復できるかを体験していただき、意見交換を通して子供の言語習得、大人の社会参加を可能にするための更なる改良に役立てています。また、使用感や取り扱い方法について豊富な経験をわかちあうことで、将来的に快適に装着いただける製品の開発に役立てたい。

Web交流の連絡先

担当部署: 経営企画担当
担当者氏名: 並木 菜子
TEL: 03-5770-5823
E-Mail: namiki@filltune.com

山口C-07
東京C-07

C. 聴覚障害

「こえとら」アプリ
NICTの高精度な音声認識技術により聴覚障害者と健聴者との会話を支援するスマートフォン向けアプリ。

株式会社フィアード
東京都新宿区久保1-1-7



希望する交流の内容

聴覚障害者会話支援アプリ「こえとら」及び「SpeechCanvas」の周知拡大大と、ご利用対象者の生活の質を高める意識収集を目的とした交流を希望します。また、雇用企業、専門学校や特別支援学校ほか教育機関、自治体福祉支援、聴覚障害者支援センター、及び「リハビリテーションセンター」等の関係機関において、効果的な利用方法などについて研修会実施も可能です。

Web交流の連絡先

担当部署: 経営グループ
担当者氏名: 鈴木 麻友美
TEL: 03-5282-7391 FAX: 03-3204-5984
E-Mail: exhibit-staff@feat-td.jp

山口C-06
東京C-06

リスニングモニター comuon pocket

卓上型対話支援機器コミュニケーションで培った高解細音響技術SonicBrainを採用したポケット型集音器。

ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社

東京都港区海岸1-9-11



希望する交流の内容

ご来場者へ試作機を活用しての試験とアンケートへのご回答をお願いしたい。希望された方へ検証協力の募集を実施したいと考える。

Web交流の連絡先

担当部署: コーポレート機動本部
担当者氏名: 石川
TEL: 07-06471-9336
E-Mail: saishikawa@u-s-d.co.jp

山口C-08
東京C-08

*変更する場合があります。

開発促進 令和3年度 開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

山口C-08 **山口C-08**
山口会場に出展する機器

東京会場に出展する機器 **東京会場に出展する機器**
東京会場に出展する機器

新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催中止が濃厚となりました。開催中止はオンライン上で代替開催いたしますので、変更がなければ、山口会場の開催が望めます。山口会場に出展する機器は、Web交流プラットフォームを活用していただき、

出展機器

シーズ・ニーズマツチング交流会2021
作る人と使う人の交流会

D. 高次脳機能障害 (失語症等)

VR型半側空間無視リハビリ支援システム Vi-dere(ワイデーレ)

VR型半側空間無視リハビリ支援システム(Vi-dere)は三次元的無視領域の評価とADLを含めた介入機能を搭載しています。

シズネット株式会社

大阪府大阪市北区太通寺町12-18



希望する交流の内容

高次脳機能障害(特に前頭葉知覚機能障害)の方や、高次脳機能障害を支援する立場のセラピスト(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医師)の方に向けて、機器の体験を通して、ご意見や現場で困っている事などを聞かせし、今後の製品としての機能向上につなげたいと考えております。

Web交流の連絡先

担当部署:ヘルスケア事業部
担当者氏名: 舘藤 久和
TEL:06-6364-0554 FAX:06-6364-2759
E-Mail:morotofujihisakazu@sysnet.co.jp

山口D-01
東京D-02

E. 知的障害

卓上型剥線機 (はくせんき)

卓上に置き、障がい者が控って剥線作業が出来る、特に障がい者向けとして挿入部を安全な機械です。

NPO法人麻電線リサイクルキャンプ

千葉県千葉市稲毛区山王町335-1



希望する交流の内容

麻電線から銅資源リサイクルと知的障がい者の就労支援を目的として、NPO麻電線リサイクルキャンプが、麻電線を事前に短尺化や直線化の処理を行い、剥線作業は知的障がい者が機械の操作を主として排出した銅と樹脂を分別する作業を行うモデルを立ち上げたので、このモデルを広げたい。

Web交流の連絡先

担当部署:経営
担当者氏名: 中根 昭
TEL:043-3047511 FAX:043-3047512
E-Mail:akira@sanritsu-machine.com

東京E-01

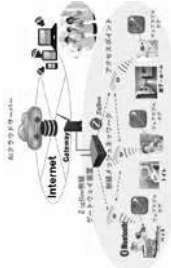
E. 知的障害

ファンタスティックeyes

センサータグ・無線通信・クラウドAIで位置・動体情報をリアル音声通知する介護見守りシステムです。

株式会社ファンタスティック

千葉県千葉市中央区野戸1-23-16



希望する交流の内容

これまでの介護・医療施設の見守りシステムには、チークスコントロール離床マップセンサーの言による通知方式、固定型型式ドップラーセンサーによる状態通知方式が主流です。当社介護見守りシステムファンタスティックeyesは、今までにない賢い方式で、要介護者に装着されたIoTセンサータグから無線ネットワークを通じて、クラウド上でAI判定した位置情報(居室・トイレ・玄関・廊下等)や動体・深層・浅層・寝返り・起床等)を24H365日リアルタイムに音声とテキストで通知します。IoTセンサーやバイタル(体温・脈拍)センサーも現在開発中です。

Web交流の連絡先

担当部署:営業企画部
担当者氏名:加藤 雅敏
TEL:043-330-3405 FAX:043-243-1413
E-Mail:m.katou@fantastic-care.co.jp

東京E-02

F. 精神障害 (発達障害を含む)

介護、グループホーム向けスマートロック

鍵のシリアに特化した、鍵の紛失・複製、台帳管理などなく、施設やセキュリティが向上します。

モノコトデザイン株式会社

東京都中央区日本橋本町3-3-6



希望する交流の内容

現在販出中のスマートロックの監視機能により、これまでの鍵の紛失や複製の防止、鍵の貸し出し台帳管理だけでなく、介護ホームの玄関や入所者専用ドア、介護施設の倉庫など、不特定多数の方が入り出す箇所への入退出記録の透明化や、施設管理者への夜間急用時の異常アラームのリアルタイム通知など、介護施設の課題や現場に即した利用シーンについて、また、宅配ボックス活用による置き配置により、非接触、職員不在時でも配達してもらえらることで、利便性が向上するよる荷物(日用品、お薬など)の受け取りの必要性の可能性につきましても、是非、情報交換の機会を頂戴できればと考えております。

Web交流の連絡先

担当部署:経営
担当者氏名:谷口 勝男
TEL:080-5492-8755 FAX:03-6202-7507
E-Mail:k.taniguchi@monokotodesign.co.jp

山口E-01

精神障害者の体調悪化兆候検知システム HaCha

パソコンやスマートフォンで障害者の動態の隠れにつながる体調悪化傾向を検知して、早期対応することにより安定的な就労につなげるAIシステム

Zero To Infinity株式会社

東京都新宿区新大塚2丁目12番13号 新大塚アンソルビル2階



希望する交流の内容

実証実験を3か所で開催しているが、使いやすいデザインや習得されるアラート情報などをより実証してみたい、もっと多くの実証実験先を探したい。

Web交流の連絡先

担当部署:障害者就労開発
担当者氏名:佐川 亜希
TEL:090-9112-3419
E-Mail:sagawa@zti.co.jp

山口F-01
東京F-01

*変更する場合があります。

令和3年度 開発促進事業の採択条件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

山口E-02
山口会場に出席する機器

東京E-01
東京会場に出席する機器

F. 精神障害（発達障害を含む）

Time Tapper

タブレット画面に1日のToDoリスト一覧が表示されチェックとアラームの両方で忘れ防止を防ぐ自立支援システム。

株式会社PRIDIST

神奈川県平塚市玉町11-1



希望する交流の内容

本システムが介助を希望する方に対し効果的で、自立支援に繋げることが出来るのか、また介助者にとっても負担軽減になるのかどうかを現場の目標でご意見を伺きたい。インターフェースや操作性も問題なく分かりやすく実用的か。介護者がいなくても一人で理解し操作できるか。

Web交流の連絡先

担当部署：営業部
担当者氏名：前藤 優貴
TEL:0463-23-7830
E-Mail:muto@pridist.com

山口F-02

G. 障害児（身体・知的・精神）

可愛い！あったらいいの！声から生まれた服

障がいをもった子ども洋服は可愛いものがある！そんな事業から生まれた可愛い機能のお洋服。

株式会社 岩多屋

山口県山口市八幡上線354-1-3



希望する交流の内容

障がい、医療ケア等の詳細様に専員、付属して頂き開発している服ですが、素材は様々なのでより多くの方の意見を伺え、より良い形に改良しあったらいいなを形にできるような意見を伺えたい。

Web交流の連絡先

担当部署：福祉事業部山口
担当者氏名：原田 麻衣
TEL:083-972-2037 FAX:083-973-1745
E-Mail:h_suwazono@iwataya-net.co.jp

山口G-01

G. 障害児（身体・知的・精神）

**自立支援型 介護員守りロボット
AI.Viewlife**

介護現場を明るく化することで入居者様の自立支援促進と重症化を防止、現場の生産性の向上に役立ちます。

エイアイビューライフ株式会社

東京都千代田区幸町2番13号



希望する交流の内容

1. モニター貸出し(短期貸出)の障害者施設での活用法

Web交流の連絡先

担当部署：事業推進課
担当者氏名：梅沢 俊幸
TEL:03-6261-6327 FAX:03-6261-6328
E-Mail:tyokosawa2525@ai.viewlife

山口G-02

シャワーチェア（仮）

障がい児用シャワーチェア。シート部分を防水クッションにすることで防水性、座席保持性を高めています。

タカノ株式会社

長野県伊那市穂積下河原5331



希望する交流の内容

障がい児用のシャワーチェアのニーズ、機能と価格のバランス。

Web交流の連絡先

担当部署：開発課
担当者氏名：赤田 大二郎
TEL:02665-98-5126 FAX:02665-72-3203
E-Mail:sueda@takano-net.co.jp

東京G-03

G. 障害児（身体・知的・精神）

テンプレー 筋電位電動車いすコントローラ

テンプレーシステムを使った重慶の四肢障害者用筋電位電動車いすコントローラ WHI。

システムデザインラボ

奈良県奈良市西大寺小町4-5



希望する交流の内容

テンプレーシステムは車の動きを検出してモノを操作するシステムです。車輪の位置もラフな誤差の必要もありません。また乾式電機でラフなコンタクトでもかからない優れた特性を持っています。現在、CPD2名がこのシステムで電動車いすの操縦を練習しています。うち1名は家族も入らずにこのシステムでパソコンやスマホを日常的に操作しています。このようにテンプレーシステムは優れたシステムですが筋電位を扱った支援者や発達した当事者が非常に少ない状況です。多くの人に筋電位を体験して筋電位がどのようなものかを知ってもらい、フィードバックができる支援者を増やしたいと思っています。

Web交流の連絡先

担当部署：開発
担当者氏名：杉本 誠己
TEL:0742-49-3990 FAX:0742-47-0520
E-Mail:ac@sdj.to

山口G-04

東京G-01

上肢欠損児の両手動作を促進する福祉用具

上肢欠損児の両手動作を促進するための筋電義手及び自動員です。両手による動作の可能性が広がります。

社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 福祉のまちづくり研究所

兵庫県神戸市西区御影1070



希望する交流の内容

小児用の筋電義手があることを知らない潜在ユーザー（医師・作業療法士・市町村の窓口担当者、当事者の親等）から互いの設計制度に関わる方々に対して、現状をお伝えしたい。

Web交流の連絡先

担当部署：ロボットリハビリテーションセンター課
担当者氏名：石井 高隆
TEL:078-925-9283 FAX:078-925-9284
E-Mail:info00@assistech.hwc.or.jp

東京G-02

F. 精神障害（発達障害を含む）

Time Tapper

タブレット画面に1日のToDoリスト一覧が表示されチェックとアラームの両方で忘れ防止を防ぐ自立支援システム。

株式会社PRIDIST

神奈川県平塚市玉町11-1



希望する交流の内容

本システムが介助を希望する方に対し効果的で、自立支援に繋げることが出来るのか、また介助者にとっても負担軽減になるのかどうかを現場の目標でご意見を伺きたい。インターフェースや操作性も問題なく分かりやすく実用的か。介護者がいなくても一人で理解し操作できるか。

Web交流の連絡先

担当部署：営業部
担当者氏名：前藤 優貴
TEL:0463-23-7830
E-Mail:muto@pridist.com

山口F-02

G. 障害児（身体・知的・精神）

可愛い！あったらいいの！声から生まれた服

障がいをもった子ども洋服は可愛いものがある！そんな事業から生まれた可愛い機能のお洋服。

株式会社 岩多屋

山口県山口市八幡上線354-1-3



希望する交流の内容

障がい、医療ケア等の詳細様に専員、付属して頂き開発している服ですが、素材は様々なのでより多くの方の意見を伺え、より良い形に改良しあったらいいなを形にできるような意見を伺えたい。

Web交流の連絡先

担当部署：福祉事業部山口
担当者氏名：原田 麻衣
TEL:083-972-2037 FAX:083-973-1745
E-Mail:h_suwazono@iwataya-net.co.jp

山口G-01

*変更する場合があります。

出展機器

シーズ・ニーズ・マツチング交流会2021
作る人と使う人の交流会

G. 障害児(身体・知的・精神)

らくらくターン

方向転換しやすい小回りの利く小用6輪歩行器、可愛いデザイン、高さ調節可能、超軽量マグネシウム製。

株式会社 マクルウ
静岡県富士宮市山本286-1



希望する交流の内容
障害児の保護者、PT/OT等専門家への商品のご紹介、フィードバック(使い勝手など)をいただける交流を希望します。

Web交流の連絡先
担当部署:特設確保役
担当者氏名:安倍 信博
TEL:0544-24-5900 FAX:0544-29-6320
E-Mail:m_abe@macrow.ssr.jp

東京G-04

生活機能発達支援プログラム Life Skills (ライフスキル)

生活・社会機能を身につける方法を提供するクラウドサービス。専門家の助言DBと認知トレーニングで構成。

レディックス株式会社
東京都町田市南つくし野1-3-6



希望する交流の内容
障がいをもつ子どもに関わる施設の方々に、本サービスをより有用なものに改善するためのご意見をいただきたい。また、本サービスと組み合わせ、個別相談に対応したり、オーダーメイドの発達支援プログラムを作成したりする人的サービスの構築を検討しており、それに協力していただける団体等を見つけた。

Web交流の連絡先
担当部署:代表 構築
担当者氏名:五藤 博
TEL:042-799-0769 FAX:042-799-0741
E-Mail:info@ledex.co.jp

山口G-03
東京G-05

H. その他

H. その他

マッスルスーツEvery

腰部の補助に特化し、電力不要で使う場所や稼働時間の制限がない、装着型の作業支援ロボット。

株式会社イノフィス
東京都新宿区神楽坂4-2-2



希望する交流の内容
介護者の腰を守る為によくの方に利用いただきたいです。そこでマッスルスーツをどんな場面(シーン)で使っていたらいいのか、また改善要望などのニーズを把握したいに思っております。可能であれば主に介護職員の方にご使用いただき、ご意見をフィードバックしていただきたいです。

Web交流の連絡先
担当部署:営業企画部
担当者氏名:尾澤 幸佑
TEL:03-5225-1083 FAX:03-6285-2545
E-Mail:k-nagasawa@inophis.jp

東期H-02

パワースーツ

リハビリ初期、もしくは後遺症にて歩行が困難な方に装着し、歩行介助を行う機器を扱う会社です。

K&K international Inc
東京都港区南麻布3-20-1



希望する交流の内容
利用者からのフィードバック。

Web交流の連絡先
担当部署:代案
担当者氏名:木村 聖彦
TEL:080-7739-4445 FAX:03-3783-5386
E-Mail:kentointernational@gmail.com

山口H-02

動的座位バランス計測装置

運動機能低下などによる歩行時転倒リスクの予測/車いす生活での作業時の体幹バランス測定など。

秋田未来株式会社
秋田県にかほ市院内字カガヤ16-2



希望する交流の内容
計測装置を業務に使用していただき、使いやすさや機能性をプラスして欲しいなどの装置改善に向けた利用者の率直な意見を聞きたい。

Web交流の連絡先
担当部署:技術営業
担当者氏名:六平 翔人
TEL:0184-74-3090 FAX:0184-74-3091
E-Mail:musaka@a-miri.jp

山口H-01
東京H-01

アザラシ型ロボット・パロ

アザラシ型ロボット・パロとふれあひによるリハビリテーションの研究。

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
茨城県つくば市楕圓1-1-1



希望する交流の内容
アザラシ型ロボット・パロは、ふれあひの心身や脳に働きかけるハイオフェードバック機能により、心の安寧化や、元気付け・動機付け、心身の状態の改善や、リハビリ中に行えることが臨床研究により示されています。パロへ主観による半閉空間無誘導のリハビリ(観察中後、「盲試」を参照)し、ランダム化比較試験(RCT)による結果、パロを抱っこすることでフィードバックによる向上、パロへの話しかけ・取りかけによる言語機能や筋力向上、バーキンソン病者の姿勢制御機能の改善、ハンチントン病者の不随意運動の改善、知的障害者や精神障害者の社会スキル向上が報告されており、パロにふれあひながら参加者と意見交換する。

Web交流の連絡先
担当部署:人間情報インタラクション研究部門
担当者氏名:松本 光泰
TEL:029-862-6586
E-Mail:shnbata.takanori@nist.go.jp

山口H-04
東期H-03

Aiserv排泄検知システム

ウェアラブルセンサーで「排泄検知」をサポートします。

新東工業株式会社
認知県豊川市穂ノ原三丁目1番地



希望する交流の内容
排泄ウェアでお困りのご利用者のご意見をいただきたいです。

Web交流の連絡先
担当部署:新規事業プロジェクト推進 アイサーブ事業グループ
担当者氏名:松本 光泰
TEL:0533-95-4020 FAX:0533-95-3342
E-Mail:info-aiserv@sinto.co.jp

東期H-04

*変更する場合があります。

開発促進 令和3年度 開発促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

山口山出 山口会場に出席する機器
新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催中止が決定しました。開催中止は一時的な対応であり、本展覧会が再開されたら、Web交流の開催も再開いたします。

山口山出 山口会場に出席する機器
新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催中止が決定しました。開催中止は一時的な対応であり、本展覧会が再開されたら、Web交流の開催も再開いたします。

東京山出 東京会場に出席する機器
新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、東京会場の開催中止が決定しました。開催中止は一時的な対応であり、本展覧会が再開されたら、Web交流の開催も再開いたします。

出展機器

シリーズ・ニーズ・マズマッチング交流会2021
作る人と使う人の交流会

H. その他

染め出しライト

染め出しライトは歯垢着色液を必要としない光を当てただけの新しい歯垢の可視化方法です。

歯っぴー株式会社

熊本県熊本市北区仙羽町1041番地57



希望する交流の内容

ケアマネージャーや介護スタッフ、リハビリおと口腔状態の知識を持った方などでも興味を持っていただく方が必要と考えている方との交流や意見交換をしたい。また、口腔機能向上に注力している、もしくはこれから注力したいと考えている方と交流や意見交換を行いたい。

Web交流の連絡先

担当部署：—
担当者氏名：小川 健明
TEL:050-5374-4859
E-Mail:Akinori.Oyama@100years.life

U01H-07

Liberty DECALT(リバティデカルト)

Liberty DECALTは排尿、排便センサーが検知、自動で排泄物を吸引し、筒部洗浄、送風乾燥をし、清潔な状態に保ちます。

株式会社リバティインキュベーション

東京都江崎市西線島1丁目2番7号



希望する交流の内容

Liberty DECALTはカップユニットに内蔵されたセンサーが排泄・排便を検知し、自動運転を開始する機能を搭載。前に直接装着するカップユニットの素材は人口乳房にも使用されている素材で、粘着性があがり長時間にわたって装着しても体に害はなく、尿漏れ、便漏れを解消した。今後最も適切な製品づくりの為に、装着時の尿漏れ、水漏れなどの有無や感触、一方で介護者の利用をする上での利便性等の利用者のご意見を積極にお聞きしたい。

Web交流の連絡先

担当部署：経理部
担当者氏名：福岡 英夫
TEL:0852-611-3999 FAX:0852-61-2399
E-Mail:tukuma@liberty-s.co.jp

U01H-06

※変更する場合があります。

開募促進 令和3年度 開募促進事業の採択案件となります
東京会場及びオンラインにおいて、成果報告を行います

自分の声ソフトウェア ボイスター

ボイスターは、声を失われる人に向けた「自分の声」で語り掛けるための音声合成ソフトウェアです。

株式会社ヒューマンテクノシステム

東京都中央区日本橋人形町1-6-10



希望する交流の内容

・ALSや喉頭がんをはじめ、様々な発声障害がいを伴う当事者に対して本製品を紹介し、個別のニーズに際するヒアリング・意見交換を行う。
・医療・リハビリ・介護スタッフの方に対し、現場におけるニーズ等に関するヒアリング・意見交換を行う。
・現状製品について、製作過程やデモンストレーション、利用事例等を交えた紹介を行い、改善要望やその実現性について意見交換を行う。

Web交流の連絡先

担当部署：プログラム事業部
担当者氏名：渡辺
TEL:03-5847-1206 FAX:03-5847-1207
E-Mail:voistat@kknts.com

U01H-05

行政・開発支援団体・当事者団体等

社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合

東京都新宿区西早稲田2-18-2
担当部署：事業部
TEL:03-3200-0011(代) FAX:03-3200-7755(代表)
E-Mail:alsaka-t@jfb.jp / jigyout@jfb.jp

一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

東京都新宿区市谷台町14-5 MSビル市谷台1F
担当部署：情報文化部
担当者氏名：小川光彦
TEL:03-3354-0006
E-Mail:zenanchou@zenanchou.or.jp /
VZQ03313@nifty.ne.jp (問い合わせ、発行経路知用)

ポリオの会

東京都台東区三ノ輪1-6-5-602 小山方ポリオの会
担当部署：—
担当者氏名：小川万里子
TEL:03-3872-7359 FAX:03-3872-7359
E-Mail:koyama@mr.biglobe.ne.jp

特定非営利活動法人 日本失語症協議会

東京都杉並区久我山2-10-23 鷹田方
担当部署：—
担当者氏名：鷹田尚美
TEL:03-5335-9756 FAX:03-5335-9757
E-Mail:office@japci.info

ASD(自閉スペクトラム症)生活環境研究会

担当部署：事務局
担当者氏名：柳澤高志
TEL:072-444-8814
E-Mail:JZA00265@nifty.ne.jp

国立研究開発法人 情報通信研究機構(NICT)

東京都小金井市貫井北町4-2-1
担当部署：ニアロイメン特産部門 情報/リアルアプリ推進室
TEL:042-327-6022 FAX:042-327-5706
担当者氏名：武井慶人
E-Mail:kakusa@nict.go.jp

厚生労働省

東京都千代田区霞が関1-2-2
担当部署：社会・健康局 障害保健福祉部
TEL:03-5253-1111(代)

公益社団法人 全国背腰痛損傷者連合会

東京都目黒区緑が丘2-15-14 村上ビル101
担当部署：事務局
担当者氏名：吉谷香織
TEL:03-6421-4588 FAX:03-6421-4665
E-Mail:yoshitan@zensekiren.jp

一般社団法人 日本ALS協会

東京都千代田区九段北1丁目1番7号 カーク九段405
担当部署：本郷事務部
担当者氏名：津川悠夢
TEL:03-3234-9155 FAX:03-3234-9156
E-Mail:jalsa@aisjapan.org

社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会

東京都墨田区白3-4-43
担当部署：企画調整課
TEL:03-3565-3399 FAX:03-3565-3349
E-Mail:jfcd@nissinen.or.jp

社会福祉法人 全国盲ろう者協会

東京都新宿区早稲田町67番地 早稲田クロアパークビル3階
担当部署：事務局
担当者氏名：橋本信市
TEL:03-5287-1140 FAX:03-5287-1141
E-Mail:info@jba.or.jp

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー20F
担当部署：イノベーション推進部プラットフォームグループ
担当者氏名：只野謙、白井裕一、小松涼央
TEL:044520-5175 FAX:044520-5178
E-Mail:fukushih@nedo.go.jp

国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)

東京都千代田区五番町7'5番町 JST東京本部別館
担当部署：経産交流室
担当者氏名：下田修
TEL:03-6380-9014
E-Mail:entree@jst.go.jp

公益財団法人 テクノエイド協会

担当部署：企画部
担当者氏名：宇田川、樫石、五島
TEL:03-3266-6883 FAX:03-3266-6885
E-Mail:shogah-kik2@techno-aid.or.jp

出展機器

行政・開発支援団体・当事者団体等

シーズ・ニーズマッチング交流会 2021 併催セミナープログラム (予定)

令和3年9月29日曜日の予定となります。
変更する場合がございます。

シーズ・ニーズマッチング交流会 2021 併催セミナープログラム (予定)	併催セミナープログラム (予定)	併催セミナープログラム (予定)	併催セミナープログラム (予定)		
<h3>Web 開催</h3> <p>令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月) (4ヶ月間)</p> <p>9:00～17:00</p> <p>Web 交流プラットフォームを活用し、 期間中は常時交流が可能です。</p> <p>併催セミナーは毎月更新いたします。</p> <p>http://www.techno-aids.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20</p> 	<h3>山口会場</h3> <p>令和3年10月9日(土)～10日(日) (2日間)</p> <p>講演開始 11:00～16:20 / 10:00～16:00</p> <p>新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することとなりました。併催セミナーはオンラインでの開催に切り替え開催いたします。 視聴サイトや視聴方法については後日、交流会サイトに掲載しますので是非ご視聴ください。</p>  <p>オンラインでも視聴 (https://us06web.zoom.us/j/86133851012)</p> <p>それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。</p> <p>AM</p> <ol style="list-style-type: none">11:00-12:00 (60分) 「歩行ロボット技術を活用した福祉機器の開発」 国立大学法人 名古屋工業大学 大学院 つくり領域 教授 佐野明人 先生12:10-12:30 (20分) 日本ロボットハビリティーション・ケア研究大会の開催にあたり 代表世話人 殿和病院 田中 聡 氏13:30-14:30 (60分) (セミナー) バイオデザイン手法の紹介 株式会社ライフトゥデイズ 代表取締役 (医師) 原 陽介 先生14:40-15:10 (30分) つながる、たのしむ、相触できる スマホをつむぐ重症児支援の未来 一般社団法人オンライン臨床 代表理事 ひいどろ 代表 言語聴覚士 長岡菜都子 氏15:20-16:20 (60分) 特別シンポジウム 特別シンポジウム「算数例表の受賞とその後」 NPO法人(Careほっかい) 佐藤由紀 氏 かえるキッズのお助け隊 大泉えり 氏 有限会社オフィス幅アジア 高橋昌弘 氏 <p>PM</p> <ol style="list-style-type: none">11:00-12:00 (60分) 「障害者の自己決定」 土屋総研特別研究員 元厚生省障害福祉課長 元宮城県知事 浅野史郎 先生13:00-14:00 (30分 x 2着) 福祉機器の利用事例とニーズの探掘 日本難聴者・中途失聴者団体連合会 小川光彦 氏 日本視覚障害者団体連合 蓮坂 忠 氏15:00-16:00 (20分 x 3着) 厚生労働省「障害者開発促進事業・探拮企業」による成果報告① 厚生労働省「障害者開発促進事業・探拮企業」による成果報告① 株式会社 QD レーザ AI 制御による表現音に歌える歌唱型人工喉頭の開発 障がい児用チャージャーチェアの開発 タカノ株式会社 <p>AM</p> <ol style="list-style-type: none">10:00-11:00 (30分 x 2着) 出版企業による福祉機器開発の現状報告 国立大学法人 大阪大学 横田純己 氏 株式会社オレンジャー 宇田竹信 氏11:10-11:40 (30分) 失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器 (仮称) 一般社団法人日本語聴覚士協会 白波瀬元道 氏12:30- (20分 x 3着) 厚生労働省「障害者開発促進事業・探拮企業」による成果報告② 聴覚視覚発語刺激に対応した言語支援アプリケーションの開発 シズネット株式会社 座席バランスの定量的評価と効果的トレーニングを可能にする "The e (座席) - balance trainer" の開発 学校法人 藤田医科大学 障害児の日常生活において両手協調動作を促す訓練用の防滴義手と自動具 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団14:00-17:00 (180分) (ワークショップ) バイオデザイン手法を活用した支援機器開発手法を学ぶ (ワークショップ) バイオデザイン手法を活用した支援機器開発手法を学ぶ 株式会社ライフトゥデイズ 代表取締役 (医師) 原 陽介 先生 東京大学医学部附属病院心臓外科特任研究員 (理学療法士) 柳花隆昭 先生	<h3>東京会場</h3> <p>令和3年12月7日(火)～8日(水) (2日間)</p> <p>9:00～17:00 / 9:00～17:00</p> <p>東京都立産業貿易センター浜松町館 2階展示室</p> <p>〒105-7501 東京都港区海岸 1-7-1</p> <p>ゆりかもめ [竹芝駅] 西口より徒歩2分 JR [浜松町駅] 北口より徒歩5分 東京モノレール [浜松町駅] 北口より徒歩5分 都営地下鉄 [大門駅] B2 出口より徒歩7分</p> <p>※車いすでお越しの方は、ゆりかもめ [竹芝駅] をご利用ください。</p>  <p>オンラインでも視聴 (https://us06web.zoom.us/j/89473466124)</p> <p>それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。</p> <p>AM</p> <ol style="list-style-type: none">11:00-12:00 (60分) 「障害者の自己決定」 土屋総研特別研究員 元厚生省障害福祉課長 元宮城県知事 浅野史郎 先生13:00-14:00 (30分 x 2着) 福祉機器の利用事例とニーズの探掘 日本難聴者・中途失聴者団体連合会 小川光彦 氏 日本視覚障害者団体連合 蓮坂 忠 氏15:00-16:00 (20分 x 3着) 厚生労働省「障害者開発促進事業・探拮企業」による成果報告① 厚生労働省「障害者開発促進事業・探拮企業」による成果報告① 株式会社 QD レーザ AI 制御による表現音に歌える歌唱型人工喉頭の開発 障がい児用チャージャーチェアの開発 タカノ株式会社 <p>AM</p> <ol style="list-style-type: none">10:00-11:00 (30分 x 2着) 出版企業による福祉機器開発の現状報告 国立大学法人 大阪大学 横田純己 氏 株式会社オレンジャー 宇田竹信 氏11:10-11:40 (30分) 失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器 (仮称) 一般社団法人日本語聴覚士協会 白波瀬元道 氏12:30- (20分 x 3着) 厚生労働省「障害者開発促進事業・探拮企業」による成果報告② 聴覚視覚発語刺激に対応した言語支援アプリケーションの開発 シズネット株式会社 座席バランスの定量的評価と効果的トレーニングを可能にする "The e (座席) - balance trainer" の開発 学校法人 藤田医科大学 障害児の日常生活において両手協調動作を促す訓練用の防滴義手と自動具 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団14:00-17:00 (180分) (ワークショップ) バイオデザイン手法を活用した支援機器開発手法を学ぶ (ワークショップ) バイオデザイン手法を活用した支援機器開発手法を学ぶ 株式会社ライフトゥデイズ 代表取締役 (医師) 原 陽介 先生 東京大学医学部附属病院心臓外科特任研究員 (理学療法士) 柳花隆昭 先生	<h3>Web 開催</h3> <p>令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月) (4ヶ月間)</p> <p>9:00～17:00</p> <p>Web 交流プラットフォームを活用し、 期間中は常時交流が可能です。</p> <p>併催セミナーは毎月更新いたします。</p> <p>http://www.techno-aids.or.jp/2021koryukai/web/hall/cms/#part20</p> 	<h3>山口会場</h3> <p>令和3年10月9日(土)～10日(日) (2日間)</p> <p>講演開始 11:00～16:20 / 10:00～16:00</p> <p>新型コロナウイルスの急激な感染拡大により、山口会場の開催を中止することとなりました。併催セミナーはオンラインでの開催に切り替え開催いたします。 視聴サイトや視聴方法については後日、交流会サイトに掲載しますので是非ご視聴ください。</p>  <p>オンラインでも視聴 (https://us06web.zoom.us/j/86133851012)</p> <p>それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。</p> <p>AM</p> <ol style="list-style-type: none">11:00-12:00 (60分) 「歩行ロボット技術を活用した福祉機器の開発」 国立大学法人 名古屋工業大学 大学院 つくり領域 教授 佐野明人 先生12:10-12:30 (20分) 日本ロボットハビリティーション・ケア研究大会の開催にあたり 代表世話人 殿和病院 田中 聡 氏13:30-14:30 (60分) (セミナー) バイオデザイン手法の紹介 株式会社ライフトゥデイズ 代表取締役 (医師) 原 陽介 先生14:40-15:10 (30分) つながる、たのしむ、相触できる スマホをつむぐ重症児支援の未来 一般社団法人オンライン臨床 代表理事 ひいどろ 代表 言語聴覚士 長岡菜都子 氏15:20-16:20 (60分) 特別シンポジウム 特別シンポジウム「算数例表の受賞とその後」 NPO法人(Careほっかい) 佐藤由紀 氏 かえるキッズのお助け隊 大泉えり 氏 有限会社オフィス幅アジア 高橋昌弘 氏 <p>PM</p> <ol style="list-style-type: none">11:00-12:00 (60分) 「障害者の自己決定」 土屋総研特別研究員 元厚生省障害福祉課長 元宮城県知事 浅野史郎 先生13:00-14:00 (30分 x 2着) 福祉機器の利用事例とニーズの探掘 日本難聴者・中途失聴者団体連合会 小川光彦 氏 日本視覚障害者団体連合 蓮坂 忠 氏15:00-16:00 (20分 x 3着) 厚生労働省「障害者開発促進事業・探拮企業」による成果報告① 厚生労働省「障害者開発促進事業・探拮企業」による成果報告① 株式会社 QD レーザ AI 制御による表現音に歌える歌唱型人工喉頭の開発 障がい児用チャージャーチェアの開発 タカノ株式会社 <p>AM</p> <ol style="list-style-type: none">10:00-11:00 (30分 x 2着) 出版企業による福祉機器開発の現状報告 国立大学法人 大阪大学 横田純己 氏 株式会社オレンジャー 宇田竹信 氏11:10-11:40 (30分) 失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器 (仮称) 一般社団法人日本語聴覚士協会 白波瀬元道 氏12:30- (20分 x 3着) 厚生労働省「障害者開発促進事業・探拮企業」による成果報告② 聴覚視覚発語刺激に対応した言語支援アプリケーションの開発 シズネット株式会社 座席バランスの定量的評価と効果的トレーニングを可能にする "The e (座席) - balance trainer" の開発 学校法人 藤田医科大学 障害児の日常生活において両手協調動作を促す訓練用の防滴義手と自動具 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団14:00-17:00 (180分) (ワークショップ) バイオデザイン手法を活用した支援機器開発手法を学ぶ (ワークショップ) バイオデザイン手法を活用した支援機器開発手法を学ぶ 株式会社ライフトゥデイズ 代表取締役 (医師) 原 陽介 先生 東京大学医学部附属病院心臓外科特任研究員 (理学療法士) 柳花隆昭 先生	<h3>東京会場</h3> <p>令和3年12月7日(火)～8日(水) (2日間)</p> <p>9:00～17:00 / 9:00～17:00</p> <p>東京都立産業貿易センター浜松町館 2階展示室</p> <p>〒105-7501 東京都港区海岸 1-7-1</p> <p>ゆりかもめ [竹芝駅] 西口より徒歩2分 JR [浜松町駅] 北口より徒歩5分 東京モノレール [浜松町駅] 北口より徒歩5分 都営地下鉄 [大門駅] B2 出口より徒歩7分</p> <p>※車いすでお越しの方は、ゆりかもめ [竹芝駅] をご利用ください。</p>  <p>オンラインでも視聴 (https://us06web.zoom.us/j/89473466124)</p> <p>それぞれのセミナーは、定刻となりしだい視聴可能となります。</p> <p>AM</p> <ol style="list-style-type: none">11:00-12:00 (60分) 「障害者の自己決定」 土屋総研特別研究員 元厚生省障害福祉課長 元宮城県知事 浅野史郎 先生13:00-14:00 (30分 x 2着) 福祉機器の利用事例とニーズの探掘 日本難聴者・中途失聴者団体連合会 小川光彦 氏 日本視覚障害者団体連合 蓮坂 忠 氏15:00-16:00 (20分 x 3着) 厚生労働省「障害者開発促進事業・探拮企業」による成果報告① 厚生労働省「障害者開発促進事業・探拮企業」による成果報告① 株式会社 QD レーザ AI 制御による表現音に歌える歌唱型人工喉頭の開発 障がい児用チャージャーチェアの開発 タカノ株式会社 <p>AM</p> <ol style="list-style-type: none">10:00-11:00 (30分 x 2着) 出版企業による福祉機器開発の現状報告 国立大学法人 大阪大学 横田純己 氏 株式会社オレンジャー 宇田竹信 氏11:10-11:40 (30分) 失語症のリハビリテーションに役立つ支援機器 (仮称) 一般社団法人日本語聴覚士協会 白波瀬元道 氏12:30- (20分 x 3着) 厚生労働省「障害者開発促進事業・探拮企業」による成果報告② 聴覚視覚発語刺激に対応した言語支援アプリケーションの開発 シズネット株式会社 座席バランスの定量的評価と効果的トレーニングを可能にする "The e (座席) - balance trainer" の開発 学校法人 藤田医科大学 障害児の日常生活において両手協調動作を促す訓練用の防滴義手と自動具 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団14:00-17:00 (180分) (ワークショップ) バイオデザイン手法を活用した支援機器開発手法を学ぶ (ワークショップ) バイオデザイン手法を活用した支援機器開発手法を学ぶ 株式会社ライフトゥデイズ 代表取締役 (医師) 原 陽介 先生 東京大学医学部附属病院心臓外科特任研究員 (理学療法士) 柳花隆昭 先生

※) 視聴 (参加) には、別途事前申し込みが必要となります。詳しくは協会ホームページをご確認ください。

みんなで考えよう！ 障害者自立支援機器
「シーズ・ニーズマッチング交流会 2021」
 ～ 作る人と使う人の交流会 ～
「出展企業等」募集要項

障害者及び障害児（以下「障害者」。）の自立を支援する「障害者自立支援機器（以下「支援機器」。）」は、障害者の活動や参加を促すものとして、極めて重要な役割を果たすものです。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要とされる支援機器を開発するためには、開発の早い段階からユーザや支援者の「ニーズ」と、開発や研究者等の「シーズ」をマッチングすることが大切であり、開発者はシーズ志向型にならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、障害福祉現場の課題やニーズを的確に捉えて、支援機器を開発することが重要となります。

この交流会では、ユーザ側が持つ「ニーズ」と開発側が持つ「シーズ」のマッチングを目的とした支援機器に関する交流会を企画・開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作器等（既に実用化した機器も可。）を用いて想定するユーザと開発側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、効果的なモニター評価等を行う機会を創出することと致します。

交流会へ出展（無料）を希望する方は、本募集要項をご留意いただき、所定の期日までに「出展申込」を行ってください。※今年度よりWebからの出展申込となりました。

なお、出展希望が多数の場合には、障害の種別や機器の分野等、全体のバランスを勘案することとし、出展をお断りする場合があります。予めご了承ください。

※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等

※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

< Web開催(4カ月) > ※Web交流プラットフォームの利用を想定しています。

■ 開催日 令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月)

■ 時間 9：00～17：00

■ サイト テクノイド協会のホームページ内 ※動画等の発信とオンラインを活用して交流

< 山口会場(2日間) >

■ 開催日 令和3年10月9日(土)～10日(日)

■ 時間 10：30～17：00 / 9：00～17：00

■ 会場 海峡メッセ下関(展示見本市会場)

※第10回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会同時開催

< 東京会場(2日間) >

■ 開催日 令和3年12月7日(火)～8日(水)

■ 時間 9：00～17：00

■ 会場 東京都立産業貿易センター浜松町館(2階展示室)



※ 新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、イベント開催の自粛が予測される場合には、無来場者開催（Web）に切り替えることと致します。

目次

I. 交流会の目的と概要.....	2
II. 出展申込の方法及び募集する数、申込期限.....	3
III. 出展対象者と機器の条件等.....	5
IV. 出展小間の仕様、備品等.....	6
V. 新型コロナ対策等について.....	7
VI. WEB開催時における出展者の個人ページ.....	8
VII. WEB開催に伴う動画等の作成スケジュール.....	9
VIII. 会場までのアクセス方法.....	10
IX. 出展にあたっての注意事項.....	12
X. 招待する関係団体等、問い合わせ先.....	14
◆昨年度の開催状況について(参考).....	15

1. 交流会の目的と概要

1. 交流会の目的

本交流会は、自立支援機器の開発を促進することを目的に、障害当事者をはじめ、ご家族や福祉・医療従事者などの「機器を使う側(ニーズ)」の方々と、開発企業や大学、研究機関、産学官交流振興組織などの「機器を作る側(シーズ)」の方々が、じっくり膝を交えて交流することを目的とするものです。

- ※ニーズ側：障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉の業務に従事し障害者の福祉や訓練に係わる者 等
- ※シーズ側：開発メーカー、地域の産業振興団体、新規参入を検討する企業・研究者、大学・研究機関 等

2. 開催概要

①イベント名称：**障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会 2021」**

②開催日程・場所：

<Web開催>

- 開催日 / 令和3年10月1日(金)～ 令和4年1月31日(月)
- サイト / テクノエイド協会のホームページ内

<山口会場>

- 開催日 / 令和3年10月9日(土)～ 10日(日)
- 会 場 / 海峡メッセ下関（展示見本市会場）

<東京会場>

- 開催日 / 令和3年12月7日(火)～ 8日(水)
- 会 場 / 東京都立産業貿易センター浜松町館（2階展示室）

※ 新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、イベント開催の自粛が予測される場合には、無来場者開催（Web）に切り替えることとします。

③期間中：**支援機器の展示・相談、デモンストレーション、意見交換等の実施**

Web開催では、動画やテキスト情報を掲載し、掲示板や個別の問い合わせフォーム、オンラインシステムなどを利用して交流を深めることとします。

④併催イベントの概要（予定）※プログラムは変更する場合があります。

（Web開催）※オンラインにて定期配信を予定しています。

1. 交流会の実施について（Webを活用した交流の進め方）
2. 厚生労働省科学研究報告
3. 有識者や開発支援団体などによる講演 他



（山口・東京会場）※オンライン配信します。

1. 基調講演
2. ロボットリハビリテーション・ケア学会
3. 特別企画 支援機器ワークショップ
4. 支援機器の利用事例とニーズの提供
5. 出展企業による報告
6. 開発促進事業の成果報告 他



⑤出展料：**「無料」**（但し、動画等の作成や搬出入に係る費用は自己負担となります。）

II. 出展申込の方法及び募集する数、申込期限

1. 申込方法

出展を希望する方は、下記の「**出展申込専用ページ**（Google forms）」より、必ず所定の期日までにお申し込みください。

- 公益財団法人テクノエイド協会 → <http://www.techno-aids.or.jp/>
- 出展申込専用ページ → <https://forms.gle/uHYokCKcQFHPc6nX8>

障害者自立支援機器
シーズ・ニーズマッチング交流会2021
～作る人と使う人の交流会～

こちらは、出展を希望される方の入力フォームとなります。

ATA 公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

マッチング交流会2021 出展申込

障害者自立支援機器
シーズ・ニーズマッチング交流会2021 ~作る人と使う人の交流会～
出展を希望される方の入力フォームとなります。

ファイルをアップロードしてこのフォームを送信すると、Google アカウントに関連付けられている名前と写真が記録されます

2. 出展募集する数

下記のいずれから選択してください。

- ◆東京会場と山口会場、Web開催 50社
- ◆山口会場とWeb開催 50社 + 10社(地域推薦枠)
- ◆東京会場とWeb開催 50社

※ 会場開催のみ又は、Web開催のみの出展は認められません。

3. 申込期限

令和3年6月29日(火)17:00必着

※ 締切りを過ぎた後の申込みは受付いたしません。

4. 出展者の決定

過去の出展状況等を勘案し、当協会にて決定いたします。

出展希望が多数の場合には、障害の種別や機器の分野等、全体のバランスを勘案することとし、出展をお断りする場合があります。予めご了承ください。

出展の可否につきましては、協会からメールにて送付いたします。

5. 出展料金

無料（但し、動画等の作成及び出展に伴う駐車料金や搬出入等に伴う費用は自己負担。）

6. 出展申込に関する問い合わせ

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 担当者 宇田川、根石（ねいし）、五島

電話番号 03-3266-6883

電子メールアドレス shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

※現在、新型コロナウイルスを予防するため、就業時間を8時～16時としております。

なお、交流会の業務の一部を委託する予定です。本年度の委託先が決定しだい委託先から直接ご連絡がありますので、ご対応ください。



Ⅲ. 出展対象者と機器の条件等

1. 出展対象者

以下のすべての事項を満たす方とします。

- 障害者向けの支援機器を開発中の企業等で、かつ試作器を出展できる企業・個人等
※但し、既に商品化した支援機器であっても、ニーズを踏まえた改良の意向がある場合は参加を認めることといたします。
- 障害当事者等と交流を深めてニーズをくみ取り、良質な支援機器の開発や改良を目指している企業・個人等
- 自社にて出展機器の動画等が作成できる企業・個人等
※動画等とは、動画（MP4形式等）又は、音声や動画が入ったPowerPointファイルとします。

2. 出展機器の条件

- 開発や改良を目的とした機器であること。
- 障害当事者等のニーズを聞き取り、開発や改良、改善を目的とする機器であること。
- 障害者の活動や参加を支援する要素技術等であること。
- 高齢者向けの機器や介護機器は除きます。
- 営業や販売を目的とする機器は除きます。
- 原則1企業、1機器とします。（但し、サイズや型式等の相違は除きます。）

3. 出展にあつての留意事項

(1) Web開催

- ・ 交流を深める方策として、10分以内の動画又は、音声や動画が入ったPowerPoint（以下「動画等」）を出展者自身で作成いただきます。
- ・ 動画等には、開発中の製品紹介をはじめ、交流会にて意見交換したい内容、現在の開発にあつての課題点等のメッセージを入れていただきます。
- ・ 障害者に対する情報保障は、各社にてお願いいたします。
- ・ 作成した動画等は、当協会のYoutubeアカウントで公開することといたします。
◆参考 昨年度の動画
<https://www.youtube.com/channel/UCIFy-6yXArnXyAwQM8rg17A/videos>
- ・ 本交流会は、シーズとニーズのマッチングを目的としているため、販売を促進する内容の動画等は認められません。
- ・ 動画作成にあたりましては、出展が確定しだい令和3年7月15日（木）13時30分より、オンラインにて説明会を開催させていただきます。

(2) 山口会場及び東京会場

- ・ 出展申込をしないで、会場へ支援機器を持ち込むことはできません。
- ・ 交流会では金銭の授受を含めた販売活動は禁止です。
- ・ 会場にて来場者や他の出展者等に迷惑行為を行った場合には即時退場を命じます。協会の指示に従ってください。

※ 山口会場は、第10回日本ロボットリハビリテーション・ケア研究大会同時開催となります。

IV. 出展小間の仕様、備品等

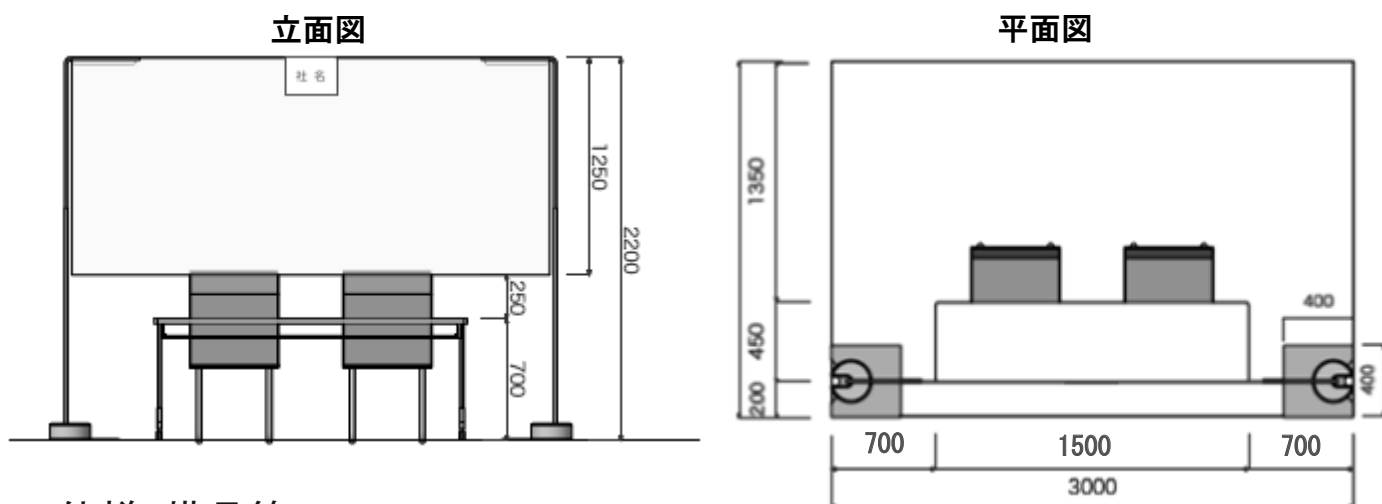
1. 出展小間イメージ（山口・東京会場）

下図の備品は、基本設備となります。

背面に壁やバックパネルの用意はありませんので、各自で準備をお願いします。

但し、新型コロナ対策の一環として、透明ビニールシートは事務局で用意いたします。

東京会場のブースのイメージ



2. 仕様・備品等

(1) 小間の仕様

- ・展示スペース：2,000mm×3,000mm

※ 感染防止のため設置するビニールシートを含めた数値です。

(2) 基本の設備

- ・テーブル1台（W1500mm×D600mm×H700mm）
- ・椅子2脚

(3) 追加備品の取り扱い

- ・パネルを貼るスタンドやカタログスタンド、電源の延長ケーブル等は、必要に応じて自社で用意してください。
- ・電源（100V）が必要な場合には、出展申込時に必ず記載してください。

(留意事項)

山口・東京会場では、会場設営において施工や電気工事業者が入る予定ですが、基本的には自社にて、ご準備いただきますようお願いいたします。

ご不明な点は、事務局までお問い合わせください。

V. 新型コロナ対策等について

1. 会場開催の留意事項

新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、イベント開催の自粛が予測される場合には、無来場者開催（Web）に切り替えることといたします。

会場では、以下の事項を徹底することとし、協会及び委託事業者にて以下の感染予防対策を徹底いたします。

①三密を避けること。

- 会場内の換気を定期的に行うこと。
- 出展者の間隔を十分にあけること。
- 参加者の座席の間隔を十分にあけること。
- 入場は室内定員の原則50%以内とすること。



②来場者等へ手指の消毒やマスクの着用を要請すること。

③参加者の特定できるよう、来場者の連絡先を記載した名簿を作成すること。

④出展者及び来場者の体温検査を行うこと。



また、出展者の皆様、来場される方々におかれましては、以下の感染予防対策をお願い致します。

①開催当日に自宅等での検温

- 来場いただく前に自宅で検温をお願いします。
- 37.5度以上の発熱、頻回に咳が出る、あるいは少しでも体調に異変を感じる場合は来場をお控えください。
- 開催の両日とも必ず検温をお願いします。

②マスクの着用、手指の消毒

- マスクは自社・自身で用意してください。
- ブースなどで使用される消毒液は出展者にてご用意ください。



③飛沫感染予防を前提とした交流

- マスクを外したまま来場者と会話する等、飛沫感染が発生し得るような交流は控えください。
- 出展機器について、随時消毒をするなど、自社・自身で感染症予防を行ってください。



VI. Web開催時における出展者の個人ページ

1. 出展者の個人ページのイメージ

以下は、昨年度のものです。


出展者ごとの個人ページを設けることにより、来場者は出展者のページに入ること、製品動画の視聴や掲示板や個別の問い合わせフォーム、オンラインシステムなどを使って意見交換や交流を行うことを想定しています。

【イメージ】 シーズ・ニーズマッチング交流会2021 Web交流プラットフォーム

現在の来店者数：〇〇名

A 身体障害（肢体不自由）

公益財団法人テクノエイド協会
障害者機器開発に関するニーズとシーズ情報を投稿できるシステム



出展者情報

所在地：162-0823
東京都新宿区神楽河岸 1-1
セントラルプラザ4F

アクセスMAP

Web交流の連絡先

担当部署：企画部
担当者氏名：××××
TEL：03-3266-6883
FAX：03-3266-6885
E-mail:shogai-kiki2@techno-aid.or.jp


希望する交流内容

- ・障害当事者を含めたニーズの方や機器開発に係るシーズの皆様に当該システムの使い勝手をお伺いしたい。
- ・どのような機能があればより投稿が活性化するか、投稿しやすいシステムづくりについてご意見を伺いし、今後のシステム改修としての参考としたい。

掲示板、問い合わせフォームなど

出展機器

出展機器	福祉用具ニーズ情報収集・提供システム
装置	ATA-needs-seeds-system
機器の概要	<p>障害のある方や介護される方（ご家族や介護、リハビリ関係者など）から、福祉用具に関する要望やアイデア、日常の課題などをお聞きし、実用的な福祉用具の研究に繋がります。</p> <p>「要望・アイデア・課題」、「新製品・技術」、「お知らせ」の3つの項目に分けて投稿が可能です。また、フリーワードから過去の投稿内容を検索することが可能です。自分の関心のある投稿や、投稿に関しての返信があった場合には、通知してくれる機能を搭載しました。</p> <p>ニーズに根差した機器開発につながるよう、活発な投稿をお願致します。</p>



※上記はあくまでイメージであり、実際と異なる場合があります。

VII. Web開催に伴う動画等の作成スケジュール

令和3年度 出展者の動画等作成スケジュール(予定)

No	項目	内容	2021年(令和3年)												2022年(令和4年)											
			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		2月			
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1	出展企業の確定	出展申込 6/29 締切厳守																								
		出展者確定								↑																
2	出展企業へ案内	動画作成ルールの案内(メール)																								
		出展者による動画作成																								
3	交流会で使用する動画の作成	7/15 13:30 出展者説明会 ①																								
		問い合わせ対応																								
4	提出動画のチェック 企業による修正	事務局による動画チェック																								
		修正指示																								
		修正、再提出																								
		専用サイトへアップ																								
5	交流会ホームページへ 動画掲載 (専用HP)	Web開催																								
		山口及び東京会場による開催																								

動画作成にあつて以下以下の点に留意してください(必ずご確認ください。)

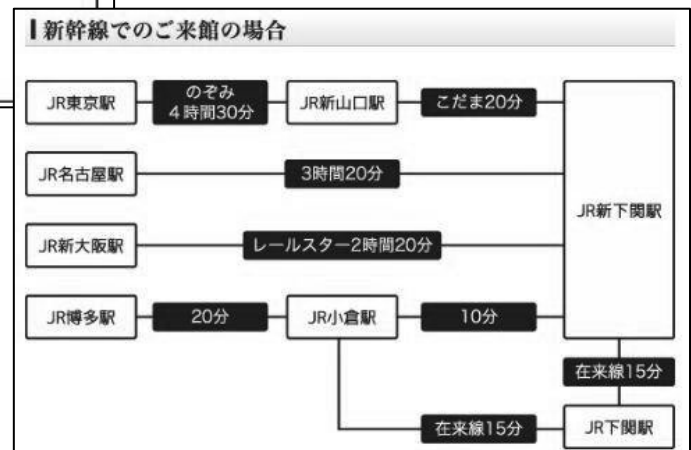
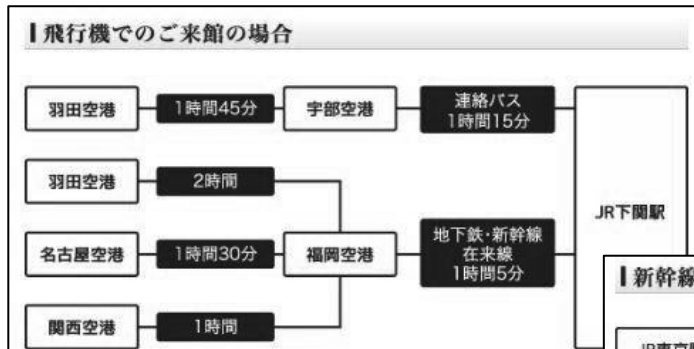
①8月20日までに必ず動画を提出すること。②当協会が規定する内容を必ず盛り込むこと。③内容が合わない場合は修正すること。④修正などやり取りの進捗によっては、Web開催日にプラットフォームへの動画掲載が間に合わない可能性があること。

動画作成の具体的な事項は、出展者が確定したいご連絡させていただきますが、現時点で不明や確認したい点ございましたら、事務局まで問い合わせください。

VIII. 会場までのアクセス方法

1. 山口会場 海峡メッセ下関（展示見本市会場）

山口県下関市豊前田町3丁目3番1号



< 公共交通機関のご案内 >

徒歩及びバスでの来場が可能です。

- JR下関駅から徒歩7分
- JR下関駅からバス1分、「豊前田」下車徒歩2分

< 車でお越しの場合 >

- JR新下関駅から車で15分

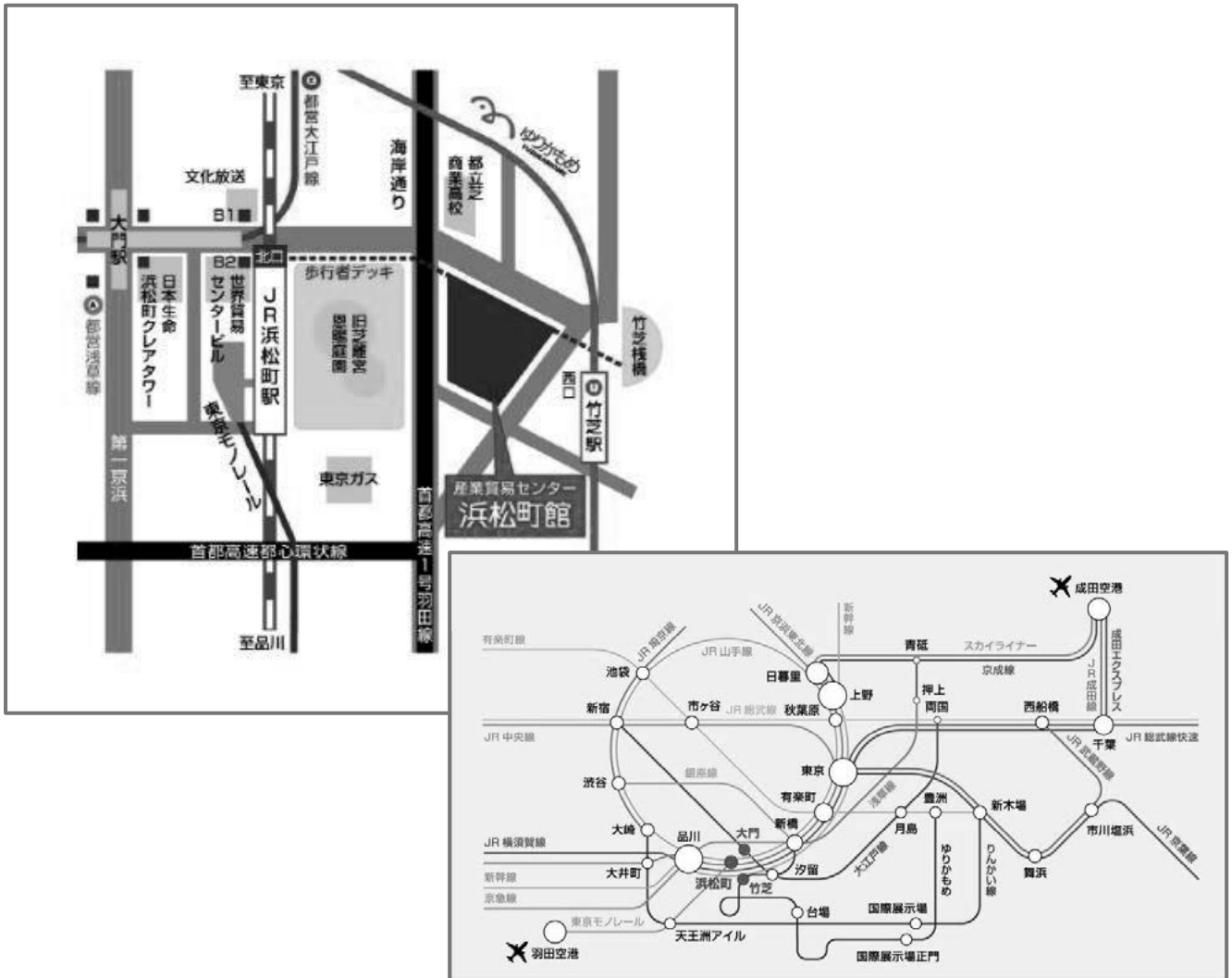
< 駐車場のご案内 >

第1駐車場もしくは第2駐車場をご利用ください。
 なお、割引券の配布は行いませんのでご了承ください。

2. 東京会場 東京都立産業貿易センター浜松町館（2階展示室）

東京都港区海岸1-7-1

※車いすで来場される方は、ゆりかもめ「竹芝駅」を利用してください。



< 公共交通機関のご案内 >

- JR 浜松町駅（北口）から徒歩5分
- 東京モノレール 浜松町駅（北口）から徒歩5分
- ゆりかもめ 竹芝駅から徒歩2分
- 都営浅草線 大門駅から徒歩7分
- 都営大江戸線 大門駅から徒歩7分

車いすで来場される方は、ゆりかもめ「竹芝駅」を利用してください。

< 車でお越しの場合 >

- 都心環状線「芝公園IC」出口より約10分、「汐留IC」出口より約10分
- 羽田線「芝浦IC」出口より約10分

< 駐車場のご案内 >

地下1階にビル共有の有料駐車場があります。（産業貿易センター専用の駐車場ではありません）

なお、割引券の配布は行いませんのでご了承ください。

IX. 出展にあたっての注意事項

1. 出展申込

- 本年度からWebでの申込とさせていただきます。本出展要項をご確認いただき、期日までに必ずお申込みください。
- 期限を過ぎた申込は受付いたしません。
- 出展内容が交流会の趣旨に合わないと協会が判断した場合、出展をお断りします。これにより生ずる損害に対し、協会は一切の責任を負いません。

2. 出展の取りやめ

- 出展の取りやめは、出展の決定から10日以内とし、書面（任意様式）にて協会に申し出てください。
- 協会の判断により正式な取りやめを決定します。（なお、パンフレット等の作成状況によっては、出展取りやめの依頼をいただいても、情報が掲載されたままとなる場合もあり得ることをご了承ください）

3. 提出物について

- 交流会パンフレットや交流会専用ホームページ作成のため、出展者情報や出展機器情報のご提出をお願い致します。その他、事務局より資料等の請求があった場合には事務局の指示に従うようお願いいたします。

4. 出展の可否、小間位置の決定

- 障害の種別や支援機器の分野等、全体のバランスを勘案し、最終的には協会にて出展の可否を決定することといたします。また、小間位置の割り当ても協会にて行います。

5. 会場内の行為の制限

- 出展者は協会の承諾なしに、通路、休憩所など自らの出展スペース以外での展示・宣伝を行うことはできません。
- 来場者や他の展示者に迷惑を与えるような音、光、熱、臭気を伴う行為や危険と認められる実演はできません。

6. 駐車場

- 搬出入等で車をご利用の場合は、事務局の指示に従ってください。
- 期間中の駐車場は出展者で確保してください。

7. 管理保全

- 協会は管理者としての注意をもって会場全般の管理にあたります。ただし、各出展物の管理は出展者が自己の責任と費用にて行ってください。協会は出展物の損害に対しての一切の保証を負いません。

8. 損害賠償

- 出展者及びその代理人が他社の小間、協会の運営設備又は展示会場の設備及び人身等に損害を与えた場合、また、搬出入時や交流会開催期間中に発生した出展物の損傷・紛失等について、その補償は出展者の責任において行うものとし、協会は一切の責任を負いません。

- 出展物の輸送及び展示中の保護については、必要に応じて保険をかけるなど適切な対策を講じてください。

9. 消防・安全

- 出展者は、会場に適用される消防及び安全に係わる全ての法規、規則を厳守しなければなりません。

10. 交流会の中止

- 協会は天災などの不可抗力により、交流会開催が困難と判断した場合、交流会の開催を延期又は中止することがあります。また、その際に生じた損害について協会は責任を負わないものとします。
- 新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、イベント開催の自粛が予測される場合には、無来場者開催（Web）に切り替えることとします。

11. 法的保護等

- 交流会におけるアイデアの模倣及び交流時等に関するトラブルについて、協会は一切の責任を負いません。特許など特別なノウハウ等についての知的財産権は出展者の責任において対応してください。

12. 法令、規約の厳守

- 出展者は、日本国内の各種法令を遵守するとともに、協会が定める一連の規約（募集要項、出展マニュアル等）を本契約の一部とし、これを遵守することに同意するものとします。
- 万一、法令、規約に違反した場合、協会は理由の如何にかかわらず出展を拒否もしくは取り消すことがあります。これによって生ずる損害に対し、協会は一切の責任を負わないものとします。

13. アンケート調査、ご協力をお願い

- 交流会は国庫補助事業により開催するものです。
- 交流会参加の目的を明確化するとともに、その成果を評価する必要があります。協会から依頼のあったアンケート調査には必ずご回答ください。

14. 写真等の撮影について

- 交流会では、開発途中の機器等が出展されています。写真や動画を撮影する場合には、必ず協会と撮影する企業等の許可を得てください。
- また、協会では交流会の様子を各方面へ広報するため、交流会の期間中、機器やシンポジウム等の様子を写真や動画撮影しますので、予めご了承ください。なお、写真や動画の撮影を拒否する場合には予めお申し出ください。

X. 招待する関係団体等、問い合わせ先

1. 関係団体等（予定）

（1）障害当事者団体（予定）

- ・ 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
- ・ 一般社団法人 日本ALS協会
- ・ 社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
- ・ 一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
- ・ ポリオの会
- ・ ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会
- ・ 特定非営利活動法人 日本失語症協議会
- ・ 社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
- ・ 社会福祉法人 全国盲ろう者協会

（2）開発支援機関等（予定）

- ・ 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）
- ・ 国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT）
- ・ 国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）

2. 交流会に関するお問い合わせ

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 担当者 宇田川、根石（ねいし）、五島
電話番号 03-3266-6883

電子メールアドレス shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

※現在、新型コロナウイルスを予防するため、就業時間を8時～16時としております。

なお、交流会の業務の一部を委託する予定です。本年度の委託先が決定しだい委託先から直接ご連絡がありますので、ご対応ください。

◆昨年度の開催状況について(参考)

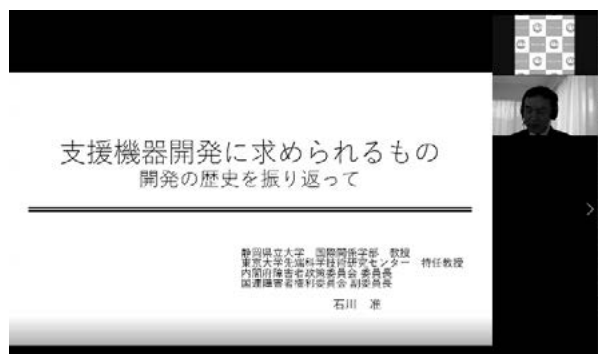
令和2年度の交流会の開催状況は、以下のとおりです。

- 専用ホームページ <http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/2020index.shtml>
- 開催結果の報告書 http://www.techno-aids.or.jp/research/202103needs_report.pdf

【会期中のログイン者数】

- ・Web開催 2020年12月1日～ 4日 590名
- ・東京開催 2021年 2月9日～10日 239名

※ 当初は会場での開催を予定しておりましたが、令和2年12月中旬から首都圏を中心に新型コロナウイルス感染症が急激に増加したことを受け、東京開催についても感染症予防等の徹底を図るため、Web開催に変更しました。



**障害者自立支援機器
シーズニーズマッチング交流会 2021 東京会場**

体調管理チェックシート

氏名 :	記入日 月 日
企業・団体名 :	体温 °C

※以下の項目について、該当するものを○で囲んでください。

過去 14 日以内における体調および状況についてお答え下さい	
平熱を超える発熱がありましたか？	はい ・ いいえ
咳・喉の痛み、たん（痰）が出るなどの症状がありましたか？	はい ・ いいえ
だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）がありましたか？	はい ・ いいえ
味覚や嗅覚の異常がありましたか？	はい ・ いいえ
普段より体が重く感じる、疲れやすいことがありましたか？	はい ・ いいえ
過去 14 日以内に、新型コロナウイルスに感染している方との接触がありましたか？	はい ・ いいえ
過去 14 日以内に、新型コロナウイルス感染症の検査中の方との接触がありましたか？	はい ・ いいえ
過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域への渡航または当該在住者との接触がありましたか？	はい ・ いいえ
過去 14 日以内に「3密（換気の悪い密閉空間、多くの人々が密集する場所、近距離での密接な会話）」の機会がありましたか？ 例：自宅外での複数人での飲食、集会、カラオケ、コンサート、パチンコ、マスクなしでの満員電車・バスへの乗車など	はい ・ いいえ

※『はい』に○が付いた方や体調に不安のある方は、来場をお控えください。

※この調査票は本交流会の新型コロナウイルス感染症対策以外には使用いたしません。

※この調査票は 1 か月後に廃棄いたします。

以上

障害者自立支援機器

シーズ・ニーズマッチング交流会 2021 東京会場 交流会来場前 体調管理チェックシート

本チェックシートは交流会において新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、参加者の健康状態を確認することを目的としています。本チェックシートに記入いただいた個人情報については、厳正なる管理のもとに保管し、健康状態の把握、来場可否の判断および必要なご連絡のためにのみ利用します。また、個人情報保護法等の法令において認められる場合を除きご本人の同意を得ずに第三者に提供いたしません。但し、会場で感染症患者またはその疑いのある方が発見された場合に必要な範囲で保健所等に提供することがあります。

提出日：2021年 月 日

企業・団体名： _____

連絡先（電話）： _____

氏名： _____

email： _____

日付		11月23日	11月24日	11月25日	11月26日	11月27日	11月28日	11月29日	11月30日	12月1日
朝 体温		°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C
呼吸器 症状	咳	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	息苦しさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	鼻水	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	のどの痛み	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
その他	体のだるさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	下痢	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	頭痛	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	味覚障害	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	嗅覚障害	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	他の症状									

日付		12月2日	12月3日	12月4日	12月5日	12月6日	12月7日	12月8日		
朝 体温		°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C
呼吸器 症状	咳	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	息苦しさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	鼻水	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	のどの痛み	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
その他	体のだるさ	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	下痢	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	頭痛	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	味覚障害	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	嗅覚障害	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有	無・有
	他の症状									

提出先：東京都立産業貿易センター浜松町館 2階展示室 交流会受付

こうりゆうかい らいじょうしゃさま
シーズ・ニーズマッチング交流会2021 ご来場者様アンケート

この度は交流会にご来場いただき、誠にありがとうございます。このアンケートは、来場された皆様からご感想・ご意見をうかがい、的確な交流の状況を図り今後のマッチングに役立てるものです。ぜひご協力ください。

※ 代筆などの支援をご希望される方は、受付までお越しください。

I. あなたご自身についてうかがいます	
あてはまる項目に○をつけてください (一つに○)	1. 障害者 2. 障害者家族 3. 施設関係者 4. 医療関係者 5. 支援機器開発企業 6. 行政 7. 研究機関・団体 8. 学校・教育関係者 9. 一般企業 (今後、支援機器の開発を目指す企業を含む) 10. その他 ()
ご参加いただいた日数について教えてください (一つに○)	1. 1日のみ (1日目・2日目いずれかのみ) 2. 2日間

II. 交流会についてうかがいます	
この交流会のことをどのように知りましたか	1. テクノエイド協会からの案内 2. テクノエイド協会のホームページ 3. 所属する障害団体からの案内 4. 経済振興団体からの案内 5. 所属する職能団体からの案内 6. 自治体などからの案内・広報誌など 7. 友人・知人からの紹介 8. 新聞・テレビ・ラジオなど 9. その他 ()
(上記で3, 4, 5を選んだ方) 団体名	
どのような目的で交流会へご来場いただきましたか	1. 具体的に作って欲しい要望やアイデアがあり、企業に伝えたかった 2. 機器の閲覧や体験をしながら意見交換を行いたかった 3. 特定の企業または団体に対して直接伝えたいことがあった 4. 普段困っていることについて相談したかった 5. その他 ()
どのような交流ができましたか	
会場の立地や利便性はいかがでしたか	1. 大変満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない
会場内の配置や展示はいかがでしたか	1. 大変満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない
来年も参加したいと思いませんか	1. ぜひ参加したい 2. 参加したい 3. どちらともいえない 4. 参加したくない 5. 全く参加したくない

III. 運営・交流会全般についてうかがいます	
交流会全般に関するご意見・感想があれば記載してください (自由記述)	

ご協力ありがとうございました。お帰りの際にアンケート回収箱にご提出ください。

シーズ・ニーズマッチング交流会 2021 出展企業・団体様アンケート

この度は交流会にご出展いただき、誠にありがとうございます。出展企業・団体の皆様からご感想・ご意見をうかがい、的確な交流の状況を図り今後のマッチングに役立てるため、ぜひご協力ください。

なお、出展いただいた会場ごとにアンケートへの回答をお願いしておりますので、お手数ですがよろしくお願いたします。

※ なお、電子メールでの回答をご希望の方は、テクノエイド協会ホームページ (<http://www.techno-aids.or.jp/>) より様式をダウンロードのうえ、メール送付ください (メールアドレス: shogai-kiki2@techno-aids.or.jp)

企業・団体名	
--------	--

I. 貴社または貴団体についてうかがいます

当てはまるものに○をつけてください	1. 開発企業 2. 障害団体 3. 開発支援団体 4. 職能団体 5. その他 ()
過去の参加状況について教えてください	※テクノエイド協会主催 (2014年度～2018年度の5回) についてご回答ください 1. 過去全て参加している 2. 過去4度参加している 3. 過去3度参加している 4. 過去2度参加している 5. 過去1度のみ参加している 6. 今回初めて参加した
※上記で1～5を選択した方 その後の機器開発や団体の活動 において参考になりましたか	1. 大変参考になった 2. ある程度参考になった 3. どちらともいえない 4. あまり参考にならなかった 5. 全く参考にならなかった
交流会参加を通して「障害者自立支援機器 等開発促進事業」など、国の開発補助事業 に応募してみたいと思いませんか	1. 是非、応募したい (応募を検討したい) 2. 応募してみたい (応募を検討してみたい) 3. どちらともいえない 4. 補助事業に関心はない

II. 来場者との交流についてうかがいます

交流を行った概ねの人数について 教えてください	1. 20人未満 2. 20～50人未満 3. 50～100人未満 4. 100人以上
交流の具体的な内容について 教えてください (複数回答可)	1. 機器に対する要望や改善点が聞けた 2. 日常の困りごとやニーズに関する話が聞けた 3. 今後の具体的な開発協力や連携に関して話ができた 4. 自社や自団体の活動や取り組みについて理解が深められた 5. その他 ()
交流会の満足度を教えてください	1. 大変満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない
会場の立地や利便性は いかがでしたか	1. 大変満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない
展示ブースの配置は いかがでしたか	1. 大変満足している 2. ある程度満足している 3. どちらとも言えない 4. あまり満足していない 5. 全く満足していない
来年も出展したいと 思いますか	1. ぜひ出展したい 2. 出展したい 3. どちらともいえない 4. 出展したくない 5. 全く出展したくない

III. 運営・交流会全般についてうかがいます

その他、運営や交流会全般に関する ご意見・ご感想があればお書き ください。(自由記述)	
---	--

アンケートご協力ありがとうございました。お帰りの際に必ずアンケート回収箱にご提出ください。

シーズ・ニーズマッチング強化事業
障害者自立支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援の実施について

1. 目的

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイス等の開発支援を行うこととする。

具体的には、企業等から要望を個別にうかがい、関係する障害者等との意見交換会やアドバイス支援等の機会を設ける。

また、その成果については、協会のHP等を通じて広く周知し、シーズとニーズのマッチングを活性化するとともに、来年度以降の開発促進事業の応募を喚起することとする。

意見交換等の具体的な内容は、開発改良中の支援機器について、コンセプトや利活用の場面、想定利用者の適用範囲、機能・性能等の在り方についてシーズ・ニーズ対等の立場にたつて自由な意見交換等を行い、もって障害者現場のニーズに即した開発改良を推進することとする。

2. 期間

令和3年10月1日～令和4年2月末

3. 実施方法

交流会の出展企業等に対して、開発改良中の機器について、意見交換会やアドバイスしてほしい内容等を個別にうかがい、想定するユーザの団体等へ繋ぐこととする。

実施は、訪問又は状況に応じてオンライン会議にて行うこととし、意見交換会等への参加については、地域を限定しないこととする。なお、山口及び東京会場の場面についても積極的に活用することとする。

(1) 実施予定数

10件程度

令和3年9月24日に開催する「第2回・交流会出展企業等を対象にした説明会」において、希望者を募集することとする。

令和3年10月1日（金）以降、先着順とし、応募内容が本事業の趣旨に合致するものか、当協会にて確認のうえ実施を決定する。

不明瞭な記載や内容に不備がある場合、また本事業の趣旨に反する案件等については、受付しないこととする。

(2) シーズとニーズのマッチング

企業からの個別の要望に対し、ご協力いただく障害者等の団体については、企画委員会のメンバーが所属する団体又は当該団体が紹介する先を基本とすることとし、適切な団体等がみ見たらない場合には、当協会において関係機関・有識者等と協議のうえ、マッチング先を探すこととする。但し、どうしてもマッチング先が見つからない場合もあり得ることとする。

(3) 応募の書類及び方法について

●提出書類

様式1 シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼書

様式2 シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援 実施報告書

様式は、当協会のホームページからダウンロードしてください。

当協会ホームページ：<http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/>



●提出方法

電子メールにて受け付けること（FAXによる提出は不可とする。）

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 担当者 宇田川、根石（ねいし）、五島

電話番号 03-3266-6883

電子メールアドレス shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

●提出期限

先着順（受付可能な機器や時期、内容等については、当協会までお尋ねください。）

4. 問い合わせ先

公益財団法人テクノエイド協会 企画部
担当者 宇田川、根石（ねいし）、五島
電話番号 03-3266-6883
電子メールアドレス shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

※新型コロナウイルスを予防するため、就業時間を8時～16時とし、在宅・在勤の交代制とさせて頂いております。

様式1（シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼書）

令和 年 月 日

公益財団法人テクノエイド協会 殿

（依頼者）

〒

住所

事業者名

担当者所属

担当者名

電話番号

電子メールアドレス

シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼書

貴法人がシーズ・ニーズマッチング強化学業の一環として行う、障害者自立支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援の実施について、下記の書類を提出して依頼します。

記

1. 別添「シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼概要書」

2. 会社概要（任意様式）

※）会社の概要が簡易なもの

3. これまでの福祉機器に関する実績（任意様式）

※）実績がない場合は、提出不要

（本書類の取扱いと留意事項について）

- ご提出いただく「シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼概要書」は、ニーズ側とマッチングする際に利用します。
従って、記載内容は、公開可能な範囲で差し支えありませんが、具体的な記載がない場合には、マッチング先が現れない場合もあり得ることをご了承ください。
- 適切にご協力が得られる障害当事者団体等とマッチングするためにも、記載内容は技術的な事に偏らず理解しやすいものとしてください。
- 協会では記載内容や本事業に関わる各種の相談を受けております。
- 案件によっては、マッチング先が現れない場合もあり得ることをご留意ください。

別添

令和 年 月 日

シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼概要書

1. 依頼者（企業）の概要

企業名			
担当者名	部署		氏名
担当者連絡先	住所	〒	
	電話		
	電子メールアドレス		
主たる業種			
主要な製品			
希望する団体や障害等の種別等	(希望する団体) <input type="checkbox"/> 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会 <input type="checkbox"/> 一般社団法人 日本ALS協会 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合 <input type="checkbox"/> 一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 <input type="checkbox"/> ポリオの会 <input type="checkbox"/> ASD（自閉スペクトラム症）生活環境研究会 <input type="checkbox"/> 特定非営利活動法人 日本失語症協議会 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 全国盲ろう者協会 <input type="checkbox"/> その他：（ ）		
希望するものに☑を入れてください 複数選択可	(障害の種別) <input type="checkbox"/> 身体障害（肢体不自由） <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 高次脳機能障害（失語症等） <input type="checkbox"/> 知的障害（身体介護が必要ないケースを含む） <input type="checkbox"/> 精神障害（発達障害を含む） <input type="checkbox"/> その他（ ）		
特記事項			

2. 当該機器の開発コンセプト又は試作機器等の概要（可能な限り詳しく記入してください。）

機器名称（仮称可）		
試作機器の有無 機器のコンセプト （写真添付）	試作機器の有無	1. 有 ・ 2. 無
	機器の目的及び特徴	

<p>想定する障害者及び使用方法、使用場面</p>	<p>①想定する障害者（又は支援者）</p> <p>②想定する使用場面</p> <p>③想定する使用方法</p>
<p>開発状況及び主な課題</p>	<p>①開発状況</p> <p>②現在の課題</p>
<p>特に意見交換やアドバイスを希望する内容</p>	
<p>特記事項</p>	

(注) 必要に応じて記載欄を増やしてください。

令和 年 月 日

シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援 実施報告書

1. 実施概要

障害種別			
機器名称（仮称可）			
型番			
企業名			
連絡先	電話		メールアドレス
交流先			
意見交換やアドバイスに係わった担当者（ <u>全ての方を記載してください。</u> ）	所 属		氏名

2. 実施結果

	実 施 日	実 施 方 法 等
意見交換会やアドバイスの実施		
交流のねらい		
交流の成果 （写真添付）		
開発等、今後の見通し		
その他		

（注）必要に応じて記載欄を増やしてください。

障害者自立支援機器の シリーズとニーズの 意見交換、アドバイス支援

実施報告

Contents

はじめに

障害者及び障害児(以下「障害者」。)の自立を支援する「障害者自立支援機器(以下「支援機器」)」は、障害者の活動や参加を促すものとして、大変重要な役割を果たすものです。

一方、障害者福祉の現場において、真に必要なとされる支援機器を開発するためには、機器開発の着想段階からユーザーや支援者の「ニーズ」と、開発や研究者等の「シーズ」をマッチングすることが大切であり、シーズ志向型の開発とならないよう、障害者の置かれている状態は勿論のこと、現場の課題やニーズを的確に捉えた支援機器の開発に繋げる取り組みが重要となります。

このような背景のもと、当協会では、「シーズ・ニーズマッチング交流会」を開催し、実用的な支援機器が開発されるよう、試作機等を用いて想定するユーザーと開発側が膝を交えて意見交換できる場を設けるとともに、当協会のホームページ上に「Web交流プラットフォーム」を設置し、オンラインによる交流を推進したところですが、本年度は、さらに交流の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業から個別に希望を募り、障害当事者団体等にもご協力を頂き、支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援を実施しました。

この実施報告は、その成果概要を取り纏めたものです。

今後の支援機器の開発にあたり、シーズとニーズが互いの立場を理解しあい、真に必要なとされる支援機器の開発・普及に繋がれば幸いです。

令和4年3月

公益財団法人テクノエイド協会

目次

視覚障害 (身体・聴覚)	パンダナビ 警告音ブロックにエー工夫 簡単に読み取り、目的地点でパンダナビがご案内 視覚障害者団体との体験、意見交換会の実施	開発企業等 協力 機関	しんしゅうアソシエイツ 一般社団法人 山梨県視覚障害者福祉協会	P.3-P.4
聴覚障害 (身体・聴覚)	FILLTUNE CLEAR 一人でも多くの人に聞こえを届けるために開発! フルワイヤレス聴覚サポートデバイスFILLTUNE CLEAR	開発企業等 協力 機関	FILLTUNE株式会社 一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	P.5-P.6
身体障害 (身体・聴覚)	自動排泄処理装置キュラコ おむつは不要!またまで洗浄から温風乾燥まで 可能な自動排泄処理装置キュラコ	開発企業等 協力 機関	株式会社ウイズ 社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎	P.7-P.8
身体障害 (身体・聴覚)	室内立ち上がり機能付き歩行車 立ち上がりから室内の移動はこれぞ安心。 小物も運べる多機能な室内用立ち上がり機能付き歩行車	開発企業等 協力 機関	フジホーム株式会社 ポリオの会	P.9-P.10
身体障害 (身体・聴覚)	室内立ち上がり機能付き歩行車 立ち上がりから室内の移動はこれぞ安心。 小物も運べる多機能な室内用立ち上がり機能付き歩行車	開発企業等 協力 機関	フジホーム株式会社 社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎	P.11-P.12
障害児(身体・聴覚)	sööt(ソット) お着替えが親子にとって楽しい時間のひとつに! 障がい児・低機能ケア児のためのお洋服の開発	開発企業等 協力 機関	株式会社岩多屋 ポリオの会	P.13-P.14
障害児(身体・聴覚)	sööt(ソット) お着替えが親子にとって楽しい時間のひとつに! 障がい児・低機能ケア児のためのお洋服の開発	開発企業等 協力 機関	株式会社岩多屋 社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎	P.15-P.16
その他(コミュニケーション)	指伝話コミュニケーションパック (各種オプション) 指伝話で日常生活をより楽しく、豊かに! 日常生活の利用場面を想定した意見交換の実施	開発企業等 協力 機関	有限会社オプイス結アジア ポリオの会	P.17-P.18
その他(コミュニケーション)	指伝話コミュニケーションパック (各種オプション) 指伝話で日常生活をより楽しく、豊かに! 日常生活の利用場面を想定した意見交換の実施	開発企業等 協力 機関	有限会社オプイス結アジア 社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎	P.17-P.18
その他(コミュニケーション)	自分の声ソフトボイスター あなたの声で作る、自分の声を再現するボイスター。 失語症や構音障害への通話の可能性について意見交換の実施。	開発企業等 協力 機関	株式会社ヒューマンテックシステム 一般社団法人 日本語聴覚士協会	P.21-P.22

障害者自立支援機器に係る意見交換会、アドバイス支援の実施について

1 目的

交流会の成果を着実に支援機器の開発に繋げるため、開発企業の希望に応じて、相談やアドバイス等の支援を行った。

具体的には、開発・改良中の機器に関する課題等を個別にうかがい、関係する障害者等との意見交換会やアドバイス頂く機会を設けたこととした。

また、その成果については、当協会のホームページ等を通じて広く周知し、シーズとニーズのマッチングを活性化するとともに、ニーズを捉えた機器開発を喚起することとした。

支援機器のコンセプトや利活用可能な場面、想定利用者の適用範囲、機能・性能の在り方等について、シーズ・ニーズ対等の立場にたって自由な意見交換等を行い、もって障害者現場のニーズに即した開発改良を推進することを目的とした。

2 期間

令和3年10月1日～令和4年2月末

3 実施方法

交流会の出席企業等に対して、開発改良中の機器について、意見交換会やアドバイスしてほしい内容等を個別にうかがい、想定するユーザーの団体等へ繋ぐこととした。

実施は、訪問又は状況に応じてオンライン会議にて行うこととし、意見交換会等への参加については、地域を限定しないこととした。なお、山口及び東京会場の場面も積極的に活用することとした。※)山口会場は、新型コロナウイルスを予防するためオンライン開催のみとなった。

(1) 実施予定数

10件程度

令和3年9月24日に開催する「第2回・交流会出席企業等を対象にした説明会」において、希望者を募集し、令和3年10月1日以降、先着順とし、応募内容が本事業の趣旨に合致するものか、当協会にて確認のうえ実施を決定した。

(2) シーズとニーズのマッチング

企業からの個別の要望に対し、ご協力いただく障害者等の団体については、企画委員会のメンバーが所属する団体又は当該団体が紹介する先を基本とすることとし、適切な団体等が見あたらない場合には、当協会において関係機関・有識者等と協議のうえ、マッチング先を探ることとした。

(3) 応募の書類及び方法について

●提出書類

- 様式1 シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援 依頼書
 - 様式2 シーズとニーズの意見交換会、アドバイス支援 実施報告書
- 関係書類： <http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/>

●提出方法

電子メール(FAX)による提出は不可とする。

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 担当者 宇田川、根石(なしい)、五島

電話番号 03-3266-6883

電子メールアドレス shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

●提出期限

先着順(受付可能な機器や時期、内容等については、当協会までお尋ねください。)

4 問い合わせ先

公益財団法人テクノエイド協会 企画部

担当者 宇田川、根石(なしい)、五島

電話番号 03-3266-6883

電子メールアドレス shogai-kiki2@techno-aids.or.jp

5 実施結果

障害種別	機器名称	開発企業等	協力機関
視覚障害	バンドナビ	しんしゅうアソシエイツ	一般社団法人 山梨県視覚障害者福祉協会
聴覚障害	FILLTUNE CLEAR	FILLTUNE株式会社	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
身体障害	自動排泄処理装置キュロコ	株式会社ウイズ	社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎
身体障害	室内用立ち上がり機能付き歩行車	フジホーム株式会社	ポリオの会
障害児	sōt(ソット)	株式会社若多屋	社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎
その他	指伝話コミュニケーションパック (各種オプション)	有限会社オフィス糖アジア	ポリオの会
その他	自分の声ソフトボイスター	株式会社ヒューマンテクノシステム	社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎 特定非営利活動法人 日本失語症協議会 ASD(自閉スペクトラム症) 生活環境研究会

視覚障害者 パンダナビ

警告点字ブロックに一工夫
簡単に読み取り、目的地までパンダナビがご案内！
視覚障害者団体との体験・意見交換会の実施

開発企業

しんしゅうアソシエイツ

担当者 芝田 真
TEL 0551-45-7339
連絡先 E-mail inform@shinshu-a.com

交流先

一般社団法人 山梨県視覚障害者福祉協会

担当者 堀口 俊二



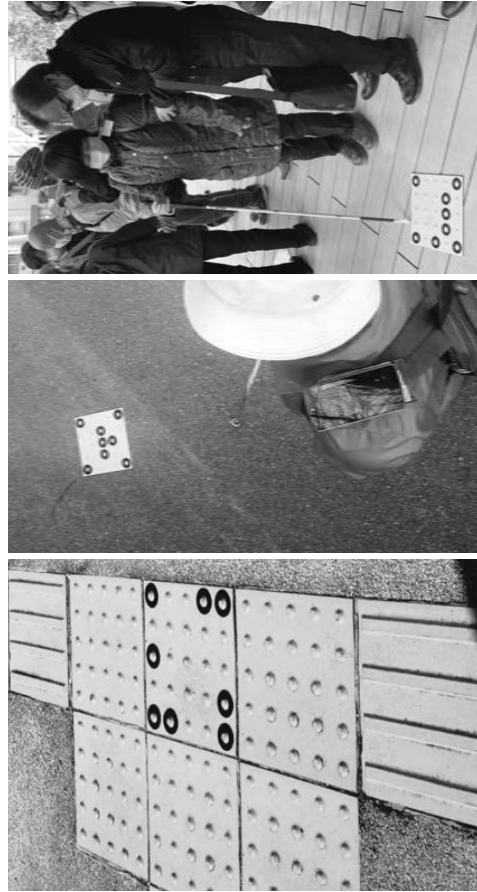
意見交換

実施結果

実施日：2021年12月19日

実施方法等：パンダナビの紹介および当事者による体験

交流のねらい：パンダナビを実際に試していただき、このような仕掛けが当事者のニーズに即したものであるかどうか確認したい。また、不足している機能、改善が必要な点などについて指摘していただきたい。



交流の成果

参加者は、当事者が20名弱、支援者を含めると25名近くとなり、椅子を追加するほどの盛況であった。室内での説明では、テフノエイド協会より体験会開催にいたる背景、開発者よりパンダナビの説明や開発の経緯など30分ほど実施した。

室内プレゼンの後、会場屋外のウッドデッキにて体験会を実施した。ウッドデッキにあらかじめ設定済みの警告ブロック(タイル)4枚を離しておき、パンダナビがダウンロードされている4台のスマホにアプリを起動した状態でお渡し、参加者全員に実際に歩いてもらった。ナビの音声や参加者の歓声でもともとぎやかであった。
参加者の声としては、異口同音に「方向を教えてくれるのがとてもありがたい」等の肯定的なコメントがほとんどであった。

その他としては、

- 左肩に固定するのはよいアイデアだがそれでも抵抗がある。
 - タイルの上に乗ってしまったら認識できない。
- といった意見もあがった。

ウッドデッキでの体験後、歩道からセンターに分岐するT字路の点字ブロックに、実際に8個のリングをはめて即席のパンダナビを作成した。この即席パンダナビを使用してハンダナビの音声入力で登録を行い、それを再生するデモンストレーションを実施した。

以上のことから、パンダナビのコンセプトがニーズに即していることが確認できた。



今後の見通し

特許出願を含め、基本的に開発者が個人レベルで行うことはほぼ終えている状況である。
パンダナビはスタンドアロンのデバイスと異なり、インフラが絡むシステムとなっている。社会実装の実現にむけて、視覚障害者福祉協会あるいは、その他のNPO等の方々の助けを得ながら進めていくことになると思われる。さらに、事業法人の参画も得たいところである。
そのためには、今回のような活動を積み重ねていくことを含め、知恵を絞っていく予定である。また、多くの方々の助言をいただきたい。

その他

堀口会長、その他甲府周辺の当事者・支援者が集結し、甲府駅周辺を「コード化点字ブロックモザイク地域」にする、という構想も考えられる。社団法人にすることで、役所の理解や支援も得やすいのではないかと。

※参加者の写真は同意を得た上で掲載をしています。

意見交換やアドバイスに係った担当者

社団法人 日本視覚障害者団体連合 事業部長 達坂 忠さん
一般社団法人 山梨県視覚障害者福祉協会 会長 堀口 俊二さん
一般社団法人 山梨県視覚障害者福祉協会 会員の皆様
支援者の皆様

一人でも多くの人に「聞こえを届ける」ために開発!

フルワイヤレス聴覚サポートデバイスFILLTUNE CLEAR

開発企業

FILLTUNE株式会社

担当者 並木 素子
TEL 03-5770-5823
連絡先 E-mail namik@filltune.com



交流先

一般社団法人
全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

担当者 小川 光彦

実施結果

- 実施日: 2021年11月2日 実施方法等: Web会議ツールを用いてオンライン上で実施
- 実施日: 2021年11月16日 実施方法等: Web会議ツールを用いてオンライン上で実施
- 実施日: 2021年12月8日 実施方法等: シーズ・ニースマッチング交流会東京会場で実際に試聴いただく
- 実施日: 2021年12月28日 実施方法等: メールでのやりとり

音楽を聴いたり、日本語100語音認識検査を用いて語音聞き取り・書き取りテストを実施したりして、難聴者の方の弁別能がどこまで回復できるか、機能評価を行いたい。
難聴度の等級に限らず、聞こえ方は一人ひとり異なるため、具体的にどう聞こえるか、感想を伺い、今後所属されている難聴者の方から希望の方を募って試聴いただき、弊社製品でどの程度の難聴度の方まで明瞭度の高い「聞こえ」を届けられるかの検証を行いたい。

交流のねらい

交流の成果

弊社から「F」, 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会から「Z」として交流の様子を記載する。

【2021年11月2日】

- F: FILLTUNE CLEARの製品概要を説明し、既存の骨伝導製品との違いやどのような技術なのかをお伝えした。
- Z: 質疑応答あり、従来の骨伝導製品とはコンセプトの違う製品であることご理解いただいたうえで、会員の方に情報を広げる際に留意すべきこととして以下のご意見をいただいた。
- 従来の骨導補聴器は、「伝音性難聴の方に有効」[対象とする難聴度がそこまで高くないため、高度重度難聴の方には難しい]というイメージがある。
- 難聴の方の中には、新しい製品を試しては満足な聞こえを得られず期待を打ち砕かれるという思いをしている人もおり、試聴協力を依頼する際の表現には注意が必要である。



■ 試聴会の実施方法について

感染リスクを避けるため、複数人を一会場に集めるのではなく、居住地の近く、1対1で行うことを提案。また、対象範囲は関東圏内で検討しているが、具体的な都県の絞りこみは感染状況を見つつ、これから判断することとした。会員へ送る試聴協力メール内容は弊社で作成。全日本難聴者・中途失聴者団体連合会側には、会員に向けた情報拡散を依頼した。試聴協力の案内をお送りし、賛同いただいた方から弊社に直接ご連絡いただき、日時を決定・試聴会実施する計画とした。

F: 2021年11月2日時点で、試聴機ver.1^(※1)を使って数人に試聴会を行っており、その際どのくらいの難聴度の方にどういった反応が得られたかの口頭で説明。オンライン終了後、試聴レポートをお送りした。

※1 試聴機ver.1: 集音機能なし、Bluetooth接続にて音楽再生ができる。試聴レポートには、音楽再生を介した感想を記載。

Z: 試聴レポートで実施している検証内容について、下記ご意見いただく。

補聴器は一般に人の話し声を聞くように調整されており、高音で約8000Hzまでの範囲に限られる。会話と別に8000Hz以上の音も聞こえる音楽用のチャヤンネルを持つ製品も出ている。試聴レポートの中に、補聴器の聞こえと比較して、特に高音部の音楽的な部分がよく聞こえるという意見が複数あるが、補聴器との比較で評価はしにくく、真に比較すべきは語音明瞭度であって、子音の聞き取り具合を比較すれば、効果が客観的につかめるのではないか。

【2021年11月16日】

F: 試聴会で検証する内容に会話と日本語100語音聞き取り・書き取りテストを盛り込みたいと考えていること、開発進捗として、集音マイクを搭載した試聴機ver.2が完成したが、まだ調整が必要なため、試聴会実施は試聴機の状態が整ってからとしたい旨、報告する。

Z: 日本語100語テストの実施は、客観的なデータ、エビデンスとして有用と考えられるとご意見いただく。

F: 試聴実施できる機器が完成したタイミングで、試聴協力依頼文をお送りすることとした。また、12月のシーズ・ニースマッチング交流会東京会場で、持参した試聴機でどのような聞こえかお試しいただきご意見を伺いたいとお伝えした。

【2021年12月8日】

シーズ・ニースマッチング交流会東京会場2日目。全日本難聴者・中途失聴者団体連合会のブースにて、小川理事と同席の方2名に試聴機をお試しいただく。
小川理事(向耳95dB)には、集音機能・音楽再生ともに聞こえを体感いただくことはできず、同席女性の方(65dB, 70dB)は音楽再生で音を感じたと感想をいただく(クロダイーライナーはわからず、曲としては理解できないとのこと)。

【2021年12月28日〜】

集音マイク機能の調整終了見込みが立ったため、試聴協力のメール文面と添付資料をお送りし、レビューを依頼。表見等の添削と不足情報の指摘をいただき、加筆・修正を行った。今回は東京に範囲を絞り実施することとし、全日本難聴者・中途失聴者団体連合会内部での確認を経て、1月20日に東京の協会理事へメール配信された。その後弊社に試聴希望の連絡はなし。関東圏へ呼びかけの範囲を広げられることを提案いただくが、試聴は対面での実施となることや都県をまたいだ移動が発生するため感染が急増している状況では追加での協力依頼は見合わせることとした。

今後の見通し

弊社とつながりのある介護施設の入所者(加齢性難聴の方)や試聴希望をいただいた方(感音性難聴)に試聴機を試していただいた結果、重度難聴の方へ聞こえを届けることは現在の開発段階では難しい可能性が高い。また、高度難聴の方においては、聞こえ方の改善が試聴者ごとに異なるため、感染状況等に配慮しながら、試聴機を使って感想をうかがったりデータをとることは行っていく方針である。

意見交換やアドバイスに係った担当者

- 一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 理事 小川 光彦さん
- 一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 理事 小倉 鉄郎さん

自動排泄処理装置キュラコ

型番 CURA-100-B03 TAISコード 01834-000003

おむつは不要！寝たままで洗浄から温風乾燥まで可能な自動排泄処理装置キュラコ

開発企業

株式会社ウイズ

担当者 淵上 敬史
TEL 06-6310-9090
連絡先 E-mail support@hello-with.com

交流先

社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団
れいんぼう川崎

担当者 小磯 さおり



意見交換

実施結果

実施日：2021年11月24日 実施方法等：WEB会議 (ZOOM使用)
実施日：2021年12月10日 実施方法等：れいんぼう川崎にて実機説明・体験及び意見交換
神経難病や脊髄損傷などの対象者が、自らレシーバーを装着して使用するニーズがあるかどうか。また、レシーバー部分を把持しやすくする改良などが必要かどうかをヒヤリングにより、使用できる対象者像や機器の改良点を確認したい。

交流の成果

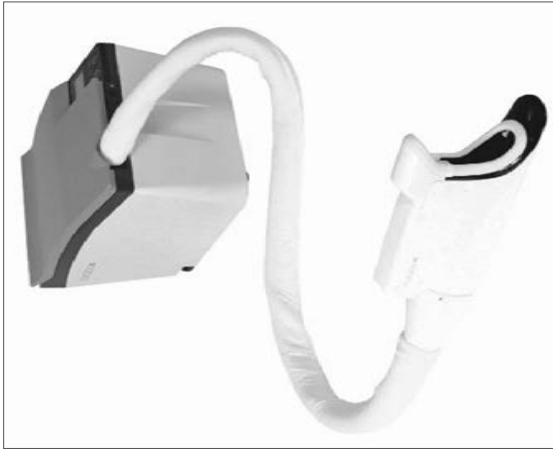
11月24日 (WEBミーティング)
自分で装着する対象者であれば、尿器やポータブルトイレにて可能であり、必要性については低く対象者が見当たらない。ただ、神経難病などの対象者で、日中や夜間問わず、ポータブルを使用する方は、睡眠不足となることがあり安眠できない。その時に、キュラコを数時間でも装着し、睡眠時間を確保することも考えられる。取っ手をレシーバーにつけて自分で装着する必要性は低く、取っ手があれば、逆に邪魔になるのではないかと。取外しができれば良い。本体が少し大きいと思う。この大きさがあることで、車いすからベッドへの移乗時などに自分で行う人は、薬桶に問題が生じると思われる。モーター音が大きい事は、夜間帯に目が覚めてしまい、睡眠不足となるので、音が小さくできないかどうか。
等の意見をいただいた。

12月10日 (施設訪問)
機器の説明と操作方法、装着カバー、メンテナンス方法、設定方法の確認を行い、参加者全員に装着体験を実施した。

- ニーズとしては、
- 尿意・便意を訴えられる方でポータブルトイレへの移乗が難しいケース。
 - 尿のみの自動排泄処理装置や差込便器を使用しているケース。
 - 本人ではなく介護職員が装着カバーなしで、直接レシーバーをあてる。
 - その場合、自動モードではなく手動モードにする。
 - ポータブルトイレへの移乗の介護負担が減る。
 - 差し込み便器の場合、お尻を持ち上げなくてはならない場合もあり後処理が大変。

意見

- 介護職員がレシーバーを直接当てる場合、取っ手があればやりやすい。
- 介護職員が行うので乾燥はいらぬ(レシーバーで拭き取れる)
- 介護時間が短縮でき、連う人の介護ができる。等の意見をいただいた。



今後の見通し

今回WEB会議及びれいんぼう川崎にて実機説明や体験を行った。その結果、取っ手の必要性については賛否両論あり、ケースによって必要性が異なることであった。そのため、取外し可能な取っ手などの必要性を検証していく必要性が見えてきた。また、レシーバーの洗浄方法やメンテナンス方法については、今後も使用貸出を通じて、ご意見を集め、改良に努めていきたい。

その他

また、神経難病など尿便意はあるが、自分では排泄困難な対象者の方などにどのようなニーズがあるのかご意見を頂戴し、必要な方に提供できるようにしていきたい。

意見交換やアドバイスに係った担当者

施設入所係長 (サービス管理者) 小磯 さおりさん
生活支援係 係長 金子 渡さん
在宅支援室 作業療法士 庄司 博さん
作業療法士 竹花 絹子さん
理学療法士 安本 弥生さん

室内用立ち上がり機能付き歩行車

立ち上がりから室内の移動はこれで安心、小物も運べる多機能な室内用立ち上がり機能付き歩行車

開発企業

フジホーム株式会社

担当者 岡野 健
TEL 03-3523-1631
連絡先 E-mail okano-ka@fujihometoso.co.jp

交流先

ポリオの会

担当者 丸橋 達也



実施結果

実施日：2022年2月17日
実施方法等：ミライハウス 施設内(Zoomにて実施)

交流のねらい

- ①開発状況：試作段階にて今回の意見をいいただき、改良して量産可能かどうかの判断としたい。
- ②現在の課題：立ち座り時の補助商品として適正か？また、在宅に於ける室内での歩行補助商品として適正か如何かの確認を取りたい。

交流の成果

使用体験いただいたコメントは以下の通り。
また、ミライハウスにて業務にあたってはいる車いすユーザー20代、男女3名にも実機を用いて使用していただいた。

【車いすユーザー若年者からの使用体験の声】

- 2名は立ち上がりも歩行も楽にできるので良いとの評価であった。
- 自宅で歩行練習にも使用できそうだとの前向きな意見があった。但し、少しサイズが大きいこと、他の家族に迷惑が掛からないように折置みたいとの意見があった。
- ただ、体重を預けながら歩行するのには軽すぎて怖くて不安だとの意見もあり。安定感を保つために重量調整が出来る仕様が良いのではとの意見があった。

以下、担当者からのコメント

【使用方法について】

- 身体状況によって立ち上がりられる人と立ち上がりられない人がいる。立ち上がり難いのは持つ部分が異なる事が要因もあるため、掴まれるところを色々想定した方が良いのではないかと。

【歩行動作について】

- 体重を預けながら歩行する方(車椅子利用者)は、前輪を持ち上げる事が出来ないで方向転換出来ない。また、段差も乗り越える事が出来ない。

【グリップについて】

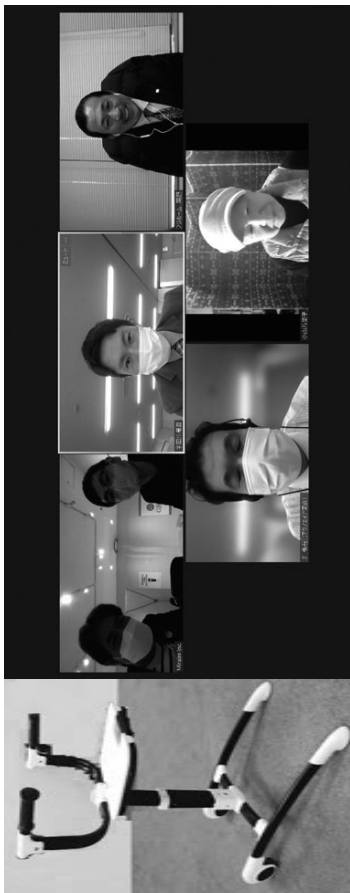
- グリップは現在横方向のみだが、縦掴みしたり、肘を乗せる事(馬蹄型)が出来たりリバリエーションがある程度欲しい。また、左右でグリップ形状が異なる仕様(片側は手で握れるが片側は肘で支える)も必要ではないか。

【テーパーについて】

- 自宅内で食器類を運びたい需要はとても多いのでテーパーは必要ではないか。
- 持ち上げて使うとなると、テーパーに乗せた物が落ちる可能性が高いので、テーパーに穴等を設けてコップが入れられるようにするかどうか。
- テーパー部分は座れると動揺する人もいいると思われ。

【ニーズについて】

- 施設等に移動する際に車を持ち運びが出来るようにワンタッチで折畳できると便利である。
- 現在、温泉施設には「いざり車(台車みたいな)」があるが、この商品を使えば移動が楽ではないか？
- 洗濯物などを運びたいニーズはあるのでオプションでも良いのでカゴなどが欲しい。
- 前輪が車輪で後輪がスライドと言う考え方は面白い考え方で良い商品ではないか。
- 自宅内で使用するのが主であれば出来るだけコンパクトな商品が欲しい。また、玄関から駐車場の車への移動なども考慮した方が良いのではないかと。



今後の見通し

最終的な仕様について検討して2022年度中の発売を目指す。

意見交換やアドバイスに係った担当者

ポリオの会 会長 小山 万里子さん
ポリオの会 世話役 丸橋 達也さん
株式会社ミライオ 金井 勇樹さん
ミライオハウス アルバイト(事前ヒアリング) 3名(車いす利用者)

室内用立ち上がり機能付き歩行車

立ち上がりから室内の移動はこれで安心、小物も運べる多機能な室内用立ち上がり機能付き歩行車

開発企業

フジホーム株式会社

担当者 岡野 健
TEL 03-3523-1631
連絡先 E-mail okano-ka@fujihometoso.co.jp



交流先

社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団
れいんぼう川崎

担当者 小磯 さおり

実施結果

実施日：2021年12月2日

実施方法等：れいんぼう川崎にて実機説明・体験及び意見交換

交流のねらい

- ①開 発 状 況：試作段階にて今回の意見をいただき、改良して量産可能かどうかの判断としたい。
- ②現在の課題：立ち座り時の補助商品として適正か？また、在宅に於ける室内での歩行補助商品として適正か如何かの確認を取りたい。

交流の成果

使用体験いただいたコメントは以下の通り。

【外見・重さについて】

- 重量は4.3kg。意外と軽い印象。
- 家の中で使用するのであれば、まずは第一印象が重要。大きく感じてしまう。カラーの問題か？

【使用方法について】

- 前を立ち上げて方向変更する事は特に問題無い。
- 歩行器と同じ使い方が主になると思う。持ち上げて使う事が多いのではないか。
- 立ち上がりが正面よりも横又は斜めからの方が立ち上がりやすいのではないか。

【歩行動作について】

- 後ろはスライド式では無く、ストッパー付きのタイヤの方が良いのではないか？
- 後ろのスライド部分に埃が溜まらないか？
- フーリング、カーペットでの動作確認特に問題無いが、毛足の長いカーペットではどうか。
- 前タイヤは引っ掛からないが後ろが引っ掛かってラグがめくれてしまった。(ラグが敷いてある場所にて)
- 幅は53cmだが片麻痺の方にとっては狭くて脚がぶつかる可能性がある。
- 歩行器よりも長さ方向が長いので安定している。特に、後ろに倒れそうになった場合の支えになる。

【グリップや高さについて】

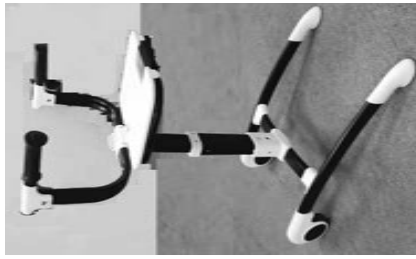
- 立ち上がり用のグリップ高さは少し低い感じ。歩行用グリップと立ち上がり用グリップの中間ぐらいが良い。
- 歩行用グリップは良い。握らなくても上部から押さえるだけで使用できる。
- 高さ調整ボタンは誤って操作しそうで別の位置が良い。テーブル高さ調整ならばスムーズに操作したい。
- 支柱が若干動くが強度的に大丈夫なのか？

【テーブルについて】

- 持ち上げて使うと、テーブルに乗せた物が落ちる可能性が高い。
- 歩行する際にテーブルに脚がぶつかる事がある。
- テーブルに誤って座って座った場合の強度は大丈夫か？

【ニーズについて】

- 冷蔵庫⇒電子レンジ⇒テーブルに食器類を運びたい需要はとて多い。
- 立ち上がり動作はソファ（特に深く腰掛け）から立ち上がるのが大変。引っ張って立ち上がりたくなる。
- 洗濯物などを運びたいニーズはある。ペットボトルも運びたい。
- 車に乗せる場合などはコンパクトにしたい。



今後の見通し

今後予定されているモニター評価を終えてから、最終的な仕様について検討をおこない、2022年度中の発売を目指す。

意見交換やアドバイスに係った担当者

施設入所係長(サービス管理者) 小磯 さおりさん
理学療法士、作業療法士 他6名

お着替えが親子にとって楽しみの時間のひとつに！
障がい児・医療ケア児のためのお洋服の開発

開発企業

株式会社岩多屋

担当者 諏訪園 春菜
TEL 080-2901-7694
連絡先 E-mail h_suwazono@wataya-net.co.jp

交流先



ポリオの会

担当者 丸橋 達也

実施結果

実施日：2022年2月8日
実施方法等：事前にサンプルを送付し、ZOOMにて意見交換会を実施

交流のねらい

病児、障がい児の着替え及び医療的ケアの処置(胃ろう、気管切開など)の際に、保護者もしくは支援者が介助しやすいものとなっているのか。
また、本人の身体への影響(褥瘡などの配慮)及び着心地、インクルーシブの観点からきょうだいいんに着衣が可能であるのかを、当事者の方々及び専門的知識をお持ちの方々にご意見を頂き商品のブラッシュアップを行う。

交流の成果

事前に協力団体へトップス及びスカーフ風スタイルのサンプルを送付し、ZOOMにて意見交換を実施した。
当事者の目線及び専門的な知識をもとに、下記のようなご意見を頂いた。

【ご意見】

- 「袖口や前身頃が大きく開く点においては、着脱しやすいと思う」
- 「肩や首元の縫い目がお肌にあたり褥瘡の原因になる場合もあるので、デザインとして縫い目を外に出しても良いのではないかと」
- 「生地が厚みがあり熱がこもりそうなので、季節によって生地の厚みを変えて制作した方が良い」
- 「袖をまくることができる機能が付いていると良い」
- 「兼用トップスのワンピースは、取り外し可能なワッペンなどを付けてバリエーションがあるとお子様に喜んでもらえるのではないか」
- 弊社は、「インクルーシブな衣服」＝「医療的ケアや着脱に介助を必要とされるお子様も、兄弟・姉妹・友人みんなに着ることのできる衣服」を制作したいと考えている。
- 「みんなを着ることを考慮してデザイン性及び機能性を追求すると、頂いたご意見のとおり着心地の良さが損なわれてしまうので、できる限り全てが均等になるよう改良を行いたい。」
- また、お着替えを楽しんで頂くためには「選べる」ことも重要なポイントになるため、ワンピースの付け方なども工夫したい。

ブラッシュアップのため多くの方々モニター協力が必要ですが、弊社のネットワークだけでは満足いく人数の確保は困難な点もあり、モニター協力者に関してはミライロハウスの幅広いネットワークを活かしたご提案も頂くことができました。



今後の見通し

現在、トップス及びスカーフ風スタイルは、クラウドファンディングにて多くの方々にお力添えいただきネットワークアップ開設に至っている。
今後は、意見交換会にて頂いたご意見及び以前モニターアンケートにご協力いただいた親御様や施設の方々のご意見をもとに商品の改良を行い、使用される方々に寄り添った衣服などの制作を行いたい。そのためにも、より多くの方々にモニターなどご協力いただけたら体制を整えニーズの把握に努めていきたい。

また、開発した商品の周知・普及も課題となっている。
今回のような周知活動を頼み重ね本当に必要な方々に情報が届くよう活動していきたい。
これからも[Sööt]のアイテムを通して「お着替えが親子にとって楽しみの時間のひとつに」なっていたただけのような商品展開をしていきたいと考えている。

その他

子ども用のトップスモニターアンケートの際に、ご要望の多かった大人サイズの衣服も新たに開発中である。
今後、モニターアンケートを募集しモニター実施後、アイテムのブラッシュアップを行いたい。

意見交換やアドバイスに係った担当者

ポリオの会 代表 小山 万里子さん
ポリオの会 世話役 丸橋 達也さん
株式会社ミライロ 金井 勇樹さん

お着替えが親子にとって楽しみの時間のひとつに！
障がい児・医療ケア児のためのお洋服の開発

開発企業

株式会社岩多屋

担当者 諏訪園 春菜
TEL 080-2901-7694
連絡先 E-mail h_suwazono@wataya-net.co.jp

交流先

**社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団
れいんぼう川崎**

担当者 小磯 さおり



意見交換

実施結果

実施日：2021年11月30日
実施方法等：事前にサンプルを送付し、ZOOMにて意見交換会を実施

交流のねらい

病児、障がい児の着替え及び医療的ケアの処置(胃ろう、気管切開など)の際に、保護者もしくは支援者が介助しやすいものとなっているのか。
また、本人の身体への影響(褥瘡などの配慮)及び着心地、インクルーシブの観点からきょうだい児にも着衣が可能であるのかを、専門職の方々にご意見を頂き商品のブラッシュアップを行う。

交流の成果

事前に協力施設へトップス及びスカーフ風スタイルのサンプルを送付し、ZOOMにて意見交換会を実施した。9名の専門職の方々(PT、OTなど)に、手に取って羽織ったり触れて頂いたりして、実際の着用を想定した意見を頂いた。お一人おひとり専門家の観点から熱心にご回答いただき、下記のようなご意見を頂いた。



【ご意見】

- 襟付きのフリルトップスは見た目が可愛い!
 - 生地伸縮性は充分あるので、筋緊張や拘縮がある方も腕が通しやすそう!
 - 「車椅子乗車時や座ることが多い方は、お腹辺りがはだけてしまうので、もう一つボタンがあつた方が良いのではないかな」
 - 「ボタンをとめる際に、硬さがあり押し付けの力が必要」
 - 「スカーフ風スタイルの見た目はお洒落なので、この薄さですっかり吸収してくれたらとても良い商品だと思う」
 - 「自立という観点から考えると、なかなか社会との関わりを持つことが難しい方も積極的に関わりを持つとうと思ふきかけになるような衣服があると良い」
- 介護服は、まだまだ「可愛い・お洒落」なものが少ないという現状である。
そのことを踏まえて、弊社は、「インクルーシブな衣服」=「医療的ケアや着脱に介助を必要とされるお子様も、兄弟・姉妹・友人みんなんで着ることのできる衣服」を制作したいと考えている。
- 今回、「可愛い・お洒落」、「着脱しやすい」というお声を頂けたので、ニーズに沿ったアイテムが開発できていると感じた。
頂いたご意見をもとに、ボタンの位置及び副素材自体の検討を行い、更に機能性の充実を図りたい。



今後の見通し

現在、トップス及びスカーフ風スタイルは、クラウドファンディングにて多くの方々にお力添えいただきネットショップ開設に至っている。
今後は、意見交換会にて頂いたご意見及び以前モニターアンケートにご協力いただいた親御様や施設の方々のご意見をもとに商品の改良を行い、使用される方々に寄り添った衣服などの制作を行いたい。そのためにも、より多くの方々にモニターなどご協力いただける体制を整えニーズの把握に努めていきたい。
また、開発した商品の周知・普及も課題となっている。
今回のような周知活動を積み重ね本当に必要な方々に情報が届くよう活動していきたい。
これからも「Sööt」のアイテムを通して「お着替えが親子にとって楽しみの時間のひとつに」になっていただけたら嬉しい商品展開をしていきたいと考えている。

その他

子ども用のトップスモニターアンケートの際に、ご要望が多かった大人サイズの衣服も新たに開発中である。今後、モニターアンケートを募集しモニター実施後、アイテムのブラッシュアップを行いたい。

意見交換やアドバイスに係った担当者

生活支援係	サービスマネージャー	小林 規子さん	作業療法士	作山 真弓さん
在宅支援係	社会福祉士	青木 淳さん	理学療法士	安本 弥生さん
作業療法士		庄司 博さん	理学療法士	山岸 保則さん
作業療法士		竹花 絹子さん	理学療法士	小磯 さおりさん
作業療法士		福井 潤子さん		

指伝話で日常生活をより楽しく、豊かに！
日常生活の利用場面を想定した意見交換の実施

開業企業

有限会社オフィス結アジア

担当者 高橋 宣盟
TEL 0466-21-7448
連絡先 E-mail info@yubidenwa.jp

意見交換



ポリオの会

主担当者 丸橋 達也

交流先

実施結果

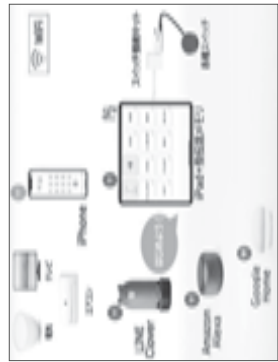
実施日：2022年11月13日
実施方法等：関係者による意見交換会、製品のデモンストレーション

交流の
ねらい

「シーズ側からこういったシーズがあります」と見せるのではなく、また、ニーズ側から「こういうニーズがあります」と見せるのではなく、一緒に日常生活の様子を見つめ直し、そこに今ある技術とアイデアを使い、日常生活をより良くするためのきっかけとなる話し合いをする。

交流の成果

丸橋さんがお勤めのミライハウスをご紹介いただき、製品の紹介と、必要としている人に対する情報提供の仕方について意見交換を行った。小山さんによると、ポリオの会には様々な障害のある方がおり、それぞれの状況に合った支援機器が必要となることであった。指伝話コミュニケーションパックは、コミュニケーションだけでなく、エアコンやテレビなどの家電操作のインタフェースとしてお使いいただくなど、様々な用途にご使用いただくことができる。また、手の力が弱い方、目が見えにくい方など、身体の状態も人によって様々な点で、それぞれに使いやすい工夫が易い、仕組みが指伝話には用意されている。それを双方ともにより理解する機会を創出するために、ミライハウスの常設展示や、ポリオの会での体験・相談会の実施などを進めていくこととなった。



今後の見通し

2月10日には、パラマウントベッド社とともにミライハウスを訪問し、機器の常設展示に向けて協議する予定である。3月27日のポリオの会の定例会では、指伝話の展示を行い、コミュニケーション機器の活用についての相談を受ける予定である。

現状をお伺いしたところでは、日常生活の中で不便に思われていることの解消方法の一つとして、指伝話がお役に立っていると考えている。身体の状態や生活形式に合わせた簡易カスタマイズを行うことで、日常生活をより良くするきっかけとして指伝話をご活用いただけそうである。

きっかけとなるためには、まず可能性を感じていただくことが必要であり、そのために、ちよとしたカスタマイズによってそのきっかけができるが、その気持ちを掴む「ちよとした」こととは何かを一緒に考え、具体化していきたい。

その他

これまでは、ポリオの会の方々に指伝話が役立てる場所があるという漠然とした思いがあったものの、具体的に意見交換をしてシーズを伺う機会はなかった。

今回の意見交換を実施して、求められているのは「機能」ではなく「日常生活をより良くするアイデア」だと改めて感じた。もちろん、現在あるシーズに対する解決策も望まれているが、これまで思っていなかったことはニーズとして顕在化していないので、それに対する解決策を探す機会はないままであった。

実際には、ニーズがあり、それに対するシーズもあるが、ニーズ側の考えはシーズ側が考えるニーズと必ずしも一致していない。同様に、ニーズ側が考えている課題の解決方法とは別の解決方法をシーズ側が持っているにも関わらず、ニーズ側が想像していた解決策と違うことから出会えていなかったこともあったのではないかと。シーズとニーズのマッチングをする際に、シーズとニーズの内容にそれぞれ注目し過ぎることで、マッチング機会を逃してしまうことになっているのかもしれない。双方で同じ日常生活の場面を見ながら語り合う時間を共有することで、データベースに登録した項目の照合では出会うことができない、課題と解決策が明らかになるのではないかと。

今回の意見交換会の成果として、ミライハウスを会場とした展示や、ポリオの会の集まりでの相談会の開催が進む予定であるが、そこは単なる機器展示をするのではなく、一緒に日常生活の場面を見て考えを共有する場所となる。今回のシーズニーズマッチング交流会と意見交換会は、単にシーズとニーズの対応づけをするのではなく、共に考える場所と時間を提供いただいた。個々の問題を一つずつ解決していくだけでなく、日常生活全体をより豊かなものにするのを一緒に考えることが必要とされていると考える。

意見交換やアドバイスに係った担当者

ポリオの会 丸橋 達也さん
ポリオの会 小山 万里子さん
株式会社ミライオ 金井 勇樹さん

指伝話コミュニケーションパック (各種オプション) 型番 YCP

指伝話で日常生活をより楽しく、豊かに！
日常生活の利用場面を想定した意見交換の実施

開業企業

有限会社オオイス結アジア

担当者 高橋 宜盟
TEL 0466-21-7448
連絡先 E-mail info@yubidenwa.jp

意見交換



交流先

社会福祉法人 川崎市社会福祉事業団 れいんぼう川崎

担当者 小磯 さおり

実施結果

実施日：2021年11月2日
実施方法等：施設を訪問し、製品概要と考え方をプレゼンした後に、個別の質疑応答に答えた。

交流のねらい

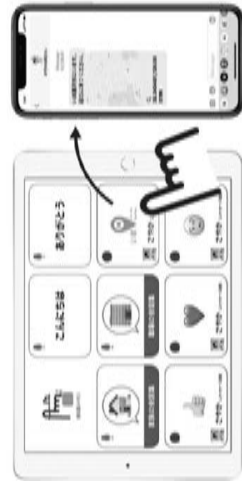
施設での入所・通所・在宅支援の場面で、脳性麻痺や難病の方のコミュニケーション支援について相談を受け、作業療法士がその対応にあたっていて、機器やスイッチの選定など工学的な面のサポート不足を解消するために、指伝話が役立つところがあるかを一緒に考える。

交流の成果

実際に製品と事例をご覧いただいたことで、具体的なケースへの対応を含めて、機器利用のイメージを持っていただくことができました。

特に、手の力が弱い人が使用するスイッチ（エアースイッチ AS2）は、実際に触って操作してみることで、スイッチそのものの使い方も、それを使って操作する指伝話のコンテンツの良さをご確認いただくことができました。

失語症の方については、その人の障害特性に合わせたコミュニケーションしやすいインタフェースを、よりきめ細やかに用意することが一つの課題として提示された。



今後の見通し

日常生活用具の給付申請手続きも含め、施設利用者への導入を進めていく上で、指伝話コミュニケーションパックのコンテンツを工夫する過程にご協力いただく。

iPadのスイッチコントロールの設定など、弊社の持つノウハウを提供し、施設利用者への導入支援にご活用いただく。

その他

現場で業務にあたるみなさんに実際に時間をとっていただき説明をすると、こんな便利なものがあったのか、知らなかったという話になり、すぐに使いたいと感じていただく。

しかし、同じように全国の施設で説明会をして回ることは不可能であり、必要な情報はウェブや冊子に掲載しているが、そこにたどり着くまで、そして、たどりついた後のフォローアップは、個々の要望に沿った対応が望まれる。

小規模事業者の開発メーカーとして、ニーズのヒアリング・開発・臨床現場でのテスト・サポート・マーケティングなどすべての面においての対応を完璧に行うのは困難であり、重要なことは理解しているが現実問題として難しい。それができないなら業者として不都合であるということになってしまいますと、ニッチな市場でより良い製品を提供することは難しくなる。

例えば「水を手軽に飲みたい」という要望があった時に、製品供給制は「水・ジュース・コーヒー・お茶があります」という返事を提示するかもしれない。

しかし、問題の本質は、部屋が常に乾燥して喉が乾くこともかもしれないし、冷たい水を飲むとお腹が痛くなることや、コーヒーのカフェイン摂取は禁止されているとかという事情があるかもしれない。複数種類の飲料を用意することに力を入れている業者よりも、加温器販売の業者の方が役に立つ、お湯も出るウォーターサーバーの方が役に立つということもある。

今回は、製品が使えるか・使えないかという判断のためのだけのマッチングではなく、マッチングする過程で見えてくるさまざまなものを得る機会であったこと考える。

意見交換やアドバイスに係った担当者

れいんぼう川崎・在宅支援室・理学療法士	小磯 さおりさん
れいんぼう川崎・在宅支援室・作業療法士	庄司 博さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・作業療法士	福井 潤子さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・作業療法士	作山 真弓さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・理学療法士	吉本 麻美さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・理学療法士	安本 弥生さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・理学療法士	酒井 未和さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・公認心理師／臨床心理士	山崎 和恵さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・社会福祉士	青木 淳さん
れいんぼう川崎・在宅支援室・保健師	金 聡美さん

自分の声ソフトボイスター

あなたの声で作る、自分の声を再現するボイスター。
失語症や構音障害への適応の可能性について意見交換の実施。

開発企業

株式会社ヒューマンテクノシステム

担当者 渡辺 聡
TEL 03-5847-1206
連絡先 E-mail watanabe-sa@khts.com

交流先

一般社団法人 日本語聴覚士協会

担当者 山内 量史



実施結果

実施日：2022年1月15日
実施方法等：オンラインにて実施

交流の ねらい

本製品の、障害各分野における適用可能性について、特に、現在主として提供している、神経難病分野 (ALS等) と嚥頭摘出分野(喉頭がん等)以外への分野についての適用可能性を知りたい。現在開発している技術で障害音声の補正が可能になった場合も踏まえて知りたい。

交流の成果

脳性麻痺分野および脳血管障害分野について説明を受けた。特に脳血管障害については、失語症分野と運動障害性構音障害それぞれの分野に対して詳細な説明を受けた。いずれの分野にも適用の可能性があった。

脳性麻痺分野

- 録音については、発音が困難なケース、発達障害による言語習得の問題があるケースも少なくないことに留意する。
 - 文字入力については、文章作成可能でもキーボード操作が困難なケースに留意する。
 - 発声や言語コミュニケーションが良好な軽度の成人 脳性麻痺のへは適用可能性あり。
- その他でも、声質交換技術、視線入力手段等の利用で適用できるケースあり。

脳血管障害(失語症)

- 失語症の原因以上が脳血管障害であり、失語症患者の職場復帰率は1割にも満たない。
- 録音については、急性発症のため事前には困難、発症後は音読困難な場合あり。
 - ➔病前の声をホームビデオから抽出する技術等は有益。
- 文字入力については、キーボードによる文章作成は難しいことが多い。
 - ➔中等度の失語症の方は、カテゴリ別に(挨拶語・食事等)にプリセットされたフレーズを選択するシステムにより適用可能。
- 言語や書字にてある程度コミュニケーションを図れる軽度の失語症の方は、リハビリを兼ねた日常生活に適用可能性がある。

脳血管障害(構音障害)

- 録音については、急性発症のため事前の録音は困難、発症後は呂律障害、声量低下、囁声等の主症状があるが、
 - ➔声質交換技術で対応可能か。
- 文字入力については、キーボード操作で問題ない。
- 言語や書字にてある程度コミュニケーションを図れる軽度の失語症の方は、リハビリを兼ねた日常生活に適用可能性がある。

その他

器質性の構音障害(舌癱による舌切除等)は術前に録音でき、適用可能。
パーキンソン等神経難病は緩徐的に症状が進むため、増悪前録音可能で、適用可能。
なお言語聴覚士によるが病院での訓練場面や家庭での訪問リハビリでの録音は可能と思われるが、そのためには言語聴覚士が本製品を周知していること、ICレコーダーなど簡便な録音システムであることが望まれる。
本製品の導入を悩んでいる方へも将来的な導入を見越して言語聴覚士が録音することは可能と思われるが、その際は家族からの情報提供が不可欠であり、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、言語聴覚士がチームで対応する形となるだろう。



今後の見通し

- 脳性麻痺、脳血管障害の分野に対する本製品のニーズ・適用可能性があることについて確認することができた。
- 今後は、言語聴覚士をはじめとする医療・リハビリ・介護スタッフ等、当該分野に関わる方へ本製品の周知を図る。
- まず、障害補正を含めた技術について、周知活動に必要な実証実験・事例創出を行う。

意見交換やアドバイスに係った担当者

一般社団法人 日本語聴覚士協会 副会長 内山 量史さん

MEMO

障害者自立支援機器のシーズとニーズの意見交換、アドバイス支援

公益財団法人テクノエイド協会

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1セントラルプラザ4F

HP : <http://www.techno-aid.or.jp>

TEL : 03-3266-6883

この事業は、厚生労働省から令和3年度障害者総合支援事業費補助金の交付を受けて実施したものである。

令和3年度
シーズ・ニーズマッチング強化事業

令和4年3月	発行
発 行 者	公益財団法人テクノエイド協会
	〒162-0823
	東京都新宿区神楽河岸1番1号 セントラルプラザ4階
	TEL 03-3266-6883 FAX 03-3266-6885

この事業は、厚生労働省から令和3年度障害者総合支援事業費補助金の交付を受けて実施したものである。